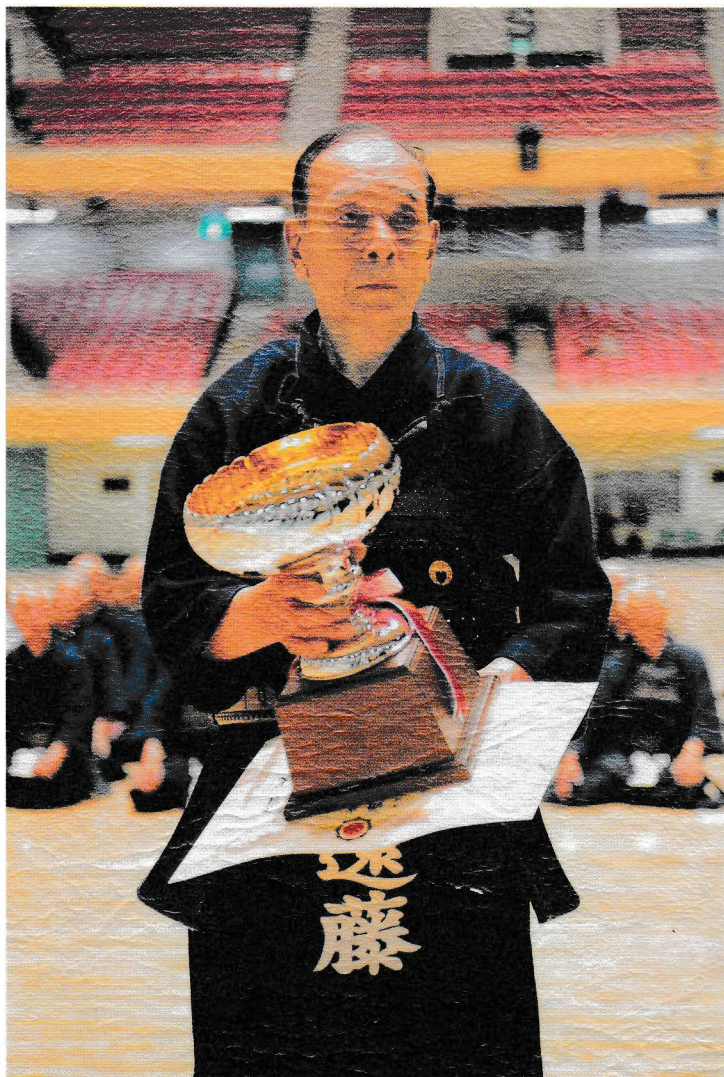


# 徳島の剣道

特集：遠藤一美先生  
高齢者武道大会四度目の優勝

第26号



徳島県剣道連盟

# 道場案内：居合道

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。

道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日 時
徹心道場	代表 範士八段・平尾 勝美 連絡先 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日 19:30～21:30 (少年) 水曜日 19:30～21:30 金曜日 19:30～21:30
大和錬心館	範士八段・原田 勝 自宅 0884-68-2239 携帯 090-7141-8996	前、那賀高校 木頭分校体育館	月曜日～金曜日 17:30～19:30 (祭日を除く)
阿波洗心館	代表 教士七段・高橋 憲司 連絡先 三段・村井 恒治 090-3789-7846	松茂町第二体育館	火曜日 20:00～22:00 (月曜祝日の週は休み)
		セント歯科体育館	土曜日 19:00～21:00
居合道錬成会	教士七段・前田 健志 自宅 088-622-8559	徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
阿波居合道伝習会	教士七段・坂本 憲一 自宅 0883-36-3006 携帯 090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日 19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日 19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
大湊道場 (全日本剣道連盟)	錬士七段・福井 勝 携帯 090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日 10:00～12:00 (行事日を除く)
鳴門洗心館	錬士六段・青山 善雄 自宅 088-687-2802	鳴門ソイジョイ武道館 サブ道場	水曜日 18:00～20:00
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅 0883-53-7118 携帯 090-8693-4935	徳島春風館道場 (穴吹町三島)	水曜日 19:30～21:00
居合北島道場	五段・伊賀 雅人 自宅 088-698-4528	居合北島道場 (北島町北村)	水曜日 19:00～20:30 土曜日 19:00～20:30
剣道・板野道場	五段・岡田 良人 自宅・FAX 088-672-2436 携帯 090-4787-1998	南公民館	水曜日 19:30～21:30
		板野町体育センター	日曜日 11:00～12:00

巻頭言

四耐四不（したいしふ）



徳島県剣道連盟の育ての親とも言うべ

き、前会長故・堀江幸夫先生（範士八段）

は母校の近畿大学剣道部が全国優勝した

際に記念竹刀袋の揮毫を依頼され、「四

耐四不」の文字を贈られている。東洋思

想である陽明学の祖・王陽明の言葉であり、「冷に耐え、苦に耐

え、煩に耐え、閑に耐え、激せず、躁かず、競わず、随わず」を

表しており、「以て大事をなすべし」の文が次に続く。

この四耐四不の辞を『リーダーの帝王学Ⅲ』（伊藤肇・致知出

版社）では次のように紹介されている。「冷たい扱いを受けても

我慢し、もろもろの苦しみにも耐え、どんなに煩わしく、雑用が

多くとも乗り越えていく。また、時に左遷されたり、閑職におか

れても、気にしないで悠々自適とする。そして、どんなことがあつ

てもカッしたり、嬉しいことがあったからといって、はしゃぎ

まわったり、むやみやたらとライバル意識を燃やさず、といって

付和雷同もしない、という姿勢を常に持っていないと、天下の大

事はなせない。」

堀江先生は、母校の後輩達の全国優勝を本当によるこばれたに

違いない。その上で、周りの扱いに左右されることなく、本来の

自分を見失わず、四耐四不の決意を持って本当の剣道修行をせ

よと激励されたのではないかと思うのである。私自身、心して受

け止めたい言葉である。

徳島県剣道連盟会長

遠藤一美



# 『徳島の剣道』第二十六号』目次

巻頭言……………遠藤 一美……………1

## 《特集 遠藤先生高齢者武道大会四度目の優勝》

高齢者武道大会に優勝して……………遠藤 一美……………5

遠藤一美会長の優勝に思う……………高島 稔之……………7

全国高齢者剣道大会四度目の

優勝おめでとうございます……………河田 清実……………9

## 《特別寄稿》

徳島剣道との出会い……………原 茂樹……………10

## 顕彰一覧

### 剣道有功賞

平成二十一年度全剣連

「剣道有功賞」を受賞して……………勝沼 信彦……………17

### 少年剣道教育奨励賞

少年剣道教育奨励賞を受賞して……………奥田 博志……………19

受賞に対するお礼……………原 多三夫……………21

### 体育功労賞

体育功労賞を受賞して……………竹原実太郎……………23

平成二十年度徳島県中学校剣道優秀選手……………24

平成二十年度徳島県高等学校剣道優秀選手……………25

## 先生を偲ぶ

細川昭典先生を偲んで……………中尾 誠……………26

恩師を偲ぶ……………塩田 善治……………28

細川先生の思いで……………柴田 宗忠……………31

一村喜佐男先生を偲んで……………一村 昌和……………33

一村喜佐男先生を偲んで……………河野 寿仁……………35

早川一也先生を偲ぶ……………沢井 勝之……………37

## 全国講習会報告

中央講習会に参加して……………柴田 宗忠……………39

居合道中央講習会に参加して……………吉岡 修一……………41

第四十七回剣道中堅剣士講習会に参加して……………福多 雅英……………43

平成二十一年度全日本剣道連盟主催

徳島県剣道秋季講習会記録……………手塚十三子……………46

第十四回女子剣道審判講習会に参加して……………前田奈々枝……………55

日本剣道形（初心者）講習会の報告……………兵頭 新平……………58

剣道授業の講習会に参加して……………木下 臣仁……………59

## 徳島の剣道史

阿波刀の歴史（現代刀編）……………坂本 憲一……………61

## 大会所感

第四十七回四国中学校

総合体育大会を開催して……………福多 博史……………70

## 各種大会に参加して

チームワークがもたらした宝物……………谷本 晃成……………72

第五十七回全日本都道府県対抗

剣道優勝大会に出場して……………久保 隆司……………75

第一回全日本都道府県対抗

女子剣道優勝大会に参加して……………富永ますみ……………77

管内矯正職員武道大会……………前田 秀一……………79

第十八回全国高等学校選抜剣道大会に出場して……………大石 正志……………80

……………富岡西高校……………

第十八回全国高等学校剣道選手権大会に出場して……………湯浅 萌……………81

……………富岡東高校……………

全国高等学校総合体育大会に出場して……………徳島文理高校 鈴木 智也……………83

……………

全国高等学校剣道大会に出場して……………富岡東高校 近藤 陽香……………85

……………

全国中学校剣道大会に出場して……………鳴門市第一中学校 竹内佳代子……………87

……………

全国中学校剣道大会に出場して……………那賀川中学校 山本 悠……………89

……………

全国教職員剣道大会から……………富田 正……………91

……………

全国高専女子剣道大会にて二年連続準V……………湯浅 豊勝……………93

……………

都道府県対抗少年剣道優勝大会に出場して……………織野 将寛……………95

……………

第四回全日本都道府県対抗 少年剣道優勝大会に出場して……………久保 公緒……………96

……………

全日本女子剣道選手権大会に出場して……………平野 千尋……………97

……………

第五十五回全日本東西対抗

剣道大会に出場して思うこと……………平野 誠司……………100

第六十四回国民体育大会

剣道競技に参加して……………平野 誠司……………101

第四十四回全日本居合道大会を振り返って……………岸田 光博……………102

全日本剣道選手権大会に出場して……………近藤 正章……………104

平成二十一年度全国警察剣道大会を終えて……………平野 誠司……………105

平成二十二年昇龍旗争奪

全国選抜少年剣道大会に出場して……………永野みきみ……………106

昇龍旗に参加して……………杉本 純……………108

平成二十一年度徳島県高齡剣友会活動状況……………笠井 勝……………110

高知生涯剣友交流大会に参加して……………中村 稔裕……………115

第二十二回全国健康福祉祭

剣道交流札幌大会に参加して……………中尾 正輝……………116

随 想

道場が無くなる日……………大澤 孝彰……………119

思い出 徳島市立高武道館……………中尾 幸雄……………121

遍路ころがし……………中尾 正輝……………122

その一言で……………富田 正……………125

審査部長を退任して……………中村 稔裕……………127

剣居一体の出会い……………伊賀 雅人……………129

実は恵まれていました……………月岡 陽市……………134

剣道とともに……………塚原 裕美……………136

称号・段位合格者

私の七段審査	合田 秀實	138
「射石飲羽」・剣道七段に合格して	一村 昌和	139
七段に挑戦して	平間 幸信	142
念願の七段に	熊澤 信行	144
感謝	本村 賢二	146
居合道七段に合格して	福井 勝	147
六段に合格して	長崎 秀信	148
京都審査当日	武田 修典	151
剣道六段に合格して	岩本 一彦	152
意識化と動作	古本 貢	154
六段に合格して	泊 利治	155
教士称号をいただいて	竹内佳代子	157
称号・段位合格者一覧		158
がんばんろう徳島		
部活だより		
徳島科学技術高校		162
鴨島第一中学校剣道部	松永 貴史	164
実業団剣道部として	園田 慎吾	165
道場・教室だより		
鳴門工業高校	山田 浩史	167
長期育成強化錬成会	平野 誠司	169
木刀による基本技稽古法	西堀 和文	170

ジュニア・リーダースクールに参加して	杉本 純	172
素晴らしいリーダーになるためには	竹内 優介	173
剣友からの書籍の寄贈について	三木 毅	174
平成二十一年度 大会記録		175
徳島新聞に見る戦いの跡		202
平成二十二年度 昇段審査学科試験問題・解答例		235
平成二十二年度 徳島県剣道連盟行事予定表		241
平成二十二年度 審査実施計画表		243
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等		244

編集後記

## 特集 遠藤一美先生高齢

# 武道大会四度目の優勝

### 高齢者武道大会に優勝して

徳島県剣道連盟 会長 遠藤一美

高齢者武道大会で四度目の優勝に際し、たくさんの剣友諸氏から祝福していただき、恐縮しております。思い返せば、昭和二十八年八月の太平洋戦争終戦の後、三年五カ月のシベリア抑留を終え、昭和二十三年十二月六日にナホットカ港から舞鶴港へ、生きて帰ってくる事ができ、また、戦後の混乱期を懸命に生きてきました。その中で、二十八歳の時に剣道を習い始めました。これまでの人生の中で、剣道を通して色々な人と出会い、すばらしくうれしい体験をさせていただきました。剣道のお陰で、毎日が楽しく、健康にも恵まれ、充実した生活が送れているように思います。実にありがたいことです。

平成十四年に徳島県で全日本剣道連盟の社会体育講習会が行われた際、講師である岡村忠典先生に『徳島の剣道』に特別寄稿をお願いし、その寄稿文が第十九号に「向上しつつ生涯剣道」とのタイトルで掲載されています。その最後の部分を引用させていただきます。

だき、私の今の思いにかえさせていただきたいと思えます。

●すばらしい一本を求め続けよう

すばらしい一本を求め続けて稽古をすることが良い剣道を創造していくための秘訣である。子供は子供なりに、壮年はそれなりに、高齢者は高齢者としての理想的な一本を求めて行きたい。夢のような一本を稽古でも試合でも求め続けていきたい。



そのほかに私が大事なことを思っていることを簡条書きにまとめておくので考えてみてほしい。

・技の選択とその練度

・見取り稽古

・読 書

・打ち間の研究

・自分の目標を追う稽古

・呼吸法

剣道はすばらしい。みんなで仲良く楽しく剣道をしよう。



## 遠藤一美会長の優勝に思う

徳島県高齢剣友会 理事長 高 島 稔 之

我が剣友会会長の遠藤一美先生が、平成二十一年六月八日、日本武道館で開催された第三十一回全日本高齢者武道大会において、剣道 寿B組（八〇歳〜八四歳）で優勝されました。

先生は、全日本高齢者武道大会において、これまでに、A組で優勝（平成七年）、特組で優勝（平成十三年）、寿B組で優勝（平成十七年）、そして、今回再度、寿B組で優勝と、計四回目の優勝となります。それ以外にも、準優勝二回、第三位二回の入賞をされています。度重なる偉業に、心よりお喜びを申し上げます。

私も、これまでB組で四回ほど出場しましたが、ベスト8が最高で、一度も入賞すらできていません。私は、高齢者の稽古会や大会に参加させていただく中で、生涯剣道として剣道を続けることができることの素晴らしさと、有り難さを心から感じるようになりました。そして、生涯剣道の基盤として、「健康」「家庭」「稽古」の3Kの大切さと、これら三つの関連が大きいことを感じるようになりました。自分自身や配偶者などが「健康」でなければ、また、「家庭」（家族の理解と協力、家計など）の条件が整わなければ、「稽古」も思うようにはできません。また逆に、「稽古」を通して、「健康」や、「家庭」の明るさ（亭主元気で留守がいい…？）が保たれているという一面もあるのではないかと

思っています。そして、私自身、高齢者になった所為か、これらの3Kが維持できることへの『感謝』のKを感じるようになりました。

遠藤先生の場合も、「健康」「家庭」の条件の上に、ご自身の「稽古」好き・「稽古」熱心が結実しての『優勝』であると思います。野球の松井選手も、イチロー選手も、「自分に才能があるとしたら、努力することができるという才能ではないか。」という言葉のことを、同じように言っていたことを思い出します。

そして、遠藤先生ほど見事に、自分の「稽古の剣風」を、「試合の剣風」に直結できる方も少ないのではないかと思います。素早く「自分の間合い」に持ち込み、上手く「打突のタイミング」を捕らえ、「手数を駆使」して繰り出す技は、決して八四歳とは思えません。高齢剣友会で生涯剣道を目指す者の一人として、私も、自分の剣風を基盤にしなが、遠藤先生のエネルギーに剣道に取り組む姿勢をお手本に、生涯剣道に取り組んで行きたいと思っています。

結びに当たり、遠藤先生が、平成二十二年六月の大会でも大活躍され、今度は、寿A組（八五歳以上）で優勝されるとともに、今回達成できなかった寿A組と寿B組の覇者が内閣総理大臣杯をかけて戦う試合において、是非とも優勝されることを願って止みません。

【今大会の遠藤先生の戦績】

全国の選手五十二名（八〇歳〜八四歳）の頂点に立つ！

〈予選リーグ（と） 1組〉

辻（岐阜）、遠藤（徳島）、澤田（秋田）、栗田（埼玉）の四名によるリーグ戦を突破

〈決勝トーナメント〉

予選リーグを勝ち上った十三名の選手による試合

1 回戦（シード）

2 回戦 中村（岐阜） コーコメ 遠藤（徳島）

3 回戦 佐竹（大坂） ーコ 遠藤（徳島）

決勝戦 今（秋田） ーコ 遠藤（徳島）



決勝戦で小手を決める遠藤先生

## 全国高齢者剣道大会四度目の 優勝おめでとうございます

教士八段 河 田 清 実

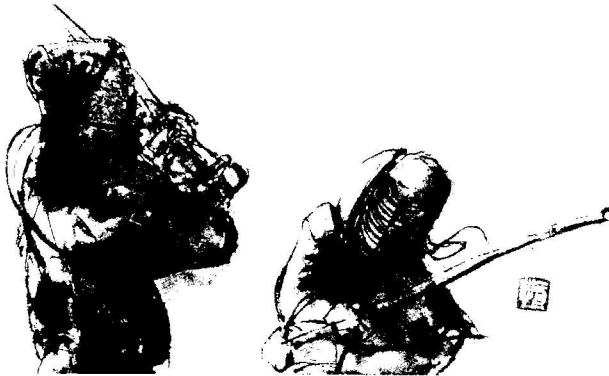
遠藤一美先生、高齢者武道大会寿B（八〇〜八四歳）の部での優勝おめでとうございます。

この成果は、先生のためめ練習の結果が成し得たものだと思います。先生のこの強さの根源は、皆さん方もよく承知していらっしゃると思いますが、まず、いつも先生の口から出る「三度の飯より剣道が好き」と言われているように、本当に先生は剣道が大好きだということです。私は先生とよく稽古をご一緒させていただく機会が多いのですが、阿南市内の道場や高等学校での稽古を始め、警察学校での連盟の稽古会、さらに四国の稽古会にも参加されております。私が参加している稽古の会場には必ず先生がおります。

つぎにとても八四歳とは思えない底知れないスタミナです。いつも一番先に面を着けて元に立ち、最後まで立ちきられておられます。私はいつも先生のお隣で稽古しているのですが、私の倍の人数の方と稽古されているのではないかと思います。掛かる者が間に合わなくて先生の方から相手を呼んでいることがよくあります。さらに、一日に二回稽古されることが何度もあります。私たちは一度の稽古でくたくたになるのですが、午前中の稽古を終え

たあと、午後に別のところで稽古があれば出かけていって最後まで元に立ちきっておられます。あの底知れない体力に私たちはいつも圧倒されています。

来年は最高段階の寿A（八五歳以上）に挑戦されると思います。五度目の優勝を目指し、そして今年惜しくも逃した内閣総理大臣杯を手にするのを、ご期待申し上げて私からの御祝いの言葉に代えさせていただきます。



# 特別寄稿

## 徳島剣道との出会い

原 嶋 茂 樹



はじめに

このたび、「徳島の剣道」に寄稿させていただきます。感謝申し上げます。また、書面ではありますが、改めて平成十三年から一年間、徳島県剣道連盟、阿南支部、ご父母に皆様にお世話になりましたこと、また、このたびの二回目の転勤で暖かくお迎えいただいたことを感謝申し上げます。平成十五年十一月の昇段審査で八段合格ができたきっかけを作っていたのは徳島の皆様であります。自分のしてきた剣道を見直す機会を作っていたきました。このあたりを皆様にお伝えしたいと思います。

### 単身赴任が武者修行

私の恩師、大久保久光先生（郵政・剣道範士八段）は三十六歳から剣道再開。郵政本社の仕事をしながら朝早く起床し、早朝の稽古をして出勤する仕事の鬼、稽古の虫の方でした。その先生も

どうしても「転勤が伴う職業人生、剣道人生」を持って歩まれました。先生が九州に転勤の際も、「仕事も剣道も修行ができるかな。あははあ」って言いながら転勤先の福岡で稽古した話を聞かされていました。その大久保先生は原嶋の八段挑戦を楽しみにしているからと言っていました。平成八年に他界。大切な父親（おやじ）を亡くした気持ちで、ただ、先生の「挑戦しろ」という言葉がどう剣道をやっていけばよいか考えながら、東京の所属の剣友、郵政の剣友と稽古をしておりました。稽古と言っても今もそうですが、毎日稽古ができるような環境は平成三年以降なく、土曜、日曜中心の稽古が続いていました。

よし、僕もいつか転勤のときは、大久保先生の剣道修行の気持ちでと臨んでおりました。その機会ができたのが平成十三年七月。阿南郵便局長勤務を命ぜられました。

「久保（隆司）さん、徳島行くぞ」「勤務先どこ？」「え？阿南に藤田繁君がいるって？」「彼、徳島中央ではないの？」という「郵政会話」をし、仕事の心配より剣道の心配が先でした。

その藤田繁さんが導いてくれたのが、彼の故郷阿南支部の加茂谷少剣。彼も「ここで稽古してよ」と。「了解。一緒にやらしてくれ。」郵便局は地域貢献の使命もあり、剣道は有効なものでもありました。防具はいの一番にゆうパックで阿南郵便局へ郵送。

今度の局長は藤田氏と同じ、剣道をやるらしい……職員には知れ渡っておりました。これも作戦でしたが。

## やり直した基本稽古

阿南加茂谷指導者、藤田六段、稲生（当時）三段、森野（当時）三段、湯浅（当時）三段、そして私。少年少女の稽古指導した後の大人の稽古が始まりました。面を着けての地稽古一人三分。稽古と言っても試合稽古的で、僕にとっては不満の残る稽古だったので、一か月後ぐらいに提案したのが、皆で基本稽古を三〇分ほどやろう、そして、地稽古一〇分。各自、基本稽古かあっていう感じでしたが、強引に彼らの稽古不足や基本の修正のため、五人の回り稽古方式で基本稽古会が始まりました。

まずは素振り、切り返し。やり方も一からやり直し。細かいところを含め、僕の納得いくやり方になるように大きく、正しく素振り、切り返しを行いました。

さて、一息入れて今度は遠間（切っ先から切っ先まで四〇センチぐらい開けて）から①大きく右足を出しながら大きい面打ちを五回ずつ。打った姿勢、部位、竹刀の動き、手の握り、打ちこむ力、打突時に相手に衝撃を与えない面打ちの方法等々、小さなことまで何度も繰り返し稽古することから開始しました。おそらく、藤田、稲生、森野、湯浅の四氏は迷いに迷ったことだと思います。この面ができ始め、次の段階に進んでいったのが一カ月後。今度は②触刃の間合いから一步もしくは半歩入ってからの面。それも大きく振りかぶってからの面ですから勝手が違い、これも①の動作が身につけていないとできない面打ちを繰り返し行いました。

そして、最後が③究極の一足一刀の間合いからの面、これも大きく振りかぶっての面だからこれも彼ら四氏には勝手が違い、苦労されたと思います。

この三つの面打ちの反復稽古（練習ではない）を加茂谷でし続けました。これが様になってきて、返し技（面、胴）、小手返し、面、相面と基本技を混ぜながら稽古をし、自分も満足いく稽古、加茂谷指導者も満足していく稽古の状態になり、稲生、森野、湯浅三氏ともみるみるうちに剣道に重みが出始め、剣道自体が変わってきました。そして、彼らにも自信が付き、私との地稽古時も堂々とする稽古になり、基本稽古だけでなく、少ない一〇分の地稽古も満足していく稽古に繋がってきました。彼らもその後すぐの審査会で見事四段まで昇段し、稲生さんは現在五段まで昇段しています。どう基本稽古をしたらよいかを模索し整理しながら行ったことは後述しますが、自分の稽古法の基礎となりました。

## すごい（鉄人）先生との出会い

藤田繁氏が「徳島県剣道連盟の会長が阿南にいるんよ」と言って紹介いただいたのが、遠藤一美先生でした。徳島新聞に「高齡者剣道大会優勝」として、防具をつけた剣道着の正座姿で写真付きで掲載されていたのは阿南着任後すぐで印象深い記事でした。県会議員もされ、御忙しい毎日をごさされておられ、当時七十七歳。どんな剣道されるのかなと思っておりましたところ、阿南大潟の道場に金曜日の稽古に行くと先生がいらっしゃいました。稽古を

お願いできる機会が生まれました。はっきり言って「まいりました」。近間からの多彩な技で下がり面、下がり胴を何回も打たれるとどうあんなに動けるのだろう、翻弄されるのだろうと考えさせられ、東京や新潟に住む剣友に「徳島にはすごい先生がいる。七十七歳だよ。それでこうなんだ。どうにもできないな。鉄人先生がいる」とメールを送っておりました。

今年、転勤後、鳴門で久々に稽古をお願いいたしました。また、遠藤先生にいいように打たれてしまいました。

### 阿南で出会った座右の銘

郵便局長という仕事柄、地元の方との会合にも参加する機会があり、その中に自動車会社を経営される濱肇様が阿南にお住まいでした。郵便局の後援会の会長もされ、郵便局にお訪ねいただいた折、「局長の夢は何か」と質問を受け、咄嗟に「剣道八段合格です」と口に出してしまいました。僕が剣道をしていることは知らなかったし、まさか、夢が仕事以外のことを口にしたことを逆に喜んでくれたのか、自宅に招いてくれました。濱様は中国の書道の先生とお知り合いで、局長の夢が叶うようにと天書文字で「夢」を書いてもらってプレゼントするよと言っていた。三ヵ月後に局長室にもってきていただきました。（それは今も大事に東京自宅玄関に飾っております）その濱様のご自宅で見つけたのが「心想事成 万事如意」（目的をもって頑張れば、全ては思いのまま、夢は叶うもの）と書かれた紙でした。これだ、僕の座右の銘

にしようと思われ、面タオルに仕込んでいます。これも徳島での縁です。

### 竹刀製作者高橋國保先生との出会い

藤田繁氏から「小手破れたんだったら見能林の高橋さんのところで修理してもらえますよ。竹刀も作っていますよ。」という情報で高橋先生を初めて訪ねました。そのとき、大久保先生の形見分けの竹刀が傷んでいたもので修理できないか持って行きました。それは京都の正春でおそらく平成六年頃に大久保先生が購入していたものでしたが、その竹刀を見て、高橋先生が「これは！」と言って竹刀を分解し、自分が付けるサインを見つけ「これは私が作りました」と言われました。なんと縁だろう。形見わけの竹刀の中でたまたまイメージのあった竹刀をもらったわけですが、これが徳島と縁があったのです。不思議で、運命さえ感じました。それ以来、高橋先生、高橋先生とお呼びし、また、一生、稽古や試合で使う竹刀は高橋先生の制作した竹刀と決め、今も高橋先生作製の竹刀を大事に使わせていただいています。

### 東京での八段挑戦

平成十四年夏、人事異動で徳島から松山に転勤。この年から八段挑戦できることはわかっていましたが、転勤で稽古できない期間ができ、父親が他界したことも重なり、十分に稽古ができていないため、気持ちがあくはありますがありません。しかし、恩師の言葉

は忘れたわけではありません。平成十五年一月、母も続けて他界してしまいました。そして、その年の七月、転勤で東京に戻りました。心に整理もできましたが、いつまでも「八段挑戦者でよい」と思い、十一月受験を申し込みました。二十五年ほど前、高知の西野悟郎先生（範士八段）から色紙に書いていただいた言葉があります。

「立会いは間積りにあり 凜然として待中懸に徹すれば 静かなる競いに機会ある ああ交剣知愛の心こそ 鬼神も泣くか 君子の剣」

この言葉をいつも考えながら竹刀を握ってきました。別に八段合格ではなく、君子の剣とはどんな姿なのかです。ですから、立会いの間合いはしっかりしよう、だけを心掛けて受験に臨み、面を炸裂することができ一次試験を合格できました。午前の発表から二次審査までの四時間余り、長い時間でしたが、二次審査では挑戦者であることを忘れず、気持ちを整理する意味合いでこれまで教えをいただいた大久保先生を始め五人の先生方（既に他界されていましたが）を両肩に二名ずつ、頭に大先生（九段）を乗っていただき、立会いました。まったく緊張することなく冷静な立会いができ、真面を打った記憶が残っております。神仏を味方にしたのかもしれませんが。また、愛知県警の東良美先生とは知らずの立会いでしたから、相手にも恵まれての合格でした。

## 後輩が継続してくれている基本稽古

徳島でお世話になった久保さん、藤田さんを始め、多くの先生がこのサプライズを喜んでくれました。東京の郵政関係の剣道の先輩、後輩も同様でした。そのお祝いの席で話があがったのが「剣道を教えてください」。「今ごろ何を」と思いましたが、「僕は基本稽古しか教えないよ。それも徳島の皆とやってきた基本稽古が一番効果があると思ってるが、継続できるか?」「やります!」「つらいよ」とやり取りがあり、毎週水曜日仕事が終わってから本社道場で一時間、やるけどついてこれるか。続くわけがないと踏んでおりましたが、これを私が平成十七年本社勤務を離れた今も後輩達が毎週水曜日、阿南で始めた基本稽古を素振りから基本の面打ちを続けてくれています。

## 徳島剣道はみな燃えている（情熱）

いろいろと話が長々となっていました。文章の中に皆様に参加になることがあったら幸いです。私は平成十四年徳島を離れましたが、河田先生、米倉先生、近藤先生が連続して八段合格。御三人とも私と同じ年です。特に米倉先生が東京で合格されたときは二次審査の立会いの役をしながら、米倉先生の審査を左目で見えておりました。東京にいながら徳島の先生方の八段合格の情報が入るたび、「徳島はすごい、燃えているよ」と剣友に口にしておりました。今回、また、徳島の先生方と稽古する中でも八段合

格の実力を持った先生が多くいらしゃると感じております。原嶋が合格しているのだから俺もやれるさとそういう思いで皆様の合格に向けた稽古相手になれば幸いです。

### 打った、打たれたではない交剣知愛の剣道

そういうなかで私が期待しているのは氣と氣を合わせた稽古、待って打つのではなく、攻めて引き出して打つ稽古です。段が上であろうと下であろうとまた、あの先生があそこにいるから行って稽古をしようと思わせるようなことが必要なかなと週二回しか稽古ができない私が思っていることです。夢は向こうからやってくるものではなく、こちらから望んで取りに行くものと信じて稽古をお願いします。夢は「君子の剣の求道」です。

### 最後に

最後になりましたが、元阿南警察署長の三木毅先生には大瀧の道場での稽古だけではなく、大変大事なものをいただきました。先生手作りの表札です。これも自宅玄関に飾らさせていただきました。加茂谷の菅野さんからは自作の鹿の角の刀置きもいただきました、自宅は四国の思い出があります。四国、徳島の皆様とほんとうに縁があり、今の私があることは間違いありません。座右の銘になる言葉との出会い、一生使える竹刀との出会い、自分流基本稽古法の確立等、多くの収穫をさせていただいたのが徳島であります。

私は「転勤の伴う浮草人生」。また、いつかは徳島を離れる時期がきますが、徳島の時間が少しでも長いことを祈り、皆様と交剣知愛の稽古をお願いできればと望んでおります。よろしく願います。



# 平成二十一年度 顕彰一覽

## 剣道有功賞 (全日本剣道連盟)

○ 勝 沼 信 彦 (大正十五年七月七日生れ)

徳島大学名誉教授・徳島文理大学名誉学長の称号が示すように、世界的な酔素学研究の権威でありながら、昭和六十二年より現在に至る二十二年間にわたり、徳島県剣道連盟副会長として、徳島県剣道連盟の運営全般に情熱を傾注している。また、今年で二十九回を迎える徳島県大学選手権大会(眉山杯)を創設し、物心両面より、徳島県における大学剣道を支援し、多くの学生剣士の育成に尽力しており、剣道連盟発展と剣道普及に多大な貢献をなしている。

## 少年剣道教育奨励賞 (全日本剣道連盟)

○ 振 武 館

戦後の剣道復活に尽力された山家雪蔵教士が昭和二十九年、自宅に道場を開いたことよりその活動は継続されている。その間、常に県下の剣道界をリードし、数多くの剣士を輩出している。その多くが警察官や教員として、剣道指導者となっており、さらに、

徳島県剣道連盟の中枢を担っている。毎年県下の中学生・高校生の大会として山家旗争奪剣道大会を主宰し、今年で三十四回となっており、剣道の普及発展に多大な貢献をなしている。

○ 藍住剣道スポーツ少年団

昭和五十三年に藍住町立武道館が建設されるとともに設立された。県下女子剣道大会の主催、少年剣道強化錬成大会の主管等、青少年の健全育成に力を注ぎ、近隣の剣道活動の拠点として、生涯剣道につながる幅広い貢献をなしており、剣道の普及発展に多大な成果を上げている。

## 体育功労者表彰 (徳島県体育協会)

○ 竹 原 実太郎 (大正十四年二月四日生れ)

伝統的運動文化である剣道を次代に伝承するという崇高かつ強い意志のもと、自宅に剣道場として徳島親道館を開設し、以来、代表指導者として剣道の心技体の錬磨を通して多くの少年剣士の育成に努めた。また、徳島県剣道連盟の監事を永年にわたり精励され、剣道の普及発展に大きく寄与した功績は賞揚に値するものである。

## 全日本高齢者武道大会での遠藤一美入賞記録

○ 遠藤 一美 (大正十四年五月二日生まれ)

徳島県県議議員として、多忙を極める中、徳島県剣道連盟会長として、連盟の運営を担いつつ、自らも稽古に励み、全日本高齢者武道大会での多くの入賞を含め、今回は四度目の優勝をはたしている。

回	年度	組	組年齢	賞名
第12回	平成2年	B	65~69	第3位
第14回	平成4年	B	65~69	準優勝
第17回	平成7年	A	70~74	優勝
第19回	平成9年	A	70~74	準優勝
第20回	平成10年	A	70~74	準優勝
第21回	平成11年	A	70~74	第3位
第23回	平成13年	特	75~79	優勝
第28回	平成18年	寿B	80~84	優勝
第29回	平成19年	寿B	80~84	第3位
第31回	平成21年	寿B	80~84	優勝



# 剣道有功賞

## 平成二十一年度全剣連

### 「剣道有功賞」を受賞して

徳島大学名誉教授・徳島文理大学名誉学長

剣道教士七段 勝 沼 信 彦

全国剣道連盟から「剣道有功賞」をこの度拝受して、先ず私のような剣道の素人が拝受して宜しいのでしょうか？恐縮しております。これも徳島県剣連の遠藤会長はじめ、皆様の御推挙によるもの深く感謝しております。

私の叔父・勝沼精蔵は東大剣道部では主将を務めた精錬士四段の名古屋大学学長でした。父も国立中部病院の院長でかなり剣道をやったと聞いています。皇宮警察との試合の話はよく聞かされました。

まず、私の剣道歴を紹介させて頂きます。私が剣道を始めたのは、愛知県立旧制明倫中学（現県立明和高校）に入った時でした。県立明倫中学は、尾張徳川の藩校の明倫堂であったため、武道の伝統があり、師範は加藤七左衛門範士でありました。加藤範士は、昭和天覧試合に二度も指定選手で出場しています。小川金之助範士と昭和の龍虎と言われた方で、現、益一範士の御尊父です。第



八高等学校では、足立合三範士に教導されました。御二人ともに、昭和の大名人でありました。

名古屋大学医学部では、近藤利雄先生（範七八段・中京大教授）に御指導いただきました。この頃、熱田神宮遷宮祭大会で、榎原正選手（中京大学）と試合をしました。後に第一回全日本選手権の優勝者です。明倫中学・第八高では、杉山孝雄全剣連相談役と木本三天全日学連副会長等も同部員でした。大学卒業後は、数年間ヨーロッパで研究生生活をしたため、剣道から遠ざかっていました。帰国後、徳島大学医学部教授に任命されてから、徳島大学剣道部の学生との練習を再開しました。主に、下村富夫先生、大沢孝彰先生（範十八段）に教えて頂きました。その間、名大同年生

であった木本三夫及び清水先輩と三人組で、京都武徳殿での全国旧制高専剣道大会にて、二度優勝、二度準優勝しております。また、徳島社会人大会で、徳島大学医学部OBチームで、医学部教え子とチームを組んで一度優勝、二度準優勝しております。医学部での教え子（佐藤・倉都）二名が七段になりました。徳島文理大学剣道部の指導も兼ねており、大学生の剣道のお世話をしたことに対し、今回の賞を頂けたものと思っております。

### 勝沼先生のワンポイント・レクチャー

— 剣の極意は相打ちにあり（無住心剣流） —

七十年間、勉強を犠牲にして剣道を修業してきて、結論は「剣の極意は相打ちあり」ということに到達しました。「他人を殺して自分だけ生きのびたい」と願うのは本来畜生道でもあります。剣の長さは大体同程度である。相手の剣が我が身に届く場合は、自分の剣も相手に届く理である。事実、剣道審判規則でも、「生きた剣先」が体正面に付いている場合の斬突は無効であるとなっている。「受けようとして、又は自分も打とうとあわてて剣先をあげる」ために相手の打突のみが、有効打突になるのである。どんな相手に対しても、相打ちを心掛けるべきである。これでこそ剣の心が練られる。



## 少年剣道教育奨励賞

### 少年剣道教育奨励賞を受賞して

振武館 奥 田 博 志



この度、振武館が全日本剣道連盟より栄誉ある『少年剣道教育奨励賞』を受賞いたしました。本当に名譽なことであり、指導者・部員一同心よりお礼申し上げます。

す。これもひとえに徳島県剣道連盟会長ならびに県剣道連盟の諸先生方のおかげと心より感謝申し上げます。

振武館は、昭和二十年代、那賀町百合（旧鷲敷町）に山家雪蔵先生が開設され、少年剣道も盛んに行なわれていたそうです。その後の諸事情により、少年剣道は、昭和五十年代に鷲敷スポーツ少年団として活動を継続していました。私自身も鷲敷スポーツ少年団に小学三年生から入部し、剣道を始めました。私の入部当時の主将が、福多博史先生（六段 阿南第一中学校教諭）でした。

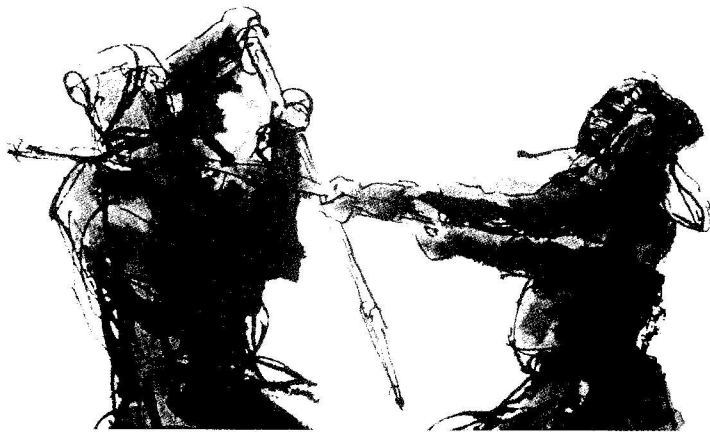
まことに時は流れ、平成に入り、稽古場所が鷲敷小学校体育館から那賀町（旧鷲敷町）B & G 海洋センター二階に移動しました。それを機に、当時の指導者の先生方と話し合い、吉田租先生（教士七段）に振武館第二代館長をお願いし、快く承諾を頂きました。少年剣道も『振武館』として活動を再開、現在に至っています。

私が、代表指導者になって今年で七年目になりました。しかし、この七年間の間に、少子化の影響もあり、年々部員の数が減少しています。現在、振武館で共に指導されていますOBの青木（旧姓福田）勇至先生（三段）・仁木祐昭先生（四段）が少年剣道時代には、部員は五十名を超えて部員が鷲敷小学校体育館一杯になり、活気があったと記憶しています。

振武館では、基本を中心に、日先だけの勝負でなく息長く続けられる剣道、生涯剣道を目指し、指導者の先生方・部員と共に、毎週水・金に基本練習を中心に稽古、また、毎週月曜日には、一般の先生方と稽古を行っています。幸いにも、振武館の卒業生全員が、中学校へ進学しても剣道を続けてくれます。この事は、指導者にとって何事にも代えがたい喜びでもありますし、励みにもなっています。

今後も、微力ながら、徳島県剣道連盟発展のため、指導者全員で頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、受賞にあたり推薦いただいた徳島県剣道連盟ならびに諸先生方に厚くお礼申し上げます、受賞のあいさついたします。本当にありがとうございました。



## 受賞に対するお礼

藍住剣道スポーツ少年団 原 多三夫

この度、当団が全日本剣道連盟より表彰いただいたことに對しまして心よりお礼申し上げます。

当団は、結成以來三十二年余りになり、永年に亘り続けてこられたのも関係各位の暖かいご指導のお蔭と感謝しております。これからも剣道の発展は言うまでもなく、剣道を通じて子供たちの健全育成を図って生きたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 一、団の歩みと活動

私たちは、年少少女を対象として剣道技術の向上を通して、心身の健全な育成を図り、礼節を重んじて小市民としての友愛と連帯の精神を培うことを目的として、昭和五十三年四月に藍住剣道スポーツ少年団を結成いたしました。結成当初は、団員の集まりや指導者の集まりなどいろいろ不安材料がたくさんありましたが、現在、団結成以來三十二年余りを迎えることが出来ました。これもひとえに団員・指導者・母集団が一体となり団運営にあたっている結果だと思えます。特に、母集団が中心となり剣道のみでなく餅つき、レクリエーションなどを取り入れ団員間・指導者・母集団との融和を図る事にも力をいれ、友達の大切さを教えているこ

とも非常に重要な事です。歴代の母集団の方々にも厚くお礼申し上げます。

練習日は、毎週火曜日、木曜日、土曜日の午後七時から八時三十分の一時間三十分で、五つの約束事を基本として剣道を団員たちに教えております。

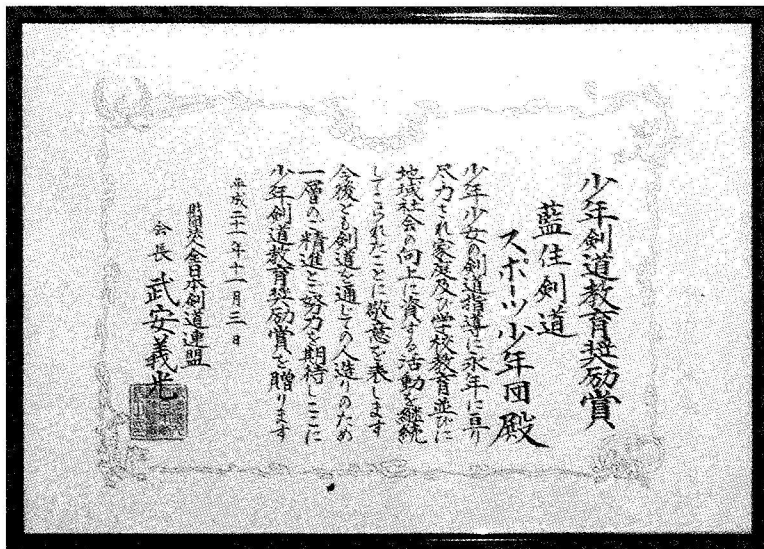
1. 礼儀を正しく
2. 服装を正しく
3. 姿勢を正しく
4. 言葉をていねいに
5. 友達を大切に

指導者は、基本を中心とした技術の向上の指導は言うまでもなく、元氣よくて明るい、礼儀正しい、相手を思いやる団員になって欲しいと念願しております。

### 二、リーダーの育成

私達団では、剣道を通じて培われたものが人間形成の一助となり将来どこでも役立つリーダーを育成しようとジュニアリーダー、四国大会、全国大会、ドイツとの交流に団員を派遣しております。派遣されたリーダー達が、将来何処かの地で指導者として、地域社会に貢献してくれればと願っております。

現に、私たちの団では卒団生が指導者として入り、又その子供が団員として入っております。このようなリーダーを今後も育成していきたいと思えます。



## 体育功労賞

### 体育功労賞を受賞して

徳島親道館 竹原 実太郎



徳島県剣道連盟から御指名を拝受し、有りがたいことに体育功労者表彰式に臨むことになった。一部には長くやっていたらばいずれは順番がくる大したことではないという声も聴こえてきそうだが、私は決してそうは思わない。

すべて私事で恐縮だが、私が五十歳になって両親がまだ元気で七十歳過ぎの頃に住居と共に道場を造った。実のところや々と間に合った感じだったと今でもそう思っている。父・竹原常雄は数多くの門弟衆に恵まれ斯界で最高の榮譽を得た上に剣道界日本一の長寿を記録し、剣道人生を全うした。その上に勲五等瑞宝章の光栄に浴し、母を伴い皇居に招かれた。これらの段取りはすべて私がした。いうならば親孝行のまね事である。私は人に聞かれたらこれぞ武門の誇りだと答えることにしている。

良かったなと思うことに一つに永年苦勞をかけた母のために、生れて初めての飛行機に乗せて上京させ、宮中へ父とともにに行っ

てもらったことである。また、父が範士号記念に門弟と撮った写真に母の姿がある。ほかにないので大層大事にして道場に掲げてある。葬儀の日、葬会館に八百数十人の会葬者が押し寄せて満員になった。

私どもの道場では今、約十人の子弟をお預かりしている。これらの子ども達を見ると母親の念願のようなものに出会う。皆ひとしく厳しくして下さいという。見落してはいけない厳しくという言葉の中に奥深い母親の愛情が見え隠れする。子ども達の多くは学習塾に通っている。それと同一レベル否それ以上の思いで自宅と道場との間を往復している。剣道は他のスポーツよりも後始末に手数がかかる面倒なことこの上ナシと思う者もないと言わないうが、こんなことは厳しくすることで克服できる。私どもの道場は厳しさとなごやかさ気安さの同居する道場で単なる町道場ではない。御覧いただければお分りかかと思うが、道場への出欠はやかましく言わない。すべて本人の自由意志を尊重し、母親の切なる思いが詰ったような雰囲気大切にしている。

有り難いことに私も難関と言われた股関節手術に堪えて漸く希望の光が見えはじめ、八十五歳になって軸足の左に体重を乗せられるようになった。昔を思い出して稽古に励みたいと念願している。激しい稽古を終えた子ども達が家路を急ぐ道すがら何を思うか、今さらのようにこの貴重な瞬間に命をかけたかと思っている。少し大げさだが！「思は心に刻むもの、うらみは水に流すもの、情けは人に返すもの」

合掌

## 平成21年度 徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	平 野 智 将	鳴 門 一
2	岩 木 佑 都	鳴 門 一
3	竹 内 直 生	鳴 門 一
4	宇 井 友 隆	鳴 門 一
5	黒 木 景 太	鳴 門 一
6	石 村 元 義	鳴 門 一
7	久 保 公 緒	徳島文理
8	久 保 孝 緒	徳島文理
9	岸 田 義 弘	徳島文理
10	志 磨 直	徳島文理
11	十 井 敦 斗	阿 南 一
12	湯 浅 鼓 太 郎	阿 南 一
13	西 岡 昌 哉	阿 南 一
14	久 保 達 也	木 頭
15	谷 創 貴	木 頭
16	谷 澤 慶 彦	木 頭
17	蘆 田 佳 郁	那 賀 川
18	福 崎 泰 樹	板 野
19	喜 多 耕 平	県立川島
20	藤 本 量 太	貞 光

No.	女 子	学 校 名
1	山 本 悠	那 賀 川
2	湯 浅 絵 里 加	那 賀 川
3	中 村 亜 梨 沙	那 賀 川
4	住 友 裕 菜	那 賀 川
5	中 村 啓 子	北 井 上
6	矢 部 志 織	北 井 上
7	仁 木 彩 佑	加 茂 名
8	田 中 理 称	北 島
9	中 川 由 美 子	徳 島
10	東 川 里 穂 子	徳 島
11	片 岡 茉 莉	鴨 島 一
12	亀 井 静 華	鴨 島 一
13	藤 井 理 央	牟 岐
14	阿 部 文 香	土 成
15	川 人 わ かな	城ノ内
16	美 馬 史 絵	城ノ内
17	西 川 知 見	池 田
18	石 井 ま な み	小 松 島
19	福 多 志 穂	鷲 敷

## 平成21年度 徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	湯 浅 翔 平	阿 南 工
2	松 本 真 生	阿 南 工
3	森 智 秋	阿 南 工
4	河 村 俊 平	城 北
5	元 木 涼	城 北
6	河 野 卓 也	城 北
7	清 水 賢 太	城 北
8	立 川 拓 也	城 北
9	岡 田 紘 平	徳島文理
10	鈴 木 智 也	徳島文理
11	淀 谷 瑞 木	徳島文理
12	曾 根 健 貴	徳島文理
13	臼 木 郁 登	富 岡 西
14	小 西 貴 大	富 岡 西
15	藤 本 稜	富 岡 西
16	山ノ井 拓 也	富 岡 西
17	平 野 将 司	鳴 門
18	酒 卷 奈 暉	川 島
19	武 市 一 樹	城ノ内
20	米 澤 宏 記	城 南

No.	女 子	学 校 名
1	山 本 瑞 穂	川 島
2	坂 東 沙 樹	川 島
3	櫻 木 舞	川 島
4	藤 本 雅 代	川 島
5	兼 中 円	川 島
6	真 鍋 麻衣子	川 島
7	加 重 汐 理	徳島文理
8	吉 岡 真 衣	富 岡 西
9	佐 藤 美 優	富 岡 西
10	柳 瀬 美 希	富 岡 西
11	近 藤 陽 香	富 岡 東
12	湯 浅 萌	富 岡 東
13	仁 木 悠 美	富 岡 東
14	湊 友 里	富 岡 東
15	若 江 美香子	富 岡 東

# 先生を偲ぶ

## 細川昭典先生を偲んで

阿波支部長 中尾 誠



平成二十一年四月二十七日、あまりにも突然で思いがけない先生の訃報に、どんな道順でお宅へお伺いし、ご家族の方々にどうお悔やみ申し上げたのかも定かではありません。

と言いますのも、その一ヶ月ほど前に先生のご入院を知り、麻植共同病院にまいりました。軽い脳内出血ということでしたが先生は血色もよく、お元気でベットから起きられ冗談を交えながら奥様ともども親しくお話を申し上げたばかりのことでしたからです。

奥様のお話によると三月十二日、奥様とご一緒に大阪へ竹刀の購入に先生の運転でおいでた際、いっになく運転が不安定で蛇行しているように感じられたり、道を違えたりすることがあったので心配され、翌日入院なさったとのことでした。

入院後は医師の手厚い治療と持ち前の強靱な体力で順調に快復され美馬病院に転院、その後リハビリ治療の経過も良く、近々退

院できるとの朗報をお聞きした矢先であっただけに誠に信じられないご急逝でした。

阿波支部においては、河野耀雄先生、一村喜佐男先生、そして、この度は細川昭典先生と立て続けに偉大な指導者を失い、悲嘆に暮れているところです。しかしながら、いつまでも感傷に浸ってはいられず、伝統ある支部の存続に危惧の念をもって、先生方のご意志を継承すべく決意を新たにしているところです。

思い起こしますと高校生になって剣道を始めた私にとって、細川先生との出会いは強烈なものでありました。当時、監督の滝下勝先生は小柄な方でありましたが、同じ旧制脇中OBで京都武専に進まれた細川先生の六尺豊かな体軀は見るからに巨大で、その稽古たるや誠に厳しく、激しいものでした。大岩にぶつかるとな衝撃に幾度となく倒され、息も絶え絶えとなり、まさに意識を失う寸前「目をつぶるなよ」と私の体を支え、道場の隅に導き休ましていただいたものです。まさに厳しさの中に優しさのある慈愛の指導でありました。

当時、脇町高校のOBには細川先生のほかにも国土館に進まれた下村富夫先生・法政に進まれた柴田稔夫先生など名だたる先生方がひしめいており、あまり歓迎もしないのに（失礼）よく道場にお出でになり鍛えていただきました。

大学時代も細川先生は、私たちが帰省する度にお宅に呼んでくださり、時には朝方までご指導を賜りました。寒い冬の夜は火鉢で暖をとりながら餅を焼いてくださり、ごちそうになりました。

余談になりますが細川先生の甘党には定評があり、決して中途半端な食されようではありませんでした。まず角餅が焼けるとおもむろに広く伸ばして、そこに白砂糖を山盛りにして風呂敷に包むようにして豪快に召し上がっていました。私と同期でやはり甘いもの好きであった塩田善治氏も同席していましたが、さすがに唾然としていました。

社会人となりましても同じ義務教育に携わる大先輩として、温かく導いていただきました。特に中学生の剣道指導については「基本技の徹底と体当たりのかかり稽古の重要性」を力説されました。また教育に関しては「若造が先生と親から呼んでもらえるのは子どもを人質にとっているからであって決して傲慢になってはならない。教育と剣道は一体であり、常に謙虚な求道者であれ」と論されました。

さらに学校管理については、「備えあれば憂いなし」平素から最悪の想定で臨み「悲観的に準備し、楽観的に対処せよ」と危機管理の要諦をお教えくださり、学校経営の拠り所とさしていただきました。

退職なさってからは、県剣道連盟の重鎮として幅広くご活躍のかたわら内蒙占の砂漠地帯での植樹や学校建設に尽くされ、地球環境保全や恵まれない子ども達の救済にボランティア精神を身をもって示されました。

このように私にとって剣道の師であり、教職の師であり、人生の師である先生のご人徳に少しでも肖りたく、現在「徳島掃除に

学ぶ会」の顧問として体調に合わせながらトイレ掃除のボランティアに各学校、公共施設を訪問しているところです。

戦前戦後のつなぎ剣道としての撓競技の普及奔走、久勝中学校の初県制覇、国体・教職員大会での大活躍、地域の剣道指導者育成、剣道有功賞受賞、審議員長就任など先生の残された輝かしいご功績をご紹介しますにはとてもスペースが足りず身近な思い出を書き連ねた雑駁な追悼文となりましたが、これまでのご高恩に深く感謝いたしますとともにご冥福を心からお祈り申し上げお別れの言葉といたします。

## 恩師を偲ぶ

塩 田 善 治



竹刀の持ち方は、生卵を握るように強く握れば割れ、軽すぎれば落ちる。

強からず軽からず持て”これが細川昭典先生より教えて頂いた最初の言葉である。

昭和三十五年四月に久勝中学校（現阿波中学校）の剣道部へ入部し、ご指導を頂いてから爾来五十有余年が過ぎ去り、この間先生からは剣道はもちろんのこと、教師としてまた人としての生き方など、あらゆる面でご指導を頂いた。

思い返せば、先生との思い出はたくさんありすぎ、何から書き進めればよいか思案に暮れるが、思いつくままに筆を進めてみる。当時の久勝中学時代は、道場とてなく講堂を衝立て仕切り、そこでの練習であった。防具も数少なく、部員が交代で着用していた。一年生は、戦後の撓競技で使用された胴と垂とが一体となったものを使い、二年生は竹胴を、そして三年生はあめ皮胴を使用していた。道具を着けた者が稽古をし、着けない者は見学か素振りをするという練習風景であった。

細川先生は、三年生の担任を毎年されていた。生徒の半数が就職していく時代であり、その生徒たちの就職指導も担当され、多忙な日々を過ごされていた。そして、総体前には、剣道部を指導

されながらもバレーボール部の指導、さらに、夕方には青年団のバレーボールの指導にと、まさしく八面六臂の活躍ぶりであった。私が三年生の時、阿波郡代表で中学総合体育大会に出場し、運良く勝利でき、「初めて優勝旗が吉野川を北へ渡ったなあ」と褒めて頂いた。その時の思い出は、数日後に先生から「褒美として何か食べさせてやるから」と言われ、部員達が相談しあった結果、思いついた最高のものがカレーライスであった。今でも同窓会で集まると、その話が話題となり、「今であったら、もっと美味しいうものを注文したのになあ」と笑い話として今も大いに盛り上がっている。

先生は生徒指導もなさり、生徒達からは「一目おかれている」先生であった。しかし、厳しいなかにも愛情を持って生徒の指導にあたられ、生徒達からも信頼され、よく悩みや相談を受けておられた。卒業後も帰省すれば、先生のご自宅を訪ねる生徒もたくさんいた。私にとっても、「教師とはこうあるべきだ」と貴重な教えを頂いたように思っている。

私が教員になってからは、幾度となく全国教職員大会にご一緒させて頂いた。宮崎県の高千穂へは、二人で車で行き、帰りは山口県から岡山を回って帰ってきた。また、ある時は、大将の細川先生、審判の高下先生と三人で秋田県の男鹿半島を巡ったこともあった。その中でも一番の思い出は、青森（南部町）大会である。大会後、三人で十和田湖を散策し、青函連絡船で北海道に渡り、札幌見学と三泊ぐらいしたこともあった。旅の途中では剣道談議

に花が咲き、「攻めとか間合いのとり方」等について、いろいろとご指導を頂いたことも懐かしく思い出している。

平成四年八月、東四国国体剣道競技のリハーサル大会として全国教職員大会を、小松島・徳島両会場で開催した。細川先生は、徳島県学校剣道連盟理事長として全般を指揮され、隅々まで配慮のゆきとどいた大会運営にご尽力された。大会終了後、学剣連の先生方にお礼の言葉を述べられた時の先生の笑顔を見、会員一同心を一つにして行事を成し遂げたその充実感に浸ることができた。そのことは、私にとって一生の良き思い出となった。そして、この時程、先生のゆったりとした考え、物事に動じない心の持ち方が大事であることを教えられたと感謝している。

また、時折先生のご自宅にお邪魔すると、先生は、武専での話、先輩の村山先生の思い出話、中国へ植林に行った時の話等を熱く話ってくれて、いつも二〜三時間はあっという間に経っていた。

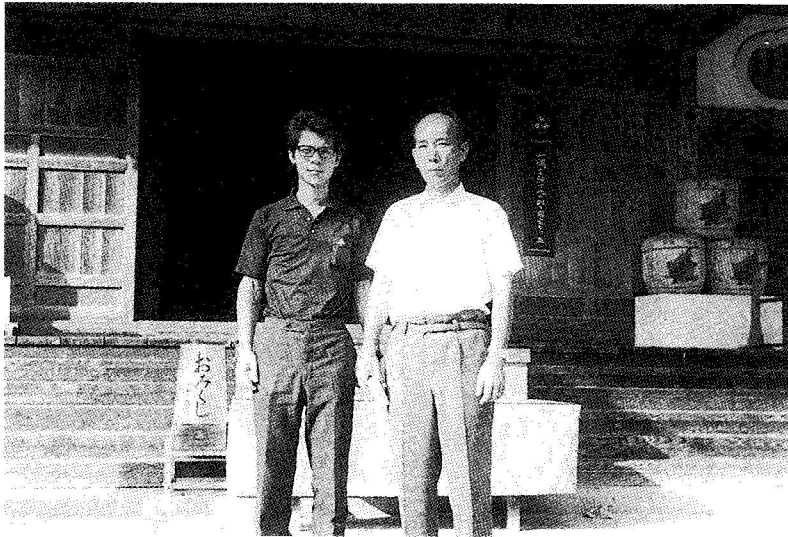
昨年三月、入院されていた時、市場町の鈴木先生とご一緒にお見舞いに伺うと、「退院したら大阪で買ってきた竹刀を剣道教室の子供達にプレゼントするのだ」と楽しみにして



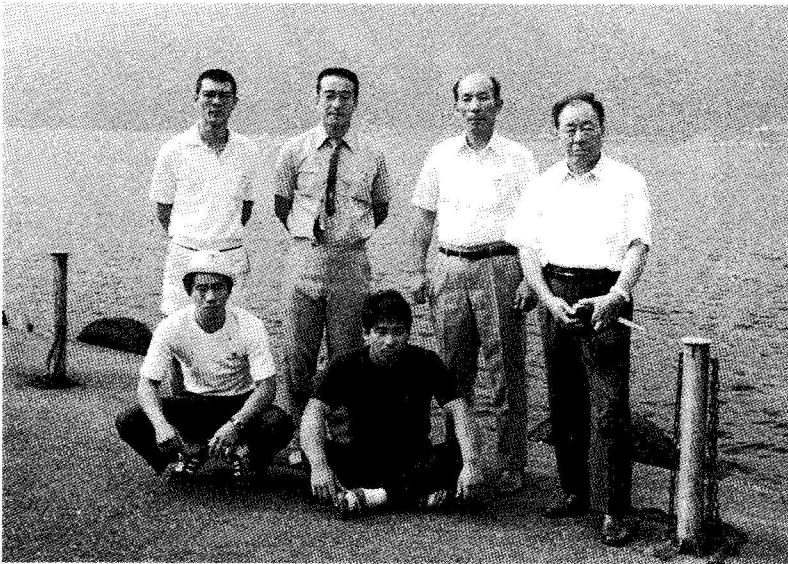
おられた。そして、「塩田君にも一本やるから」とおっしゃって頂いた。これが先生との最後の会話になるとは夢にも思わなかった。私の剣道の師であり、生き方の目標でもあり、心を開いて何でも相談できた方を亡くした今、寂寥感耐え難い心境である。細川先生とは余りにも多くの思い出があり過ぎ、限りある紙面にそ



昭和37年 中学校総合体育大会 優勝



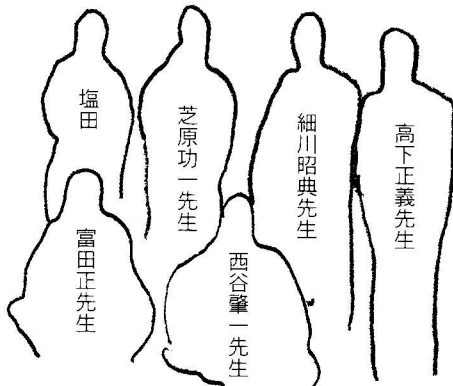
第16回全国教職員大会（岩手県）平泉中尊寺にて 〈昭和49年8月〉



第21回全国教職員大会  
（栃木県）の後 中禅寺湖にて  
〈昭和54年8月〉

の全てを表現することができずもどかしい思いがしている。今でもフツとあんなこともあったなあと先生のことを思い出す日々である。  
先生のご冥福を心からお祈りしつつ筆を置く。

合掌



## 細川昭典先生の思い出

美馬支部 柴 田 宗 忠

私と細川先生とは、父親の関係で中学校の頃から剣道の先生として親しくさせていただいておりました。とりわけ、脇町少年剣道教室を通しての思い出は数多くあります。

先生は脇町剣道教室の室長として長年にわたりご指導されていただけでなく、徳島県剣道連盟美馬支部の先生方にも同じように剣道の手ほどきをされておられました。剣道教室には先生を慕う指導者の先生方が数多くこれ、美馬支部の稽古会かと間違えるくらいでありました。剣道教室では毎月館内試合として細川杯を争奪しております。子どもたちは先生が寄贈してくださった大きなトロフィーを手にするために日ごろの練習に励んでおります。

さらに、脇町中学校剣道部の道場を用意していただいたのも先生であり、忙しい合間を縫って中学生に稽古を付けに来ていただきました。先生のかかり稽古に中学生は息が上がっていました。私も毎回のようにかかり稽古をしていただき中学生の気持ちがよく分かった事を思い出します。

また、稽古の後で先生の若い頃、特に京都の武道専門学校時代の話をよくしていただきました。切り返しをみの稽古に明け暮れたこと、武徳殿の柱への体当たり、さらに、あしがらみや組み暮れが普通であったこと等、今の時代で良かったと思えました。

さらに、私の昇段審査のたびごとに合格のポイントをわかりやすく伝授していただきました。

一方、先生は剣道だけでなく、いろいろな面でプロフェッショナルでありました。吉野川や海での漁もその一つであります。

先生が吉野川で釣ってきた川じゃこを甘露煮にしてくださいました。これを絶品でわたしが高校生の時弁当によく入っていました。朝、熱々の白ご飯の上にのせられた川じゃこの甘露煮は、昼に弁当のふたを開けると少しふやけたようになり、じゃこの周りの白飯にうっすらと色が付きおかずが無くてもそれだけでご飯が食べられたことを思い出します。

鮎漁などは範士級でありました。六月一日には竹刀を竿に持ち替え、縦横無尽に切り返し、八月には木刀を網に持ち替え、車を



平成20年度 脇町剣道教室 平成21年3月3日  
少年剣道教室六年生送る会 (前列右二番目)



剣道有功賞少年剣道教室祝賀会



細川昭典先生 剣道有功賞受賞 平成19年2月2日撮影

船に乗り換え、岩津の鮎はすべて先生の冷蔵庫にあったのではな  
いかと思います。夏の終わりには我が家の食卓にも必ず岩津の鮎  
があがっていました。

海釣りも好きで二つに分解できるグラスファイバー製のボート  
を持っておられ、それを軽トラクの荷台へ積み込み一路鳴門へ、  
豆鮎やメバルをたくさん釣ったこともありました。何回目かには  
大きなタコを釣り上げて二人で大笑いしたこともありました。

また、甘いものには目が無く、先生のお宅へ訪問した際、餅を  
火鉢で焼きその上に砂糖を山盛りかけ二つ折りにした「砂糖餅」  
を進められた話を先輩から聞いたことがあります。

喫茶店ではいつも注文する品は決まっております。「ミックスジュ  
ース」と「ホットケーキ」でありました。どちらが欠けても機嫌が  
良くありませんでした。

また、香川県東かがわ市白鳥付近の「ぶどうもち」が好物で、  
「おいしいのがある」と言われ、教職員大会の帰りや香川県に立  
ち寄った際に買っていただいた事がありました。この和菓子は  
「武道餅」であって、白鳥神社での奉納試合に由来するのだと教  
えていただきました。

モンゴルでの植林や学校建設にたずさわったり、砂漠での出来  
事や景色について熱く語られたこと、大の猫好き等。

他にも沢山のエピソードがあり、書き尽くせません。

今でも剣道教室に行く道着を着けた先生がいて「ごころうじゃ  
なあ」と声をかけてくれそうな気がしてなりません。

## 一 村喜佐男先生を偲んで

阿波支部 一 村 昌 和

平成二十年十一月二十一日、県内最高齢の現役剣士であった一  
村喜佐男先生が九十六歳の生涯を閉じました。

先生は、大正元年（一九一二年）八月十五日に阿波郡市場町で  
生を受けました。十一歳ころより剣道を始め、戦時中は中国へ出  
征し、将校と竹刀を交えることもあったとお聞きしました。戦後  
は、運送業に精を出し、剣道から遠退いていました。昭和三十  
七  
年・五十歳で自動車教習所の教官になり、剣道を再開しました。  
仲間の教官を剣道に誘い、昼休みに集って素振りや稽古をしたそ  
うです。

昭和五十一年・還暦が過ぎた六十四歳のとき、市場町内の有志  
と計らい市場剣道教室を設立しました。剣道教室では、青少年の  
健全育成を目指し、初心者・中級者・上級者と各段階の生徒たち  
に剣道の基本を優しく適切に指導され、多くの有望な剣士を育て  
られました。

三十余年の指導において、剣道教室を巣立っていった生徒たち  
の中には教員となり、先生の意志を引き継いで、剣道の指導をし  
ている者も少なくありません。剣道教室では、段級審査の担当指  
導者として実技とともに日本剣道形を懇切丁寧に指導し、習熟に  
努められ、高い合格率を維持してきました。また、顧問として剣

道教室の運営に参画し、指導の充実や組織の活性化に尽力されま  
した。さらに、生徒の指導のみならず、自ら範となる不断の努力  
をなされ、六十九歳で教士の称号を、七十歳で七段を取得されま  
した。

七十四歳のときに、喉頭がんが見つかり、徳島大学医学部付属  
病院に入院しました。医師から摘出手術を勧められましたが、声  
帯を失うおそれがあるため、頑なに断ったそうです。声が出なく  
なると剣道の指導ができなくなるという理由で、痛みの伴う放射  
線治療を選び、不屈の精神力でがんと闘い、がんを克服しました。

平成四年・八十歳、多年にわたり県下剣道の発展と振興のため  
尽力され、その功績が顕著であり、剣道連盟発足四十周年にあた  
り、その功を称えて徳島県剣道連盟より表彰されました。

平成六年・八十三歳、五月に下顎リンパ腫の摘出手術のため入  
院、約半年間の治療をうけて完治し、十二月に退院しました。退  
院後、早速にリハビリと称して素振りを始めたそうです。体力の  
回復にあわせ、稽古も再会しました。

平成八年・八十四歳、全日本高齢者武道大会に連続十回出場し、  
平素の鍛錬の技量を遺憾なく発揮するとともに地域にあっては青  
少年の育成に多大な貢献をされ、武道の振興と並びに高齢者の範  
としてその功績が誠に顕著であるとして表彰状をいただきました。

平成十二年・八十八歳、第十五回徳島県高齢剣道大会に出場し、  
準優勝しました。また、全日本剣道連盟より多年にわたり剣道の  
向上発展に尽力された功績を称えて剣道有功賞授与の顕彰状をい

いただきました。

平成十七年・九十三歳、全国老人福祉助成会・全日本高齢者剣友会より、永年にわたり会の発展に多大な貢献に対する感謝状をいただきました。平成十八年・九十四歳、第二十一回徳島県高齢者剣道交流大会に出場し、八十五歳以上の部で優勝しました。六月、東京・日本武道館で開催された全日本高齢者武道大会において出場者五百五十四人の中の最高齢者として名誉の選手宣誓を行いました。(写真)

平成二十年・九十六歳、二月に風邪を拗らして阿波病院に入院しましたが、順調に回復し、三月には退院しました。自宅で安穩と生活してゐるお姿を時折拝見しておりましたが、九月に体調を崩して再入院しました。十一月二十一日、終に葉石の効なく、家族に看取られながら永の眠りにつきました。

剣道以外に、先生の人柄を象徴する記録的な事例を紹介します。平成六年・八十二歳、四国管区警察局長・四国交通安全協会長より、永きにわたり交通法令の遵守と安全運転に努め、他の模範となる運転実績が認められ、六十三年間無事故運転の表彰状を授かりました。先生は、道路交通法の生き字引であり、その実践者として細心の注意を心掛け、安全運転を常になされていきました。

先生は、悦ばしく古希・喜寿・傘寿・米寿・卒寿と剣道の年輪を重ねてきました。その間、幾多の困難や病気に立ち向かい、剣道で培った強い精神力で克服してきました。また、健康を維持し、生涯現役の剣士を続けていくため毎日二十分間、竹刀での素振り

を日課として日々実践しました。先生の剣道に対する執念に近い強い想いや真摯に取り組む姿勢に敬服します。

後年に先生は、最高齢の現役剣士として新聞や剣道誌によく取り上げられました。記事を読まれた人たちは、これから訪れる後期高齢者社会と生涯体育の指標として、また先生の生涯現役という剣道への情熱と長寿に憧れ、あやかりたいと思われたのではないのでしょうか。

亡くなられて早、一年数ヶ月が過ぎました。先生は、彼岸においても我々を温かく見守りながら、毎日素振りを欠かさず実行し、剣道を楽しんでおられると推察されます。衷心より先生のご冥福をお祈りします。



第21回 全日本高齢者武道大会 一村先生による選手宣誓(日本武道館)

## 一 村喜佐男先生を偲んで

阿波支部 河野 寿 仁

昭和五十六年、小学校五年生の春、私は市場少年剣道教室に入門しました。ある日、弟が「ケンドウをやりたい」というので見学について行ったのがきっかけでした。同級生達の何人かが、「ケンドウ」をしているというのも聞いたことがあったので、どんなものなのか興味もありました。現在の市場武道館のある場所に市場中学校の旧の体育館や道場、教室を改築した道場などがありました。道場に入ると、汗や藍染めのおいと共に、何か剣道独特の雰囲気を感じ、怖いような身の引き締まるような気がしました。中では幼稚園や小学校低学年の小さな子から体の大きな上級生までが剣道着・袴を着て、稽古前ということもあってか和気あいあいとしていました。市場剣道教室は当時五〇〜六〇人は下らないであろう大人数が稽古に通っており、そのため年齢や習熟度によっていくつかのクラスに分けられていました。その中の一つのクラス（中高学年の初心者？）を指導されていたのが一村先生でした。見学をしていると、「竹刀持ってみるで？」「ちょっと中に入ってみたい」と声をかけて下さり、見よう見まねで少し体験をさせていただきました。「よし、剣道をやってみよう」と入門を決め、入ったクラスが一村先生のクラスでした。

「しっかりと真っ直ぐに構えて」「左の足を継がんように」「前！

前！あと（後）！あと！……」一村先生はいつも凛とした立ち姿で、基礎・基本を大切にされた正しい剣道を私たちに指導してくださいました。また、剣道の技術のみならず、挨拶や生活における礼儀や作法なども、時には優しく、時には厳しくご指導くださり、私たちにとってはちょうど厳格で優しい「おじいちゃん」のようにも感じていました。

一村先生のクラスでご指導いただいたのは約一年間ほどだったと思います。剣道の基礎・基本をみっちりたたきこんでいただき、上級のクラスに変わることになりましたが、先生の元を離れるのが寂しくて仕方がなかったのを覚えています。剣道教室全体での合同稽古の際には必ず先生に稽古をお願いするため列に並んだものでした。

その後、自然と中学校でも剣道部に入部し、高校、大学、そして社会人に至る現在まで剣道を続けることができました。その間、折に触れ剣道教室の稽古に向いては小学生の稽古相手をした後に先生方に稽古をお願いしたり、阿波支部の稽古会でも稽古をつけていただき、「ええ稽古ができよるな」「ここをもっとこうした方が」等々……アドバイスをいただき、また学校に戻っては稽古に生かしたものです。また、中学校や高校での試合結果や昇段を知っては私の自宅に寄ってください「よう頑張ったな」などとお褒めをいただいたり、激励のお手紙をいただいたりと本当によく気にかけていただきました。

今、私は教職の道を志し、高校の教員として授業や部活動で生

徒たちに剣道を指導する立場になりました。先生に剣道の「手ほどき」を受け、剣道を通じた人間形成の基礎をきちんと身につけさせてくれたから今の自分があると思います。これからも先生のお教えを忘れることなく自らの剣道に精進し、市場町や阿波支部、徳島県の子ども・生徒たちのために頑張っていきたいと心新たに  
するところです。

先生、本当にありがとうございました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



## 早川一也先生を偲ぶ

小松島支部 沢井勝之

平成二十一年十月十日、早川先生（八十八歳）が天国に旅立たれました。訃報の知らせを受けた時、私は大変悲しい思いをし、走馬灯のように先生の思い出が頭の中によぎりました。私は先生に直接稽古をつけていただいた事はありませんが、高齢者剣道大会などで先生の試合を見て、凜とした立ち姿と、美しい構えから、すっと打ち間に入り、相手の手元が上がった時、目にも止まらぬ速さで、小手を打つ瞬間が今でも目に焼き付いています。私のように強引な剣道をする者にとって、手の内が柔らかく、理にかなった先生の剣道はまさに理想でしたが、私のようなものは到底先生の域に近づけないと思いました。

先生は大正十年八月十一日に直一氏の長男として榊淵で生まれ、立江尋常高等小学校五年生のとき、丸岡米蔵師範について剣道を始めました。徳島県師範学校一部（五年制）時代には藤川市太郎先生に師事し剣道の稽古に励みました。有段者になったのは同校三年のときで、卒業時には四段に昇段しました。昭和二十八年に六段に昇段、昭和四十九年に人格、技量、識見ともに認められ教士の称号を与えられました。そして、昭和六十一年に剣道七段に昇段しました。

先生は、昭和十七年徳島県師範学校を卒業して、那賀郡平島国



民学校の教諭となったが、わずか一年の勤務で、昭和十八年に加古川砲兵連隊に入隊、外地の台湾に派兵され軍務に精励し、昭和二十一年陸軍少尉で復員しました。

帰郷後は家業の農業に専任し、約十年間剣道から離れていましたが、剣道が忘れられず、再度稽古に復帰しました。昭和四十二年に小松島市議会議員に初当選し、その後四期、十六年間、市議として小松島市の発展・振興に寄与しました。その間徳島県剣道連盟小松島支部長として、小松島市の剣道普及・発展に努め、榊淵少年剣道の指導も熱心に取り組みました。奥様にお話を伺ったのですが、農繁期のどんな忙しい時も、少年剣道の指導を優先し、

夕方五時になると小学校の体育館に出かけていたとのことでした。しかし、少子化の影響で剣道をする子供がいなくなり十年ぐらいでやむなく少年剣道の指導を中止しました。

市議を退いた後も、徳島地方裁判所調停委員、行政相談委員など多くの役職を引き受け、地域社会のために粉骨碎身、多忙な生活を送っていました。その間も剣道を継続し、全国ねりんピック剣道大会は香川県(第七回)、山形県(第十回)、広島県(第十四回)、徳島県(第十六回)の大会に参加し、大活躍をしました。また、第十回全国高齢者武道大会剣道特組で準優勝をしました。県下の高齢者大会には毎年出場し、特組で数多く優勝をしていました。

平成十七年、全国高齢者剣道大会(東京)に出ることを楽しみに、旅費まで納めていましたが、直前に体調を崩し出場を断念しました。それが、先生の剣道生活の最後になりました。真っすぐで、正直で、真面目で、常に一筋だった先生の教えは、今も私たちの心の中に深く残っています。先生、今後も天国から私たちを見守っててください。(八島肇)



# 全国講習会報告

## 中央講習会に参加して

美馬支部 柴 田 宗 忠

四月九日土曜日早朝、木原資裕先生と平成二十一年度（第四十四回）剣道中央講習会（西日本）に参加するため神戸市へ出かけた。晴天の中、少々肌寒かったが、午前八時三十分には、中央体育館へ集合することができた。受講者は西日本から四九名、剣連派遣・剣道団体より七名、総勢五六名が開講式にのぞんだ。受講生中に、教士八段の先生方は二〇名であり、この講習会の質の高さに身が引き締まる思いであった。

開会式では全剣連専務理事・福本修二先生より、講習会の趣旨説明があり、講習会の意義に始まり、現在の剣道情勢、世界的な視野からの日本の立場等お話をいただいた。

さて、いよいよ講習会第一のプログラム、剣道指導法について東京の田口榮治範士より講話が始まった。

初心者・中級者に対する指導法について、先生の経験を交えながら分かりやすく、かつ内容の濃い講義が進められた。この講習会は伝達講習となつてはいるが、実は確認講習であるとのこと。受講生は指導者であり今回の講義の内容はすでに熟知のこととし、



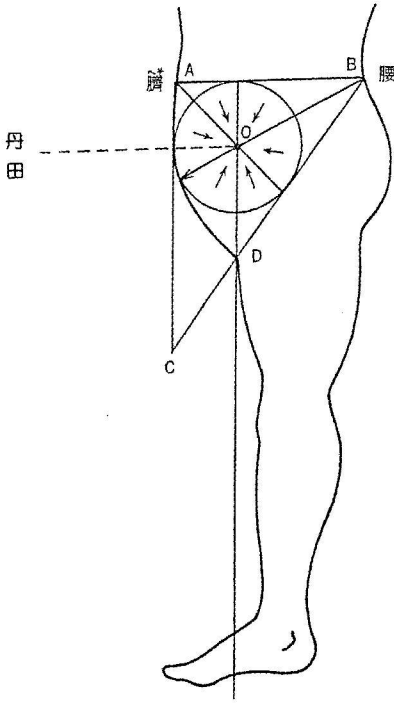
今更うなずいたり、ノートに書き留めたりするレベルではなく、再確認の場としてほしいとのことであった。

しかし、未熟な私にとっては、山口先生の話されることが、身にしみ、うなずかずにははいられなかった。その中で、今でも心に残っていることを述べてみようと思う。

① 剣道の指導目的について、理念の中に日本刀の観念が述べられている、これは四つ割の竹刀を常に日本刀と捉え、刃筋・しのご・打突部位を正確に理解し、剣の理法として指導しなければならぬ。また、理法の修練として、刀法・身法・心法さらに姿勢についての指導に重点を置くことの重要性についての話があった。その中で姿勢について、自然体が最も良い姿勢である。自然体とはどこにもこりがなく、心も澄んでいる状態である。これを私

に置き換えると、私は剣道をするとう肩がこる。これは、全く自然体ではないということであり、さらに、竹刀を交えたと心が逸る。何かしてやろう、どこか叩いてやろうと思う。まさに剣の理法の修練が全くてきていないことの証である。指導どころではない。さらに着装の面でも自分なりに気をつけているつもりであるが、実は基本的なことができていなかった。袴をはくときに左足からはくと言ったことを知らなかったのである。これでは指導者ではなく初心者である。

②丹田の位置について。田口先生のお話を自分なりに解釈して述べる。体の中心部であるへそを点Aとし、点Aから水平に体の真後ろへのばした直線と背骨との交点をBとする。さらに、点Bから恥骨を通る直線と点AからABに垂直な直線との交点をCとする。この三点ABCを結ぶと角Aが九〇度、BCが斜辺であ



る直角三角形ABCができる。この直角三角形ABCに内接する円の中心をOとし、このOを中心とした球が丹田である。この丹田に力を込め竹刀を構える。これが正しい構えである。ここで述べられた丹田の位置には目からうるこであった。

以上まだ書きつくせないことがたくさんあるが、今回の講習で学んだことを生かし、これからの修練に生かそうと思っている。

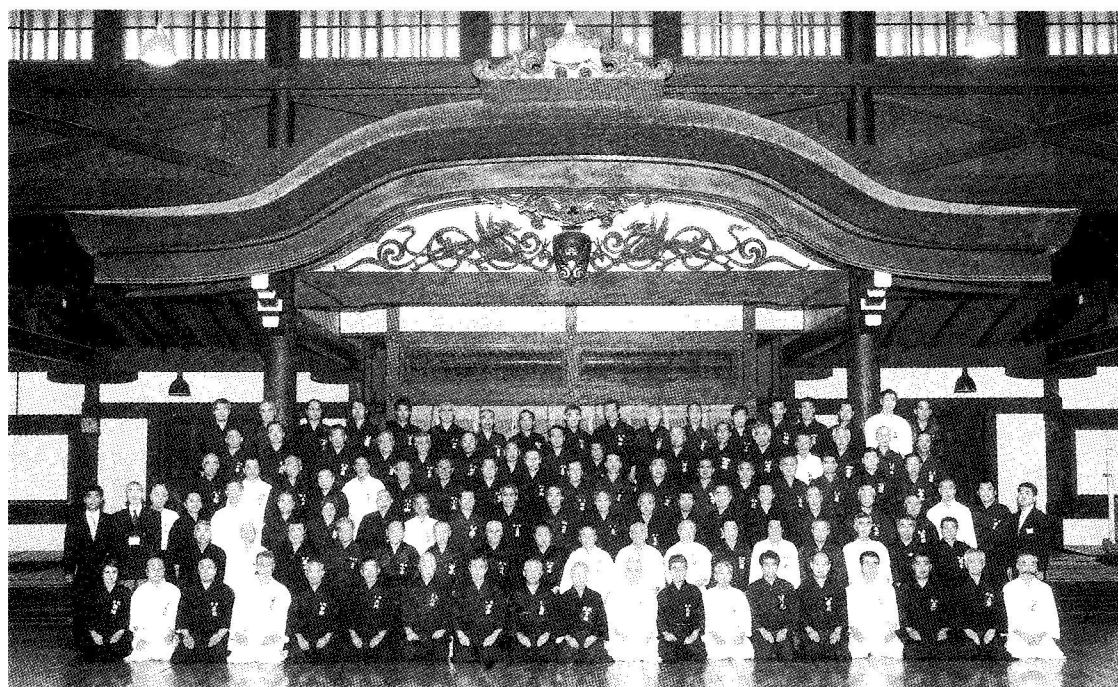
最後になりましたが、中央講習会の参加に当たりお世話をしていただいた徳島県剣道連盟、また同行し、ご指導していただいた木原資裕先生にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

## 居合道中央講習会に参加して

居合道部 吉 岡 修 一

全日本剣道連盟主催の第三十六回居合道中央講習会が、平成二十一年九月十二日(土)・十三日(日)の二日間にわたり京都市武道センターにおいて開催されました。この講習会は伝達講習会実施を条件として、各都道府県剣道連盟の中核となる指導的立場の者を対象に全剣連居合審判実技の講習を重点に技能の向上を図ることを目的として行われています。各都道府県の受講人員は東京四名、埼玉・千葉・神奈川・愛知・大阪・福岡が三名、その他の道府県二名の計一〇二名でした。この講習会には徳島県剣道連盟より居合道範士八段原田勝先生と私が派遣されました。

一日目は開講式の後、岸本千尋居合道委員長より次のような講話がありました。「全剣連居合は解説書の通りで何ら変わったところはない。指導要点として三本日(受け流し)は右足を「イ」の字に踏み込んだ時に刀が鯉口より離れる。この時体は正面を向いている。十本日(四方切り)一重身については敵のこぶしを正対して柄で当てるため、左足をわずか左へ捌いて抜きつけないと一重身にならない。」その後、全日本剣道連盟居合の解説に基づいて礼法と十二本目までの術技を武田講師の説明、小倉講師の演武により行われました。昼からは六班に分かれ、それぞれの講師のもとで詳しく指導を受け、一日目を終えました。



平成二十一年九月十二日(土) 居合道中央講習会会場 主催財団法人全日本剣道連盟

二日目は午前九時より審判実技講習が行なわれました。平成二十一年十月二十四日(土)長崎県島原市で開催されます第四十四回全日本居合大会の審判員に指名されている先生方が審判員となり、受講生が試合者となって模擬試合を行ないました。審判員のできによって大会が左右されるということで発声や旗の上げ下げなどの指導を受けました。午後からは

講師と受講生の参加者全員の集合写真はいつもは中庭で写してくれるのですが、今回は雨のため武徳殿玉座前で写してくださいました。京都府連の先生方は今回の先生方はラッキーな方ですとのことでした。受講内容は九月二十日松茂第二体育館において原田先生とともに伝達講習会を実施しました。

古流の研究で神伝流五十五名、英信流三十六名とその他の流派(新陰流三名、田宮流二名、重信流二名、伯耆流二名、無外流二名)の三班に分かれました。私は英信流ですので武田・山崎(正)講師の指導で八段の先生が元立となって交互抜きで「正座」「立膝」「奥居合の「座業」「立業」を抜きました。古流についてはそれぞれ道場において教わっているとおり稽古してくださいとのことでありました。

最後にまとめて質疑応答が行われ、午後四時に閉講式が終わりました。講師先生の懇切丁寧なご指導と受講生の謙虚な取り組みには感心いたしました。

### 平成21年度(第36回) 居合道中央講習会 日程表

平成21年9月12日(土)～13日(日) [於・京都市武道センター]  
財団法人 全日本剣道連盟

	9月12日(土)	9月13日(日)	
9:00	開 講 式 全 剣 連 居 合	審 判 実 技	9:00
		質 疑 応 答	11:30
12:00	昼 食	昼 食	12:00
13:00	全 剣 連 居 合	古 流 の 研 究	13:00
		閉 講 式	16:00
17:00			

#### [役 員]

全日本剣道連盟 会 長 武 安 義 光  
全日本剣道連盟 副 会 長 加 賀 谷 誠 一  
全日本剣道連盟 専 務 理 事 福 本 修 二

#### [役員兼講師]

全日本剣道連盟 居合道委員会委員長 岸 本 千 尋

#### [講 師]

居合道範士 武 田 清 房  
居合道範士 山 崎 正 博  
居合道範士 河 口 俊 彦  
居合道範士 安 永 毅 毅  
居合道範士 山 崎 譽 昇  
居合道範士 小 倉

## 第四十七回剣道中堅剣士 講習会に参加して

徳島支部 福 多 雅 英

各都道府県剣道連盟において、中核となる剣士の錬成強化と指導力の養成を図ることを目的とした剣道中堅剣士講習会が、平成二十一年五月二十日～二十四日までの五日間にわたって、奈良市中央武道館で開催されました。数年前までは西日本各地からの参加者を奈良県柳生の里に集め講習会を開催していたので柳生講習会とも呼ばれている講習会です。

私は高校で剣道を指導している立場にありますが、自分自身の研鑽による剣道力の向上が、生徒の剣道の技能向上と発展に直結すると考えていますので、機会があれば是非参加したいと思っていました。この講習会は受講資格が五十歳以下ということで、今回が私にとりましては、最後の機会でありました。この度徳島県剣道連盟の先生方のご尽力で参加させていただくことができました。心よりお礼を申し上げます。

以前に参加経験のある高木先生や生田先生から「講習会は大変厳しくて、講習会というより強化訓練だ。」ということをお聞きし、覚悟して参加させていただきましたが、本当に中身が濃くて激しく充実した五日間の講習でした。

今回は、全国各地から警察官十七名・教員二十六名・刑務官四

第47回剣道中堅剣士講習会日程表 (於・奈良市中央武道館)

	5月20日	5月21日	5月22日	5月23日	5月24日
7:00～8:00		朝稽古	朝稽古	朝稽古	
9:30～12:00	集合・受付	『審判法実技』 福本講師 太田友康講師 村上講師	『指導法』 「かかり稽古」 鈴木講師	『指導法』 「応じ技」 有馬講師	『講義』 「剣道と足の障害」 佐本講師 閉講式・解散
14:00～16:30	事務連絡 開講式 『講話』 松永講師	『指導法』 「礼法・所作」 「素振り」 「区分稽古」 浅野講師	『木刀による剣道 基本稽古』 上垣・松田講師 『指導法』 「しかけ技」 高橋講師	『日本剣道形』 太田忠徳講師 中出講師	
16:30～17:30	稽古	稽古	稽古	稽古	

名・自衛官二名・団体職員一名・自営業二名・会社役員二名の五十四名が参加しました。年齢的には四十歳前半の参加者が多かったと思います。講習会日程については次のとおりです。

## 第一日目【五月二十日】

開講式で井上茂明講師より講習会についての趣旨説明があり、引き続き松永政美講師から「中堅剣士の目指すもの」と題した講演がありました。全剣連の剣道理念、剣道の根幹について・剣道を通じて人間形成を図ることや剣道を通じて社会に貢献することの重要性について等、先生の長年にわたる修練と研修成果のあふれた講話に感銘を受けました。

その後、全講師のもと立ちによる一時間の稽古と、打ち込み・かかり稽古・切り返して一日目の講習を終えました。

## 第二日目【五月二十一日】

午前の審判法では、村上済講師から、平成二十一年度基本方針ならびに重点方針における審判法について説明があり、引き続き審判法実技として班毎に別れ、全講師指導のもと審判実技についてご指導いただきました。

午後は、浅野修講師による礼法・所作の講習がありました。最近、大相撲の世界で品格ということが話題になっていますが、わが国の伝統文化として伝承されてきた剣道にとっては、正しい礼法・所作の修得は大変重要なことであります。剣道を通して品格を身につけ、指導していくことは大切なことであると考えられます。その後、各種の素振り千本や、切り返し・打ち込み・かかり稽古・互角稽古を一セットとした区分稽古をしました。引き続き全講師がもと立ちとなり、一時間の稽古がありました。日ごろの稽古不足から、この日以降、全身筋肉痛で階段の昇り降りもきつ

くなりました。

## 第三日目【五月二十二日】

午前は鈴木康功講師によるかかり稽古を中心とした切り返し、打ち込みについての講習がありました。特に切り返しや打ち込みについては、縁を切らず、大きく竹刀を振ることの大切さを学びました。

午後は、地元奈良県の上垣功講師と松田勇人講師による「木刀による剣道基本技稽古法」の講習がありました。この稽古法が制定されて十五年が経過していますが、本県では、まだまだ浸透しているとは言えない状況にあると思われます。他県では、すでに昇級審査に導入されており、本県でも平成二十三年度から昇級審査に導入される予定で、益々の研鑽が必要であると思いました。続いて高橋俊昭講師による「しかけ技」の講習があり、一足一刀の間合いから一足で打突するしかけ技の指導法について学びました。高橋講師がこれまで研究実践されたことを論理的に示範しながらわかりやすく説明していただきました。最後に全講師も参加しての回り稽古が一時間ありました。

## 第四日目【五月二十三日】

午前は、有馬光男講師による「応じ技」の講習がありました。全日本選手権をはじめ各種大会で活躍され、試合巧者として有名な有馬講師による面すり上げ面・出小手・面返し胴等の示範は、相手を引き出して応じる機会と体捌きが絶妙であり、技に凄みを感じさせられるものでした。

午後は、太田忠徳講師と中田瑋士講師による剣道形の講習がありました。まず講習会資料に基づき、日本剣道形における重点事項や基本的な留意点についての解説がありました。その後、所作や構えについての説明、大太刀一本目から模範を示しながらの指導は、実に詳細に渡るもので両講師の日本剣道形への造詣の深さを感じさせられる内容でした。引き続き全講師参加による回り稽古が一時間ありました。

第五日目【五月二十四日】

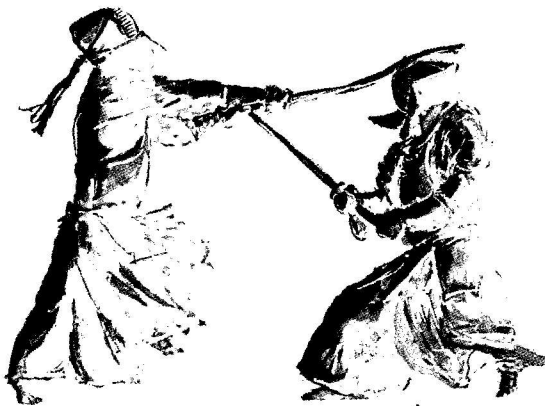
最終日となったこの日は三日間行われた朝稽古もなく、県立奈良病院の整形外科医である佐本憲宏講師による「剣道と足の障害」についての講義がありました。特にアキレス腱断裂については、各種のデータを基にして分りやすく説明していただきました。今回の講習会でも講習生のひとりが、かかり稽古中にアキレス腱を断裂しており、講習生一同疲労困憊の状況ではありましたが、真剣に取り組みました。内容について一部紹介させていただきます。

「三十歳からアキレス腱断裂のリスクが上がる。」「膝が伸びて足首が立った状態の時に断裂しやすい。」「スポーツ別に見るとバレーボールをしている時が一番多く全体の三割、次いでバトミントンが二割。特にママさんバレーが多い。」「アキレス腱断裂の三週間前から四割の患者には、患部の痛みや熱く感じるといった前兆が見られた。しかし、四十歳以上の患者には前兆の症状がない。」「予防には稽古前の準備体操と稽古後の整理体操・アイシング。」

講義の後、閉講式があり四泊五日にわたって開催された剣道中

堅剣士講習会が終わりました。

今回の講習会は講師の先生方による講習や稽古だけでなく、多くの講習生の皆さんとの稽古や剣道談義を通して、自分自身の剣道観を再構築し、指導法について考える良い機会となりました。講習会で学んだ事を活かし、徳島の剣道発展のために、微力ではありますが貢献できるよう取り組んで行きたいと思えます。



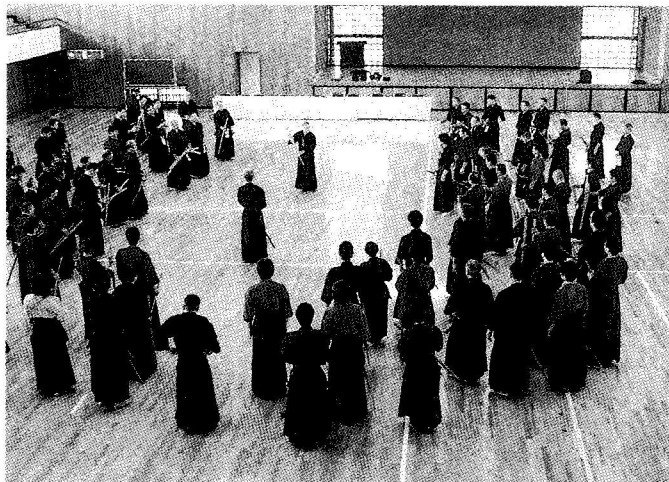
# 平成二十一年度全日本剣道連盟後援 徳島県剣道秋季講習会記録

事務局次長 手塚 十三子

田口榮治範士八段をお迎えして標記講習会が平成二十一年十月十一日(日)鳴門ソイジョイ武道館にて行われました。

わが国の伝統文化である剣道の正しい普及発展と競技力の向上を目指して、本県では今年も「日本剣道形」と「指導法」について実施しました。

「日本剣道形」においては、歴史と伝統に培われたわが国の文化遺産であるという礎のもと、①意義と目的②修練における留意点③所作などの共通理解、という観点から範士は解説書のとおり、その熟達された理と技の範をお示しいただきました。さらに「木刀による剣道基本技稽古法」では「竹刀は日本刀」であるとの観点から、①制定の趣旨②基本的な目的③構成④指導上の留意事項のご講義をいただき、引き続き立会の実技へと入りました。形に表れる残心と表れない残心についてもご教示いただき、理合とそれを表現する心の有り様がいかに重要であるか、範士の見識の深さを通じて受講生の胸に響くものが多くありました。



指導法では、指導上の留意事項と実技内容に大別してご指導をいただき、一言一句の重みと先達者の尊い言葉を随所に引用されながら、終始わかり易く丁寧にご教示くださいました。以下にその資料をお示しします。

## 講習会（日本剣道形）資料

田口 榮治

## 1. 日本剣道形の意義・目的

日本剣道形は、明治44年剣道が柔道と共に中学校の正課として採用されるに及び、大日本武徳会・文部省・高等師範学校が協議の上指導上の統一を図ることを目的に根岸新五郎、辻真平、内藤高治、門名正、高野佐三郎、の五氏を主査に、各都道府県から著名な先生を招聘して鋭意調査協議の結果、大正元年にいずれの流派にも属さない各流派統合の象徴として制定されたものである。

日本剣道形は、長い歴史を持ち、理合い精神面に深い内容を持つまでに発達した文化遺産である。この伝統文化剣道形を正しく継承し、次代に伝えることは我々の使命であり、大きな意義がある。

剣道形修練の目的は、技術力の向上を大きな狙いとして実施するのであるが、剣道形を繰り返し修練することによって、剣道の基礎的な礼儀作法や技術剣法上の理合いなどを修得できる。

さらに内容的な気の働きや、気位、風格といった剣道の原理、原則を会得でき、剣道の規範となるものである。

幕末の剣客窪田清音は「形を本とし、仕合をむねとし本の形に立ちかえりて、その心の如くなり得ることこそ形の本用なればなり」と説き、形は試合の手本であることを教えている。

「形」の重要性を認識し、平素から剣道形の修練に努めることが大切である。

## 2. 日本剣道形修練における留意点

- (1) 立会いの所作および刀の取り扱いを適切に行い、特に小太刀の置き方に留意する。
- (2) 五つの構え及び小太刀半身の構え、入り身の所作を自得する。
- (3) 打太刀（師の位）仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、呼吸を合わせ、動作は原則として打太刀から始動する。
- (4) 太刀の形では「機を見て、小太刀の形では、入身となろうとするところを打つ」とある。打突の機会を適切に行う。

- (5) 足捌きはすり足で行い、打突したとき後ろ足を残さず前足に伴って引きつける。
- (6) 太刀の振りかぶる度合いは両腕の間から相手の全体が見える位まで上げるが、剣先は両拳より下がらない。
- (7) 技に応じて打突の緩急強弱を心得一拍子で行う。
- (8) 打太刀は一足一刀の間合から技を出し、仕太刀は打突部で打突部位を氣迫をこめて打ち下ろす。
- (9) 残心は形あるもの、ないものにかかわらず十分な氣位を持って行う。
- (10) 目付け・呼吸などを心得、氣分を緩めず終始充実した氣迫で行う。

### 3. 所作などの共通理解

- (1) 中段の構えの延長とは、峯の鐔元と切先を直線で結んだ延長をいう。
- (2) 一本目 打太刀が正面を打ち、抜かれた剣先の高さは下段程度。
- (3) 四本目 双方切り結ぶ位置はおよそ太刀の中央部で剣先は正面の高さ。
- (4) 五本目 中段の構えの刃先はやや斜め下。
- (5) 六本目 仕太刀がすり上げ小手を打つとき、右足を踏み出し左足を引きつけるを原則とするが、間合によって引きつけなくても踏み込みだしたと解釈する。
- (6) 七本目 仕太刀がすれ違いながら胴を打つ方法
  - イ 右足を右前にひらいたとき、刀を左肩上方に振り上げ左足を踏み出すと同時に振り下ろす。
  - ロ 右足を開いたとき、刀は振り上げず、左足を踏み出すと同時に振り上げ振り下ろす一拍子のうちで行う。
- (7) 小太刀半身の構えの刃先の方向
  - イ 中段半身の構えとは、刃をやや斜め下に向ける。
  - ロ 下段半身の構えは刃を真下とする。

2009. 6. 19

## 【木刀による剣道基本技稽古法】

[ 田 口 榮 治 ]

### 1 制定の趣旨

剣道の基本技術を習得させるため「竹刀は日本刀」であるとの観念を基とし、木刀を使用して「刀法の原理・理合」「作法の規範」を理解させるとともに、適正な対人の技能を中心に技を精選し指導するものとした。

### 2 基本的な目的

- (1) 竹刀は日本刀であるという観念を理解させ、日本刀に関する知識を養う。
- (2) 木刀の操作によって、剣道の基本技を習得させ、応用技への発展を可能にする。
- (3) この稽古法の習得によって、日本剣道形への移行を容易にする。

### 3 構成

基本1	.....	一本打ちの技 「正面」「小手」「胴」「突き」
基本2	.....	二・三段の技（連続技） 「小手 → 面」
基本3	.....	払い技 「払い面（表）」
基本4	.....	引き技 「引き胴（右胴）」
基本5	.....	抜き技 「面抜き胴（右胴）」
基本6	.....	すり上げ技 「小手すり上げ面（裏）」
基本7	.....	出ばな技 「出ばな小手」
基本8	.....	返し技 「面返し胴（右胴）」
基本9	.....	打ち落とし技 「胴（右胴）打ち落とし面」

### 4 指導上の留意事項

- (1) 立会前後の作法（所作事は「日本剣道形」に準拠する。）
  - ア 木刀を右手に提げ、下座中央（のぞましい）約3歩の距離で向かい合って左座右起の作法で正座する。
  - イ 木刀は右脇に刃部を内側に、鐙を膝頭に揃えて置き、座礼は両手を一緒に着く。
  - ウ 立ち上り（左座右起）「提刀」のまま、立会の間合（およそ9歩）に進み、先ず上座の立礼（30度）次に相互（15度）の目礼を行う。
  - エ 木刀は体の中央で左手に持ち変えると同時に、親指を鐙にかけ帯刀となる。柄頭が正中線。

- オ 相互に右足から3歩踏み出し、蹲踞しながら木刀を左斜め上から抜き、横手あたりを交差させる。
- カ 立ち上り中段の構えとなる。  
中段の構えの延長とは、峯の鏝元と剣先を直線で結んだ線の延長で両眼の中央か左目の方向（一足一刀の間合を前提とする）。
- キ 最後の演武が終了したら蹲踞して木刀を納め、立ち上がって小さく5歩退り、右手に持ち変えて「提刀」となり相互の礼、上座の礼を行ない下座に戻り座礼をして退場する。

(2) 構え

- ア 構え方は、すべて「中段の構え」とする。  
左拳は臍前約一握り、左手親指の付け根の関節を臍の高さで正中線に置く。  
剣先は「一足一刀の間合」において、その延長が相手の両眼の中央または左眼の方向とする。
- イ 構えの解き方は、剣先を自然に相手の膝頭から3～6センチメートル下で下段の構えの程度に右斜め下に下げ、この時の剣先は相手の体からややはずれ、刃先は左斜め下に向くようにする。

(3) 目付け

目付けは、相手の顔を中心に全体を見ることとし、ここではお互いに目を見る。

(4) 間合

- ア 立会いの間合はおよそ9歩の距離とし、3歩前進の後の蹲踞しながらの木刀の抜き合わせと、技の終了した時点の間合は「横手あたりを交差させる間合」とする。
- イ 打突の間合は「一足一刀の間合」とし、この間合は個人の体格、筋力、技倆の程度などにより若干の差があることを指導する。

(5) 打突

- ア 打突は、充実した氣勢で手の内を絞り刃筋正しく「物打」を用い、後ろ足の引き付けを伴って「一拍子」で行わせる。
- イ 打突は、常に打突部位の寸前で止める空間打突となるが、刀で「切る・突く」という意味を理解させる。
- ウ 「掛り手」の打突動作は「元立ち」が合気になって与える機会を逃すことのないよう、的確に捉えて「掛け声」とともに気合いをこめて行わせる。

(6) 足さばき

- ア 足さばきは、送り足を原則とし「すり足」で行わせる。
- イ 打突した時、後ろ足を残さず前足に伴って引き付ける。

(7) 掛け声（発声）

打突時に「面（メン）、小手（コテ）、胴（ドウ）、突き（ツキ）」と打突の呼称を明確に発声させる。

(8) 残心

- ア 打突後は、油断することなく相手に正対し、間合を考慮しながら「中段の構え」となって残心を示させる。（しかけ技）
- イ 形に表さない残心も、十分な気位で相手の反撃に対応できる身構え気構えで行う。

## 【 剣道指導法の参考 】

[ 田 口 榮 治 ]

### I 指導上の留意事項

#### 1 指導目標

わが国の伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承して、その発展を図り「剣道理念」に基づき高い水準の剣道を目指す。

(1) 剣道理念「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」

イ 剣 — 日本刀の観念（やり直しがきかない厳粛なものであることを深く認識する）

ロ 理法 — 剣法上の理論、筋道

○ 刀法 — 適確な打突（物打ち、刃筋、手の内の作用、鎧の効用、一拍子の打ち）

○ 身法 — 適正な姿勢（上虚下実、体捌き、目付、呼吸法）

○ 心法 — 充実した氣勢（冷静沈着、勇猛心、克己心、適確な判断と決断）

ハ 人間形成

○ 自己形成 — <sup>どくりつふき</sup> 独立不羈、何の思慮分別を用いなくても出来る働き。

○ 社会形成 — 慈悲心、一燈照隅

(2) 高い水準の剣道 — 事理一致、心気力一致

○ 基本を踏まえ、気で攻め、理で打つ

○ 無理なく、無駄なく、無法なし

○ 機を知る、機をつくる、機にゆく

○ 初太刀一本、千金の値

#### 2 指導者の在り方（指導者は剣道を高め広める人）

- (1) 剣道指導者である前に、立派な社会人である。
- (2) 信念と愛情を持った指導者。
- (3) 高い技術と理論を持ち、審判技術に熟達している。
- (4) 剣道の特性を生かした能率的で適格な指導ができる。
- (5) 優れた才能の発見とその伸長ができる。

#### 3 指導の在り方

- (1) 剣道理念に基づき、発達段階に応じた指導  
（発達段階に応じた指導計画と指導法）
- (2) 基本を重視した指導  
（試合偏重の是正、生涯剣道の基礎づくり）
- (3) 意欲と興味を持たせる指導  
（形式的にならない変化を持たせる。鍛錬中心にならない）

- (4) 適確な示範、明確な言語による指導  
 (「やって見せて、言ってみせて、やらせてみて、褒めてやる」)
- (5) 安全管理  
 (施設、剣道用具の点検、健康管理、救急法)

#### 4 指導法講習における〔重点事項〕

「剣道理念」をより深く認識し、高い水準の剣道を目指すため、下記事項を指導の重点事項とする。

- (1) 講習の実施にあたっては、対象者の特性に応じ指導内容を精選する。
- (2) 技術以前の所作、礼法、着装について徹底指導。
- (3) 竹刀の操作について、刃筋・手の内・刃え・鑄を意識した使い方を徹底指導。
- (4) 一足一刀の間合から、一拍子で正しく打ち切る技能を中心課題とする。
- (5) 正しい攻防の指導徹底。
  - イ 氣勢の充実しないままの打合の是正、気構えを強く中心を外さない攻め合いの重視。
  - ロ 左拳を中心線から外す防御体勢を厳しく是正。
- (6) 正しい鑄ぜり合からの技の理解・実践。
- (7) 剣道の理解をふかめさせるため、講話を積極的に取り入れ、心の問題について認識を深め、修練を通して道徳的価値観の育成を図る。

#### 5 剣道指導の心構え

- (1) 〈竹刀の本意〉 剣道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく竹刀の扱い方の指導に努める。
- (2) 〈礼法〉 相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。
- (3) 〈生涯剣道〉 ともに剣道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める。

## II 実技内容

### 1 礼法 (立礼、座礼、座り方、立ち方 (跪踞)・提刀、帯刀)

### 2 基本動作

- (1) 姿勢 — 自然体
- (2) 構えと目付 — 竹刀の握り方、足の踏み方、遠山の目付、中段の構え (構え方・納め方・踞踞)
- (3) 足捌き — すり足 (歩み足、送り足、開き足、継ぎ足)
- (4) 素振り — 上下振り、斜め振り (跳躍素振り)  
 空間打突 — 面、小手、胴、突、掛け声

- 3 木刀による基本技稽古法
- 4 攻防の中から機会を捉えた、仕かけ技、応じ技、木刀による基本技稽古法の技を中心に展開
- 5 切り返し
- 6 打ち込み稽古
- 7 掛かり稽古
- 8 互格稽古・引き立て稽古



## 平成21年度 全剣連後援剣道講習会 参加者名簿

	氏名	段位	年齢	職業	所属支部		氏名	段位	年齢	職業	所属支部
1	中尾 正輝	教七	65	嘱託職員	審議員	46	谷 喜史	六	36	教員	阿南支部
2	長崎 秀信	六	56	会社員	〃	47	有松 伸也	四	34	会社員	小松島支部
3	横川 光	三	45	〃	徳島支部	48	有松 京子	五	58	主婦	〃
4	朝風 仁貴	二	37	〃	〃	49	影山 美雄	教七	64	無職	海部支部
5	袖友 敏明	五	50	〃	〃	50	近藤 浩文	五	48	公務員	〃
6	緒方 茂	四	54	〃	〃	51	平野 誠司	教七	46	警察官	警察支部
7	松村 和宏	教七	57	自営業	〃	52	佐賀 博史	錬七	46	〃	〃
8	宮崎 洋明	五	30	会社員	鳴門支部	53	岩木 一功	錬七	44	〃	〃
9	月岡 陽市	五	50	〃	板野西支部	54	山名 信行	錬六	34	〃	〃
10	森本 年彦	四	42	〃	〃	55	近藤 正章	五	32	〃	〃
11	松田信次郎	五	41	〃	〃	56	横手 慶人	五	30	〃	〃
12	平間 幸信	七	62	〃	板野東支部	57	隅田 憲男	五	27	〃	〃
13	岩本 一彦	五	45	〃	〃	58	六條 勝仁	五	25	〃	〃
14	川人 政利	四	57	〃	〃	59	吉田 昌彦	教七	55	〃	〃
15	亀田 秀雄	四	59	〃	〃	60	有川 翔	二	22	大学生	徳島大学
16	正木 幸弘	四	45	〃	〃	61	高田 厚史	三	20	〃	〃
17	井川 理之	五	38	〃	〃	62	福本 竜也	二	20	〃	〃
18	青木 茂生	教七	56	〃	美馬支部	63	大西 康裕	三	23	〃	〃
19	大石 雅生	錬六	55	公務員	〃	64	伊保木聡太	二	21	〃	〃
20	日野浦正一	五	62	自営業	〃	65	鎌谷 和輝	四	21	〃	〃
21	佐藤 義文	四	56	〃	〃	66	穀内 雅子	二	21	〃	〃
22	下藤 文	四	31	会社員	〃	67	八橋 明子	二	21	〃	〃
23	田村 仁	三	54	自営業	〃	68	上村英四郎	三	20	〃	〃
24	藤本 文義	錬六	58	〃	〃	69	樋口せいか	三	19	〃	〃
25	三好 正也	五	68	〃	〃	70	大塚 邦紘	初	20	〃	〃
26	出葉 成一	教七	62	会社員	麻植支部	71	松本 康弘	初	21	〃	〃
27	日野 利之	五	61	団体職員	〃	72	岡部 真二	三	20	〃	〃
28	柳谷 照男	五	50	公務員	〃	73	原田 一樹	四	20	〃	〃
29	森本 武夫	五	58	会社員	〃	74	宮本 由貴	初	19	〃	〃
30	住友 邦昭	四	58	〃	〃	75	市原 興貴	無	19	〃	〃
31	榎丸 浩志	初	36	〃	〃	76	片岡 奈穂	二	21	〃	〃
32	原田 敏也	五	36	臨時教員	〃	77	清川 星治	二	18	〃	〃
33	久保 隆司	教七	52	会社員	名西支部						
34	池田 洋一	錬六	47	自営業	阿南支部		遠藤 一美				
35	西岡 直彦	五	46	会社員	〃		米倉 滋				
36	二反田和則	錬六	41	自営業	〃		近藤 亘				
37	馬見 和秀	五	42	会社員	〃		藤本 雅史				
38	須藤 恭宏	錬六	56	〃	〃		久保 隆司				
39	平 正明	錬六	61	〃	〃		熊沢 信行				
40	磯部 健治	六	35	教員	〃		柳本 巖				
41	田上 裕之	五	40	〃	〃		平野 悦子				
42	仁木 香	六	45	自営業	〃		手塚十三子				
43	加藤 貴子	四	48	主婦	〃						
44	曾根 徳治	七	46	教員	〃						
45	山田 浩司	錬七	46	自営業	〃						

## 第十四回女子剣道審判講習会に参加して

阿波支部 前 田 奈々枝

十月十七日、十八日の二日間、兵庫県姫路市にある兵庫県立武道館で、女子剣道審判講習会が行われました。講師先生は村上済先生、中田琇士先生、藤原崇郎先生でした。この講習会は五月に行われる予定でしたが、新型インフルエンザの影響で延期となっていました。

講習会の内容は、試合・審判規則の要点説明、審判実技、稽古会でした。実技前に行われた要点説明では、三人の先生方より、審判員としての心得についてお話がありました。

## 村上先生のお話

審判能力の向上⇨剣道技術の向上となる。女性の試合が増えてくる中で、女性の審判能力も非常に良くなってきている。将来、女性の大会は女性が運営できるようにすると良いと考えている。試合の活性化は審判員の役目である。女子審判員の技能向上を図り、質の高い審判員を養成するのが、この講習会の目的である。五段・六段で参加されている方は、しっかり稽古を積んで七段になり、千葉県勝浦で行われている全日本女子大会の審判講習会に参加できるように努力してほしい。

## 藤原先生のお話

とにかく、本（剣道試合・審判規則、細則）をよく読み、審判をする機会があるのならどんどん参加し、経験を積むこと。試合は審判が決めるのではなく、試合をする者が決定する。主役は試合をする者であり、審判員が決めるのではない。審判員は適正に判断するのみである。判定の公平さ適正さが大切。試合をする者、見ているものが納得すると剣道が楽しく感じ、剣道の人気があり、盛んになる。しかし、これがない時、試合をする者や見ている者は納得ができないし、楽しくない。だから剣道人口も減ってしまう。

普段の自分の稽古も審判技術の向上に繋がる。審判は頭で考えるのではなく、「自分があったと思ったときに手があがる。」体の感覚の音を磨かなければならない。そのために、稽古をしていて、いいところを打たれた。↓「今のはいいところだったよね」と認めて、互いに確認する。↓打った人、打たれた人の心が確認できる。これの繰り返しである。

また、審判員は一本あったか、なかったかの勇氣ある決断が、自分の中で瞬間的にできること。反則が一回目、二回目ともに同じ基準であることも大切である。

主審任せになるのではなく、三人の審判員の連繫（位置取りや気持ち）が大切である。

## 中田先生のお話

相打ちについて、旗が二―一に分かれたとき、迷っているようだったら主審副審ともに合議をかける。両方とも無しは駄目。

相打ちは先に出了た方（動作を起こした方）を見て、部位を正しく打っているかを確認する。出小手は、タイミングが良くても部位をとらえていないと一本にはならない。

二日間の講習の最後に、審判は研修の場、勉強の場ではなく、実際に本番の場に立っているということを忘れてはいけないというお話がありました。

私は、結婚・出産・子育てと、大学を卒業してから試合や審判をする機会からしばらく離れていました。本格的に剣道に復帰し、審判をする機会が増えてきた時期に、この講習会に参加し、改めて審判員としての心得を学ぶことができ、本当に良かったと思います。この講習会で学んだことを、これから審判をしていく中で、しっかりと生かしていくように努力していきます。たくさんの方からのご指導、ご鞭撻を、これからもよろしくお願いいたします。

今回の講習会に参加することができたのは竹内佳代子先生のおかげです。この場をお借りしまして、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 審判法講習における [重点事項]

審判員は、剣道試合・審判規則の理解のもとに、下記の事項に留意して、適正な試合運営に努め、試合の活性化を図る。

### 記

- 1 試合内容を正しく判定する。
- 2 有効打突を正しく見極める能力を養う。
  - (1) 有効打突の条件と諸要素の理解
  - (2) 技の違いと錬度に応じた打突の見極め
- 3 禁止行為の厳正な判断と処置をする。
  - (1) 行為の原因と結果の正しい見極め
  - (2) 禁止行為に対する的確な処置

平成21年10月17日(土)～18日(日)

第14回 女子剣道審判講習会 日程表

(於・兵庫県立武道館)

財団法人 全日本剣道連盟

	10月17日(土)	10月18日(日)	
			9:30
		審判実技 全講師	
			12:00
		昼食	
13:00	集 合		13:00
13:30	開 講 式	審判実技 全講師	
	試合・審判規則 要点説明 審判実技 全講師		15:00
18:00		閉 講 式	
18:30	稽 古		

## 日本剣道形（初心者）講習会の報告

審査部長 兵藤新平

平成二十一年度の剣道形講習会が七月二十五日、二十六日の両日、徳島中央武道館にて実施されました。受講者は六十名で（中には数名の有段者も受講されました。）講師の坂下彦之先生より日本剣道形指導の重点事項にもなっております次の事項を、初心者に非常に解りやすく指導、説明して頂きました。

一、立会前後の作法、立会いの所作、刀の取り扱い方  
二、正しい刀（木刀）の操作（刃筋、鎧の使い方、一拍子の打突）  
や休さばき

三、打太刀、仕太刀の関係

四、打突部で打突部位を正確に打突すること

五、形の実施中の目付け、呼吸法、残心……など。

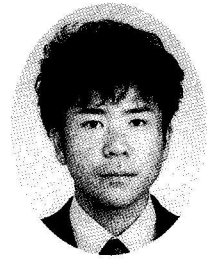
日本剣道形は、昇段審査に於いても、実技審査、学科審査と並列した重要な審査科目であることを認識して、初心者ももちろんのこと、上級者も正しい剣道を習得するためにも、平素から日本剣道形の修練に努めてほしいと思います。

最後になりましたが、受講生の皆様、真夏の暑い中ご苦勞様でした。また、終始熱心にご指導して頂きました坂下彦之先生に、厚くお礼申し上げます。



## 剣道授業の講習会に参加して

木下 臣 仁



平成二十四年度より実施される新中学校指導要領に保健体育分野の武道必修化があります。一・二年生で実施することになります。一・二年生で実施することになりますが、中学校現場では施設や男女共習といった観点から、武道の中でも

「剣道」が良いのではないかと声が多くなっています。

剣道授業実施に向け、全日本剣道連盟・剣道授業事例集作成部会委員長の「佐藤義則」先生を講師としてお迎えし、講習会を実施いたしました。この講習会に参加して思ったことは、中学校の授業だけでなく初心者指導にも活かせる部分が沢山あるということです。以下にその概要と剣道授業を実施した所感を述べたいと思います。

### 一、伝統的な行動の仕方について

礼法等の剣道に欠かすことのできない所作を指導する際には、剣道の歴史の中から「相手を敬う心」の大切さを理解させることが重要である。しかし、お説教口調になり生徒が学ぶ意欲を失わないように留意する。さらに、学んだことが授業のみならず日々の生活に活かせるよう工夫することも大切である。

### 二、剣道授業の指導計画・指導内容

学年や男女の違いに応じて適切な指導計画や指導内容を決定する。指導計画では、各学校の生徒の実態に応じて学習する技を決定する。特に二段技・引き技・応じ技に関してはずべてを細かく指導するよりも、教師が技を精選し生徒が興味・関心を持って取り組みたいと思った技を選択させ、その技を練習するように計画する。

指導内容を考える際に留意すべきは、

- ① 剣道が楽しいと実感できること。
- ② 剣道をもっとやってみたいと感じること。
- ③ 生徒が話し合い共に学ぶ場面を設定する。
- ④ グループ学習を取り入れる。

である。私も実際の授業で、授業の最初にリズムカルな音楽に合わせて「手刀」による素振りなどを行った。私自身は少し抵抗があったが、生徒は楽しく意欲的に活動し、足さばきや素振りの動作を自然に身に付けることができた。また、グループ学習を行うことにより「動作の確認」「自分たちの練習方法の開発」につながった。

### 三、(簡易な)試合の実施例

生徒たちが一番楽しみにし意欲的に取り組むのは「試合」である。先に述べた指導計画の中でも、早い段階で試合の要素を含ん

だ練習を位置づける必要がある。

○試合の要素を含んだ基本練習（面打ち）

①グループで審判・試合について確認する。

②判定基準を何にするか決める。

例「声の大きい方が勝ち」

「正しく振れている方が勝ち」等

③何本振るか決める。

【効果】

勝敗が決することにより、基本動作でも意欲的に取り組むようになる。

【留意点】

①判定基準を明確にしておく。

②審判の動作を簡単に指導する。

○「ポイント制」の試合

①グループで審判を決める。

②三十秒程度の試合をする。

③面・小手・胴に竹刀が当たればポイント。④ポイントの多い方が勝ち。

【効果】

生徒は身に付けた技を試す機会と捉え、熱気ある試合を展開する。また、時間が短く一定の時間であるため同じ時間で実施できる。

【留意点】

- ①どの程度をポイントとするか。判定基準
- ②かたよりのないグループ作り。

#### 四、まとめ

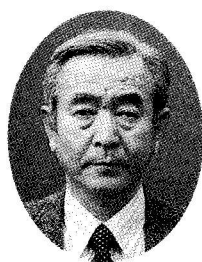
剣道の授業で大切なことは、生徒たちが楽しいと感じもつと学びたいと思うことです。保健体育の授業の中で、剣道本来の良さをおさえつつも広い視野で指導していくことが大切なのです。剣道専門外の体育教員も取り組みやすい「剣道授業の展開」を、この度の講習会で学ぶことができました。この経験を生かし、今後の授業に役立てていきたいと思えます。

## 徳島の剣道史

## 阿波刀の歴史（現代刀編）

坂本憲一

## はじめに



徳島県の現代刀（明治九年の廃刀令以後現在に至る日本古来の鍛錬法によって造られた刀）の流れは大きく分けて二期

に区分出来る。第一期は、幕末に鍛錬技術を継承した刀匠（新々刀鍛冶）たちが明治初年から大正前期に鍛えたいわゆる幕末刀系の刀、加えて昭和前期に新たな統道を受け入れ戦前までに鍛えられた刀剣類の流れである。

第二期のものは、第二次世界大戦後、昭和三十三年に制定された銃刀法の規定に基づき、文化庁から美術刀剣製作の認定を受けた刀匠達が、戦後から造り現在も製作されている刀剣類である。本稿では、主に明治初年から現在に至る刀剣界の動向をとらえ、現在活躍中の刀匠とその作風について述べる。

## 一 第一期の現代刀匠（明治から昭和前期）

世は明治となり、近代国家を目指す我が国にとって封建遺制の解体は必須となり、新政府は手始めに武士階級の帯刀を禁じるため、明治四年（一八七〇）に脱刀勝手令を出し同九年三月には帯刀禁止令が出され、皇室における儀仗や軍人・警察官など以外は刀を帯びることが禁止された。このことにより、従来所有してきた刀剣類が無用の長物となり、国内では名刀さえも求めるものが無くなり、この風潮に伴って国内の刀剣界は火が消えたようになり、あるものは刃物鍛冶や農耕具鍛冶に転業し、あるものは失意の内に命を絶つという有様であった。

明治二十年頃になると神社の宝剣や奉納刀の注文が出はじめ、続いて内国勸業博覧会での新作刀の選賞や皇室・皇族の買い上げなどの作刀奨励が行われ、日清・日露の両戦争では刀剣熱が多いに高まった。とくに第二次大戦では、陸海軍将校からの需要が高まり鍛刀界は大いに賑わい、敗戦近くには、形は日本刀と同じでも実質は異なるいわゆる「昭和刀」も数多く作られた。

本県では、幕末期に石川・笠井・吉川・安芸・山口・海部など隆盛を極めた刀鍛冶の一部や後継者たちも多く存在していたはずだが、明治期の遺作はほとんど見られない。遺作があるのは笠井一門の笠井尊一、吉川祐芳親子、祐芳の娘婿の柴田芳包の作品程度である。笠井尊一・初代吉川祐芳没後は、祐芳の長男大明（祐芳二代目）の活躍がわずかに見られる。二代目祐芳は「現代刀工

の祖」と位置づけられながらも、継承者が出なかったため、幕末刀工からの流れはこの人物を最後に一端途絶えてしまう。昭和十年代以降復興した県内の鍛刀界は幕末の阿波刀工とはほとんど関係ない。第二次大戦中の刀匠には玄武斎鍛刀所の小島一門と日本刀東神精錬所に所属する数人とがあり、これらの刀工たちは軍の受命刀工として活躍した。

## 二 第二期の現代刀匠（戦後から現在）

第二次大戦後しばらくはGHQ（進駐軍）による刀剣受難期が続いたが、昭和三十三年制定による銃砲刀剣登録制度のもとに、刀匠は国の承認を受けて、美術刀剣としての製作が認められるようになった。本県で製作承認を受けた刀匠には物故八名（小島龜太郎・小島為一・小島 浩・小島龍也・久龍博康以上「小島一門」、吉田国太郎・小林清晴・田中幸太郎以上「日本刀東神精錬所」系）がある。

なかでも小島為一は、小島国友に始まる小島一門の玄武斎重房（小島龜太郎）の弟として生まれ、昭和三十四年六月三十日、国の文化財保護委員会から美術刀剣の製作承認を受け、昭和四十九年八月三十日付けで徳島県無形文化財保持者に認定された。孫小島龍也（刀匠名清心子貞龍Ⅱ昭和五十七年製作承認）は、本県最年少の刀匠として将来を囑望されたが昭和六十年、惜しくも二十八歳の若さで世を去った。父である小島浩（刀匠名清心子貞寿）は一人一門の道統を護り続けたが平成十九年の製作刀を最後に平

成二十一年七月二十五日、他界した。

現在活躍中の刀匠には、杉山俊雄・田中 昇・田中俊二・榎山登・藤沢俊雄ら五名がいる。なかでも杉山俊雄（刀匠名杉山正俊）は、中央の新作刀展で数々の賞を受賞するなどその実績が背景となり、平成十二年三月二十一日付けで徳島県無形文化財保持者に認定された。八十二歳にして製作意欲は益々盛んで、高齢とは思えぬ覇気に富んだ作品を数多く手がけている。

杉山師をはじめとした県内に五名という刀工数は県の人口比率からしても高率である。最近の新作刀剣展でも優秀賞を受賞する者（榎山登Ⅱ刀匠名榎山正春）もでて、残る刀匠も続々上位入選を果たすなど、本県刀工の技量は全国的に比しても高い。

## 三 現代刀匠のプロフィールと作風

現代刀匠の追求するところは、古来、我が国に伝わった鍛刀法、すなわち五カ伝（山城伝・大和伝・備前伝・相州伝・美濃伝）にある。阿波の現代刀匠の作風を概観すると、二つの系統がみられる。その一つは備前伝を目標とするものと、他の一つは、相州伝を追求しようとする流れである。

前者は、鎌倉中期の備前の一文字の姿と鍛に心ひかれ、後者は、相州正宗や新刀初期の国広に魅せられて、その地鉄の力強さにひかれるのであろうか。以下、本県で活躍している刀匠（故清心貞寿を含む）を、刀匠名・本名・現住所・略歴・作品の順で紹介する。

刀匠名 正 俊  
本名 杉山 俊雄

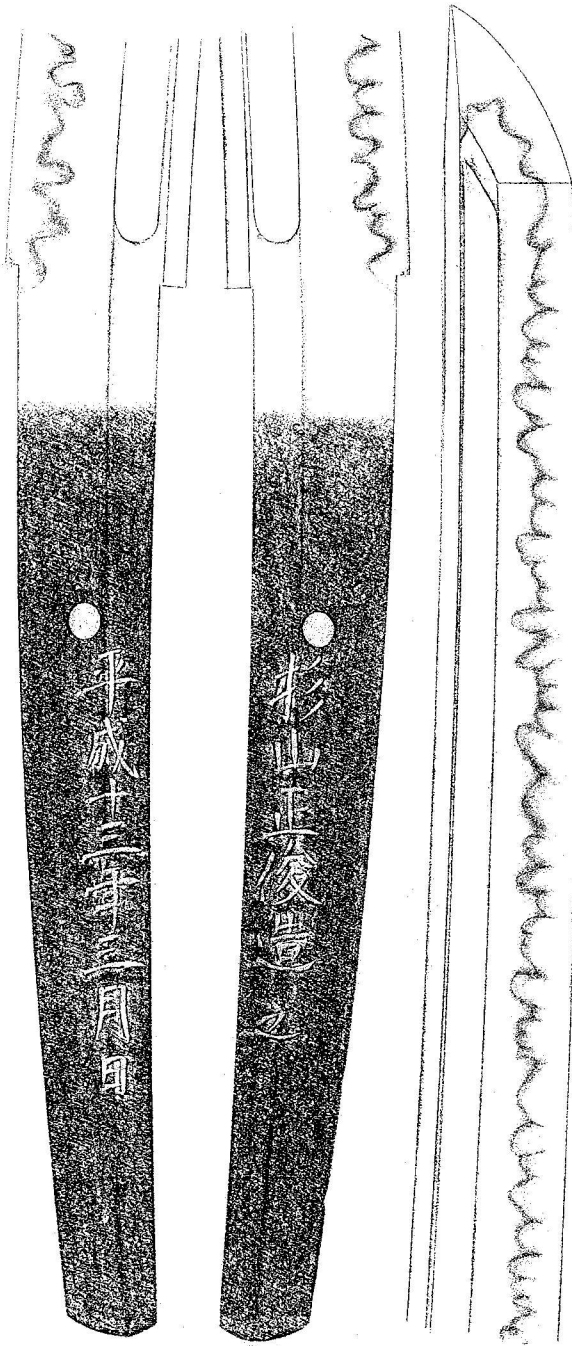


生年月日 昭和二年三月二十五日  
現住所 吉野川市鴨島町牛島二二六五

略歴 昭和十七年九月、日本刀東神精錬所入所。昭和四十八年四月、刀匠杉山正友に師事。昭和五十四年六月六日、文化庁より美術刀剣製作承認を受ける。昭和五十六年九月、刀匠河内國平（奈良県在住）に入門。昭和五十六年より現代刀工の登竜門新作名刀展（第十六回〜第二十七回）、平成四年より、新作刀展改め新作刀展覧会に出品入選、内、昭和六十二年、平成三・八・十・十一・十三年度に努力賞を受賞。平成九年度、海南町の海部刀復元事業に参画、作品（阿州氏吉写しの刀）を納める。平成十二年三月、徳島県指定無形文化財保持者に認定、現在に至る。

目標とする伝法及び個人名

相州伝（清麿・国広）相伝備前（長義）、備前伝（一文字吉房）

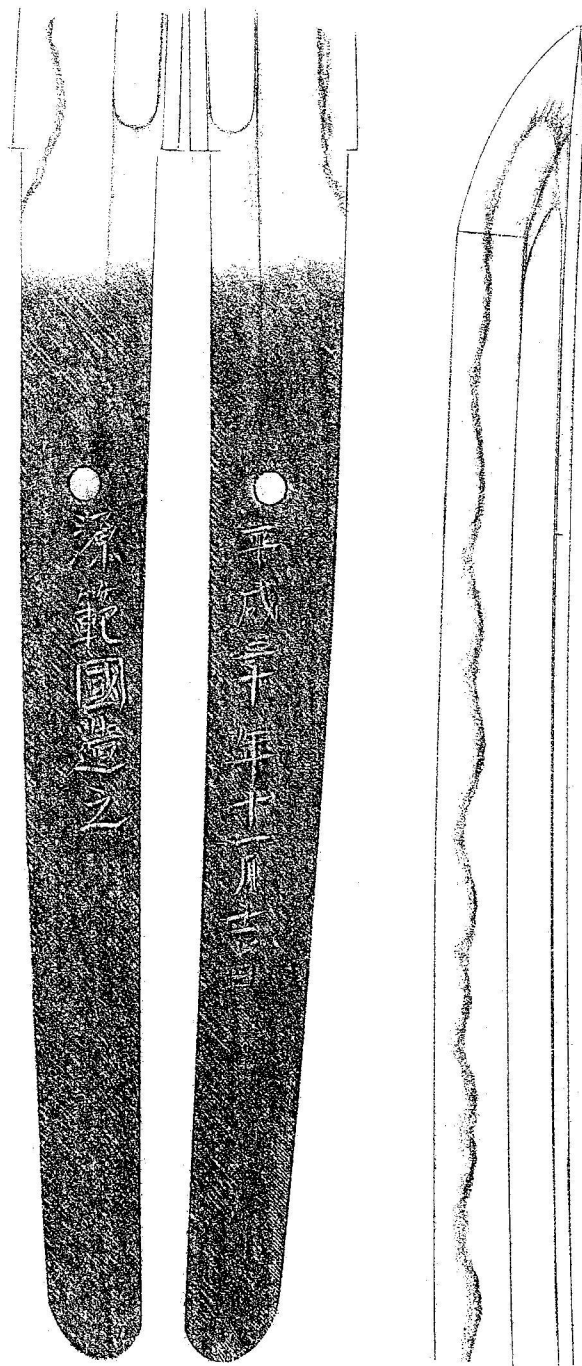


名称 太刀 銘（表）杉山正俊造之

（裏）平成十三年三月日

法量 刃長七九・二寸、反り三・一寸、茎長二〇・五寸。

解説 身幅広く重ね厚く反りの深い鎌倉中期の豪壮な太刀姿。地鉄は板目肌がすみ地沸が厚く付く。刃文は丁子乱れで、足しきりに入り、匂い口締まりこころで明るく冴える。鎌倉中期の備前伝の一文字上作をねらった作で、平成十三年度新作刀展の努力賞受賞作品である。



刀匠名 源 範国

(みなもとのりくに)

本名 田 中 昇



生年月日 昭和九年三月二十三日

現住所 吉野川市鴨島町喜八七四番地

略歴 昭和二十四年十月、吉田国太郎に入門。昭和四十一年八月、水野正範門、吉田正国(吉田国太郎)に再入門。昭和四十八年十一月文化庁より美術刀剣製作承認を受ける。昭和五十四年より、新作名刀展(第十五・十六回)に出品入選。利刃には定評があり、よく切れる刀を追求、居合道、抜刀道など武道界からの依頼が多く精力的に作刀し現在に至る。

目標とする伝法及び刀工個人名

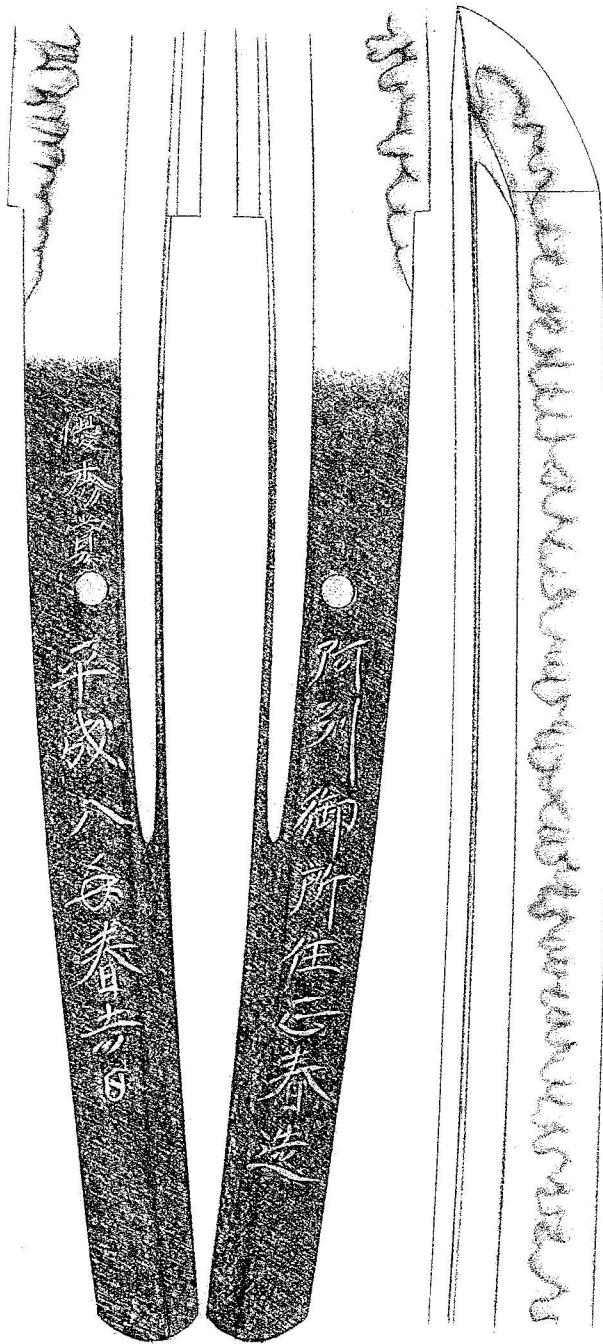
相州伝(正宗・国広) 備前伝(一文字良房) ・美濃伝(孫六)

名称 刀銘(表)源範国造之

(裏)平成三年十一月吉日

法量 刃長七五・六寸・反り一・八寸、茎長二二・七寸。

解説 鎗造、庵棟、中鋒、鳥居反り、身幅、重ね共に尋常、地鉄は、板目肌や肌立ち、ざんぐりし、地沸よくつき古調を呈する。刃文は湾れに互の目交じり足わずかに入る。匂い口広く沸付く。帽子はわずかに乱れ込んで小丸に返るが先掃きかける。彫刻は、表裏に丸止めの棒樋を掻く。本刀は、居合道の高段者の注文に応じたもので、すこぶるバランスが良い。相州伝上作をねらった作品である。

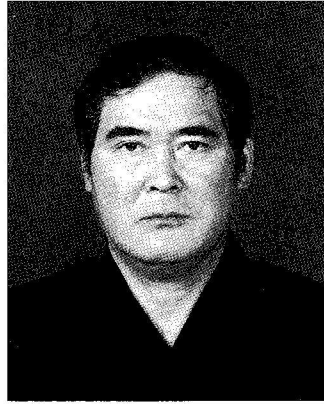


刀匠名 正春  
(まさはる)  
本名 榎山 登

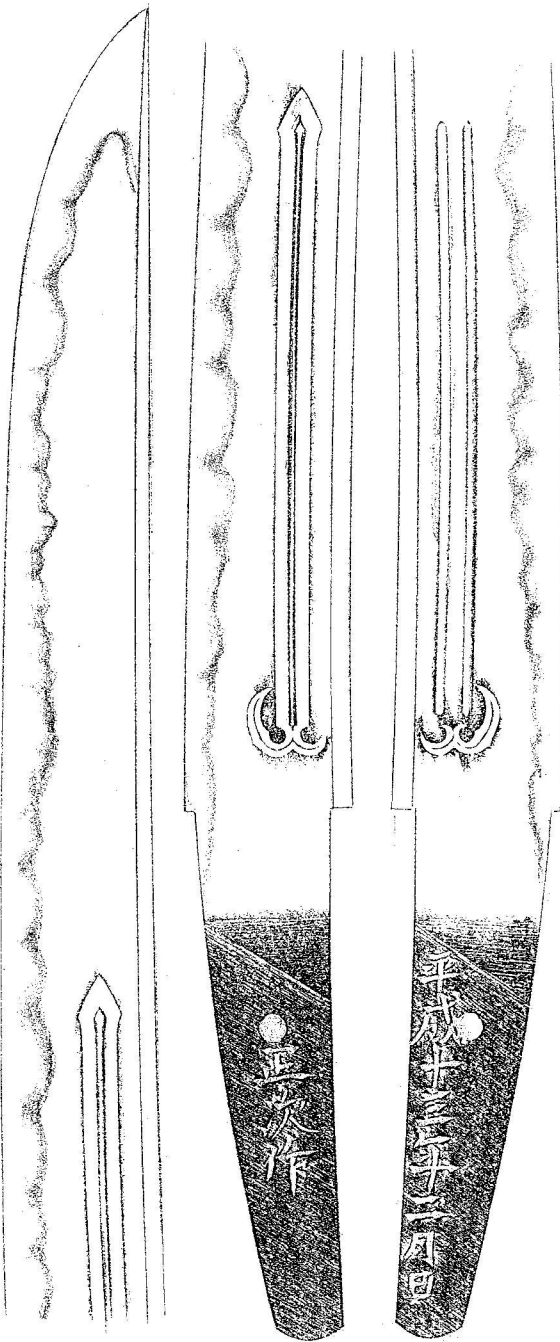
生年月日 昭和二十一年八月五日  
 現住所 阿波市土成町吉田字原田市四一・二八一  
 略歴 昭和四十七年九月、刀匠大隅俊平師に入門。昭和四十八年十二月、小林一刀斎正清に師事。昭和五十四年七月、文化庁より美術刀剣製作承認を受ける。昭和六十二年九月、刀匠河内國平師(奈良県東吉野村在住)に師事。昭和五十九年より新作刀剣展(第二十・二十八回)に出品入選、平成元年・三年・新作短刀小品展短刀の部に出品、佳作賞受賞。平成五年より、新作名刀展改め新作刀展覧会に出品入選、内、平成八年、優秀賞を受賞する。平成九年、海南町(海陽町)依頼の海部刀復元事業に参画、(重要刀剣、阿波打ち彦兵衛祐定酷似の海部氏吉刀写しの刀)を納める。  
 目標とする伝法及び刀工個人名  
 備前伝(一文字吉房・青江次直)

名称 太刀 銘(表) 阿州御所住正春造  
 (裏) 優秀賞平成八年春吉日  
 法量 刃長七六・〇センチ、反り三・〇センチ  
 茎長 二一・三センチ。  
 解説 三っ棟、鎚造、猪首鋒、身幅広く重ね厚く、反り深く、腰反り、鎌倉中期の豪壮な太刀姿。地鉄は、柾肌がよく詰み、細かい地沸がつく。刃文は、先が開きところどころ丁字乱、足・葉しきりに入り、ところどころ飛焼交じる。帽子は表裏に棒樋を掻き流す。本刀は備前伝の一文字吉房をねらった作で、平成八年度の優秀賞受賞作品である。

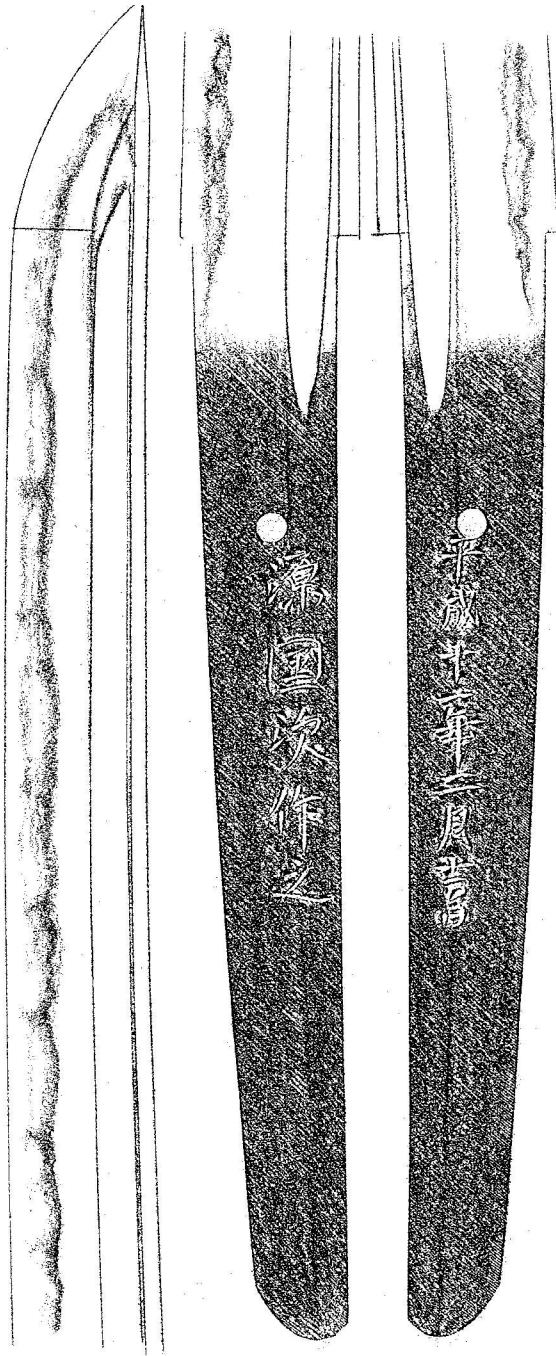
刀匠名 源 正次  
 (みなもとまさつぐ)  
 本名 藤沢 敏雄



生年月日 昭和二十七年三月二日  
 現住所 美馬市美馬町字清田三九六一一  
 略歴 昭和四十八年、兄一刀齋源正光(香川県香川町在住)に師事。初期銘は正俊、のち正次と改め現在に至る。昭和五十四年七月三十一日、文化庁より美術刀剣製作承認を受ける。昭和五十五年より、日本美術刀剣保存協会主催、新作名刀展(第十六回)~第二十六回新作名刀展(第十六回)~第二十六回)に出品入選を果たす。平成五年・十・十一・十二・十三年、新作名刀展改め新作刀展覧会に出品入選を果たす。平成九年、海南町依頼の海部刀復元事業に参画、(重要刀剣相州伝皆焼の阿州泰吉写しの刀)を納める。  
 目標とする伝法及び刀工個人名  
 相州伝(正宗・貞宗)、備前伝(一文字吉房・長船祐定)



名称 脇差 (表) 正次作  
 (裏) 平成十三年二月日  
 法量 刃長三八・二寸、反り〇・四寸、  
 茎長一二・〇寸。  
 解説 三ッ棟、平造、身幅広く、重ねの  
 薄い南北朝期の寸延び短刀姿。地鉄は、  
 板目肌に地沸つき、刃縁に沿って流れ肌  
 が交じる。帽子は、表裏ともに乱れ込ん  
 で大丸ごころに返る。彫刻は、表裏に不  
 動剣と爪、護摩箸と爪がある。本刀は、  
 南北朝期の相州刀工、貞宗の寸延び短刀  
 をねらった作品である。



刀匠名 源 國次  
 (みなもとくにつぐ)  
 本名 田中 俊二



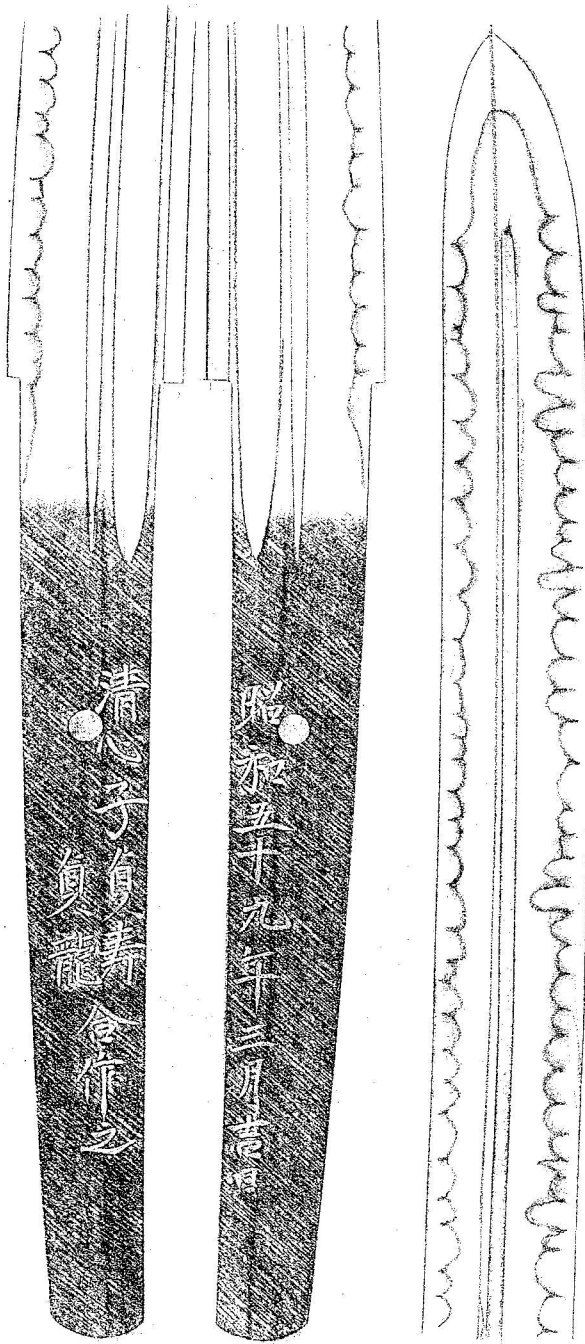
生年月日 昭和二十九年十月十七日  
 現住所 吉野川市鴨島町喜来六七四番地  
 略歴 昭和四十八年六月、阿州源正国鍛錬所に入所、父國(父)に師事。父の一字を冠し、刀匠名を国次と名乗る。昭和五十四年七月三十一日、文化庁より美術刀剣製作承認を受け、阿州源正国鍛錬所において作刀。現在に至る。平成九年、海南町依頼の海部刀復元事業に他の泉内刀匠と共に参画、同町に作品(重要刀剣、室町時代初期の山城伝、海部泰長写しの刀)を納める。近年では、修験者が用いる不動剣の製作にも取り組む。また、居合道や抜刀道など武道界からの依頼も多く、父國と共に精力的に作刀に取り組む。その利刃には定評がある。  
 目標とする伝法及び刀工個人名  
 相州伝(正宗・貞宗)、備前伝(一文字吉房)、大坂 新刀(助広)

名称 刀 銘(表) 源 国次作之  
 (裏) 平成十一年二月吉日  
 法量 刃長七二・九セ、反り一・六セ、茎長二三・二セ。  
 解説 庵棟、鑄造、身幅広く、重は尋常、鳥居反りで茎は長めである。地鉄は、板目肌、地沸がよく付く。刃文は、湾れに互の目が交じり、沸出来で沸幅がすこぶる広い。沸足よく入り刃中にはしま刃、二重刃様の働きがあり変化に富む。帽子は、乱れ込んで小丸にかえる。彫刻は棒樋を掻き通す。沸や刃中の働きは見事で、相州伝上作をねらった作品である。

刀匠名 清心子 貞寿  
 (せいしんしさとし)  
 本名 小島 浩

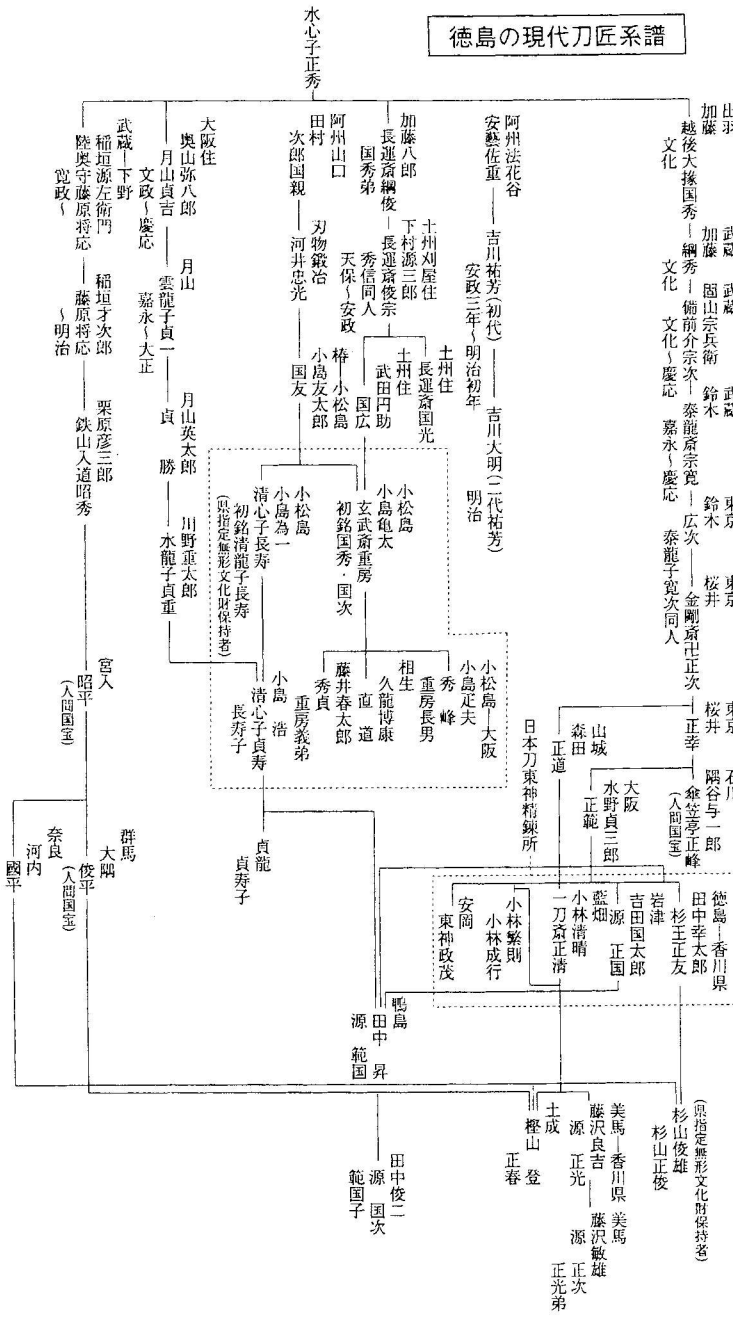


生年月日 昭和四年七月二十日  
 現住所 小松島市中郷町字西久保十八一六  
 略歴 昭和十五年十一月、玄武齋鍛刀所に入所。昭和十八年四月、月山貞一に入門、師匠の一字を冠し刀匠名を貞寿と名乗る。昭和四十三年七月十三日、文化庁より美術刀剣製作承認を受ける。昭和四十三年十二月、月山門川野貞重に入門。昭和四十四年より、日本美術刀剣保存協会主催、新作名刀展（第五回、第十四回、第十七回、第十九回）に出品、入選を果たす。平成九年度海南町依頼の海部刀復元事業に参画、同町に作品（重要刀剣、享保名物帳記載、三好長慶所持の岩切海部写しの刀）を納める。平成二十一年七月二十五日、その技量を惜しまれつつ他界した。行年八十歳。  
 目標とする伝法及び刀工個人名  
 備前伝（一文字吉房）



名称 刀 銘(表) 清心子貞寿貞龍合作之  
 (裏) 昭和五十九年三月吉日  
 法量 刃長七二・〇センチ、反り一・七センチ、  
 茎長二〇・八センチ。  
 解説 切っ先諸刃造、身幅広く、重ねは尋常、やや腰反り。地鉄は、小板目肌がよく詰み無地風、わずかに地景入る。刃文は丁字に互の目が交じり、足よく入る。帽子はわずかに湾たれて小丸、返りは長く返り、棟の焼刃に続き、焼刃は刀身の中ほどまで延びる。本刀は平家の重宝小鳥丸写しとしながらも刃文は純然とした備前伝の丁字を焼き、茎は通常の刀茎に仕上げるなど作者の独創性が窺える作品である。

徳島の現代刀匠系譜



あとがき

三振の組小刀（小柄に付ける小刀）がある。それぞれの刀身には万葉集唯一の阿波の歌、舟王（ふなのおおきみ）の「眉のごと雲居に見ゆる阿波の山 懸けて擲ぐ舟泊まり知らずも」の歌が三分区分されて刀匠銘と共に刻まれている。

小島一門の重責を担う小島 浩（刀匠銘清心子貞寿）師が一門

（長寿・貞寿・貞龍）の繁栄を舟王の歌にたとえて合作されたものである。父で無形文化財保持者の長寿師は「如眉雲居爾所見長寿作（花押）」と刻み、貞寿師は「阿波乃山懸而擲舟 貞寿作」と刻されたが、これは小島一門の屋台骨を意識しての刻銘である。そして子息貞龍（刀匠銘貞龍）には「泊不知毛 貞龍作」と刻ませた。我が子で愛弟子貞龍也への限りない成長を願っての刻銘である。しかし龍也氏は若くして去り、貞寿師も今はいない。

伝統文化の世界で、

今日声を大にして叫ばれているのが後継者の問題である。特に本県の刀剣界では現役の高齢化が進み後継者の育成問題が深刻化している。現在、刀匠界を志す者はわずか一人である。これでは将来が実に危ぶまれる。これから先、斯界を志向する若者が一人でも多く現れ、この問題が解消されんことを願ってあとがきとする。

# 大会所感

## 第四十七回四国中学校

### 総合体育大会を開催して

徳島県中学校体育連盟  
剣道専門部長

福 多 博 史



八月二日、第四

十七回四国中学校

総合大会を徳島市

立体育館において

盛大に開催するこ

とができました。これもひとえに徳島県剣道連盟の諸先生方、学校剣道連盟のみならず、まのご支援・ご協力によるものと深く感謝いたしております。紙面をお借りしましてお礼申し上げます。

さて、近年の大会結果を見えますと、本県選手団は男子、女子ともに上位入賞を果たすなど優秀な成績を残しています。昨年は男子の部で那賀川中学校が第三位、女

子の部においては那賀川中学校が優勝、阿南第一中学校が第三位という結果になりました。出場校の日々の努力はもちろんですが、徳島県の少年強化の成果の顕れと感じています。今年度においても、今までの先輩方に負けない成績を残すべく、徳島県代表校は気合溢れる試合を展開しました。

大会を振り返ってみますと、八月一日、前日準備、前日練習を行いました。参加するすべての人たちにとって思い出に残る大会になるように徳島県中体連剣道専門部が一丸となって大会運営に臨みました。専門部長をさせていただき感じることはありませんが、県内の先生方のチームワークの良さとフットワークの軽さにはいつも助けられ、様々な行事を進めることができています。会場準備もすべて整い、あとは選手達の活躍を期待するのみとなりました。大会当日、四国各県の代表選手が集い、徳島県教育委員会、徳島県剣道連盟会長遠藤一美先生のご出席のもと大会が始まりました。試合は団体戦より開始し、終了後個人戦に

移ります。男女とも各県の代表選手だけあってレベルの高い技能と精神力で内容の濃い試合が展開されました。本県代表選手においても他県に負けない活躍ぶりで優秀な成績を残すことができました。大会結果につきましては以下に記載させていただきます。大会も無事終了し、参加選手や監督、関係者の清々しい表情を見ることができ、ほっとするとともに充実感でいっぱいになりました。来年度は高知県での開催になります。今年度以上の成績を残すべく、各学校とも稽古に励んでいます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

現在、徳島県中学校剣道部は男子五五校、女子三三校が活動しています。中学校から始めた生徒も多く、結果がなかなか顕れなくとも、毎日一つ一つ積み重ねるように稽古に励んでいます。また、指導する顧問においても、剣道経験のない教員が保護者や地域の指導者の協力の下、生徒とともに部活動に一生懸命に取り組んでいます。中体連ではこれまで県内を三地域に分けて生徒

の強化並びに指導者の講習会を行ってきた。生徒の強化だけでなく、剣道の稽古法や指導法についての研修を目的に実施しています。今後も一部の強化だけでなく、県全体のレベルアップを図りながら、中学校の剣道の普及・発展につなげていければと考えています。そして、一人でも多くの生徒が剣道をして良かったと思えるよう、高校に行っても剣道を続けるように剣道のすばらしさを伝えていきたいと思っています。

〈大会結果〉

男子団体戦

優 勝 鳴門市第一中学校

第二位 徳島文理中学校

女子団体戦

那賀川中学校、北井上中学校とも予選リ

グ敗退

男子個人戦

優 勝 久保 公緒（徳島文理中学校）

女子個人戦

優 勝 山本 悠（那賀川中学校）

第二位 田中 理称（北島中学校）

第三位 中川由美子（徳島中学校）



# 各種大会に参加して

## チームワークがもたらした宝物

### —第三十一回全国スポーツ

#### 少年団剣道交流大会へ参加して—

佐古剣道クラブ

監督 谷 本 晃 成

漫画「六三四の剣」の舞台、それは岩木山を望むことのできる岩手県。そして今回、私たちが全国大会の舞台として立った場所でもあります。平成二十一年三月二十七日から二十九日までの三日間、岩手県盛岡市にある岩手県宮武道館で、徳島県の代表選手小学生五名と中学生二名が熱戦を繰り広げることになりました。

☆参加選手

《団体戦》

先鋒 丸岡由理菜（坂野剣道教室）

次鋒 杉本 小春（阿南剣道教室）

中堅 藤坂 直道（那賀川B&Gわかあゆ会）

副将 川原 眞実（小松島少剣クラブ）

大将 谷本 晃佑（佐古剣道クラブ）

《個人戦》

男子 久保 公緒（徳島文理中学校二年）

女子 田中 理称（北島中学校二年）

徳島県予選を勝ち抜いた精鋭は、それぞれが違う道場で剣を学ぶものばかり、県内大会において、常に上位で顔を合わせている良きライバルたちです。中学生の二名も、県の代表選手として知らぬ人のいない名手です。誰よりも戸惑ったのは、監督として参加することになった私です。監督として全国大会どころか、県外での試合等にも参加することのなかった私にとっては、光栄なことではありますが、先のことを考えると胃の痛くなる思いばかりでした。

県予選会の終了後、会議室で監督を決定する際、「親子で全国大会へ参加する機会はあるものではない。折角の機会だから……」と、小松島少剣クラブ藤川先生をはじめ、みんなの先生方から声をかけていただきました。大変ありがたいことだと感謝の気持ちでいっぱいでした。この気持ち

を忘れず、監督としてできる限りのことをしようと決意し大会へ望みました。ところが経験の少ない私にとっては、何から手をつければよいかさえ分からず、ただ気持ちだけが焦っていました。大会への手続き、合同稽古や練習試合の日程調整、選手たちの交通手段やその手配、引率する保護者の宿泊や移動手段の手配、多方面への表敬訪問など、まだまだ先のことと思っていると、あっという間に月日が過ぎていきました。

事務的な内容は、昨年までに監督をされた、清風館久保先生や川島剣道クラブの猪野先生に連絡をしたり、徳島至誠館の玉田先生からは前年度の資料を借りて教えていただくことも多くありました。合同稽古については、なかなか日程調整がつかず、徳島少年強化訓練に携わっている松村先生に、特別に四年生の参加、その上メンバーの追加など無理なお願ひにもかかわらず、快く引き受けていただきました。そのおかげで、毎月県内から集う訓練生を相手に試合稽古をすることができました。また、県外チームとの練習試合では、小松島少剣ク

ラブ藤川先生・平尾先生から紹介を受け、香川県チームとの練習試合をきっかけに、高知県・愛媛県チームとも、そして二年前に全国優勝を果たした岡山県チームとも練習試合をすることができました。ひとつの出来事から輪が広がり、たくさんの方と繋がりを持つことができました。

この輪の繋がりは、急造「徳島県チーム」にとって剣道の技術面以上に、チーム全体の「和」としてこれ以後の態勢に大きく左右することになりました。日頃のライバルが一つのチームとして「一枚岩」となり、勝利を目指して頑張るためにも絶好の機会であり、なくてはならないものでした。

監督としてここでの私の役割を考えたところ、技術的には徳島県のトップである選手に指導はほとんど不要であり、如何にリラックスして本領を發揮してくれるようになるか、それと勝敗への拘りもあるが正々堂々と真っ向勝負する姿勢をもって欲しいこの二点に行き着きました。ところが、前者についてはすでにこのチームには役割分担ができており、試合会場では、監督以上

に選手を引っ張りみんなから信頼を得ている久保君、ホテル内での生活や移動時には細かいところにも気がつく縁の下の力持ち田中さん、この二人にすべて任せていられるほどでした。前述の「一枚岩」は、こうして成り立っていたのです。知らないうちに、団体戦の小学生チームも、気持ちが一つにまとまっています。（保護者の皆さんも一つにまとまって、冷麵にじゃじゃ麵、そしてわんこそばと選手以上に岩手三大「麵の追い込み」に、そして日々、御神酒を嗜み、楽しく必勝祈願に精を出してくれていました。）監督としてやるべき課題は、後者だけとなってしまい、ほとんどのことを選手である子どもたちから教わった気がしました。また、そんな頼りない監督に子どもを任せ、麵の追い込みを続けた保護者の皆様にも心から感謝しています。

### 第三十一回全国スポーツ少年団 剣道交流大会

#### 【団体戦 予選リーグ①】

徳島県	4	(4)	1	(2)	滋賀県
先鋒	丸岡	メ	1		小林
次鋒	杉本			コ	山本
中堅	藤坂	メメ		コ	中谷
副将	川原	ド			大野
大将	谷本	メ			山岡

#### 【団体戦 予選リーグ②】

徳島県	3	(5)	1	(2)	山口県
先鋒	丸岡	メ	1		岡野
次鋒	杉本			コ	石田
中堅	藤坂	メ			木原
副将	川原	ド		メ	長峯
大将	谷本	メメ			藤本

#### 【団体戦 決勝トーナメント一回戦】

徳島県	2	(4)	1	(3)	岩手県B
先鋒	丸岡	メ	1	メ	高橋
次鋒	杉本				阿部
中堅	藤坂			メメ	佐藤
副将	川原	メド		メ	菊池
大将	谷本	メ			外山

【団体戦 決勝トーナメント準々決勝】

徳島県	1 (2)	—	2 (3)	山口県	
先鋒	丸岡	—	メ	奥村	
次鋒	杉本	×	メ	工藤	
中堅	藤坂	ココ	—	メ	山本
副将	川原	×	—	メ	川村
大将	谷本	—	ド	—	村川

【女子 個人戦 予選リーグ①】

徳島県	田中	ド	—	山口県
				宮本

【女子 個人戦 予選リーグ②】

徳島県	田中	—	メ	大阪府
				大橋

【男子 個人戦 予選リーグ①】

徳島県	久保	ド	—	メ	宮城県
					三浦

【男子 個人戦 予選リーグ②】

徳島県	久保	ド	—	三重県
				太田

【男子 個人戦 決勝トーナメント一回戦】

徳島県	久保	ド	—	北海道
				近藤

【男子 個人戦 決勝トーナメント準々決勝】

徳島県	久保	—	延コ	山本
				大阪府

☆試合成績

団体戦 ベスト8 敢闘賞  
男子個人 ベスト8 敢闘賞

「大会最終日に試合が無いのは寂しい、お互い頑張って最終日に会いましょう。」と声を掛け合っていた、四国の各監督でしたが最終まで残れたのは、徳島県チームだけでした。練習試合等とおして、選手間で交流ができており四国のチームが一つとなって声援を送っていただきました。この繋がりが今回の大きな力になりました。

監督として唯一残っていた課題、「正々堂々と真つ向勝負」も選手一人ひとりが個々の力を十分に発揮し、視察に来られていた徳島県剣道連盟の三木理事長や藤本事務局長、また他県の監督からも試合内容について高い評価を得たことで、望みが叶ったと思います。今後とも目標を高く持ち、それぞれの夢を叶えられるよう、選手だけでなく私も精進していきたいと思っています。

最後に、本大会参加に当たりたくさんの方々からご支援ご協力いただきました。心より深く感謝しております。今後ともご指導いただけますようお願い申し上げます、お礼の言葉に代えさせていただきます。本当にありがとうございました。



左から 筆者・久保・藤坂・谷本・丸岡・川原・杉本・田中

# 第五十七回

## 全日本都道府県対抗

### 剣道優勝大会に出場して

大将 久保 隆 司

第五十七回全日本都道府県対抗剣道優勝

大会は平成二十一年四月二十九日、大阪中  
央体育館に於いて開催されました。本大会

は今回前年度までとチーム構成が変更とな

り男女混合チーム編成から、女性は別に女

性のみの構成チームで全日本都道府県対抗

女子剣道優勝大会が別の日程で開催される

ようになりました。今回より先鋒に高校生、

次鋒に大学生が新たに含まれることとなり

ました。平成二十一年二月二十二日(日)

県立鳴門高校体育館で徳島県予選が開催さ

れ、次の皆さんが選出されました。

先鋒 白木 郁登 一七歳 二段

富岡西高校三年生

次鋒 松本 明真 一九歳 三段

中央大学二年生

五将 日和田慈海 三〇歳 五段

吉野川市役所

中堅 福田 雅英 四九歳 教士七段

城西高校教諭

三将 川添 義仁 三三歳 五段

徳島県警察機動隊員

副将 白木 崇 四四歳 教士七段

財団職員

大将 久保 隆司 五二歳 教士七段

J P (株)北島郵便局

副将と先鋒の白木さんは親子、中堅福多

さんと三将川添さん、副将白木さんと次鋒

松本さんは師弟関係での出場となりました。

予選後、選ばれた選手は、徳島県剣道連

盟稽古会(水曜・土曜の警察学校体育館)

を中心に稽古に励みました。大会前四月四

日には京都府京都武道センターで行われた

近畿近県練習試合に参加致しました。次鋒

の松本君はわざわざ東京から帰省し練習試

合に参加してくれました。今回優勝した大

阪府、準優勝した京都府、三位の兵庫県、

奈良・滋賀・三重県と練習試合をしました。

チームとしては勝て無かったですが、個人

の実力的にはほぼ互角の試合内容で本大会



に挑みました。

一回戦は鳥取県で十八年前平成三年に私が副将で出場した時と同じ組み合わせでありました。試合内容は先鋒・白木 対 浅田 大輝（一七歳・二段）と対戦。残念ながら面二本負け。次鋒・松本 対 出雲大輔（一九歳・三段）に積極的に攻めたのですが、引き分け。五将・日和田 対 乗本志考（二六歳・四段）前半見事面を先取しましたが、後半面を取られ引き分け。中堅・福田 対 菊川省吾（三三歳・錬士六段）なんと年の差十六歳福多選手の前半惜しい小手が決まったと思ったが、旗が上がらず引き分け。三将・川添 対 本庄生承（二五歳・五段）川添選手の惜しい面、小手があったが旗が上がらず、微妙な小手を取られ一本負け。副将・白木 対 大渕岳（三八歳・四段）年齢差八歳。開始直後いきなり面を取られ万事休すと思いきや、すぐさま面を取り返しさらにもう一本面を取り、勝ち。一勝対二勝ポイント三対五で大将戦二本取って代表戦になる状況です。積極的にといい深追いしすぎ面を取られ勝負あり。更に面にでると

ころを出小手を取られ敗れました。

一勝（三本）対三勝（七本）で敗戦いたしました。今回の反省点としてはチームの強化合宿練習試合などチームとしての活動が少なく、各人がそれぞれに稽古を積んで集まるという状態でありました。やはりもう少しチームとしての活動が必要であると反省いたしました。

今回、会長、監督をはじめご指導頂いた先生方、応援頂いた皆様ありがとうございました。



# 第一回全日本都道府県対抗 女子剣道優勝大会に参加して

麻植支部 富永 ますみ



「第一回全日本  
都道府県対抗女子  
優勝大会」が平成  
二十一年七月十八  
日、日本武道館に

四名が富岡東高校出身者ということもあり、富岡東高校前監督の河田清美先生、この六名で大会に臨みました。

七月十七日

昼過ぎ徳島空港を出発、その日の夜監督会議で早々と渡された対戦表を見ながらのミーティング。その後、決起会を兼ねての夕食。食事中は今大会の話と、監督の武勇伝で尽きることなく大変盛り上がりました。

七月十八日

軽く朝食を済ませ早めの日本武道館入りでしたが、既に竹刀の音は鳴り響き大会場は芋を洗うかの様な状態。少しの隙間を見つけて素早く割り込みウォーミングアップ、最後の調整に入りました。

いよいよ試合開始、一回戦はマークをしていなかった沖繩、先鋒の湊選手は一步も引かず攻めの姿勢、攻めて、攻めて、攻めて、終了間際、湊選手の返し胴が決まっていた!!と思った瞬間、審判の旗が割れた。湊選手の返し胴に一人、相手の面に二人、惜しくも津波古選手の面に軍配があがった。続いて次鋒・中野選手、相手に押され

み、中野選手も応戦したが中番に差し掛かった時、隙をつか「面」を決められる。中堅・吉岡選手、「もう後がない。頼む。」祈るような思いで試合を見守った。落ち着いた試合運び、相手が見えている心配ないと確信した。じりじりと攻め長身から繰り出された渾身の一本「面あり！」次へ繋げた。副将・北村選手まだ安心は出来ない、双方とも手の内の探りあい、攻めては引き引いては攻め、相手は守りに入ったのか満足に試合さえさせてもらえず引き分けに終わった。北村選手から襷を受け取った時、額からは大粒の汗、目が合った、「任せた、頼む！」と言われた様な気がした。

大将戦、どうがこうでも一本が欲しい、竹刀を合わせ試合に挑む。竹刀も足も軽い、幾等でも打ち込める。しかし、有効打突につながらない、ただ時間だけが過ぎ……

「止め」の声を聞いた……終わった。と思うと同時に体の力が抜けた。

一回戦 対沖繩戦

先鋒	徳島	1	2	沖繩
湊		1	2	津波古

次鋒 中野 一メ 本部  
中堅 吉岡 メー 大道  
副将 北村 引き分け 島袋  
大将 富永 引き分け 長門

試合終了後、沖縄戦について聞いてみると「微かに面が当たっていました。完全には返しきれなかった」と、湊選手。「もう一回試合がしたい」と、中野・吉岡選手。「竹刀を合わせた瞬間、打てば負けると思った。私で終わらす訳にはいかない、だから大将へつないだ」と北村選手。「体が軽く感じて、よく動く反面浮き足だち腹に力が入らず手先だけの試合。一本の重みを痛恨する。」と私の反省。それぞれに課題は残りましたが、この経験を生かし、次へのステップに繋げ精進していきたいと思えます。今大会出場にあたり、ご指導頂いた河田先生を始め諸先生方、徳島県女子部の皆さん本当にありがとうございます。この場をおかりして御礼申し上げます。



# 管内矯正職員武道大会

刑務所支部 前田 秀一

平成二十一年四月二十四日、管内矯正職員大会が、徳島県立中央武道館で開催されました。この大会は毎年六月に東京拘置所において行われる全国大会の予選会であり、我々矯正職員は、本大会出場を目指して日々、武道訓練に励んでおります。

若手選手の採用もあり、昨年からは新チームでこの大会に出場しています。しかし、昨年は三敗という結果に終わり、悔しさが残ってしまいました。その悔しさを胸に、

「今年こそは！」と、チーム一丸となり、厳しい稽古を積んできました。

## 試合結果

〈第一試合〉

徳島刑 高松刑

住友 ー ドメ 松永

高橋 × 峰本

秋山 コ ー 岡西

金野 × 吉田  
前田 ー メ 小野  
1 (1) (3) 2

徳島刑 松山刑

住友 × 白石大

高橋 コ ー 豊川

秋山 ド ー メド 川上

金野 メ ー 白石翼

前田 × 片上

2 (3) (2) 1

徳島刑 高知刑

住友 ー メメ 岡部

高橋 コド ー 香川

秋山 コメ ー メ 野崎

金野 ド ー 山岡

前田 × 川島

2 (5) (3) 1

結果は二勝一敗で高松刑務所と並びましたが、本数差で負け、惜しくも準優勝という結果になりました。

残念ながら、今回目標としていた『優勝』には、後一步届きませんでした。この結果はチームの自信となり、次回につながるものとなりました。

最後になりましたが、今回我々がこのよ  
うな結果が残せたのも、たくさんの先生方  
のご指導のおかげだと思っております。こ  
の場をかりてお礼申し上げます。これから  
も、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致  
します。

# 第十八回全国高等学校選抜 剣道大会に出場して

富岡西高等学校剣道部

顧問 大石 正志



平成二十一年一月十八日(日)に開催された全国高等学校選抜大会県予選会では、準決勝で徳島文理高校と代表戦にもつれ込む接戦となったが、代表の臼木郁登が接戦を制して決勝に進むことができた。決勝は城北高校との対戦となり先鋒・次鋒が先取し中堅・副将の引き分けで優勝が決まり、五年ぶりに全国選抜大会に出場を決めた。

全国選抜大会までの約二ヵ月間は、明德義塾高校(高知) 帝京第五高校(愛媛) 桜丘高校(愛知) 高輪高校(東京) など多くの強豪校と練習試合を持つことができた。力の差はあったが練習試合を通して強豪校の剣道に取り組む姿勢や厳しき、精神面の

強さなど多くのことを学ぶ機会を得ることができ、生徒の剣道に対する姿勢が少しずつ変化してきたように感じた。「負けて感謝、勝って反省」この言葉の持つ意味も理解してくれたようだった。

三月二十七日(金)二十八日(土)に愛知県春日井市総合体育館で第十八回全国高等学校選抜剣道大会が開催された。第一日は予選リーグがあり、一回戦二一甲府商業高校(福井県)、二回戦二一甲府商業(山梨)と二勝することができ翌日の決勝トーナメントへ進出することができた。

第二日目、決勝トーナメント一回戦は長崎県代表の西陵高校との対戦となり、先鋒・次鋒が引き分け中堅は一本勝ち、リードしての副将戦、面を先取したものの逆転負け、勝人数・勝本数が同数で大将戦に繋がったが二本負けで勝負が決まった。生徒はこの試合を通して「二対二の本数負け、差は小さいように思えるのが大きな力の差。」「僅差を競り勝つことのできる真の実力を身に付けなければ本場の強いチームになれない。」ことを実感した。

予選リーグ1回戦

学校名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
富岡西	上田	小西	安部	藤本	臼木	3 2
	メ	メ	メ	メ	メ	
高志	栗本	矢部	美農	坪田	出店	1 1
	メ	メ	メ	メ	メ	

予選リーグ2回戦

学校名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
富岡西	上田	小西	安部	藤本	臼木	3 2
	メ	コ	メ	コ	メ	
甲府商業	若狭	和田	桑原	山田	塚原	2 1
	メ	コ	メ	コ	メ	

決勝トーナメント

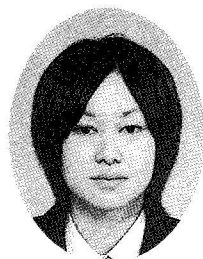
学校名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
富岡西	上田	小西	安部	藤本	臼木	3 1
	メ	メ	メ	メ	メ	
西陵	清浦	富永	開	松尾	浅井	5 2
	ド	メ	メ	メ	メ	

県代表校となり選抜大会までの二ヵ月間に、剣道部全員が貴重な経験をすることができ数多くの事を学べたことが大きな成果であり感謝したい。私は、これからも共に学び努力するという師弟同行の精神を大切に、全国の舞台で勝てる剣道部の育成に取り組んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、毎週木曜日、午後七時から八時までの強化練習会で御指導いただいた剣道連盟・中学校等の多くの先生方、御支援いただいた牟岐剣友会（富岡西高校OB会）、日頃より剣道部の活動に御理解・御協力いただいた保護者の皆様に深く感謝と敬意を表しますとともに心からお礼を申し上げ選抜大会の報告といたします。

## 第十八回全国高等学校 剣道選手権大会に出場して

富岡東高校 湯 浅 萌



平成二十一年三月二十七日～二十八日、愛知県春日井市総合体育館で第十八回高等学校

剣道選抜大会が開催された。

一月に行われた県予選では見事に優勝し、全国大会への切符を手に入れた。それからもチーム一丸となり「全国制覇」という目標に向かい、日々の稽古に取り組んだ。全国の舞台上立つと同時に徳島県代表としてのプレッシャーもあった。

予選リーグ初戦は群馬県の常盤高校。試合前に円陣を組み「気持ちを一つにしてみんなで戦おう」と近藤主将が声をかけ試合が始まる。先鋒・仁木が一本勝ちし、チームが波に乗り、次鋒・岩原、中堅・湊も一本勝ち。ここで勝負がついた。副将、大将

は引き分けとなり、三対〇という結果で良いスタートを切った。

次の相手は佐賀県の龍谷高校。昨年の選抜大会では予選リーグ二試合で惜しくも敗れ、悔しい思いをしたので「勝ちたい」という気持ちはより高かった。先鋒・仁木が見事に面を決め富岡東が先制。続く次鋒・岩原は引き分け。中堅、副将、大将も引き分けとなり一対〇で勝利し、二年ぶり予選リーグ突破、決勝トーナメントに進出した。ベスト八をかけた決勝トーナメント一回戦の相手は、山形県の左沢高校。過去に三度の優勝を果たしており、全国大会の常連高だ。また、登録選手七人中四人が上段という非常に戦いにくい相手だった。でも私たちは袴の腰板の「勇猛果敢」という言葉を胸に掲げ戦おうと決めた。先鋒・仁木は上段に一本負け。次鋒・岩原は気迫十分で相手に向かったが引き分け。中堅・湊は一本先取されたが集中し取り返し引き分け。副将・近藤の相手も先鋒と同じく上段。今まで何度も上段と対戦し得意としており、一本勝ちで勝利。ここまでのスコアは一対

一の同点。私は試合する前、チームみんなの顔を見た。果敢に攻めていったが五分間の試合が終わってみると引き分けという結果で代表戦となっていた。代表戦は先鋒・仁木が敗れた上段の選手。上段の選手は決して得意ではなかったが、みんなの思いを背負っていると思うと、緊張が勝ちたいという気持ちに変わった。試合は延長戦までもつれ込む。審判の「止め」の合図がかかる度にチームみんなの顔を見た。結果七分を越えた延長戦を制し、富岡東は二年ぶりのベスト八入りを果たした。

ベスト四をかけた準々決勝は、島根県の大社高校。強豪校の左沢高校に勝利した私たちは波に乗り気持ちに勢いがついていた。先鋒・仁木は二本負け。岩原と選手交代し次鋒に起用された栗野は、素晴らしい二本勝ちを収め試合ペースを富岡東へと戻した。中堅・湊も引き続き二本勝ち。完全に富岡東ペースとなったが、副将・近藤は惜しくも一本負け。ここで私が勝利するか、引き分けで富岡東の勝利であったが、一本負け、ベスト四入りを逃がし、全国制覇を果たす

ことはできなかった。先生、保護者の方々、一番にチームみんなの期待に応えられず、目には涙が溢れた。初めて大将として試合に出場し、とても頼りなかったがみんなに支えられてきた。

今までを思い返せば、日々の厳しい稽古を乗り越え、数多くの遠征をこなしてきた。自分の思うようにいかなかったとき、剣道を辞めたいと思うこともあったがここまでやってこれたのも、先生方、保護者の方、先輩方、チームのみんなに支えられてきたからだ。

「全国制覇」という夢は果たせなかったが一つの夢に向かって何かに熱中することは大切だと思った。一つ一つの波を乗り越えていくその中で、チームの絆は深まっていく。高校生活の中でしかできない経験がたくさんあった。長いようで短かった三年間は私にとって思い出のたくさん詰った大きなものとなった。

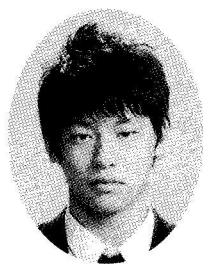


第18回 全国高等学校剣道選抜大会 2009.3/27

## 全国高等学校総合体育

## 大会に出場して

徳島文理高校 鈴木 智也



平成二十一年八

月三日から五日、

「君が今歴史の新  
たなページを創る」  
のスローガンのもと第五十六回全国高等学校剣道大会が大阪  
舞洲アリーナにて開催されました。

選抜予選の大会では苦しい思い出を残して  
しまったので、その悔しさを忘れず相手に  
攻めていく気持ちで臨んだ徳島県高等学校  
総合体育大会の決勝戦では、非常に苦しい  
戦いでしたが、何とか頑張ってインターハ  
イへの切符を手にすることができました。  
自身で二回目のインターハイ出場で、一年  
生でのインターハイの緊張とは違ったわく  
わくするような緊張感を味わいました。

予選リーグの一試合目は、富山県の龍谷  
富山と対戦し、先鋒の淀谷が面で二本勝ち

し、優位に戦いを進め、次鋒の青木が面で

一本勝ちし、相手が焦って打ってきたとこ

ろを中堅が小手を決め、チームの勝利が確

定した。一試合目は幸先がよく勝利したが、

二試合目では、逆にかなりの苦戦を強い

られた。二試合目は埼玉県の松山高校と対戦

し、先鋒から中堅で二人が負けてしまっ

たが、副将の岡田が相手に一本取られるも、

面で二本取り、僕につながってくれた。しか

し、試合時間の四分間で一本取ることが出

来ず、延長戦までもつれ込んでしまった。

延長戦が始まる直前にみんなを見て、勝た

なければという思いを強く感じ始めたとき、

一瞬相手が気を抜いたのがわかったので、

すかさず引き胴を打つとパンと相手の胴に

当たり旗が挙がった。その瞬間に観客席で

応援してくれていた先生方や保護者、OB、

中学生の後輩が大きな拍手で喜んでくれ

いたのはとても印象に残りました。そして、

なんとか予選リーグを勝ち抜くことができ

ました。

次の日の五日に行われた決勝トーナメン

トでは、岡山県の西大寺高校と対戦しまし

た。まず先鋒が引き分け、続く次鋒が細か

いところの別れ際での反則で一本とられる

が、中堅の松本が出ばな面で見事な一本を

きめた。しかし、時間間際に面をとられ引

き分けとなった。副将の岡田は、絶対に負

けられない厳しい戦いが強いられましたが落ち

着いて僕にまわしてくれた。僕は、必ず一

本を奪ってやると意気込んでいたが、相手

の中心の攻めが、今までにほとんど経験し

たことがないぐらいしっかりしていて、打

ち崩すことが出来ないまま六分が終わって

しまった。そして、〇―一という惜しい結

果で高校生最後の試合が終わった。

この大きな大会を振り返って感じたこと

は、全国で勝っていくためには相手を萎縮

させるような強靱な精神力が必要だとい

ことです。一試合一試合集中して戦う根性

は絶対不可欠と思うので、後輩にはぜひと

も肉体面だけでなく精神面においても日頃

からコツコツ積み重ねて鍛えていってほし

いです。そして、このような貴重な体験が

出来たのは、今まで指導してくださった先

生方や、先輩方、そしていつも温かく応援

### 男子団体予選リーグ

### ○ブロック【第四試合場】

してくださった保護者の方々のお陰と  
 います。これらの経験は僕の大きな財産  
 であるので、社会でもこのことを活かし  
 ていきたいです。

	龍谷富山	徳島	松山	勝点	勝者数	取得本数	順位
龍谷富山 (富山)		$\frac{2}{2}$	$\frac{3}{2}$	1	4	5	2
徳島文理 (徳島)	$\frac{4}{3}$		$\frac{4}{2}$	1.5	5	8	1
松山 (埼玉)	$\frac{2}{1}$	$\frac{4}{2}$		0.5	3	6	3

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	取得本数/勝者数	勝敗
龍谷富山 (富山)	青山	村上 ▲	横江	上川 ⊕	橋谷田 ⊗	$\frac{2}{2}$	×
徳島文理 (徳島)	⊗ ⊗	⊗	⊖		▲	$\frac{4}{3}$	○
	淀谷	青木	松本	岡田	鈴木		

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	取得本数/勝者数	勝敗
徳島文理 (徳島)	淀谷	青木	松本	岡田	鈴木	$\frac{4}{2}$	—
	⊕			⊕ ⊗	延 ⊕		
松山 (埼玉)	⊖ ⊗		⊕	⊗	長	$\frac{4}{2}$	—
	田中	安齋	齋藤	基	金子		

### 男子団体戦決勝トーナメント組合せ

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	取得本数/勝者数	勝敗
西大寺 (岡山)	宮本	川井	中本	鶴海	日下	$\frac{2}{1}$	○
		⊗	⊗				
徳島文理 (徳島)			⊗			$\frac{1}{0}$	×
	淀谷	青木	松本	岡田	鈴木		

# 全国高等学校剣道

## 大会に出場して

富岡東高校 近藤 陽 香



平成二十一年八月三日〜五日、  
「君が今歴史の新たなページを創る」  
のスローガンのも

と、大阪府舞洲アリーナで第五十六回全国高等学校剣道大会が行われました。

県総体では、十八連覇を達成し全国総体出場の切符も手に入れることができました。気持ち全国総体へと切り替え、まずは「四国総体二連覇」を目指し練習に励みました。そして、四国総体ではどんなに苦しい試合でもチームの気持ちを一つに最後まであきらめず戦い、目指していた「四国総体二連覇」を達成しました。この勢いに乗り全国総体までの練習も一生懸命取り組みました。

大会初日は女子予選リーグからでした。

私たちは試合前に円陣を組み「一本が大切になってくる。自分たちの剣道に自信をもって戦おう」と気合いを入れ試合に臨みました。初戦は、よく練習試合をしてお互いの手の内を知っている京都府久御山高校。先鋒は一本勝ち。次鋒・中堅・副将はお互い一本をゆずらず引き分け。大将は一本負けで、久御山高校との試合は引き分けでした。次の相手は埼玉県埼玉栄高校。前の試合で引き分けた私たちは、この試合で負けは許されません。久御山高校よりも多く勝者数・取得本数を取らなくては予選リーグを突破できないので、相手の少しの隙も見逃さないよう、埼玉栄高校との試合に臨みました。先鋒は引き分けでしたが、次鋒が二本勝ち。中堅は惜しくも一本負け。副将は先に一本取られたものの二本取り返し、大将は一本勝ち。三対一で勝利を収めました。しかし、久御山高校も埼玉栄高校に三対一で勝ち、予選リーグの結果は勝者数・取得本数とも久御山高校と同点でした。勝負は代表決定戦へともつれ込み、大将同士が代表として試合に出ました。お互い少し

の隙を狙い、緊迫した長い試合となりました。結果は小手を取られ、予選リーグ敗退。私たちは、これまでにも一本差で負けた試合を何度もしてきています。そして、今回もあと一本というところで負け、本当に悔しい思いをしました。改めて一本の大切さを感じさせられ、私たち三年生にとって最



2009近畿まほろば総体 インターハイ2009 剣道競技

後の試合となりました。しかし、今思えば全国の舞台で試合ができ本当に良かったです。この全国総体のために頑張ってきた日々は、私たちにとってかけがえのないものとなりました。だから全国総体に出場できたことに誇りをもちたいです。

高校三年間は本当にあっという間でしたが、とても実りのあるものでした。一つの目標に向かって仲間と切磋琢磨しながら頑張ってきたことは、これからもどこかで生きてくると思います。富岡東高校の選手として剣道ができて本当に良かったです。そう思えるのも、今までご指導してくださった先生方や先輩方、保護者の方々の支えがあったからです。また、悔しい時や嬉しい時いつも近くで励ましてくれた仲間たち。この仲間がいてくれたからこそ最後まで頑張ることができました。本当にたくさんの方々に感謝しています。ありがとうございます。この感謝の気持ちを忘れず、これからも日々成長し続けていきたいと思っています。

### 女子団体予選リーグ

### Gブロック【第二試合場】

	久御山	富岡東	埼玉栄	勝点	勝者数	取得本数	順位
久御山 (京都)		$\frac{1}{1}$	$\frac{5}{3}$	1.5	4	6	1 (代)
富岡東 (徳島)	$\frac{1}{1}$		$\frac{5}{3}$	1.5	4	6	2
埼玉栄 (埼玉)	$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{1}$		0	2	3	3

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	取得本数/勝者数	勝敗
久御山 (京都)	下野	福田	村野	岡田	藤本	$\frac{1}{1}$	—
	延	延	延	延	延 <sup>㊟</sup>		
富岡東 (徳島)	長 <sup>㊟</sup>	長	長▲	長	長	$\frac{1}{1}$	—
	仁木	岩原	湯浅	近藤	湊		

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	取得本数/勝者数	勝敗
富岡東 (徳島)	仁木	岩原	湯浅	近藤	湊	$\frac{5}{3}$	○
	延▲	延コ		コド	一本勝 <sup>㊟</sup>		
埼玉栄 (埼玉)	長		一本勝 <sup>㊟</sup>	延		$\frac{2}{1}$	×
	飛田	保坂	碩山	山口	那須		

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	取得本数/勝者数	勝敗
久御山 (京都)	下野	福田	村野	岡田	藤本	5 — 3	○
	延	一本勝⊗		⊗メ	⊗コ		
埼玉栄 (埼玉)	長		一本勝⊗			1 — 1	×
	飛田	保坂	碩山	山口	那須		

代表戦

久御山  
(京都)

富岡東  
(徳島)

藤本  
⊙

湊

全国中学校剣道

大会に出場して

鳴門市第一中学校

監督 竹内 佳代子



「熊本全中出場」  
を日指し、選手・  
保護者・監督が一  
丸となって三年間  
頑張ってきた思い

が叶えられたことに、心から感謝していま  
す。支援していただいた多くの方々、本当  
にありがとうございます。でも、夢を  
実現するまでの道のりはとても苦しかったで  
す。

県新人大会で優勝できたものの、その後  
はなかなか勝つことができず、私自身が自  
己反省の日々でした。思いが強ければ強い  
ほど、不安や悩みが強まります。選手たち  
も同じで、スランプに苦しんでいました。  
特に文理中学校とは、このチームになって  
から、たくさん対戦させてもらったのです

が、六月の選手権大会までで、一勝五敗と  
いう戦績でした。それだけに、県総体の決  
勝で勝つことができた時の感激は忘れられ  
ません。

県総体では一回戦の徳島中学校との試合  
で最大のピンチを迎えます。大将が一本とっ  
てようやく代表決定戦に持ち込めるといっ  
つ、追い込まれた苦しい展開となってしまいま  
した。延長戦に入った直後、竹刀落とし反  
則を取られた時は、「こんな形でこのチー  
ムの三年間が終わるのか」と背中に冷たい  
汗がながれました。でも、最後まであきら  
めず懸命に戦う大将キャプテンの姿、その  
キャプテンを信じ最後まで祈る選手たちの  
熱い思いが天に通じたのか、渾身の思いで  
打った小手が見事に決まりました。残り時  
間は三十秒を切っていたそうです。それか  
らは選手の気迫が変わりました。この苦し  
い状況を切り抜けたことが、選手たちをよ  
り一層強くしてくれました。選手たち一人  
ひとりの心の成長と、チームとしての団結  
の強さを実感でき、感動しました。  
全国の舞台でも選手たちは、自分たちの

持てる力を發揮し精一杯戦いました。予選リーグ一試合目は、岩手県代表軽米中学校。副将、大将が勝ち二一〇で勝利。そしてこれが、鳴門市第一中学校としての全国大会初勝利となりました。二試合目は東京都代表の関中学校。先鋒が一本勝ちしたものの、次鋒・大将と二本ずつ取られ、二一で敗れてしまい、決勝トーナメントへは惜しくも進出できませんでした。負けた試合も善戦していたし、取られた技が納得のいかに一本だったので、やりきったというより、悔しい気持ちの方が大きかったです。でも、悔し涙で会場を後にする選手たちからは、この悔しさをバネに次は高校で頑張ろうという新たな意欲が感じられました。そんな選手たちと共に過ごせたかけがえのない三年間に、私は今、心から感謝しています。共に喜び、共に苦しみ、共に感動した一つ一つの思い出が大切な宝物です。

夢を実現できた背景には、選手の頑張りはもちろんですが、周りの方々の温かい支えがありました。保護者のチームワークも勝因の一つだと思っています。また平野先

生、岩木先生にはご夫婦で指導に来てくださり、稽古をつけてくださっただけでなく、いろいろ相談にものっていただきました。卒業生は、試合稽古の相手にきてくれ先輩たちを鍛えてくれました。そして、日々の稽古を共に頑張った部員たちがいたからこそ、全国大会に出場できました。多くの方々のおかげで夢を実現できたことを、ずっと忘れずにいたいと思います。本当にありがとうございます。

目標を持ち、それに向かってチームが一丸となって頑張ることが大切ということ、苦しい時期があってもあきらめず辛抱すれば、必ず乗り越えることができるということ、この二つのことを私は改めて感じることができました。これからの指導にもその事を活かしていきたいと思います。今後とも、ご指導よろしくお願ひします。



第39回 全国中学校剣道大会 H21.8/20~22

# 全国中学校剣道

## 大会に出場して

那賀川中学校三年

山本 悠

「熊本行こうな、絶対優勝しよう！」と声を掛け合って、挑んだ県総体。決勝戦ではチームのみんなに支えられ、優勝することができました。全国大会を目標に毎日頑張ってきた私たちは、嬉しくて嬉しくて、みんなで抱き合い涙を流しました。その感動を力にして、それから一ヶ月、全国大会でいい結果が残せるよう一生懸命練習しました。

待ちに待った全国大会は平成二十一年八月二十日～二十二日、熊本県人吉スポーツパレスで開催されました。最初は、全国大会という夢の舞台で試合ができることにくわくしていました。いざ会場に入ってみると、人の多さと張り詰めた空気に圧倒され、全国大会のすごさを実感しました。

二日目の予選リーグの一試合目は山口県



代表の鴻南中学校。まず、先鋒が二本勝ち、次鋒が引き分け、中堅が一本負け、副将、大将が引き分けで一一の本数勝ちでした。初戦は苦戦しながらも一勝しました。二試合目は、奈良県代表の若草中学校。意識していた中学校でしたが、自分たちらしい剣道ができ、四一〇の快勝で、予選リーグを突破することができました。

決勝トーナメント一回戦は、山形県代表



の山形第四中学校。何度か対戦したことのある強豪校です。試合前、いつものように門陣を組んで、気合いを入れ、声を掛け合いました。一生懸命戦いましたが、〇一四の大差で負けてしまいました。終わってみると結果は、ベスト一六。悔いがないというわけではありませんが、みんなと一つの目標に向かって頑張ってきたことは、忘れられないいい思い出です。

那賀川中学校に入学して三年間、剣道を通して多くのことを経験をし、仲間の大切さ、自分を支えてくれる多くの方のありがたさ、そして、感謝する気持ちを学ぶことができました。ここまで私が頑張ってきたのも、斎先生をはじめ、熱心にご指導してくださった先生方、先輩方、保護者の方々、優しく見守ってくれた両親のおかげです。そして、何より共に頑張ってきたチームメイトは、私の一生の宝物です。本当にありがとうございました。

今後も、剣道をしていくにあたって、自分を支えてくれるたくさんの方への感謝の気持ちを忘れず、また新たな目標に向かって頑張っていこうと思います。



# 全国教職員剣道大会から

徳島県学校剣道連盟

会長 富田 正

全国教職員剣道大会も半世紀を経て、はや第五十一回という歴史を迎えた。過去には国民体育大会剣道競技（教員の部）として開催されてきたこともあったが、現在に至っては、全日本学校剣道連盟主催で単独の開催となっている。その為、一般的にこの大会の存在を知らない人が多くなっている。ちなみに、徳島県においては、平成五年の東四国国体のリハーサル大会としてその前年に開催された。当時の徳島県剣道連盟には、開催にあたり多大なご尽力を頂いたことはいまでもない。そんなことから、徳島県剣道連盟の先生方や剣道関係者には、その存在をよく知っていただいたように思う。しかしながら、近年ではこの大会も諸般の事情から簡素化し、各都道府県から負担金や審判員を派遣しあうなど、自前で大会を運営しているのが現状である。

また、少子高齢化が急速に進んでいる県においては、教職員の採用も少なく、その年齢層に偏りがあり、バランスのよい選手構成が組みにくくなってきている。徳島県チームもその影響をもちに受け、非常に厳しい状況である。しかし、大会事態は年々レベルが上がり、特に職種別の個人戦においては、常に全国的に活躍している者も多く、見応えのある試合が随所で展開されている。

以下、第五十一回全国教職員剣道大会の参加資格・選手団の構成・本県の試合結果等を掲載したい。

## 〔参加資格〕

現在、学校および教育委員会に在籍する教職員で、次の事項に該当すること。

(1) 幼・小・中・高・盲・聾・養護学校の教員とし、非常勤講師（年間任用者で授業を担当している者）、および常勤の事務職員とする。

(2) 大学・高専の在籍は、助手・助教・講師・准教授・教授で、常勤している者。および常勤の事務職員とする。

(3) 教育委員会の在籍は、教員身分の指導員・指導主事・その他の教職員の身分を有し、常勤している者。

(4) 段位の制限は設けない。

(5) 監督は大将を兼ねてもよい。

## 〔選手団の構成〕

(1) 団体試合

ア 各都道府県一チームとし、構成は監督一名（大将との兼務可）・選手五名の計五名、もしくは六名とする。

イ 選手の構成は「幼・小・中」から一名・「高校・高専・大学・教委」から一名他の三名はいずれから出場してもよい。

ウ 大将は五十歳以上、副将は四十歳以上とする。（大会前日の年齢）

(2) 個人試合

ア 各都道府県とも、「幼稚園・義務教育の部」「高校・高専・大学・教委の部」「女子の部」のそれぞれに一名出場できる。

イ 前年度の各個人優勝者は定数外で出場できる。

ウ 選手は団体試合出場者以外の者を主体とするが、やもを得ない場合のみ団体試合出場者と兼ねることができる。

エ 年齢制限は設けない。

### 〔試合結果〕

#### （団体戦）

徳島県0（1） 4（7）東京都  
先鋒 福多博 コー コメ 坂本  
次鋒 佐々木 引分け 江刺家  
中堅 富浦 ー メコ 栗原  
副将 福多雅 ー メ 武藤  
大将 河田 ー コツ 甲斐

#### （個人戦）

○高・大・教委の部  
岩原（徳島） ー メ 原川（熊本）  
○幼・義務教育の部  
白木（徳島） ー コ 増田（東京）  
○女子の部  
塚原（徳島） ー メ 生駒（和歌山）

#### 《戦評》

先鋒・福多（博）選手は、終始一進一退の攻防であった。後半自分のペースを進めるも二本目には至らず惜敗する。次鋒・佐々

木選手は、二十代の選手との対戦、荷担に攻めたが双方相譲らず善戦し引き分けとなる。中堅・富浦選手は、三十歳前半の選手との対戦、堂々と挑んだが、相手は油の乗りきった年齢であり、技も冴え間合いも遠く、二本連取される。副将・福多（雅）選手は、上段の構えから得意の小手を放ち一本と思われたが、審判一人の旗が上がったものの一本にならず、その直後の相手の面に旗が揚がる。そのまま時間切れとなり一本負けを喫する。大将・河田選手は、すでに勝負は決定しており、慌てることなく挑んだが、一瞬の間をつかれ、突きを先取される。その後優勢に攻めるも、逆に一本を取られ試合終了となる。対戦相手の東京都チームは、理想的な年齢構成で、予想通りの実力派ぞろいのバランスのとれたチームであった。

個人戦においては、岩原選手・白木選手・塚原選手とも、負けはしたものの大差ない試合内容であった。特に、白木選手においては、二十歳前半の新進気鋭の選手との対戦であったにも関わらず、思い切った技を

出すなど正々堂々とした戦いであった。試合終了後の白木選手の「相手は、自分の息子と同年代。」という言葉が印象的であった。ただ、どの職種においても強者どろいで、上位進出にはかなりの修練が必要と思われる。

選手の皆さんの今後の精進と若い教職員皆さんの奮起に期待したい。ご苦労様でした。



# 全国高専女子剣道大会にて

## 二年連続準V

阿南高専 湯城 豊勝



今年の四国高専

体育大会剣道競技

は地元阿南高専で

行われ、男子団体

戦四位、男子個人

戦は上田勇輝（2S）が四位、女子個人戦

は村田奈津季（4C）が優勝、オープン競

技の女子団体戦優勝となりました。そして

八月下旬、北九州市若松体育館での全国大

会では女子団体戦と上記二名の男女個人戦

に出場しました。

女子団体戦は三人制で、今年が八回目に

なりますが、今まではすべて鈴鹿高専が優

勝しています。二年前、本校は彗星の如く

三位に入賞し、昨年は見事に準優勝しまし

た。したがってホップ・ステップ・ジャン

プとしたく、今年は優勝を意識した強気の

オーダーで大会に臨みました。先鋒は攻守

バランスのとれた市瀬、中堅は四国大会で急成長した船越、大将には試合運びが巧みな村田を配しました。参加チームは昨年より多くなったので十六チームによるトーナメント戦で行いました。

まず、一回戦は小山高専との戦い。相手の戦力を把握していなかったので心配していましたが無難に三人とも勝利しました。次いで、二回戦の相手は呉高専。昨年も接戦を演じましたが、今年も同じような僅差の勝負となり、中堅が一本勝ちして他は引き分けでした。観戦していても明らかに力は上と感じつつも、不思議なことに相手のペースに惑わされたために辛勝となりました。次の準決勝の相手は八代高専。それまでの相手の試合内容を分析すると本校がやや有利な接戦かなという感じでしたが、



相手が攻撃型であったのが幸いして先鋒と中堅が上手くさばってくれました。そして、

いよいよ決勝の対鈴鹿高専。昨年は引き分けであったので、今年も同じような接戦に持ち込むことを期待したのですが、相手のパワーアップに脱帽で、前半の二人で勝負がつかまりました。鈴鹿の壁は厚くて高かったです。

翌日は男女個人戦が行われました。上田は三位の選手に敗れましたがまだ二年生です。これからの精進のために良い経験を見せてもらいました。女子の村田は、一回戦では先に一本を取られるもののその後挽回して勝利、さらに二回戦は延長戦を制し、準決勝では前年度優勝者にこれも延長戦を勝っていよいよ決勝へ。相手は過去二度の優勝を誇る強豪でした。規定の四分で勝負がつかずに延長戦に突入、一進一退の攻防を二十数分間繰り返しての惜敗でした。しかし、二年前の三位に続く今回の準優勝は素晴らしいです。

### 第八回全国高等専門学校剣道大会

〈出場選手〉

村田 奈津季  
船越 怜奈  
市瀬 祐季奈  
横手 茉結子  
久津間 充

1、日時 平成二十一年八月二十二日(土)

2、場所 北九州市若松体育館

3、試合結果(女子団体)

◇1回戦 阿南3(5) | 0(0)小山

先 ○市瀬 コ | 根本  
中 ○船越 メメ | 遠井  
大 ○村田 コド | 秋元

◇2回戦 阿南1(1) | 0(0)呉

先 市瀬 | × 串田  
中 ○船越 メ | | 天野  
大 村田 | × 堀本

◇準決勝 阿南2(3) | 1(1)八代

先 ○市瀬 コ | 迫本  
中 ○船越 メコ × 坂井  
大 村田 | | コ 長濱 ○

◇決勝 鈴鹿2(4) | 1(1)阿南

先 ○田中 メメ × 市瀬  
中 ○池田 メメ × 船越  
大 松岡 | × コ 村田 ○

阿南高専 準優勝(昨年度に続き準優勝)

# 都道府県対抗少年剣道

## 優勝大会に出場して

徳島少年剣道教室六年

織野 将寛

僕は、今年大阪府で開催された第四回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会（小学生の部）徳島県代表チームの中堅として出場しました。僕は小学三年生の秋に徳島少年剣道教室に入門しました。最初は竹刀も真っ直ぐにふれず、先輩たちの練習についていくのがやっとでした。ですから、そんな頃は、このような大きな大会に自分が出場できるなんて夢にも思いもしませんでした。

代表のメンバーは、徳島県内のいろいろな道場から選抜されました。メンバーとは強化練習や兵庫県への遠征合宿を通して、技や精神力、そしてチームワークを高めていきました。中でも、僕は夏の遠征合宿でお世話になった印南道場での練習が忘れられません。決して広くない道場で、一所懸

命に剣道に打ち込んでいる姿に感動しました。印南の剣士たちから、真っ直ぐに剣道に打ち込む姿勢や強い精神力を教えてもらった気がします。

大会はとても大きな会場で、多くの観客がいきました。周りの雰囲気や「負けたらどうしよう。」という気持ちが重なり、とても緊張しました。初戦の沖縄県との試合は、緊張であまり動きが悪く、引き分けてしまいました。福島県との試合では、試合前に監督

の生田先生が「おもいきってやれ。」と言ってくれたので、吹っ切れて戦えました。結果はメンを決めることができて一本勝できました。チームとしては、惜しくも得本数差でトーナメントに進むことができなかったですが、五人で正々堂々と力を合わせて戦えたので悔いはありません。試合後、松

村先生から「君たちを選んでよかった。」と言ってもらえて本当にうれしかったです。この大会に出場して、力を合わせて戦う大切など本当に多くのことを学びました。最後になりましたが、松村先生、生田先生をはじめ、お世話になった多くの先生方、どうもありがとうございました。

順位	フリガナ氏名	性別	学校名	所属
監督	イクタヒロアキ 生田浩章	男 女	剣道連盟 少年部	徳島少年剣道教室
先鋒	イナミダニ アスカ 南谷飛鳥	男 女	川内南小学校 6年生	小松島少剣クラブ
次鋒	マツモト タカフミ 松本高史	男 女	中野島小学校 6年生	錬武館 少年剣道教室
中堅	オリノ マサヒロ 織野将寛	男 女	千松小学校 6年生	徳島少年剣道教室
副将	ハヤオカ リンタロウ 早岡凜太郎	男 女	北島小学校 6年生	北島少年剣道教室
大将	タナカ コウキ 田中皓己	男 女	中野島小学校 6年生	徳島至誠館

# 第四回全日本都道府県対抗 少年剣道優勝大会に出場して

徳島文理中学三年

久保 公 緒

平成二十一年九月二十日、大阪府舞洲アリーナにおいて、標記の大会が開催されました。僕は二年連続で、徳島県チームの大將として出場させて頂き、責任の重大さと勝利に対する強い気持ちを持って大会に臨みました。

予選リーグは、昨年は三チームリーグでしたが今年は滋賀・埼玉・岡山・徳島の四チームによるリーグ戦となり、昨年以上に集中力や体力が必要とされる試合となりました。

初戦の滋賀県との試合では、全員の動きが堅く、思うような試合ができませんでした。先鋒一本負け。次鋒一本勝ち。中堅から大将まで三引き分けとなり、結果は勝者一対一の引き分けとなりました。

続く二試合目の埼玉戦では、先鋒の見事

な面と小手の二本勝ち。次鋒が一本負けをしたものの、残りの三名が引き分けて、一対一の本数勝ちで、勝利しました。

最終の強豪岡山戦では、

先鋒、次鋒ともに敗れ、残り三人が全力で一本を取りにいきましたが、有効打を奪えず三引き分けとなり、残念ながら予選リーグ突破は、夢に終わってしまいました。一本を取ることに難しさ、勝つことの厳しさを痛感した試合となりました。負けて悔しさは残りますが、レベルの高い素晴らしい全国大会に県代表選手として出場できたことを誇りに思っています。「打って反省、打たれて感謝」の教え通りに、今回の試合を反省し、これからの試合や練習に生かしたいと思います。

最後にありがとうございました。引率ご指導頂いた

順位	フリガナ	姓名	性別	学校名	学年	所属
監督	モトムラ	ケンジ	男	北島中学校	顧問	北島中学校
先鋒	タナカ	リナ	女	北島中学校	3年生	北島中学校
次鋒	ナカムラ	アリサ	女	那賀川中学校	3年生	那賀川中学校
中堅	ウイトモ	タカ	男	鳴門市第一中学校	3年生	鳴門市第一中学校
副将	アシダ	ヨシフミ	男	那賀川中学校	3年生	那賀川中学校
大将	クボ	キミオ	男	徳島文理中学校	3年生	徳島文理中学校

松村先生、生田先生、監督の本村先生、また、応援を頂いた小学生並びに保護者の皆様に心よりお礼申し上げます。

## 全日本女子剣道選手権

## 大会に出場して

大阪体育大学二年（鳴門高校出身）

平野 千尋

私は、九月二十七日に静岡武道館で行われた、第四十八戒全日本女子剣道選手権大会に初めて出場させていただくことになりました。学生の大会とは違い、高校生から大学生、教員、警察官、一般企業、そして主婦まで幅広い職種、世代の人が県の代表として参加する最高の舞台です。

大会の一週間前に学生の大会があったのですが、私は自分らしい剣道が出来ず自信を無くしていました。そのため、この大会では勝つことを考えるのではなく、自分の剣道をもう一度見つめ直すためにもじっくりと攻める、手元を浮かさない自分らしい剣道で挑もうと決めていました。

大会当日、会場内を見渡すと有名な選手ばかり……、私は思った以上に緊張していました。

初戦である一試合目は、同じ学生である京都府代表、立命館大学の畑美沙選手です。同じ学生同士ということもあり気持ちに少し余裕があったのですが、畑選手は上段です。初戦で上段ということから、尚更気持ちを入れて体を動かすことに気をつけました。しかし、相手も予想以上に緊張してか動きは少なく、私は左小手と面の二本を連取して気持ちのいいスタートを切ることができました。

続く二回戦は、茨城県代表、教員の相馬沙織選手です。前の試合を見ていて、手数の少ない選手だと思ったので、じっくり攻めていこうと考えました。お互いに慎重な試合運びで時間内には勝負はつかず延長戦へ、鏢競り合いから相手の気が抜けた一瞬を引き面を決め、二回戦を突破することが出来ました。

この時点でベスト一六。ここまでくると実力者揃いであり、いかに集中して自分の技を出しきれるかです。

三回戦の相手は、前年度三位の大阪府代表、警察官の片淵美和選手です。序盤、相

手は気合い十分に先をかけてきますが、私も必死で凌ぎながら自分のいい機会を技を出しました。一本になるかと思われる場面もありましたが、最後は相手に合わせてしまい打ち合いから面を決められてしまいました。

優勝された埼玉県代表の村山選手や、三位の岡山県代表の坪田選手などの試合を直接見て本当に勉強になることばかりでした。学生の中では唯一のベスト一六であり、自分でも十二分に出し切れた試合であったので少し自信を持ちたいと思います。

この大会に出場して得たことは、学生の大会では経験のできない、また見ることに出来ないことばかりであり、たくさんのことを吸収して今後の学生の大会に繋げていこうと思っています。そして来年もこの最高の舞台で試合をすることを目標にして日々の稽古を重ねていこうと思っています。

ご指導、ご支援をいただきました先生方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 第五十五回全日本東西対抗 剣道大会に参加して

西軍十将 近 藤 亘

九月十三日(日)埼玉越谷総合体育館において第五十五回全日本東西対抗剣道大会が開催されました。徳島県からは、平野誠司七段と私の二名が選ばれました。私は二年ぶり八回目の出場となります。

歴史と伝統のある東西対抗に出場できることを光栄に思うと共に、自分の力を試す絶好の機会と感謝しつつ試合に臨みました。大会は、始めに女子の部が行われ、東西から年齢別に選ばれた各五名が熱戦を繰り広げました。

女子の試合とはいえ、構え・気迫・攻め・打ち等男子の剣道に引けを取らない素晴らしい試合内容でした。結果は、四勝一敗で西軍が優勝しました。

男子の部は、先鋒から順に三名が六段、十五名が七段、続いて十五名が教士八段、副将・大将が範士八段の各三十五名の選手

による対戦となります。

試合は、先鋒から三組の六段戦を東軍が制し、一方的な展開になるのではと危ぶまれましたが、七段戦に入り西軍が四連勝し逆転しました。

その後西軍二十一将・平野選手が見事な小手二本を連取し、(優秀選手に選ばれる)その差を広げました。しかし、後三人が連敗したため、結局七段戦終了時には九勝九敗の五分となり、試合は振り出しに戻りました。

八段戦に入り、西軍が二連勝すると、東軍が二連勝と一步も引かず、続いて西軍三連勝した後いよいよ私の出番となりました。対戦相手は東軍十将・吉村八段(東海大学教授)五十歳。身長百八センチメートルと長身で、キレのいい面技を持った重厚な剣道をする剣士です。初めての対戦であり、攻め負けしないように気合いを入れて試合に臨みました。

立ち上がると、腹から気合いが出て、しかも攻めると相手が下がり、自分でもいいスタートを切れたように思いました。しか

し、ここからどうしても機会を見いだすことができません。相手の打ちをしのぐことまではできるのですが、相手の起こりがわからないため、打ちを出す機会がつかめませんでした。

試合時間の十分が過ぎ延長戦に入りました。同じような状況が続く中、辛抱できずに強引な面を打ってしまいました。そこはさすがに見逃してはくれません。胴に返されてしまいました。

何故あの場面で出てしまったのか悔いが残ります。

今回の試合を反省すると、今一步という場面で恐怖心が起こり、合気になって辛抱する集中力を欠いていたように思います。このような精神状態では無心の技に繋がるはずがありません。

試合はその後、西軍リードのまま三将が勝ち、西軍の優勝が決まりました。勝敗は決したものの副将戦・大将戦は、お互い気力の充実した合気の剣道で、見る者を釘付けにする緊迫した、さすが範士といえる素晴らしい試合内容でした。

試合は勝敗がつきものですが、勝敗を越えたところに見る者を引きつける素晴らしい剣道があると改めて感じた次第です。自分の剣道に足りないものを見せて頂いた気がします。

この度の試合で得ました課題を今後の糧として、一層稽古に打ち込んでいこうと気持ちを新たにしています。



## 第五十五回全日本東西対抗

### 剣道大会に出場して思うこと

警察支部 平野 誠 司

剣道界で「東西対抗」と言えば、全日本剣道連盟が戦後復活してから最も重要な行事として位置づけられてきた由緒ある大会であります。

試合は全国を東西に二分し、各地域から選ばれた六、七、八段の各剣士三五名によって行われる対抗試合です。私自身この大会は六度目ではありますが、毎回この大会には大きな思い入れを寄せて出場させて頂いています。

それは、「日本伝剣道の継承」ということであります。事理一致した競技文化としての剣道です。まさに最高の場所で最高の剣道を表現したいということでしょうか。

先達のある範士の先生は、

「剣道というものは、その瞬間、瞬間に自分を創造する人間形成の道である。」と喝破されています。

単に勝ってやろうという気持ちだけではなく、相手の姿がそのまま自分に映ってくるような無意識の領域の中に身を置き、お互いが瞬間的な自己表現ができること。その一瞬一瞬のやりとりの中で相手と共存し合うこと、すなわち「合気合わせ」ということを大切に修練を重ねてきました。

今大会の相手は、二歳年下の新潟県・吉田仁選手でありました。勝ち負けの前には心気力を一致させることだけに集中して試合場に入りました。これが功を奏したのか、戦った四分五十二秒の中に自分の有意識な領域でなく、無意識な領域の中で発した太刀が二度相手の小手を捉え、見事勝利を収めることができました。

今回は西軍優勝にも貢献することができ、また個人的にも「優秀選手賞」という大変すばらしい賞も合わせて頂きました。もとより修行途上の身、この伝統的な競技文化を更に体現することを目標とし、この「日本伝剣道」を正しく次の世代に継承していくことが私の大切な思い入れであり、大きな志でもあります。

平成二十四年度から中学校（義務教育）での武道必修化が実施される等、この平成の時代に教育現場では人を育てる力を武道文化の中で模索する態勢が進められています。

とりわけ剣道の大事は、技術の基本（相手に勝つ術）と共に心の基本（自己を充実させる術）を共存させるところにあり、個々の人生を豊穰させながら人間相互の関係を向上させていくところにあることを肝に銘じなければならぬと思っています。

爽快な汗を流しながら、お互いを理解しながら、そして自己を高め合う剣行を継続していきたいものです。ご指導よろしくお願いたします。

## 第六十四回国民体育大会 剣道競技に参加して

成年男子監督（強化部長）

平野 誠 司

平成二十一年十月三日から五日まで、新潟県長岡市において第六十四回国民体育大会剣道競技が開催されました。今年度は、四国ブロック大会にて成年女子が疑惑の惜敗に涙を呑み、少年男女も四国一枠の厳しさを突破できず、本大会は成年男子のみの出場となりました。

十月一日出発日。機動隊にて午前八時から調整稽古。午前十時に徳島を出発し、翌二日の正午に長岡入り。休憩後、午後から一時間の調整稽古を行いました。選手の調子は非常に良く、長旅の疲れも感じさせないいい動きを見せていました。

三日、午前九時。開会式に引き続いて少年男女の試合がスタートしました。我々は午前中に調整稽古を一時間行い、午後からは休養をとりながら、明日の試合に備える

ことにしました。

四日、いよいよ決戦の日。試合は正午から。緊張感が自然に心身と調和していきま

す。初戦の相手は静岡県、油断のできる相手ではありません。それぞれが自分の技を充分に出し切ることができれば勝利も見えてきますが、全ては先鋒戦と私は読んでいました。

正午。徳島県対静岡県。先鋒戦の始まりです。

静岡の先鋒は上段の河合選手。立ち上がりから山本選手の攻勢が続きます。よし、よしと思っていた瞬間、相手が放った逆胴が決まってしまいます。完全に意表を突かれた形です。二本目。両者同時に飛び交い山本選手は右小手、河合選手は片手面。山本選手の左小手が早く感じられました。山本選手は旗が三本、決定力不足でした。相手の面に旗が三本、非常に惜しい展開でした。

続く次鋒・山名、相手はこれまた上段の高坂選手。今年の全日本選手権大会三位の猛者です。両者上段対二刀は十二分の戦いを繰り広げ、粘り粘って制したのはお返し

とばかりの山名選手の二刀の逆胴でした。一対一のイーブン。この時点で二対〇と先行したかったのですが……。

中堅・山室選手は吉留選手を果敢に攻めますが、最後に出小手を決められます。

副将・福多選手も試合巧者の小山選手に対し上段から打ち続け、相手は防戦一方。しかし、延長戦開始早々に敢えて打ち気を見せずして、油断させたところに引き面を炸裂させるという始末。万事休す。

大将・西谷選手もこしかないといところ、機会よく放った面を紙一重で返され胴を奪われてしまい、結果的には四対一の完敗でした。

国体には一種独得な雰囲気がありますが、それでもこの国体と都道府県大会の上位進出を目標として取り組んでいかなければなりません。総合力の向上には時間が掛りますが、小さい県は小さい県なりに力を合わせて、剣道本来の共導して高め合うことのできる体制づくりを大切にしていきたいと考えています。

目先の勝ち負けだけでなく、剣道本体の

大事どころを外さない修行を重ねながら、故堀江幸夫範士が言われていた「ほんまもんになれ」という言葉の真意に、一步でも近づいていけるように頑張っていきたいものです。

諸先生方の強化部門に対するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げまして、大会の報告とさせていただきます。

## 第四十四回全日本居合道 大会を振り返って

監督 岸 田 光 博

日時 平成二十一年十月二十四日(土)

午前九時開会

場所 長崎県島原市 島原復興アリーナ

主催 財全日本剣道連盟

た。

翌日の大会が行われる島原復興アリーナの会議室へ原田先生は審判会議(午後三時から四時)に、私も監督会議(午後四時から五時)に出席しました。

会議内容は、大会のプログラムに誤字等が無いが、選手・監督の確認と、各段の試合の監督の立会いで時間が同時間、近郊時間の時の対応について、同一県の個人演武者で代行出来る、服装も自由との事で、今該当する府県は、報告して下さいとの事でした。その後、多数の県の報告があり、原則三試合前に選手監督が挨拶し待機する事が、難しいとの報告に時間を取られました。大会当日は監督が代表して、受付時、選手の刀の登録証を提出し、確認をするとの事でした。

その後ホテルに帰り、選手集合して打合せを行い、合同で夕食後早く休養する事としました。

### 〔試合までの経過〕

原田勝(審判員、範士八段)坂本、一村の三名は前日二十三日よりフェリー一泊で出発して、すでに到着しており、合流しまし

徳島県は高知県で行われた、六・七段審査会七月十日後の地区講習会の後に、選手

の選考し、該当者に連絡を取り長崎県の全国大会に出席出来るか確認をとり、次の五段・一村昌和、六段・森将夫、七段・坂本憲一の三選手と決定しました。

選手の合同強化練習は、七月十九日、加茂島の徹心道場で、居合道部長高橋先生をはじめ、範士八段原田先生立会いの中行われました。強化練習後の会議で私に監督の指名が有りました。全国大会に向けて、各道場での練習はもとより、選手が合同練習を行う打合せを行い、毎週日曜日の午前中、合同強化練習をする事に成りました。又、伝達講習会、四国四県稽古会、高知大会に参加出場し、大会に向けて、今までに無いぐらい練習を行い、本番に向けて、古流二本指定三本を想定し、時間も測定した練習を繰り返し、全国の諸先生方に見られても恥ずかしくない、徳島県の居合を心がけました。

〔所見〕

今回開催の長崎県が優勝し、二位は神奈川県でした。新潟県が三位で、次回開催地の全国大会に向けて、猛烈な準備をしてい

ると思われれます。前々回の岡山大会の選手（私の友人）によると、大会一年前より、全国の有名な先生を毎月一回から二回招き、指導をして頂いたとの事です。時間と金を使い又選手も熱心に居合に取り組み優勝したと思われれます。

徳島県の居合道人数又取り組みを考えると、これから頑張らねばという思いで一杯です。又、初参加の一村選手と森選手は、大会会場の雰囲気や緊張感など、六・七段の受験に参考になる良い経験が出来たと思います。今回の修練の成果は十二月六日の大阪大会で、森選手の六段の優秀演武賞という、結果として表われたと思います。

最後になりましたが、今後の徳島県選手諸氏の精進を祈念し、徳島の居合の発展を願います。



大会終了後会場で 左より 岸田光博 坂本憲一 森将夫 一村昌和

# 全日本剣道選手権

## 大会に出場して

警察支部 近 藤 正 章

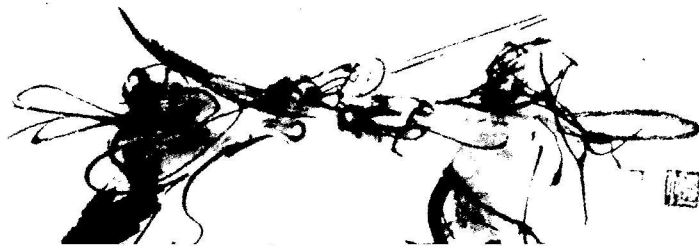
平成二十一年十一月三日、第五十七回全日本剣道選手権大会が開催されました。私にとっては、今回で三回目の出場ということもあり「今年こそは何とかして結果を残したい」という強い気持ちを持って試合に向けた稽古に取り組んできました。

一回戦、相手は秋田県代表の土田選手。本大会でも一度対戦をしている事もあり、相手の動きもある程度予測していたつもりでした。しかし、開始早々から、相手との攻防が上手くいかず「前よりやりにくくなると、何とかせな」と気持ちばかりが焦り、結局最後まで相手を捕らえることができず、一本を奪われてしまいました。

試合直後、思ったように試合運びができなかった事と「やりにくい、打つ所がない」と心のどこかで勝負を諦めてしまった自分に腹が立ちました。しかし、時間を置いて

冷静に振り返ると私は大きな勘違いをしていた事に気が付いたのです。それは、確かに自分が思ったように試合をさせてもらえない相手、技を打たせてもらえない相手、それを「やりにくい」という言葉で終わらせてきた自分自身への反省に繋がるものでした。「やりにくい」のではなく、相手は私よりもっと稽古を積んでいるのです。自分の力が足りないから技も攻めも通用しなかったのです。そういう日々の謙虚さが私に足りなかった所だと気付かされました。

十一月三日は選手たちにとって一年の終わりであり、又始まりです。どのような気持ちで一年間取り組むのか、自分との戦いになってきます。これから私は今回の反省を踏まえ、稽古をつけて下さった先生方や、仲間達の其々の思いや考え、個性を剣道を通して受け止め、人が持っている良さを自分の力にしていく事を目標としていきたいです。そして剣道でも、一人の人間としても成長できればと思います。



チーム名	先	次	中	副	大	合計
熊 本	緒方 ▲	桑野 ⊕ 一本勝	小川 ⊕ 一本勝	古澤 ▲	大村木 ⊕	3 3
	延長			延長		
徳 島	六條勝	六條洋	川添	近藤 ▲	山名 ▲	0 0

チーム名	先	次	中	副	大	合計
徳 島	六條勝 ⊕	六條洋	敦賀 ⊕ 一本勝	近藤	山名	2 1
	延長	延長		延長		
徳 島	亀谷 ⊕	堀内 ⊕	小野	丹澤	高添 ⊕ ⊕	4 2

## 平成二十一年度 全国警察剣道大会を終えて

警察支部 平野 誠 司

この全国警察剣道大会は、平成九年から三部制が三部制に変更し、第一部には一二チーム、第二部・第三部にはそれぞれ一八チームという編成により毎年激しい戦いが行われています。

当然ながらその試合結果で翌年には入れ替えがあります。一部、二部が四県、二部、三部が六県と、陥落は一次リーグの結果次第であり、まさに天王山ともいえる厳しい戦いです。

徳島県警は昨年、第二部一次リーグで佐賀県と北海道に連敗してしまい、今年は第三部からの出直しでした。三部制になって三回目の三部陥落です。過去二回ともその翌年には必ず二部に復帰していましたが、今年も必ず昇格するという覚悟をもって上京しました。

今年の相手は、熊本県と山梨県です。ど

ちらも実力あるチームではありますが、先手をとり粘って流れをこちらに引き寄せたいところですが。この二チームに勝利しなければ二部昇格はありません。心を引きしめて初戦に臨みました。

一次リーグ、対熊本戦。

こちらは先鋒から、六條勝・六條洋・川添・近藤・山名の布陣。先鋒の六條は立ち上がりから慎重に成りすぎ、そのまま引き分け。もう少し積極的に勝負をしてチームに勢いできれば良かった。その慎重さが後続の堅さ変わっていく展開となり、副将戦まで有効打を奪えずに二一〇と勝負を決められてしまいました。大将・山名もポイントを奪えず、逆に反則の一本を取られてしまい、三一〇で万事休す。

一次リーグ、対山梨戦。

山梨県は最近若手の補強が進み、チーム力も上がっています。初戦を落としてしまったので、二部への昇格は無くなりましたがこちらも意地があります。三部で二敗だけはどうしても避けたいところ。

次の布陣は、六條勝・六條洋・敦賀・近

藤・山名。この大会は最高段位が大将という制限があり、山名が六段になってからはこの二刀を戦略に使えないのが不利であります。

先鋒・六條は持ち前の積極さを取り戻して、果敢な攻めから豪快な面を奪うが、惜しくも小手を返され、敢え無く引き分け。続く兄の洋二は最近勝ちに恵まれず、今大会も内容的によくても有効打を奪えず拾われてしまうパターンが多くなっていた。今回も面を打たれ敗退。

ここで、川添の代りに起用した敦賀が気を吐き、気迫で圧倒して手元が浮いたところを小手に切る。いい小手だった。続く近藤は引き分け。

同数で大将戦。山名が有利と見たが、先の気が空回りするとなかなか合気にならない。焦りが溜を無くし、打ちの打ちの合間に動作の隙をうまく攻められ、二本を連取される。

結局、三部優勝は熊本の圧勝で終わった。一次リーグの組み合わせに左右されると言っても、この二敗には非常に悔しい思いをし

ました。この悔しさを決して忘れず、来年の勝利に繋げようと全員で誓って今年の大회는終了しました。

大会を振り返って、小規模県が上位進出を果たすのは簡単ではないということでありますので、本当に目標を達成しようとすると個々の人の取り組み姿勢で決まります。この悔しさを来年の大会まで持続させることで、更に強い精進を重ねることができると信じています。

最後に、「警察特練生頑張れ」とあなたかいご支援を頂いたたくさんの先生方に心からお礼申し上げますと共に、来年の奮起をお約束して大会の報告といたします。

## 平成二十二年昇龍旗争奪 全国選抜少年剣道大会に出場して

永野 みきみ



一月九日、十日、  
十一日と平成二十二年昇龍旗争奪全国選抜少年剣道大会に清風館道場か

ら参加させていただきました。

清風館道場の指導者である久保先生とは、私がスポーツ少年団で全国大会に行った時に私達の監督をしてくださったのがきっかけで、県外のいろいろな所に稽古に連れて行ってくださったりして、たくさんお世話になっている先生です。

今回の大会は、初めて参加させてもらいました。全国規模の大会だと聞いていたので、すごく不安もあったけど、楽しみでもありました。そして、この大会で忘れてはいけないのは「一本勝負」だということでした。

一日目は、合同稽古会がありました。この日は二日目、三日目に向けていろんな技を試そうと思いました。でも、いざ試合が始まると、一本勝負なので相手はどんどん攻めて打ってくるので技を試すどころか、技を出すことも最初の頃はあまりできませんでした。他の選手に比べて、“気迫”や

“打突”の強さなどたくさん負けていて反省しなければいけない所がたくさんありました。チームのみんなは、強いチームと試合するというところで、自分のことで精一杯になっていて、団体ということを意識した試合ができていなかったです。もちろん自分もそうでした。そのことは、先生に言っていただけで気付きませんでした。

だから二日目は団体戦なのでみんなが一丸となって試合をしようと思いました。また、自分から攻めて相手のペースにならないようにしようと思いました。

そして二日目の団体戦は、一回戦目は不戦勝でした。二回戦目の相手は、福岡県の小島道場Aとの対戦でした。試合が始まる前に、私は次鋒なので、「先鋒が勝てば自

分もそれに続いて勝つ。一先鋒が負ければ自分が勝って流れを変える。」と思って試合に臨むことにしました。そして、試合が始まりましたが先鋒は負けてしまいました。相手の先鋒を見たかぎり、強いチームだと思いました。でも私は、「絶対勝つ！」と心の中で言いました。

試合が始まると相手はどんどん打ってくるので受けてばかりになっていました。でも自分が“小手面”を打って、構えた時に相手が“面”を打ってきたところを“出ばな小手”を決めることができました。結果は大将も勝ったけど、中堅と副将が負けました。二二三で負けてしまいました。でも、内容は良かったと先生は言ってくれました。自分も良かったと思いました。また、団体戦の大事な所を知ることができました。

そして最後の三日目は、個人戦でした。一回戦目は落ち着いた試合ができ、勝つことができました。二回戦目は、気迫やいろんなことで少し相手に押されていました。“小手”が一本惜しいのがあったけど、決

めることができませんでした。そしてそのまま延長になりました。そこで自分が何気なく面を打ってしまい、“返し胴”を打たれてしまいました。惜しかった“小手”を決めていれば勝っていたので、すごく悔しかったです。何気なく打ってしまったことをすごく反省しました。

私の目標は、団体・個人とも全中に行くことです。その目標に向けてこれからは、打った技は惜しいだけで終わらずに絶対に決められるように心がけたいと思います。

この大会に参加して、自分が反省しなければいけない点をたくさん見つけられたこと、また、すごく良い経験をする事ができたことが本当に良かったと思いました。今回の大会では、すごく貴重な経験をさせていただいた久保先生、また保護者の方々本当にありがとうございました。

## 昇龍旗に参加して

徳島清風館道場 杉本 純

昇龍旗は今回で二回目の参加でした。前は、三日目の個人戦のみの参加でした。今回は一日目の稽古会、二日目の団体戦、三日目の個人戦と三日間参加しました。

一日目の稽古会で一九チームと練習試合をしました。この大会は一本勝負なので練習試合も一本勝負でした。はじめのうちは一本勝負という意識があまりありませんでした。しかし、何試合目かで初太刀でいられ試合がすぐに終了したことに一本勝負の怖さを知りました。それからは無我夢中で一本をとりにいきました。

二日目の団体戦、一回戦は不戦勝で二回戦の対小島道場戦が初戦となりました。小島道場は福岡の強豪で副将まででチームの負けが決まってしまうました。チームの負けは決まってしまうけれど、大将には勝ちたいと思いました。危ない場面がいくつもありましたが、ここで勝つのが大将の役

目だと思い必死で戦いました。苦戦しましたが、何とか面をとることができました。大将に勝つことができたが、チームで勝て無かったことが残念でした。

三日目の個人戦は前回一回戦で負けたので今回は一回戦は突破しようと思っていきました。人数が多く僕の試合は七十一試合目でした。そして僕の番がきました。初太刀



から相手に攻められ少しあせり気味になってしまいました。その時に小手をはずしてしまい面を打たれてしまいました。一本勝負なのでそこで試合が終わりました。あっけなく終わってしまったのでとても悔しく思いました。

この三日間の試合を通して、一本勝負だからこそ勝てた試合、一本勝負だからこそ



負けた試合がもう、一丈の大切さを学びました。また、どの選手も竹刀の振りが速く、なにより攻めに気迫がこもっていると思いました。さらに、徳島にはいないタイプの選手と試合ができ、勉強になりました。これからは県外の選手のような気迫のこもった攻めができるように、日々の稽古を一生懸命しようと思います。そして、いつかその人達と全国の舞台で戦いたいと思います。



## 平成二十一年度

### 徳島県高齢剣友会活動状況

事務局長 笠 井 勝



徳島県高齢剣友会は、遠藤一美会長のもと、八十七名の会員（平成二十一年四月現在）

で活動を進めてきた。

平成二十一年度は、主な行事として次の活動を実施した。

- （四月）
  - ・第二十四回徳島県高齢者剣道交流大会開催

- ・第二十一回土佐生涯剣友会交流大会参加

（六月）

- ・第三十一回全日本高齢者武道大会参加

（七月）

- ・西部地区稽古会開催（阿波市）

（九月）

- ・第二十二回全国健康福祉祭北海道・札幌大会（ねんりんピック北海道・札幌二〇〇九剣道交流大会）参加

- ・第十五回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（二〇〇九とくしまねんりんピック）開催

（十二月）

- ・南部地区稽古会開催（阿南市）（毎月）

（毎月）

- ・原則として、第二、第四土曜日の午後二時から、松茂町第二体育館他で、定例の稽古会を開催

例の稽古会を開催

以上の行事の内、「第二十一回土佐生涯剣友会交流大会」、「第二十二回全国健康福祉祭北海道・札幌大会（ねんりんピック北海道・札幌二〇〇九剣道交流大会）」については、直接関係する会員の先生からご報告いただくこととして、その他の活動について事務局の方から報告することとした。

#### ◎第二十四回徳島県高齢者剣道交流大会

平成二十一年四月十九日（日）午前九時から県立中央武道館で実施

開会式の後、日本剣道形が、打太刀・鎌

十六段久次米繁興先生、仕太刀・五段谷博先生により行われ、その後例年行われていた団体戦・個人戦は、参加選手の増加により多くの時間を要すること、高齢剣友会総会に時間をかけて内容を充実させる必要があったことから中止することとした。

そのため今年からは、三十五名の参加選手を年代順に二分して、紅白戦を実施することとした。

試合結果は、紅組三勝（七本）白組八勝（十三本）で白組の勝利となった。

紅白戦が終了した後、徳島県高齢剣友会総会が開催され、平成二十年度の事業報告及び会計収支決算報告並びに会計監査報告がなされ、続いて、平成二十一年度事業計画案及び同予算案が審議され了承された。

午後からは、全日本高齢剣友会（高崎慶男、橋本保治、支倉真人）の三名の先生方、愛媛県六十路会（片岡美光、三好耕二、岡本幸雄、川村博昭、向井健司、水野晴彦、戸梶巖、馬越博、浅野昭典、後藤辰雄）の十名の先生方、土佐生涯剣友会（横山大道、橋田速生、蛟島重雄、友永隆雄、戸田七夫、

栗尾博義、橋本正視、中野金夫、山本進、大久保正生)の十名の先生方、兵庫阪神剣友会(伊澤章、北二郎、岡本浩、岡本洋子)の四名の先生方の参加を得て、親善交流試合を実施した。

試合結果

土佐生涯剣友会 対 徳島県高齢剣友会A

二勝(三本) 三勝(三本)

愛媛県六十路会 対 徳島県高齢剣友会B

七勝(十四本) 二勝(四本)

全日本・兵庫阪神 対 徳島県高齢剣友会C

五勝(十本) 二勝(四本)

親善試合後、全参加者による合同稽古を実施して、お互いに良い汗を流した。

本県会員による試合だけでなく、全日本愛媛、土佐、兵庫阪神の各先生方との親善試合・合同稽古も行うことが出来、大変実りの多い一日となった。

午後六時からの第二道場は、ホテルグランドパレス徳島において懇親会が開催され、全日本、愛媛、土佐、兵庫阪神、徳島の高齢剣士三十五名が杯を片手にして剣道談議に花を咲かせた。



第24回徳島県高齢者剣道大会 H21年4月19日

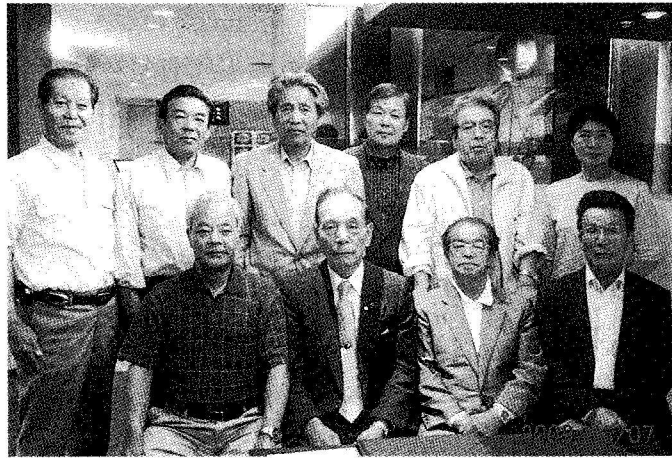
◎第二十一回土佐生涯剣友会交流大会

平成二十一年四月二十五日(土)午前九時から高知県立武道館において、土佐生涯剣友会の第二十一回大会が開催され、徳島県高齢剣友会から、糸谷文雄、川田武志、中村稔裕、三木毅、佐野博志、谷博、日野利之、松浦武信の各先生方との小生の九名が参加するため、高知県へ向かう道中において、小生運転の車が側壁に衝突する交通事故を起こしてしまった。幸いに人身には大過なかったが、大会参加は中止することになった。別便で高知県へ向かった中村稔裕先生のみが大会に参加していただいたので、別稿をお願いした。

◎第三十一回全日本高齢者武道大会

平成二十一年六月八日(月)午前九時から日本武道館において、剣道、銃剣道、なぎなたの三武道大会が開催された。

徳島県からは、剣道の部に徳島県高齢剣友会会長遠藤一美先生が寿B組(八十歳から八十四歳)、中山啓男先生が特組(七十五歳から七十九歳)、有賀秀敏先生がA組(七十歳から七十四歳)、高島稔之、泊利治、



第31回全日本高齢者武道大会 H21年6月8日

三木毅の各先生方、及び小生がB組（六十五歳から六十九歳）、三木弘子先生がC組（五十五歳から六十四歳）の個人戦にそれぞれ出場した。

個人戦は、四名一組のリーグ戦で二試合行い、成績の良い選手が決勝トーナメントに進出して、決勝を争うという方式である。平成十九年からは、団体戦も実施されるようになり、全国から十四チームが出場し

た。

団体戦は、大将七十七歳以上、副将七十五歳以上、中堅七十歳以上、次鋒六十五歳以上、先鋒五十五歳以上という年齢制限が付いている。

本県は、大将・遠藤一美、副将・中山啓男、中堅・川田武志、次鋒・泊利治の各先生方と、先鋒・小生のメンバーで出場した。

トーナメント第一回戦は、千葉県チームと対戦し、一勝〇敗で勝利した。第二回戦は、埼玉県チームと対戦し、〇勝四敗で敗退した。

個人戦では、高島先生と遠藤先生が、それぞれの部門で決勝トーナメントに進出し、遠藤先生は寿B組で優勝した。

遠藤先生は、予選リーグで二勝したが、他にも二勝者があり、リーグ決勝を行い一本勝ちで決勝トーナメントに進んだ。

十三名による決勝トーナメントでも勝ち進み、秋田県の今選手と決勝戦になり、コテの一本勝ちで優勝した。ちなみに、遠藤先生はこの全国高齢者武道大会では四度目の優勝であった。

その直後に、内閣総理大臣賞をかけて寿

A組の優勝者、東京都の谷口選手と対戦し、相手の二刀流を凌いで優位に試合を進めていたが、延長戦となり一本で惜敗した。

#### ◎西部地区稽古会（阿波市）

平成二十一年七月十一日（土）午後二時から阿波中学校校体育館剣道場において、県剣道連盟阿波支部長中尾誠先生のお世話で、西部地区稽古会を実施した。

稽古会には、高齢剣友会及び、地元阿波支部会員の先生方を合わせて三十八名が集い、道場内を一杯に使って、酷暑のなか心地よい汗を流した。

稽古会の後、有志の先生方は、第二道場である土柱ランド新温泉において、剣道談議に花を咲かせた。

#### ◎第十五回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（二〇〇九とくしまねりんピック）

平成二十一年九月二十七日（日）午前九時から松茂町第二体育館において実施した。開会式の後、日本剣道形が、打太刀・教士七段中村稔裕先生、仕太刀・錬士七段沢井勝之先生により行われた。



西部地区稽古会（阿波市）H21年7月11日



第15回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（2009とくしまねりんピック）H21年9月27日

準備運動の後、会員選手三十七名による交流試合が、団体戦・個人戦の順に展開された。

団体戦は、十二チームによりトーナメント戦が行われた。

・優勝：阿南A（北条憲治、福井軍二、遠藤一美）

・二位：徳島A（美馬勝行、高島稔之、勝沼信彦）

・三位：徳島B（中尾正輝、中村稔裕）

・三位：板野西A（兵頭新平、久次米繁興、加納忠義）

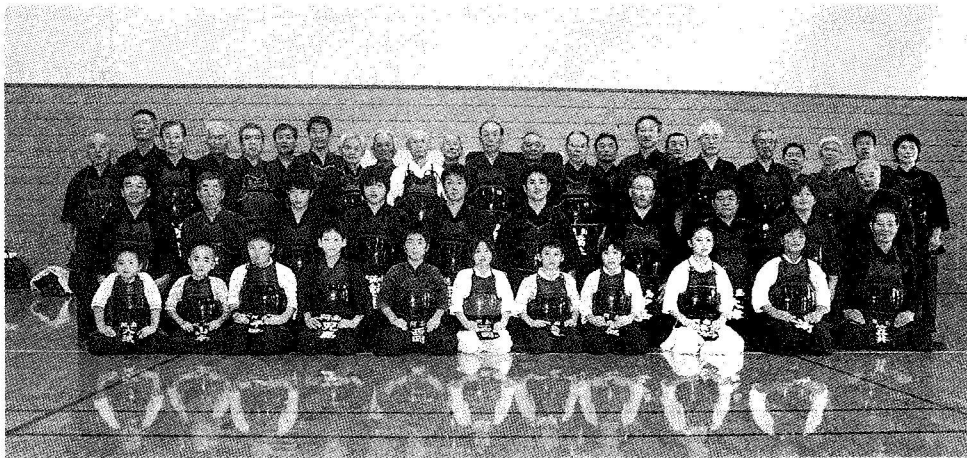
個人戦は、三十一名の選手が年齢別の四グループに別れてトーナメント戦を行った。

〔特組〕優勝（遠藤一美）、二位（糸谷文雄）、三位（勝沼信彦）

〔A組〕優勝（福井軍二）、二位（川田武志）、三位（西岡侃、有賀秀敏）

〔B組〕優勝（中尾正輝）、二位（久次米繁興）、三位（沢井勝之、泊利治）

〔C組〕優勝（北条憲治）、二位（佐野博志）、三位（平正明、別宮憲治）



南部地区稽古会（阿南市）H21年12月12日

◎南部地区稽古会（阿南市）

平成二十一年十二月十二日（土）午後二時から阿南市スポーツ総合センター（サブアリーナ）において南部地区稽古会を実施した。

参加者は、高齢剣友会員並びに阿南支部会員及び、少年・少女剣士合わせて四十四名が参加し、熱気溢れる稽古会となった。

なお、午後六時からの第二道場は、ホテル志な川において、有志参加の懇親会が行われ、年間の反省、更には次年に向けての希望などの剣道談議に花が咲くと共に、のど自慢のカラオケが途切れることなく続き、中でも河田清実八段の特技には、絶賛の拍手が鳴り響いた。

◎定例の稽古会

定例の稽古会は、毎月第二、第四土曜日午後二時から、松茂町第二体育館において実施しており、毎回十数名から二十名前後の会員が参集し、熱心に心技体の向上を目指して稽古が行われた。

## 高知生涯剣友交流

### 大会に参加して

中 村 稔 裕



平成二十一年四月二十五日標記大会が高知県立武道館で開催され参加して参りました。

当日は、未明から激しい雨となり道中の通行止め等の心配があったことから、徳島県選手の主力とは別便にて約一時間早く出発しましたが、主力選手が道中思わぬアクシデントにあい大会欠場となってしまいました。幸いにして大事に至らず安心致しましたが、私一人会場に到着してさてどうしたらよいものかと思案していたところ、高知、愛媛の選手及び関係者から

「是非参加して下さい。一緒にやりましょう。」との暖かい言葉を掛けて頂き、元来剣道が好きな私にとってそれではお言葉に甘えて

という気持ちになり大会に参加させて頂きました。

今回は愛媛県高齢剣友会から十名の選手が参加しており、高知、愛媛、徳島の三県対抗試合を楽しみにしていただけに、徳島県の欠場を大変残念がっておりました。特に高知県は今年のねりんピックで全国優勝を目標に早々と選手団を決定し強化練習をしているとの事でした。

私は、高知県Bチームの副将として参加し愛媛県との試合で（コテ、メン）に二本勝ちをする事が出来ました。

各県共に新人剣士が加入し、和やかな中にも激しく火花を散らす盛大な大会となりました。

試合後約四十分間合同稽古となり、私は高知県のねりんピック選手団及び、愛媛県の先生方にも積極的に稽古をお願いし、充実した稽古をさせて頂きました。

各県共に高齢剣友会が充実しつつあり、来年は香川県にも参加を呼びかけ四国大会にしようとの提言もありました。また座談会の席上ある剣士から

「高齢化社会という言葉がやたらと聞かれる昨今ですが、高齢は年寄りくさくていかん。長寿社会と表現すべきであり、高齢剣から生涯剣にならんといかん。」

人間は一人で死ねません。多くの人達の助けがあって、向こうの世界にたどりつけるのです。多くの人達に好かれるよう日々頑張りましょう。その為に、いつまでも元気に剣を交えながら多くの人造りをしましょう。」

との味わい深い言葉がありました。

私は、いつもまだ六十歳を少し過ぎたばかりとの気持ちでおります。また新たな大会に参加出来る事を楽しみに大会参加報告とさせて頂きます。

## 第二十二回全国健康福祉祭 剣道交流札幌大会に参加して

中尾 正輝



高齢者によるスポーツの祭典「ねりんピック北海  
道・札幌二〇〇九」

が平成二十一年九月五日から七日までの間、道内十六市町で会場に開催されました。

総合開会式は日本ハムファイターズの根拠地である札幌ドームで行われました。ドーム内での打ち上げ花火など、そのスケールの大きさに度肝を抜かれました。

剣道交流大会は、第十一回夏季オリンピック大会の舞台となった、真駒内セキスイハイムアイスアリーナを会場とし試合が行われました。

開始式において、本県剣道連盟会長遠藤一美先生が高齢者賞として北海道知事から特別表彰されました。先生の日頃のご努力

の賜であり、衷心からお慶びを申し上げます。

今回大会において例年との相違点は、協賛イベントとして女子交流大会（四〇チーム一二七名参加）の実施、開始式終了後における、各県代表選手二名と少年剣士との交流指導稽古、（私たちは、札幌市豊平区の「月寒剣道」に所属する少年剣士を中心に稽古をお願いしました。）

更に、参加選手全員による合同稽古が行われ今までになかったすがすがしさが感じられました。従って、試合前における恒例の日本剣道形は実施されませんでした。

また、前夜祭として「交流懇親会」がキリンビール園本館において各都道府県選手団、大会関係者等約五八〇名が参加して開催されました。

ジンギスカンと生ビールをいただきながら、カラオケ、よさこい踊り、北海道盆踊り等々、拝聴しながら全国剣友との触れ合いがもて、心に残る前夜祭でありました。

企画していただいた北海道剣道連盟の関係者の方々にお礼を申し上げる次第であり



徳島県チームの剣士



高齢者特別表彰された遠藤先生



お世話していただいた「月寒剣道教室」の少年剣士達

ます。  
さて、試合は九月六日(日)から予選リーグ戦が開始されました。(参加チームは、各都道府県、政令指定都市の六六チーム)  
本県は、和歌山県、栃木県、名古屋市の第五ブロックに属し、名古屋市、栃木県と対戦しました。特に名古屋市は第十六回徳島大会優勝戦で戦った相手だけに実力伯仲した試合が展開されました。

◎予選リーグ成績表

5ブロック		1	2	3	4	勝数	負数	勝者数	総本数	順位
1	和歌山県		$\frac{4}{3}$		$\frac{3}{2}$	2	0	5	7	1
2	栃木県	$\frac{0}{0}$		$\frac{2}{1}$		0	2	1	2	4
3	徳島県		$\frac{5}{2}$		$\frac{4}{2}$	2	0	4	9	2
4	名古屋市	$\frac{3}{1}$		$\frac{3}{2}$		0	2	3	6	3

予選リーグ成績表及び対戦の結果、決勝トーナメント戦績は次のとおりです。

◎対戦結果

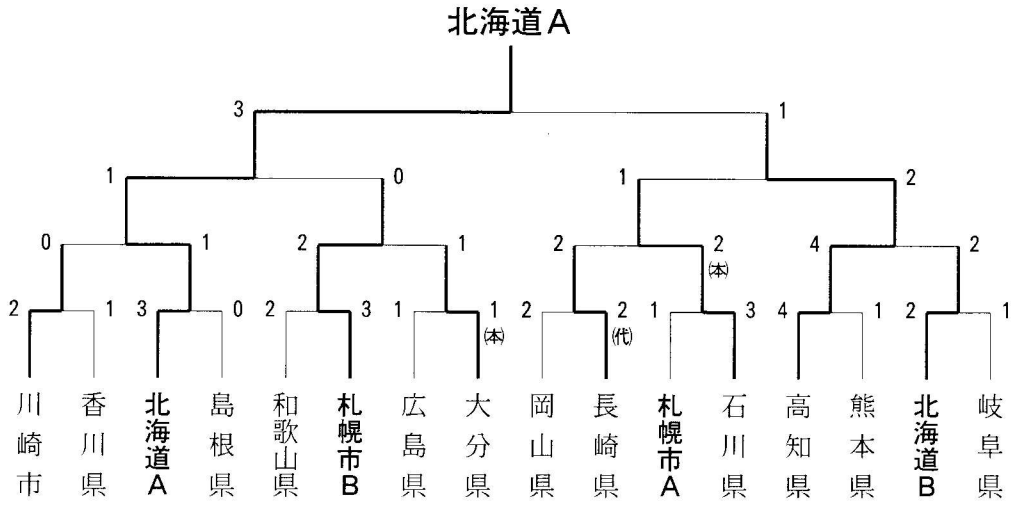
以上のとおり、和歌山県に勝者数一つ及ばず決勝トーナメント進出は阻まれました。

【1回戦】

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	勝本数	勝敗
徳島県	佐野	北條	中尾	川田	遠藤	2勝	4本	○
	⊖⊗	▲▲	⊗⊗	X				
名古屋市	⊗	⊗			⊗	2勝	3本	×
	矢口	森川	木村	北村	上地			

【2回戦】

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	勝本数	勝敗
栃木県	小林	室井	細川	入江	白寄	1勝	2本	×
	X		▲▲		⊗⊗			
徳島県		⊗⊗	⊗⊗		⊖	2勝	5本	○
	佐野	北條	中尾	川田	遠藤			



むすび

第二十二回北海道・札幌大会は、前記したように北海道独自の大企画により終了し事故者なく無事帰県しました。次回大会は、石川県で開催される予定であります。

最後に、本大会出場選手を記しておきます。

- 先鋒 五段 佐野博志 (六十二歳)
- 次鋒 七段 北條憲治 (六十三歳)
- 中堅 七段 中尾正輝 (六十六歳)
- 副将 七段 川田武志 (七十一歳)
- 大将 七段 遠藤一美 (八十四歳)

# 随想

## 道場が無くなる日

大澤 孝 彰

新校舎建設に伴い取り壊される徳島市立高校の武道館で、平成元年卒の剣道部OB（中尾幸雄氏の計画により、剣道部OB（OB会長四期の桑島芳樹氏）や現役員等約五十人が集まり最後の稽古会を開きました。平成二十一年十二月二十七日徳島新聞（二頁）に「最後のけいこ会」と写真入りで大きく掲載してくれました。その際、挨拶がわりに思い出話をさせて頂いたのをここに書かせて頂きます。

私は市立高校には約三十年近く勤めさせて頂きました。剣道の正科授業（一・二年男子のみ八クラス）は一週間八時間二クラス一緒だったので、柔道が約半数なので剣道は一クラス約二〇名として一六〇名

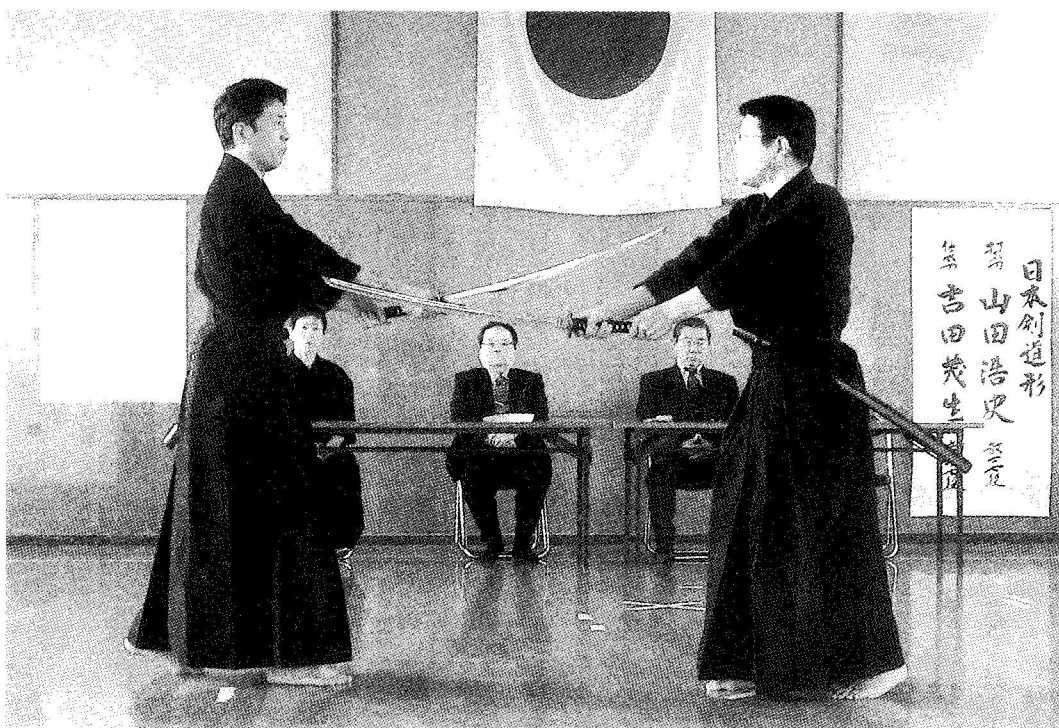
です。から、三十年で約四八〇〇名、剣道部は一学年約一〇名（もっと多いと思います）として三十年で約三〇〇〇名を指導いたしました。この道場が出来る迄は正科も剣道部も卓球場や体育館で実施していました。最初の頃は亡父（善二郎）が剣道部を指導してくれましたので大変良かったのですが、亡父が体調を崩してからは私は徳島錬心館道場の稽古があり、放課後は最も多忙な時間帯と重なり剣道部の皆さんには余り指導が出来なくて申しわけ無かった事、これが唯一の心残りとなっております。しかし、春休み・夏休み・冬休み等で合宿稽古や朝稽古（授業が始まる前）等結構印象に残っている稽古もありました。朝稽古で中尾幸雄氏と二人きりで何度かやった事もありました。

勝浦園芸高校の方も同じ様な形となりました。最も年数は約十年位でしたが、勝浦町地区園芸高校等合せて百段記念大会を実施したのが最も心に残る思い出となりました。

高校生に迷惑を掛けた錬心館道場の方は

だんだんと賑わい、昭和六十年頃はピークで幼年から中学まで一二〇名を越えた人数の時もありました。今思うとほんとうに小さな道場でどうやって稽古を指導したのか不思議に感じています。現在は私が病氣中なので少年部は休部しておりますが一般の部は人数は少ないながら火・木・土と週三回大変熱心に稽古しております。道場の延人数は少年部約七五〇名、一般は約二〇〇名位です。

さて、市高剣道部の成績は皆さん自身の努力によって女子は昭和四十七年の七條晴美さんの時、男子は昭和二十年の吉田茂生さんの年代に県下で優勝して全国大会に出場しております。有段者の数も多く吉永明彦（七期）さん山田浩史・吉田茂生・岡山浩司さんが七段、勝浦園芸高出身の藤田繁さんが六段に合格しております。市高九期の船城明さんは会社勤務と田んぼ作りと大変多忙にもかかわらず、懸命に努力され、銃剣道の徳島県団体選手として数回出場。短剣道の全国大会では三回三位入賞しており、両方錬士六段ですから、剣道五段居合



2009年12月27日 徳島新聞（朝刊）21面

道初段と合せて十八段

と大変お見事です。錬心館道場の方は、一般（中年）から始めた方も含めて一七名の七段六段が生れています。

後になりましたが、

市高剣道部は今年三月迄は本田敦彦先生のほんとうに御熱心な御指導により、男女共いっも県下の上位で大活躍をしております。本田先生に心から感謝申し上げます。四月からは本田先生の後輩にあたる藤崎先生が指導してくれています。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は無理をしない様この道場の最後を楽しんで稽古して下さい。

#### 「参考」

私が面を打たせた数を単純計算してみました。市高正科授業で約四八〇〇名で一本として約二四〇〇〇本。市高剣道部、勝浦園芸高校と錬心館道場ではもっともつと多くびっくりする位の本数になると思います。

#### 「後記」

市高道場開館記念の剣道形は亡父と私が演じました。市高初代校長の柳先生に居合を演じて頂いたと記憶しております。閉館稽古会の剣道形は打太刀山田教士七段・仕太刀吉田教士七段が剣道で一番大事な「合気」の見事な演武をしてくれました。

道場と別れのつらさ

かみしめて

現役OBと笑顔の稽古

## 思い出 徳島市立高武道館

徳島支部 中尾 幸雄



「市高武道館が取り壊されるぞ」平成二十一年八月の剣道部OB会でそのニュースを聞

いた時、私の心に衝撃が走りました。卒業して約二十一年たっていますが、あの高校三年間この武道館の思い出が昨日のように私の頭の中を駆け巡りました。その瞬間、桑島OB会会長に「是非、市高武道館で解体前にOB会をやらせて下さい。」と懇願しました。毎年OB会は八月に開催していますが、現役で剣道をしている者しか参加していないのと、場所の都合で市高武道館でOB会を開催していなかった為、初代OBから今年春に卒業したOBを集め、必ず思い出の市高武道館で最後の稽古会を絶対に実現しようと心に決めました。市高は、昭和三十七年の創立から早いも

ので半世紀近くたち、あの当時県下一モダンな校舎も一番古くなり新校舎の完成の運びになりました。新校舎は、どの教室からも眉山が眺められ、全教室エアコン完備、

深そうで私自身も本当に満足する事が出来ました。

大・中の体育館とは別に、四〇〇人収容の芸術ホールや食堂を備えた芸術棟などがある素晴らしい校舎で平成二十二年一月に完成しました。一月二日の市高同窓会総会で新校舎と新武道館を見学した私は、本当に旧武道館で最後の稽古会を開催出来た事に感謝すると共に、新武道館未来の市高の発展を温かく見守っていかうと決意しました。

最後の稽古会の流れとしては、大澤孝彰先生が昭和四十二年三月の武道館落成式の写真を見せて思い出話をして頂きました。当時、先生の父、大澤善二郎先生と孝彰先生が日本剣道形を盛大に披露されたようです。先生の話に続き、山田浩史先生が打太刀、吉田茂生先生仕太刀による演武を披露しました。落成式から約四十三年、武道館閉館式で孝彰先生の教え子二人が先生の見守る中披露され、私自身この武道館が最高の形で終わる事に感極まりました。多分、他のOBの方も同じ気持ちであったと思います。

話は戻りますが、市高武道館で念願かない平成二十一年十一月二十九日、剣道部OB約五〇人が県内外から集まり、最後の稽古会が盛大に開催されました。市高剣道部を三十年間指導された我が恩師、徳島錬心館長の大澤孝彰先生、手塚十三子先生、本田敦彦先生等歴代の先生方も参加して頂きました。今回のOB会の目的は各OBがもう一度、この武道館の床を踏みしめ高校時代に戻り、今後の人生の活力につなげる事としました。当日はどのOBも閉館に感慨

この後、世代別四チームに分かれ対抗戦。みんな高校時代を思い出しながら竹刀を振り抜き、白熱した戦いを繰り広げました。市高剣道部は昭和四十一年に創部。過去には全国高校総体や国体選手が誕生するなど、有力選手を送り出して来ました。OBやOGには高段位を持つ人も多く、社会生活でも多方面で多くの方が御活躍されてお

ります。

私自身の話になりますが、この武道館での思い出は、三年間大澤孝彰先生に本当に厳しく稽古を付けて頂いた事です。一時期、部員不足で先生と二人で長時間、稽古を付けて頂いた事が今の私を支えてくれています。今でも私は徳島錬心館で先生の御指導の元、厳しい稽古を指導して頂いております。また三年生になった頃、手塚十三子先生も市高に赴任され厳しく稽古付けて頂いた事も忘れません。当時は、稽古前に沖洲の浜で走り込みや、道場でウエイトトレーニングをした事も大きな思い出です。

また三歳違いの吉田茂生先輩には、仕事の合間によく剣道部の稽古を指導して頂いた事も思い出です。

このような素晴らしい恩師、先輩、仲間たちがいたからこそ今の私があります。この場をおかりし、あらためて感謝致します。

今後、新校舎が追い風となり市高人気は益々高まると思います。これと同時に新武道館で剣道部が、更に発展し、もう一度強い市高剣道部復活を期待したいと思います。

沖洲川の辺にあるこの美しい武道館、平

成二十一年十二月で閉館となり平成二十二年一月には取り壊されますが、この最後の稽古会での盛り上がりを必ず新武道館に継承し、市立高校剣道部の発展に繋げたいと思います。

今回は何としても本県剣道界の方々に市高剣道部の偉大さをお伝えしたく、報告させて頂きました。小中学生の皆さん、この素晴らしい新道場、校舎で学び新しい市高剣道部の歴史を造っていきましょうか。

「市高剣道部バンザイ!!」

# 遍路ころがし

徳島支部 中尾 正輝



四国八十八カ所  
第十一番札所（藤井寺）から第十二番札所焼山寺まで  
一二・三キロメートルには、六カ所の難所がある。遍路ころがしという。

私は、平成二十一年この難所に二度にわたり挑戦した。二回とも本県警察学校初任科程に在学する警察官の「焼山寺耐歩訓練」に同行したものである。初度は、梅雨まだ開けぬ七月十七日、第二回日は、紅葉真っ盛りの十一月三十日であった。

この遍路みちに挑戦した理由は、まんねり化した現在の自分のあり様について自己を見直す良い機会である。何かを得たい、得られるはずだ。

剣道の理念である「剣の理法の修練による人間形成の道（基盤）」に関係なきや、

今後の剣道修行に何らかの参考にしたいという思いからであった。

一回目は、不安であった。いろいろな人達から情報を収集した。相対に厳しい遍路道であるという結論に至った。

いよいよ第一回目決行の朝がきた、例年になく長くつづく梅雨、十一番札所出発時には降雨となる。同行者は、血気盛んな二十歳前後の若者達である。高齢者のわたしは、隊列から大きく後退する。いつの間にか一人歩きのお遍路となる。険しく厳しい遍路ころがし、降り続く雨の中ただ一人ひたすら焼山寺を目指し一歩また一歩と進める。山道の木々に結わえられた小さな札に励まされる。

これまで歩んできた、剣道修練がこの一歩を大切にしたいか、飛び越えはしなかったか反省する。そしてこれからも一歩を大切にしよう、一歩から学ぶことができた。

午後一時、五時間三十分ほどで目的地に到着した。焼山寺では、笠井住職から「人を大事にすること。それが巡り巡って自分に返ってくる。そうすれば世の中みんなが

幸せになる。」といった内容の講話を拝聴した。

遍路文化を通じて、剣道と違った心身ともに鍛練できた貴重な体験であった。



同行者（警察学校の若者達）

## その一言で

丹生谷支部 富田 正



剣道を始めて、

はや四〇数年が過ぎて  
いる。その間、

剣道を通して恩師  
や先輩・同僚・教

え子などいろいろな人との出会いや関わりがあった。楽しいときや嬉しいとき、悲しいときや辛いとき、時には励まされたり、励ましたり、また、厳しくあたるなど、反省しかりのことも多くあったように思う。十人いれば十通りの、百人いれば百通りの生き方や考え方があつた。人は人生の中で、時々においてその生き方や考え方が指針となるきっかけがある。剣道を始めたきっかけ、高校学校を選んだきっかけ、職業を決めたきっかけ等々。それが、人の生き方に影響されたり、ことばであつたり、読み物であつたり、様々である。そんなことを考へながら思うままに書いてみた。

まず、私が剣道を始めたきっかけは、小学校六年生の時である。その春、大学を卒業したばかりの若い先生が赴任してきた。六年生の担任となったその先生は、ある日「君たちは剣道というものを知っているか。」と、柔道や相撲は聞いたことや見たことはあつたものの、「剣道」という競技をまったく知らなかった。丹生谷地方（那賀郡内）といえば、「誰もが剣道を知っているのが当たり前」と思っている人は多いと思われるが、その当時、私たちの地域には剣道をしているものは誰ひとりなく、その存在すら知らなかったのである。実は、それ以上に山間へき地に位置するため、他校との交流もほとんどなく、情報もなかったということである。ちなみに当時、へき地三級といえ、県南部に三校ありその一つ（沢谷小学校川成分校・現在廃校）であつた。その先生は、「剣道は時代劇でやるチャンバラのようなもので、ただ、（短い棒のようなもので）このように中心をとって構える」と、あんなに刀を振り回す必要がないし、簡単に打たれることもない。」と、私は

「そんなことはないだろう。」と軽く考えていたが案の定、怖くてどこからも打つていくことができなかったように記憶している。その後、先生から「みんな、だまされたと思つて剣道をやってみないか。」というその一言が、剣道をやり始めたきっかけである。小学校時の活動については、私の剣道の最初の恩師「高島稔之先生（元城西中学校長）」が『徳島の剣道第十九号』の「思い出の一枚」の欄に投稿している。その文章の中にも書かれているが、学校の裏山にある青竹を切つて、物打ちと柄を分けるためにビニールテープを巻き、それを竹刀のかわりに、基本動作（素振り・面打ち）を何ヶ月も繰り返し練習していた。それでも、初めての経験ばかりだったので、楽しく練習に参加することができた。

中学校では、どういうわけか、小学校から中学校（木沢中学校・現在休校）に高島先生が赴任してきた。そして、初めて剣道部を作り、私たち（分校の生徒が中心）が第一期生の剣道部員として活動を開始したのである。その夏、一年後輩のK君が夏の

郡大会で優勝し、さらに県総体個人戦（一年生の部）においても優勝、これが、この中学校における剣道部での、県下大会における唯一の実績である。実は、この時のも一つの出来事がある。当時、徳島へ行くためには、自宅から四時間近く掛かり、定期バスの利用しかなかった。そこで、私とK君の二人は、徳島市内にある先生の自宅へ宿泊させていただくことになった。午後に着すると、そこには先生の祖父がおり、私たちを迎えてくれた。緊張していたもの子どもなりの挨拶（自分でそう思っていた）を済ませ、ゆっくり休むことができた。そして、翌日の大会（ちなみに私は応援で参加）も終わり、K君の優勝をおみやげに無事に家路に着くことができた。ところが、しばらくたったある日、先生から「実は、祖父からこんな話があった。」と、それは「あの子たちは礼儀ができていない。」という一言であった。これは、「剣道している者は、特に礼儀をきちんとできなければだめだ。」ということであったのだろうと思う。私自身それまで他人の家に宿泊するこ

ともほとんどなく、礼儀の何たるかもわからないまま過ごしてきたように思う。先生には申し訳ない気持ちと、どうあるべきだったのかをしばらく考えたことがある。今でも、時と場に応じたきちんとした礼儀はなかなかできないが、おおいに反省させられた出来事であった。のちに理解できたことだが、その先生の祖父というのは、現徳島中央武道館剣道場前にある写真「故 高島栄吉先生（範士八段）」のことである。高等学校では、高校三年生になった夏（昭和四十六年八月）に、徳島で初めてのインターハイが開催された。高校入学（富岡西高校）へのきっかけは、「剣道部があり、熱心に取り組んでいる。」ということからであるが、入学後に一年生の強化大会や近隣の遠征等があり、その中で、徳島でインターハイというものがあると知り得た訳である。地元開催ということで、第二代表まで出場することができ、私たちのチームも運良く出場することができた。地元の期待を一心に受け、頑張ったつもりであるが、予選敗退という残念な結果で終わった。

予選リーグは国士館高校・近大付属高校・我が高の三校であった。ところが、三校がもつれ、近大付属高校と我が高が同点となり、代表戦での決着となった。三年生ということもあり、流れの中で私が指名され勝負に挑んだが、面を先取されあえなく敗退。代表戦後、監督は何も言わなかったが、近くにいた某部長の口から「○○君を出していた方がよかったかな。」という一言。予選突破の夢も破れ、みんなには本当に申し訳ない気持ちで一杯であったので、その一言はきつかった。その時の悔しさは今も鮮明に覚えている。某部長も地元開催ということで、「よほど勝ってほしかったのだらう。」と後で思い直したが……。しかし、逆にその一言が、「このままでは終われない。」「この先も剣道を続けてみよう。」と思ったきっかけの一つであったことはまちがいない。当時の監督「松本一城先生（武専卒）」は、大変温厚で、負け試合でもほとんど叱責することはなく、生徒の個性を大切にするような人であったように思う。その指導のお陰で、三年間伸び伸びと剣道

をすることができた。そして、高校時代に巡り会えた素晴らしい先輩や同僚・後輩たちとのつながりが、将来において剣道に関われる職業に就こうとしたきっかけでもある。

それまでも、また、大学時代や教員になってからも、時々の「その一言」で人間として成長させてくれたことがたくさんあった。そのことは、次の機会としたい。

現在、今の職業に就き、気ままに剣道を続けられるのは、家族はもちろん、これまでに出会った人や関わってきた人たちのお陰であると強く感じている。感謝、感謝。

その一言

その一言で、励まされ

その一言で、夢を持ち

その一言で、腹が立ち

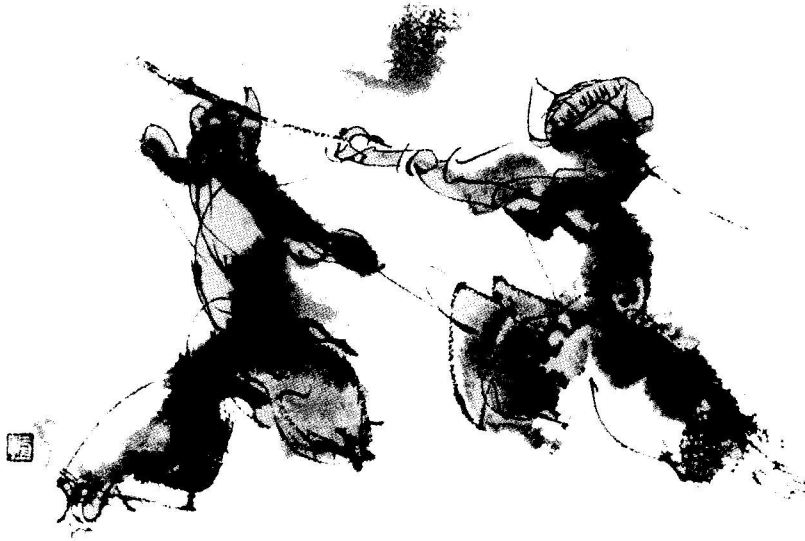
その一言で、泣かされる

ほんのわずかな、一言が

不思議に大きな、力を持つ

ほんのちよっとの一言で。

(道灌山園長 高橋啓吾)



# 審査部長を退任して

中村 稔 裕



平成二十一年三月三十一日をもって審査部長を退任致しました。前任者の柏原浩先生の

後任として十年余審査部長をさせて頂き、その間絶大な御協力を賜り今回無事退任する事が出来ました。県剣道連盟会長様をはじめ、審査員の先生方、及び各関係支部の皆様方に厚く御礼申し上げます。

さて、剣道を修業する者にとっては昇級、昇段の審査運営を一度は経験してもらいたいものですが、審査には二つの意味があります。

一点目  
各級位、段位を適正に審査判断する事によって剣道の向上発展を期すること。

二点目  
剣道を奨励すること。

審査の本義は第一点目にあります。

一方受験する者にとって審査は、

一、これまで練磨してきた力量の度合を確認すること。

二、それぞれの級位、段位に向って練磨の目標を作ること。

にあります。しかし、審査は数十秒から二分という極めて短時間内にこれまで練磨してきた最高の演武をしなければならず、あらゆる試験の中で最も難しい試験と言っても過言でないと思います。受験にあたって皆さんはそれぞれに工夫し、勉強し、稽古を重ねておられると思いますが、審査部長としての体験から心構え等を少し申し上げたいと思います。

## 一、稽古の取り組み方について

(ア) 高段者の試合、大きな大会の試合を見る事により、気攻め、竹刀の操作・技の勉強をします。特に解説者の講評を見聞すること。

(イ) 高段者（上手）に対し掛る稽古を積極的にに行い、気攻め、間合いを勉強すること。

(ウ) 稽古終了後には必ず稽古を頂いた先生から講評を頂き、今後の練習の課題を見つけること。

特に、級位から三段までの受験者の中で間合が全くわからず、ただやみくもに息も絶々になる程掛稽古の如く打って出る人が見られますが、これでは審査にあたる先生方は何を見ていいのかわかりません。一本一本の技を大切に気剣体の一致した打突をしっかり勉強して審査に臨んで欲しいと思います。特に小中学生を指導される先生方もその点を十分に注意し受験させて欲しいと思います。

次に四〜五段の受験についてであります。六〜七段審査に劣らぬ難関だと言う声をよく聞きます。審査を担当する側から見ると一番に気付くのが受験者の稽古不足です。ただ外見にこだわり過ぎている感があります。堂々と、のびのびとした剣道をして欲しいものです。四〜五段は指導者の立場になり、正しい剣道を伝承していく役割を果たさねばなりません。その点自覚して欲しいものです。

## 二、審査場での心構え

端正な着装、節度ある礼法は最も基本的な事ですが、審査に入る前から気持を充実させておく必要があります。審査が開始され、立会の「始め！」の合図を受けてからやおら気合いを入れ動き出す状況にあります。大半の人がこの状況にあり、緊迫感が感じられません。審査は極短時間で終了します。入場時から激しく火花を散らす気迫あふれる演武をしたいものです。

次に県下の審査状況についてであります。六、七段については全国的に非常に厳しい合格率であります。しかし、本県の合格率は高く、全国と同等の成績を納めていきます。これは受験者各位が審査の厳しさを十分に認識し稽古に励まれている証拠だと思えます。

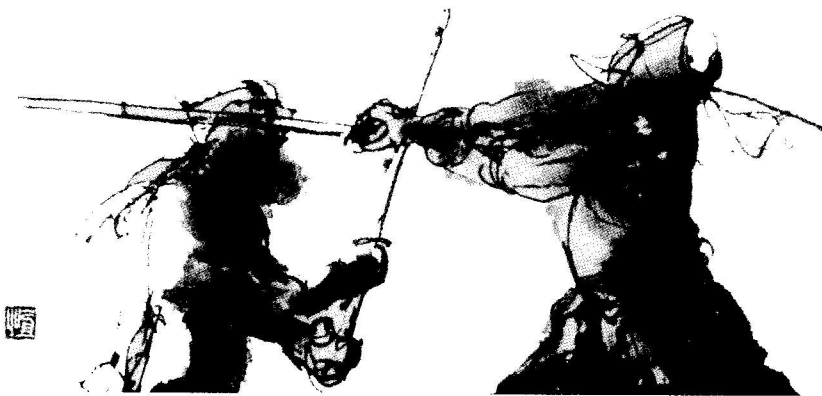
一方、最近の少子化は少年剣士の減少にも著しいものがあり、平成十五年をピークにその後右肩下がりの減少に歯止めが加からず減少の一途をたどっており、誠に心細い限りです。

新聞報道によると、山間部、県西部にお

いて児童数の減少による小中学校の統廃合の止むなくに至る地域が多く、又、クラブ活動においても部員数の少ない部の廃止と言った現象が出ております。

又一方では、中学校の武道の必修化という事も具体化しつつあります。これに対する指導者等検討課題も多くありますが、青少年の健全育成のため剣道が益々発展充実したものになる事を願っております。

最後に、審査を担当する先生方は受験者を不合格にするのが仕事ではありません。受験者個々の良い所をより多く見つけ出し、より多くの人が合格出来るように心掛けて審査しております。受験にあたっては指導される先生方の注意を素直に聞き、一〇〇パーセントの力を発揮出来る事を切望し、御礼の言葉と致します。



# 剣居一体の出会い

伊賀 雅人

## 一、居合道の出会い

昭和四十五年頃の徳島農業高校（現城西高校）の職員室で、故下村富夫先生に「伊賀君これ見てみい」と差し出され、拝見したのが居合道七段の証書であったのです。その時私は徳島農業高校に奉職し、御指導を受けておりました。下村先生の居合は、時折道場で日本刀を抜くのを拝見したり、三年生を送る予餞会の時に拝見したりしており、先生が刀を抜かれることは知っており、その静かで優雅な、しかも豪快な舞と思える静と動の日本刀の取り扱いにいつも感嘆していたものです。この下村先生の居合道七段の昇段証書を拝見したときに、先生は剣道も七段であり県下屈指の剣豪であることは理解しておりましたが、この証書は、下村先生が居合道でも第一人者だと感じる一瞬でありました。おそらくそ

のことが、後年の全日本剣道連盟の提唱する「剣居一体」であったのだと、現在になり気付かされる出来事となりました。その後下村先生は転出され、私の居合道の思いは遠ざかっておりましたが、正月になると「居合道の初稽古」としてNHKで放映されており、気に掛かるようになっておりました。何回か目にする内に一度見に行ってみようという気持ちになり、無双神伝居合の山田新六郎先生の道場（青少年センター）へ足を運んだりしましたが、踏み切れないでおりました。

## 二、居合道への入り口

下村先生の後任に塩田善治先生（下村先生後輩）が剣道専門の指導者として赴任し、当の私は剣道にのめり込んでおりました。

徳農剣道部の夏季合宿は阿波の体育センターでよく実施され、宿舎は笠井選先生の外科病院の病室や公民館が我々の宿舎であり、徳大医学部の学生は離れの間を宿舎にして、共に合宿しておりました。毎晩、先生の奥様の手料理を頂戴し、剣道論議が

尽きませんでした。笠井先生の数々の名刀を拝見している内に居合の話となり、脇町の滝下勝先生の道場に通われている事を知り、居合道への想いに火が付いたように思います。幸いにも塩田先生の脇町高校の恩師でもあるということで、滝下先生の御自宅道場にお邪魔し、しばらく塩田先生と共に滝下先生に御指導を頂くようになったのです。

## 三、高校居合クラブの誕生

昭和四十五年の学習指導要領の改訂で、高等学校ではクラブ活動の必修化が実施されることになりました。週に一時間、全員が何らかのクラブ活動に所属して活動するのは、クラブ活動が実施されるようになります。剣道クラブも設置され、剣道は剣道部の部活動の延長ではなく、新たに居合を取り入れようということになりました。私も塩田先生も習い始めであり、生徒と共にやるということで実施する運びになったのです。剣道部の生徒については半ば強制的に入らせ、中には居合に興味がある生徒も多

数入ってきました。剣道部の佐藤佳宏君（現剣道連盟理事・剣道教士七段）・岩本一彦君（剣道六段）等は二段にまで昇段しており、多くの有段者が徳農居合クラブより誕生しているのです。しかし、残念ながら剣道と居合道の両立をしている者はいなく、寂しい思いをしております。

#### 四、その後の私の居合道修業

私の居合修業は自宅北島町から協町までの四〇キロはずいぶん遠いため大変な修業でありました。その後いろんな情報が入り、鴨島町の平尾勝美先生（現徳島県剣道連盟顧問・居合道範士八段・剣道教士七段）が、公民館で指導されているというのを聞き見学に参りました。聞けば徳農の大先輩ということでもあり、早速入門をお願いしました。次の週に道具を持参したところ、五本抜いてみなさいとのことであり、たどたどしく抜かせて頂き入門が許可されたのです。当時私の兄弟子には吉岡修一先生（現徳島県剣道連盟理事・居合道教士七段・剣道錬士六段）や岸田光博先生（居合道教士

七段）等が居て、先輩一〇名余りで実施されていきました。他にも吉野道場でも実施され、合計二〇名以上の者が所属していたように思います。後に鴨島町に武道館徹心道場が開設され、相当広くなり分散して練習していた会員が一堂に会すると、四〇名余りの大世帯で活動するようになったのです。

私は昭和五十三年に居合道二段の受験が許されたのですが、確か先輩は三段受験であったと記憶するのです。しかし継続は力なりとよく言われたもので、現在に至っては実に二十三年の開きとなって現れているのです。

#### 五、北島町における制定居合の開始

昭和五十六年第一回北島町少年剣道錬成大会が私の提案で開始され、この大会で制定居合を披露したのが北島町における制定居合の皮切りでありました。以来大会の毎にずっと居合を抜かせて頂き、町内の大会には必ず居合をすることが普通に行われるようになってきたのです。この様なことから居合を修業したいとの希望者があり、平

成：年後半から吉田節雄さんと共に北島北小学校で開始し、大村さんが入門し、その後岡田良人さん等と共に、川人・武田・原田・村上さん等の初心者七名も入門したのです。現在もその流れにある者に、北島ライオンズクラブ大会（北島少年剣道錬成大会を引き継いで実施）や県剣道連盟板野東支部大会の開催の度に、披露をお願いしているものです。私の所では現在では少人数ですが、毎週水曜日に一時間三十分ほどの練習で汗をかいています。居合練習後は手の内や刃筋を確かめるために、各自所蔵の真剣により試し切りを実施しています。この試し切りは手の内や刃筋が正しくなければ、高段者といえども斬ることは難しいと言われます。初心者は最初は刃筋が通っていません。弾かれることが多くありました。回を重ねることで切り込みも良く、左右連続切りもスムーズに運び、現在は片手切りや真横切りを中心に研究をしております。試し切りの機会を多く取り入れることにより、手の内・刃筋・体の運用が良くなり、実践形の居合修業となっていると自負していま

す。その為か、単なる形稽古に終わることなく、毎回切れる居合を実践していますので、充実した練習となり心地よい汗をかいています。

## 六、下村富夫先生遺訓

私は徳農剣友会創部八十周年記念誌（平成七年三月発刊）「落羽松の梢に」の一節で触れていますが、下村富夫先生（元県剣道連盟審議員）が入院され何回かお見舞い上がった時、枕元で私に御示唆頂いたお言葉が有ります。大変重篤な病状にも関わらず『伊賀よ、あんたは剣道が遅れているから居合道をしっかり取り組めよ』とのお言葉を頂戴したのです。下村先生には私の剣道に関わることも力を入れて頂き、高校奉職後は剣道を再開してりましたが、下村先生の御期待にはお応えできておりませんでした。御自身の御闘病の中にも関わらず、この重いお言葉をかけて頂いたのです。私が剣道を再開しているが遅れているので、先に「居合道に力を入れなさい」とのお言葉であったと思うのです。このよう

なお言葉を頂戴した数日後に先生は逝ってしまわれました。しかし、そのお言葉は現在の私には下村先生遺訓となって心の奥深くに刻まれているのです。結果的には御示唆頂いたことが実現はしていなく、剣道・居合道の谷間に揺れて中途半端な修業になっているのが現実です。剣道・居合道と事ある毎にチャレンジをしますが、未だ道半ばとなつています。しかし下村先生の遺訓は私の剣道や居合道の中に活かされていると思つています。この先生の遺訓を胸に今後とも修業を継続していく覚悟です。

## 七、私の修業過程と

### 下村富夫先生・原田勝先生

私の居合道修業を振り返ってみますと、平尾勝美先生の徹心道場には二七キロの道程を十二年間お世話になりました。この間多くの門弟の人達を知る事が出来たことは現在でも大きな宝物です。昭和六十三年には那賀高校勤務となり、木頭村に原田先生がおいでるとの御紹介を頂き、大和錬心館の原田勝先生（現徳島県剣道連盟副会長・居合道範士八段）に入門をお願いしました。

毎週二十キロの山道を大和錬心館に通い、御指導を頂きました。この大和錬心館には私を驚かせる事柄が存在しました。「なんと、道場に下村先生の写真が飾られているではありませんか。」この写真の意味するところは、下村先生が県下一円に武者修行をされ、はるかこの木頭の遠地にも足を運ばれていた証であります。大沢善二郎先生なども親交が深かった証拠でもあり、先生のたどられた足跡であることを理解しました。私にとって、「なんと因縁の深い道場に巡り会ったことか」との強い思いで一杯でありました。練習の度に、「下村先生に見守られている」という充実感と幸福感のある道場となりました。原田先生の練習は、毎日のように錬心館道場で抜かれる修業でありました。びっくりしたのは、なんと原田先生の抜かれている場所の板間には、先生の足の指先の行く位置が刻まれており変色しているのです。御自身の出稽古は高知県との県境にある四つ足峠を越え、土佐の三谷義里範士に師事されており、とてつもない距離を居合道修業に出かけておられ

るのです。私自身も、居合道の多くを御指導頂き、高知大会等にもお供し、県外の大先生にもお会いする機会を作って頂いたり、広い意味での居合道の御指導を頂戴したのです。お陰で昭和六十三年に五段を頂戴することができました。赴任中の平成二年までの三カ年間のこの大和錬心館で御指導を賜ったのです。再び徳島農業高校勤務となりましたが、校務が忙しくまた剣道の方も力を入れるようになり、居合道についてはかつての古巣である徹心道場にも足を運ぶ機会がありませんでした。校務や学校剣道や少年剣道の指導、行事等に追われる生活でありました。居合道修業は一人稽古となり、場がなかなか求められず、結局は剣道中心的な生活となり、剣居一体としての修業には至っておりません。

## 八、剣居一体の勧め

全日本剣道連盟制定居合「制定居合」は「居合を知らない剣道家であってはならない」との趣旨から剣道高段者が流派にこだわることなく習得できるように昭和四十三

年に制定されたものです。居合道の効用については、「居合道の精神・刀法の知識・礼法・姿勢・呼吸・目付・間合い・鞘の内・鯉口の切り方・柄への手のかけ方・抜きつけ・切りつけ・納刀」などについて知る事の効用に繋がると、物の本には書かれています。

また、「剣居一体の理想と現実」について、と題して剣道日本が調査を実施しています。剣道・居合道、共に八段以上の先生方に御意見をお聞きしているのです。大筋で述べられていることは、「直接刀を持って稽古するのが居合である。」居合から得たものを「剣道に活かせば、まさに真剣味のある剣道となる。」「同時に行うべし。」と全員の先生方が述べているのです。「剣道の実力がある程度付いたところで居合を始める」と、進歩が非常に早い、居合は刀の操作を勉強できるからです。」とも述べています。刀の実際の理解については、居合道を学ぶ剣士が各部の機能を含めて本当の刀法が分かるのは、居合道五段から分かる始めるという御意見が圧倒的多数を占めた

が、中には七段位との厳しい意見もあるようです。刀を知る事の効用については、やはり「手の内の冴え、刃筋の感覚など」の効用として挙げられるとされているのです。また「剣居一体の関係について」、手の内から目付、呼吸、斬ること、残心まで同じということであるとも述べられているのです。

## 九、先人の言葉

紙本栄一範士は、先人は「剣道は居合をもって、その根本となす」「昔の武士は、剣術なく居合を専ら習いたり」とも言っている。また、仮想的を相手に刀を用いての修錬は、居合の理合いと気合い、間合いにかなう「剣居一体」の修業でなくてはならないと述べられているのです。

富ヶ原富義範士は、「居合をする人はせめて剣道形を、剣道をする人はせめて制定居合でも出来るようにすれば考え方も変わるのではないか」と提唱されているのです。

## 十、終わりに

現在、徳島県剣道連盟居合道部では富ヶ原富義範士の提唱を実践されています。

「居合をする人はせめて剣道を」と言う言葉述べられていますが、県下居合道講習会時に、日本剣道形をいち早く取り入れ実践されているのです。富ヶ原富義範士の提唱されているお言葉をお借りするとすれば、剣道人として刀を知る事の効用について、「手の内の沓え、刃筋の感覚など」を挙げられています。剣道人として居合道の「制定居合」程度を納めておくことは、剣道における手の内の沓え、刃筋の感覚や姿勢・呼吸・目付・礼法・残心に至るまでの刀法の全てを知る事に繋がります。木刀や竹刀の拵えに対する理解、また刃引きによる剣道形における所作や立居振る舞い、刀その物の取り扱い、鐙の使い方や納刀時の所作が滑らかとなり、剣道形が一味違ってくると思うのです。また剣道の中に居合を取り入れることは、剣道の実践に一味加えることが出来るのではないかと思うのです。

「剣居一体」の提唱は、これらの効用として示唆しているものと私は理解するものです。

「私の剣居一体の出会い」より、実に四十年余りが経過しているのです。下村先生の「剣居一体」の修業をされていたことが最近になって少し理解できる心境にある私であります。私自身、仕事の忙しさに追われ、修業をおろそかにしていたことを深く反省するものです。

いつも故三木只雄範士（元県剣道連盟名誉会長）に言われておりました。「忙しいだけでなく、時間は自分で作るものじゃ、日曜に剣道に行くときはその分仕事を朝早くしておくか、日に日に余分にして時間を作りなはれ」と諭されていたのです。



## 実は恵まれていました

板野西支部 月 岡 陽 市



私が、テレビド  
ラマの影響で、剣  
道を始めたのは、  
小学校五年だった  
と思います。当時

は、町内に剣道教室や道場がなく、剣道を習いたくてもどうしていいかわかりませんでした。

ある日、となりの村で剣道をしていたおじいちゃんがいると聞き、友達三人でおじいちゃんの家に行き剣道を教えてもらえるようにお願いしました。すると、おじいちゃんは、快く引き受けてくれました。それから週に一回程度おじいちゃんの家まで行って教えてもらうようになりました。おじいちゃんの家は、勿論のことですが、道場ではないので練習場所は、家の庭でした。土曜日学校が終わってからおじいちゃんの家に行くと、たんぼから帰ってきてその

まま格好で防具を付けて打ち込み稽古。近所の人からすると滑稽に見えたかも知れません。庭で稽古する関係上、靴を履いて稽古しました。

半年くらいは、防具もなしで、素振りと打ち込み稽古していました。先生曰く、そろそろ防具を付けての稽古をした方がいいと言われました。母にお願いして防具を買ってもらい、形だけは剣道っぽく見えてきました。しかし、庭でする関係上、靴をはいての稽古は変わりませんでした。

それからしばらくして、先生が、『私の息子が青年団の剣道部で剣道教えているから、これからはそちらに行きなさい。』と言われ、青年団の剣道部で教えてもらうようになりました。行ってびっくり！稽古場所は、体育館でも武道館でもなく、町役場の会議室！床はダイル張り……。固くて踏み込み出来ない！やっぱり靴履いての稽古になりました。場所が狭い上に天井に仕切り板があって時々竹刀が仕切り板に当たることもありました。

その後、中学校に入学しましたが、当然

の事ながら部活に剣道部はありません。仕方なく陸上部に入り、昼間は陸上、夜は青年団の稽古に参加して剣道を続けました。そのうち青年団の剣道部で稽古する同級生の仲間も増え、学校に剣道部を作って欲しいと担任の先生にお願いしましたが認められる事はありませんでした。

その年の秋、青年団剣道部の方から、『来年中学校に剣道部が出来るから！頑張れよ！』って言われ、突然で超びっくりしましたが、非常に嬉しかったことをおぼえています。

翌年春に中学校にも剣道部ができ部活でも剣道が出来るようになりました。

当然かも知れませんが、顧問の先生は、剣道未経験でしたので、生徒達で考えたメニューで練習しました。今考えると、単なるチャンバラでしかなかったように思います。

出来立ての部活なので体育館の使用は二日に一回。したがって、練習の半分は、運動場でやりました。勿論、靴はいて……。

その年の五月、まだ試合に出られる状態

ではなかったのですが、大麻比古神社の奉納剣道大会に出場することになりました。

この大会は、境内で行う野試合……。

やっぱり靴！ 違和感はなかったけど……。

高校に入ってからのはちゃんとした武道館がありましたので靴はいて稽古することはなくなりました。

その後、十八歳まで剣道続けて、三十八歳までの二十二年間は剣道から遠ざかっていました。子供に剣道習わせるのをきっかけに私自身も新たな気持ちで子供と一緒に始めました。恥ずかしながら、始まりが靴を履いての剣道でしたので正座の仕方也不知道でした。少年剣道の先生方に正座の仕方からはじまり、極めて基本的なことから子供と一緒に教えていただきました。

今振り返ってみますと、決して恵まれた環境の中で剣道を学ぶことは出来ませんでした。が、剣道の道に導いてくださいましたおじいちゃんこと新開先生、ならびに中学校剣道部の創部に絶大なる力添えいただきました青年団剣道部のみなさんに深く感謝しています。

恵まれない環境？……いやそんな事はな

い！ 八方ふさがりみたいな環境の中で、

始めた剣道でしたが、強く求めて進んで行

くと、どんどん道が開けてきたように思

ます。実は凄く恵まれていたと思います。

今は、設備の整った環境の中で稽古が出来る、勿論裸足で……。また、いろんな先生

方から御指導賜り、非常に恵まれた環境の下で稽古出来ることに感謝しています。

「下手の横好き」ですが、体力、精神力が続く限り剣道を続けて行きたいと思

います。

末筆になりましたが、今まで御指導頂き

ました先生方に心より感謝いたします。ありがとうございました。これからも御迷惑をおかけするかと思いますがよろしくお願

い致します。



## 剣道とともに

鳴門支部 塚原 裕美

昨年の春、新スタートを切りました。それは、中学校教師の道です。この道を夢に見た背景には、多くの素晴らしい方との出会いがあります。鳴門一中時代にお世話になった竹内佳代子先生との出会いは、私が剣道と出会えたきっかけです。当時、迷っていた私に笑顔で声をかけて下さいました。そして数分前に、道場の中から聞こえた迫力のある声の主が先生だということもすぐに分かりました。私たち新入生が見学していると、先輩が先生から御指導を受けていました。こんな体の大きな先輩を小さく見せてしまうくらい、竹内先生の存在は……。先生の笑顔の裏には何か大きなものがある気がしました。私はその大きな何かにいつの間にか惹かれていました。こうして始まった私の剣道時代は、心と、体と、頭を鍛える勉強の過程だと思えます。

高校時代は、藤田さんと藤本さんの同級

生三人で本当に楽しい部活ライフを送っていました。私たちが伸び伸びと剣道を楽しむことができたのは、いつも励まして下さった小延偉公先生のお陰です。その温もりに甘え過ぎていたと思い知ったのが大学時代でした。大学では憧れの上段を執りたいと草間益良夫監督や先輩に掛け合い、半分呆れられつつ始めました。一度、自分から言い出したからには後に引けないし、とにかくやるしかない。毎日大学の稽古について行くので必死でした。周りに迷惑をかけるばかりでした。一年生の時、先輩に連れて行って貰った全国大会（愛知県立武道館）も印象に残っています。私は補員として最後の円陣に加わり、選手で出た同級生が涙するのを見て、もらい泣きました。彼女が言いました。「うちらが四年生になったら、絶対来よね!!」四年生になったら必ず彼女や先輩たちと、この舞台で試合をしたい、そう思いました。しかし、全国大会への切符は掴めずに引退を迎えました。「全国」というこだわりを残したまま私の大学

剣道が終わりました。監督から最後に貰っ

た色紙の「日々残心」の意味を、その時の私はこれからの「全国」にあると考えていたのです。

卒業後、私は県北の中学校へ臨時教員として勤務することになりました。剣道部がなく、柔道部の副顧問をすることになりました。柔道も剣道も同じ武道だからと、保護者の方から柔道着を譲り受け、教師になって初めての生徒たちと柔道を始めました。生徒と組んで技を掛け合い、一緒に体を動かすと多くの元気を貰いました。その夏、彼らの一人が全中出場を果たしました。彼は、私に剣道の話をよく尋ねてくれました。話せるような立派な経験はありませんでしたが、彼にとって前向きになれるようなことを考え、冗談も交えながら話しました。そんな彼は今、大学進学の名門校を選択して将来は、中学校教師になりたいそうです。

採用試験の勉強の中で、なかなか捗らず、教師としての資質も無いように思えて自信がなくなったりとき、剣道のおかげで色々な人と関わることができました。鳴門一中剣道部や徳島大学医歯薬剣道部の方々を始め、

周りの人の支えがあったからこそ、自分の存在がどのようなものであるか、考えることができました。剣道は私の心の支えでした。島田虎之助氏の言葉に「剣は心なり」とあるように、心がもやもやしているときは納得がいく剣道ができません。たくさんのご指導を頂き、稽古で考え、前向きに動くともやもやが少しずつ晴れてきます。自分を見失いそうになったときは、剣道をする<sub>と</sub>落ち着いて自分を見つめられるような気がします。

ここで、私の好きな言葉を紹介します。フランスの小説家でルイ・アラゴン氏の言葉です。「学ぶとは、誠実を胸に刻むこと。教えるとは、ともに希望を語ること。」

意味は、「学ぶ」とは、ずる賢くなることではなく、自分だけ得をすることでもない。他人を見下すことでもなく、陰口を言うことでもない。「教える」とは怒ることではなく、子どもを非難することでもない。これからの時代をともに築いていく仲間の一人として子どもと大人が「時間」と「場所」を共有することである。仲間だからこ

そ、真の知性の大切さを説き、感受性の豊かさについて話し、学問の必要性を伝える。その根底にあるのは希望を語ることである。

現在、担任する学級の子にも大きな可能性が秘められています。黒板にミッキーマウスの落書きをした子が有名なイラストレーターになっているとすれば、彼の勝ちかもしれません。彼らはまだまだ発展途上であり、自分の可能性を模索し続けています。進歩し続ける限り、勝敗は決しない。毎日の生活は、落ち込んだり悩んだりすることばかりです。それでも彼らの一欠片の成長が吹き飛ばしてくれます。

これからも、剣道を通して自分を見つめ、色々な人と関わりを持ち、自分自身も成長させていきたいです。最後になりましたが、県剣道連盟の先生方や中体連剣道専門部の先生方に今後とも、ご指導、ご鞭撻賜りませう。様よろしくお願い申し上げます。



# 称号・段位合格者

## 私の七段審査

三好支部 合田 秀 實

私の普段の稽古場は、週二回の三好支部・川崎少年剣道クラブです。メンバーは、五名の指導者と小・中学生で、基本を中心にした稽古です。しかし、仕事の関係で自分の満足のいく詰めた稽古はなかなかできない状況でした。

七段審査は、平成十六年五月、京都での挑戦をスタートにトータル八回目で合格しました。近年、審査は、非常に難しくなっており、私の思っている通常の立ち合いは到底合格は不可能になっております。

私は、以前の審査を振り返ると「もう少しのところまでできているのだが」とか「今回、良い有効打突があったのになあ」などと、自分で自分を認めるところがあるような、自分に優しい自分勝手な判断をし

ていました。過去の審査では、打ったこと、打てたことに対する安心感、満足感というものに多く気持を奪われていたように思います。

今回の審査にあたっては、三月の県連総会の時に、高田豊先生から一合格するためには、どのような剣道をしなければならぬのか、よく考えてみなさい。何度受けても、全体のイメージを工夫して七段位の立ち合いをしなければ駄目ということ。特に、礼法・立ち上がり・構え・攻め・打ち切り・残心について研究すること。」などの貴重なアドバイスをいただきました。また、池田高校の大先輩であります、中尾正輝先生からは、「合田、攻めが大事ぞ。攻めて、攻めて、攻めまくれ。」との貴重なご助言と激励をいただきました。

さて、審査の日が近づいてきました。週二回の稽古だけでは、身体が剣道に馴染みません。そこで、三好支部の剣道教室の三好町淳志館・山城剣道修練クラブ・三好支部合同稽古会などで稽古に励みました。また、審査の前日には、穴吹の朝稽古で高島



先生、川田先生、中村先生、元木先生に稽古をつけていただきました。

いよいよ、審査当日。立ち合い前には、自分なりにいつもより入念な足さばきの練習をしました。

一人目。徐々に気を丹田に集中していき礼法を行いました。ジックリと気で攻めて

いきながら、間合いを詰めました。するとお相手の構えが崩れました。ここを逃さず初太刀はいつもの自分のメンを思い切って打ちました。その後は打たない辛抱をしながら、構えを崩さないで、終始、攻めて・攻め続けて立合いを終えることができました。

二人目。前後裁断です。前者との立ち合いは頭から振り払い、次のお相手に全力を集中し相対しました。前者へのと同じような形でメンを打つことができました。終始、連続的な気攻めで、自分ではマイペースで立合うことができたように思えました。

徳島県剣道連盟の先生方、三好支部の先生方、剣道教室の子供たち、皆様方のおかげでやっと七段に合格することができました。厚くお礼申し上げます。

今後も、段位に恥じない剣道が出来るよう、健康に留意し、精進してまいりますと考えています。なにとぞよろしくご指導をお願いいたします。

ありがとうございます。

## 「射石飲羽」

### 剣道七段に合格して

阿波支部 一村 昌和



平成四年五月、京都で六段に昇段した。六段審査は初受審であった。

四月末からの連休

で一町歩の田植えを済ませ、京都に向かった。疲労は極限状態であったが、独り重い剣道具を担ぎ、小松島港から船で和歌山港へ、その後は電車を乗り継いでいった。宿泊をお願いしていたお寺に着くと、大先生が布団を敷いてくれていた。申し訳ないと思いつつ、簡単な挨拶を済ませて泥のように寝てしまった。翌日の審査会場でも疲れを癒しながら佇んでいた。対戦者からの挨拶もおおざなりで、礼を失した感もあった。生気のない組みやすい相手と思ったのか、あまり攻め合いもせずに小手を打ってきた。これを大きく抜いて、鉛刀一割に真っ向か

ら面を打つことができた。また、長身を利して出端の面を打つことができた。体が疲れていると、脳も緊張感を麻痺させるのかもしれない。農作業での疲れが余分な力みを排し、合格に導いてくれたと思われる。

平成十年五月、京都で七段に初挑戦した。先をかけて面を打ったが、体当たりを受けて体勢が少し崩れた。合格の可能性を夢見て、虫のいい見で発表を待った。結果は、不合格。剣道の昇段審査で初めて味わう辛酸であった。その後、勤務も多忙となり、また個人的な事情もあって継続しての受審意欲が薄れた。また、六段で上等と想ったり、退職してから気楽に挑戦しようという気持ちになり、受審することなく十年の月日が流れた。

平成二十年になり、西部地区で六・七段の受審者が集まる稽古会への参加を勧められた。これを機に七段への挑戦を再開し、五月に京都で二度目の受審をした。体力的には、同年代の人に負けない自信があった。体も動いて前後の相手に数本の有効打突となるような面が打てたが、一本だけ出小手

を打たれた。結果は、私に小手を打った人が合格した。合格に手が届いていたのか、まだまだ遠いのか複雑な思いで帰路についた。

平成二十一年三月、稽古中に左足の足底筋を痛めた。アキレス腱でなくて一安心したが、すぐに中足部から土踏まずにかけて足の裏が内出血し、赤黒く腫れた。特に、起床直後の一歩は激痛が走り、一日の活動が消極的になった。足の腫れは一カ月あまりで治まったが、違和感が続き、左足を庇いながらの稽古は本調子でなかった。十分な稽古をしないまま名古屋での審査日が近づいてきた。道場の稽古の代わりに、左足の蹴りの弱さを補完する歩行訓練をした。左足は普通の歩幅で、右足の歩幅はタイトル三枚分、約九〇センチメートルになるように大きく踏み出す歩み方を実践した。不安はあったが、あえて樂觀的に「三度目の正直」を信じ、さらに験を担いで稽古着・袴・面紐・竹刀・竹刀袋を直前に新調して審査に備えた。

審査では、相手の礼に応じ、気持ちを落

ち着かせてゆっくりと進み、日本刀を抜くが如く正確に竹刀を抜き合わせ、相手を呑み込むつもりで静々と蹲踞した。開始後、足にも不安があり、積極的に打突を繰り出せず、気の攻め合いだけで終わってもいいという気持ちで対峙した。いつもは、こんなに辛抱することはできないのだが、まさに「怪我の功名」であり、不動の攻めが維持できた。一振りもせずに終了するのかと思われるぐらい時間が経過したとき、相手が動いた。その瞬間を捉えて、歩行訓練どおり右足が即反応し、渾身の力で「コテ」を打っていた。審査員席のすぐ前で、バツクリと決まった。相手は、「初一本」を取られて動揺したのか、残り時間を気にしていたのか焦って出てきたので、そこを「メン」で決めた。

私はAであったので、二組待ってDと立ち会った。この相手にも、同様の立ち会いができ、前にも増しての「コテ」が決まり、その後も打ちに出てくる度に「メン」を的確に捉えることができた。立ち会いの中で相手の竹刀が、私の体に一度も触れること

はなかった。

まさにこの状況を表現する文章に出会ったので紹介したい。日本武道協議会設立三十周年記念に発刊された『日本の武道』（日本武道館編）を本校の図書館で見つけた。その中に記されている「武道の魅力」の章を抜粋したのが、次の一文である。

『武道では、技が繰り出される瞬間の「溜（ため）」と「捨て」がやかましくいわれます。逸る気持ちを抑え、相手の圧力に屈することなく、絶対に後退することなく、満を持して対峙し、機が満ちれば躊躇することなく全身全霊を傾けて技を出すことです。』

『相手に対して正対し、身も心も向き合うことです。攻める気持ちを持って、絶対に退かないことです。つまり相手と自分の関係を最大限濃密なものにすることです。このことが「見事な一本」を創りあげる大前提なのです。』

これで私の「運」は使い果たしたと思われたほど、この文に近い審査の立ち会いができた。歩行訓練が功を奏したのか、限界

まで我慢できたのがよかったのか、無駄な打ち是一本も無く、振り下ろした竹刀が全て相手の小手や面を捉えることができた。

今思えば遡ること四十年、徳島農業高校で下村富夫先生から「おまえは、考えなしに打ってくる。玄関の戸を開けてから打て。」と指導されたことを思い出す。相手の都合も聞かず、玄関が閉まっているにもかかわらず、無理矢理打ち込んでいたのである。よその家を訪問するときは、相手の都合を聞き、玄関で声をかけてノックをし、施錠を解除して扉を開けてもらい、「さあ、どうぞお上がりください」と招き入れてもらうという手順を踏むのが「世間の常識」である。今回の七段昇段審査でようやく「剣道の常識」に触れることができた。奇跡に近い結果であるが、極意と思われる「常識」の定着化を図る稽古をしていきたい。

昇段記念に「一射石飲羽」（せきせきいんう）と揮毫してもらった手拭いを作った。夜中に大きな岩石を虎と思い弓を射たところ、矢羽まで石の中に突き刺さったという逸話による。精神を集中し、強い信念で取

り組めば、どんな難事も成就できるというたとえである。

私にとって七段審査は、超難関の虎に似た大きな岩であり、常識的に考えればいくら石に矢を射ても弾き返されるばかりである。今回の審査では奇跡的に石を貫通し、矢羽まで達した。不可能と思われることも、眼に見えぬ力で実現することは不思議ではない。可能性を信じて行うしかないのである。

七段審査に消極的であった私が合格できたのも多くの剣友（特に西部地区の先生方）からの援助や指導をいただいたお陰である。感謝の気持ちは、稽古を通じて随時お返ししていきたい。

たくさんの方から昇段の祝福と共に、先輩方から「これからの稽古が大事である」と助言をいただいた。この言葉を肝に銘じ、七段に相応しい剣道ができるよう精進するとともに、微力ながら斯道発展に努めていきたい。



## 七段に挑戦して

板野東支部 平 間 幸 信



早朝の名古屋駅に着くと、いつも何度目の名古屋になるのか、六段の

審査で合格した会場であったことから、名古屋はなんとなく落ち着く気がしている。が、初めて七段に挑んだ時は見事に打ち返されて、どのように立会ったのか思い起こせないほどの高ぶりであったことが、思い出される。

サウナで湯につかり、わずかであるが横になりリラックスすることができた。食事後、会場に向かう電車では、審査に挑む多くの同輩が見受けられた、電車を降りると防具を背負った同輩の列に加わって会場に向かう。

会場では午前の部の審査が行われており、多数の受審者でこった返していた。通路いっ

ばいに防具が置かれたり、着替えをする同輩であふれる中、観客席に空席を見つけ落ち着く。

見渡すと近くに、千葉（成田）の道場で稽古を共にしてきた同僚を見付け、しばし近況を報告しあう。同僚は今回が初の挑戦で「様子見だ」などと話していたが、緊張しているのが分かった。このほか顔見知りを見つけ、互いの健闘を誓った後、ロビー

での審査の受付や、場内での受審番号の確認を済ませたが、熱気のこもった混雑は相変わらずであった。受審番号は475C（シナイ・竹刀）と、なんとなく嬉しい番号で記憶に残っている。立会いを待つ間、深呼吸を繰り返し緊張を除くことに専念した。

いよいよ立会いとなり、一人目の立会い者との記憶では、初太刀が相打ちとなるが、二本目は面を、三本目は小手を打って立会いを終え、二人目の立会いでは面と摺りあげ面を打って終えることができた。

立会いを終えて面を外し、立会いを反省してみる。摺りあげ面は幾分深かったが、打たれた記憶はなく、合い気で打ち込めた

こと、気を切らずに立会えたこと、など無心で立ち会えたことは、これまでの一番の出来であった。

自分の立会いが済んで、同僚の立会いを見ると、互いにどんどん打ち合っている姿をみると、初めての審査時の自分を思い出し、非常に参考となった。立会いを終えた同僚に「打ち過ぎ」を注意し、初回の審査の難しさを話合った。

壁に貼られた午後部の部の二回目の実技発表に、475C（竹刀）が一番後ろにあるのを見たとき、「ヤッター！」と体の中で叫んでいた。

引き続き形の審査に臨み、合格の確認をして会場に戻ると、審査も終わり静かな観客席に自分の防具がポツリと残っていたのが印象的であった。時計は十七時三十分を過ぎていた。防具を仕舞いながら、形の審査でペアとなった先生と話をする。ようやく合格することができてやっと安心したと話されていた。私も全く同感であった。審査が遅くなっても合格をいただければ、苦にならないね、などとお互いの健闘を称え

あって会場を後にした。

思い起こせば、息子達が剣道教室へ通い始めて、自分もまた「剣道をやりたい」との思いが強くなり、一般の部に入れてもらったことが始まりであった。

剣道を再開した時に、七段の昇段審査に挑戦できるとは考えてもいなかったし、再開しても二十年近くの空白を埋めることは、難しいと思っていたので、生涯剣道を目標に無理をせず、剣道を楽しみたいと思っていた。が、稽古を続けているうちに五十代で五段を、六十代で六段が受かるような稽古を重ねてみようと、思い始めたことが昇段審査挑戦のきっかけであり、いつの間にか七段にも挑戦していたのである。

千葉で指導して頂いた先生には、六段合格後、牛半可な稽古じゃ七段は無理だよ、と言われていたので、「稽古は休まずに」「短い時間に集中力を高めて」「稽古することを目標に掲げ、審査に臨んできたことが、結果を出せたのであろう」と思っている。

二年前、仕事の関係で徳島に移ってからは、北島・松茂の両剣道教室にお世話にな

り、伊賀先生・川田先生はじめ多くの先生方に稽古を頂き、休まずに稽古ができたことに感謝している。

今回の審査にあたっては、日頃、指導を頂いている伊賀先生から「無駄打ちはしないこと」「溜をもつて打ち切ること」の助言をいただき、立会い中は「打てる」という気持ちと「まだまだ」という気持ちが交差しながらも、我慢の打ちができたのではないかと思っている。

これからも、子供達の指導を続け、健全な心身を育てていくことを課題にし、又、自分を高めるためにも、積極的に講習会や指導者講習会等へ参加し、修得した知識・技量を指導していくことに努力していきたい。



## 念願の七段に

徳島支部 熊澤 信行



平成二十一年八月二十二日、福岡審査で念願の剣道七段に、合格しました。今までの昇

段審査を振り返ると、数回の実技審査では今一步との評価を頂き、努力もせずに自分が勝手に打突し、次回はと受審したが、連続不合格。昇段審査に対しての気構えと努力が足りなかったと思います。また、昇段した先輩や後輩の先生方が身近にいたため、自分も昇段するのは当たり前だとこの自分自身に思い込みがありました。

そこで今回は、徳島を出発する前日に、友人が指導する高等学校の部活動に練習参加をお願いしました。友人より「熊澤は、気構えの肝心な丹田ができていないのになにか仕立ては無理なので、せめて、実技審査の四分ぐらいは気構えが来ているよう

に演じてみる」と助言を頂き、念の為に、日本剣道形の手合せも頂きました。また、家族からも「今回は絶対に合格する気持ちで、真剣に昇段審査に挑戦するように」と、叱咤激励を受け、私自身も今回は合格するとの気持ちで福岡審査に出発しました。

前日のホテルでテレビ番組を見てみると、松岡修造がテニス合宿で小学生に対して、「なぜ一球一打に魂をこめて打ち込めないのか」「失敗を恐れすぎて、挑戦をなせないのか」など、厳しく指導している放送を視聴して、今の自分自身にメッセージをくれているとの気持ちが湧きました。

実技審査は午前の部の最後の組で、対戦相手は沖縄県と兵庫県の方でした。今までご指導頂いたことが実行できれば、必ず合格するとの気構えで、いざ実技を受審し一歩前進後、最初の数秒間は、氣勢も発せず相手に気構えを忘れず立ち会いし、打って出てこいと心に念じていると、相手の竹刀の先端が上下に振れだし相手が打って出てくると判断し、出鼻面を打ち込み一本目を取りました。気持ちに余裕ができ、次によ

昇段記念

# 一期誠心

平成二十一年八月吉日

剣道七段

熊澤 信行

早稲 泰夫 書

く先生にご指導して頂いた、相手は必ず一本を取り返しに出て来るということを思い出し、面返し胴を待ち確実に二本目を取りました。次の対戦者には、やはり自分本心の気持ちが先走り、相手も考えずに出鼻面に打って出て、空振りに終わり気構えに動揺が出ましたが、今回は、先の対戦者に二本確実な打突があることから諦めず、友人よりの指導である、得意の出鼻小手を待ち、自我自賛であるが、会場全体に響く程の小手一本が決まり、実技審査が終了致しました。受験者待機場場で面を外していると、他の受験者より受験内容は完璧ですねと言われ、今回は合格したと思えました。

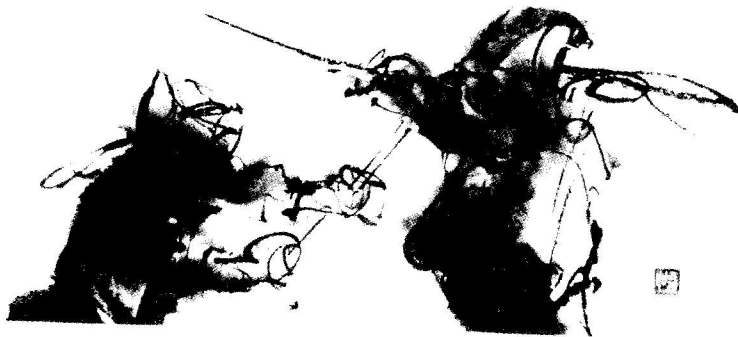
次に、実技審査合格発表後、日本剣道形の審査があるのですが、その時に相手から形に自信ないと相談がありました。相手が一回失敗し、小太刀も合わず仕舞いで、ここで不合格になることは出来ないかと判断し、孤軍奮闘し無事に日本剣道形にも合格しました。

剣道七段に合格し、改めてこれまでの剣道修練を振り返ってみると、阿波支部の中

尾誠先生に導かれ、徳島県立阿南工業高等学校では、鎌田恵先生より剣道の厳しさを指導頂き、社会人となってからは徳島県剣道連盟の先生方よりご指導いただいたことが目に浮かびます。今回の昇段もこれらの先生方の心温まる励ましやご指導のおかげと思ひ、徳島剣道連盟の発展に微力ながら寄与することで、恩返しをしていきたいと思ひます。

また、先輩の先生方に剣道七段合格の報告を致したところ、今以上に自分に厳しく精進する様にとご指導頂きました。ご指導を肝に銘じてまいります。

最後に、ご指導頂いた徳島県剣道連盟の先生方、指摘頂いた同級生の友人、励まして頂いた後輩、いろいろと気遣い頂いた養武館道場の関係者の方々、気長く支援してくれた家族に感謝の気持ちで一杯です。重ねがさね、誠にありがとうございました。



# 感謝

板野東支部 本村賢 二



きました。

小学校一年生で始めた剣道も足かけ四十年になりました。最初にご指導頂いたのは、北島町高房 誠武館道場初代館長 故中谷智好先生でした。中谷先生は、ワルガキだった私をいつも温かく見守りご指導下さいました。先生のお人柄と同様、柔らかく美しい流れるような足捌きから繰り出される技に、思わず見とれたものでした。時折り私の手をギュッと握りしめて下さったのですが、鮮魚店を営まれていた先生のその時の魚のにおいが、今となってはとても懐かしい思い出です。

以来、今まで私を支えてくださった誠武

平成二十一年十一月十四日、名古屋市における審査において七段位に昇段することがで

館道場ならびに母校の恩師、剣道連盟の先生方、勤務校の剣道部員、門下生、保護者の皆様方……、いつの日も私は決して一人ではなく、多くの方々、私の剣道のみならず人生そのものさえも支えてくださいました。七段位昇段のこの機会に、誌面をお借りし改めて感謝申し上げますと共に、御礼申し上げます。

ご指導ご鞭撻を頂きますようお願いして拙稿の結びと致します。

本当に有り難うございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、審査当日の実技では、自分を取り繕うのではなく、自分らしい剣道をするこごと、直前に来代先生に助言頂いた「欲しがない」ことの二点に注意して臨みました。結果、打ち損じや欲をかいて不用意に出たところを見事に打たれた場面もありましたが、「今の力は出し切れた。これで不合格でも仕方ない。また頑張ろう。」という清々しい気持ちになることができました。

相変わらず上半身に力が入り、右手が「打ちたい」という欲で凝り固まることが常の私ですが、皆様方には引き続き今後の私の進むべき方向をご助言いただけたらなら大変有り難いと思います。また油断し慢心することが常の私に、以前にも増しての



## 居合道七段に合格して

福井 勝



平成二十一年七月十日高知審査において居合道七段に合格させていただきました。

これもひとえに原田勝先生、張野久晴先生、徳島県剣道連盟居合道部・剣道連盟阿南支部の皆様・全国のご指導いただいた諸先生、剣友の皆様のご指導、ご鞭撻のお陰と深く感謝しております。

居合の審査は、夏は西日本講習会の前日、冬は十一月の東京の年二回となっており、審査員六名で受審者は四名を一組で受験。六十歳以下を第一会場、六十歳以上を第二会場、礼法、古流二本（自由）、全日本剣道連盟居合三本が指定され、六分以内で行われます。

平成七年十一月に東京審査で六段に一回で合格、七段は平成十四年の東京審査から

受験し七段合格まで七年の月日を費やしました。

その期間は心の迷いに悩まされ、審査も平常心が保てず、力を出し切る事が出来ませんでした。

その中で基本に帰り、師匠の指導のみ信じて刀を振りつづける毎日を通しました。今回の審査においては、最後の受験と心を決め、良きにしろ、悪きにしろ、悔いを残さず受審、幸いにも合格をいただきました。

審査後自分なりに考えますと、①常に平常心を養う②気・剣・体の一致した居合③手の内の冴え（振らずに切る）を常に意識する④仮想敵を意識した練習⑤全日本剣道連盟居合の教本を熟読する⑥他県の大会に積極的に参加し、自分のレベルを認識することなどが中央審査の合格への早道だと思います。

居合道を始めたきっかけは、電電公社長崎無線局に入社後、長崎県大村武道館で剣道有段者を対象とした講習会が開催され、初段を頂いたことがきっかけで、剣道教士

七段、居合道範士八段、吉村健吉先生のご指導で四段まで修業させていただきました。

昭和六十三年に徳島に帰って夢想神伝流から無双直伝英信流に流派を変更しました。日和佐の張野久晴先生に直伝の基礎をご指導いただき、その後張野先生より中央審査受審にあたり、木頭大和錬心館、原田勝先生にご指導いただくように紹介され、現在に至っています。

高校で剣道を始めたとき竹刀の握り方からご指導いただいた福井軍二先生も木頭大和錬心館出身なので、大和錬心館が私の人生に大きく関わってくれたことに感謝しています。

今後、いままで多くの皆様にお受けしたご温情を忘れることなく精進していく覚悟でございますので、なお一層のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

## 六段に合格して

徳島支部 長 崎 秀 信

「剣道ハ 突キニ始マリ 突キニ終ワル」  
この言葉は小生が高校生の頃に恩師である泉通四郎範士に教えられた言葉である。

範士は大正八年に高野佐三郎の門人として入門し幾多の荒修業の末、中西派九段になった。そして、戦後郷里である秋田に帰省し、その流れを後継者に伝授していた。

及ばず乍小生も直接指導していただき、この言葉を糧とし大学に進み今日まで稽古してきたつもりだが、今思えばこの言葉の意味も教えもよく分からぬまま勝負に拘り、ただ打たれまい、打たれたら打ち返す、そして付く、ことだけに心奪われていた様に思う。

昭和五十一年に卒業し、その翌年七月に学生の頃の勢そのまま五段に受かったものの民間企業に身をおいた小生は、仕事の都合上だんだんと稽古から遠退き、度重なる海外勤務も相俟って剣道どころではなく

なっていた。だが、どこへ行くにも防具だけは離さずに、暇を見つけては稽古するおうち心掛けてきた。

シンガポール在住の頃は、多くの国の剣士と稽古することができた。彼等は打たせるとすぐに付け上がり、剣道に対する感覚の違いに腹立たしい思いをしたことを覚えている。ご存じのようにシンガポールは常夏の国、日々が暑中稽古の九年間はあつと言う間に過ぎ、帰国してみると恩師はすでに他界してしまっていた。このことにより「剣道ハ突キニ始マリ突キニ終ワル」の言葉の意味が分からずじまいとなり、範士は、小生が剣道をつづけていく上で大きな課題を残してくれたように感じた。

二度目は香港中国の勤務であった。香港での稽古は湿度の高い体育館で、防具をつけただけで汗がしたたり落ち、まるでサウナの中で稽古している様であった。さすがに中国では稽古する場を見つけることができず、完全に空白となってしまった。

香港と中国を歩き来する生活が六年つづ

き、帰国後、何年か郷里の秋田で過ごすことになったが、秋田の冬は寒い。凍てつくなかでの稽古に体が萎縮してしまった。暖かいところで十五年も住むと、小生の体は郷里の寒さに負け一度稽古を休むと次から防具をつけることがしだいに面倒になっていったことを覚えている。こんな小生が昇段審査などんでもない事で、五段で十分「剣道ハ突キニ始マリ突キニ終ワル」と言う恩師の言葉を心に残しながらも、理合とは何ぞや!!飛んだり跳ねたりの稽古で十分と決め、それなりに稽古はつづけてきた。

そんななかで、ひょっこり徳島勤務の話を持ち掛けられ、徳島と聞いて何の迷いもなかった。学生の頃に世話になった先輩がいる、同期がいる、後輩もいる。仕事はさておいて、剣道するにはもってこいの環境にある。ただそれだけで徳島に来ることを決意したような気がする。がしかし、実際に徳島に来たものの、なかなか稽古するチャンスをつかめず四年が過ぎていた。

そうこうしている間に下の息子が剣道を始めることになり、小生も気がつくといっ

の間にか防具をつけていた。お陰様で何十年ぶりかで先輩にお会いすることができ、同期に会うことができ、先輩の元気な顔を見る事ができた。一度防具をつけるとだんだんと稽古の回数が多くなり、各先生方に時折「六段受けよ」と声をかけていただいた事もあったが、小生は、依然として打たれまい、打たれたら打ち返す、そして突く、の稽古で満足していた。

ある日、稽古をいただくために近くの高校に先輩を尋ねた。不動の様に乱れぬ構えは終始小生の喉元をとらえ、そこから発した一撃に小生の面は二つに割られてしまった。高段者の気迫、追力、力の違いをまざまざと見せつけられた。稽古の後で「六段受けよ。」と言われようやくその気になった様な気がする。

よし、六段受けるぞ!!六段審査とは何ぞや。五段の地方審査を受けて以来三十数年、中央審査の方法も雰囲気も分からぬまま名古屋へ行った。何と受審者の多いこと。緊張のあまり何をどう打ったのか、打たれたのかほとんど覚えていない。後日届いた葉

書には、あと一步、のところに印があった。

なるほど。次は京都だ。やるからには徹底的にと思い、それからあらゆるところに稽古に行った。多くの先生方に稽古いただき、稽古の後に先生方の話を聞き、まず自分を变えるしかないと感じた。

一、飛んだり跳ねたりの自己流からの脱皮。

一、前後の足幅をせまくする。

一、胸を大きく開き背筋をのぼしゆったり構える。

一、一足一刀の間合。

一、常に攻めつづける。

一、しっかり打ち切る。

一、よけいな打ちはしない。

一、発声は相手よりも後から大きく。

そして四月二十九日京都。今回は何の緊張もなかった。対戦相手に、お願いしますと声をかける余裕があった。

「始め!!」の声でゆっくり立ち上がり、半歩前に出て剣先の触れるところまで攻め入ると相手が一声を発した。まだ打つには早すぎると思い、表から攻めていると、い

きなり相手が打ち込んできた。咄嗟に小生の竹刀が動き、相手の面を打った。少し右にはずれたが、そのまま前にのびていき振り返り残心を示した。この一打で相手が分た。二本目は、間合を詰め相手に面を打たせ、応じて面を打った。みごとに中心をとらえ、残心にも余裕があった。三本目は、小生の体が審査の先生方に少し背中を向ける形になったため、小生は右に動き立ち合いの位置に戻ろうとしたが相手はそれに気付かず、小生と同じ方向に動きだした。止むなく相手の竹刀の上から攻めしっかり振りかぶり面を打った。当たった感触が小気味よく感じた。「ヤメ!!」よし、一人目はどうにかできたと実感した。

二人目、相手を見た時の予感が当たった。少し上背のある相手、苦手だ。強引に間合を詰め打った面が二本、いずれも有効打突にはならず。むしろ、ドタバタとみっともない打ちになってしまった。しかし、終始攻めつづけ相手に打たれることはなかったが「苦手」と感じた時にはすでに負けていた。これで合格確率が半減したと感じた。

小生の立ち合いは最終組で間もなく発表になったが、さすがにこの時は緊張した。

「あった、あった、合格だ」と、徳島から来ていた人達が小生の番号を見つけてくれたが、小生にはいっこうに見えない。小生は緊張のあまり、隣の審査会場の発表を見ていたのである。

立ち合い合格の喜びも束の間、直ぐ様形会場に連れて行かれ、小生は仕太刀となった。

あとは、剣道形を間違えなければ六段合格と思うと、頗る緊張したが難なく終った。

五段から六段までの道程三十数年。

こうして、今回六段に合格することができたのは、先輩を始め各方面の諸先生方に御指導をいただいたお陰とっております。この場をお借りしまして心よりお礼申し上げます。

本当にありがとうございます。

では、六段として今後どのような稽古のあり方姿勢であるべきかを考えるに当り、泉通四郎範士に教えられた「剣道ハ突キニ始マリ突キニ終ワル」の言葉を思い起こし

てみた。

泉通四郎範士の一番の門弟である長崎宏紀先生は、この言葉をこのように説いていた。

『泉通四郎範士は、技の究極を「突きに始まり、突きに終わる」と説き、その心は「不動心」であると教えた。始めの突きは、心で相手を崩すことであり、終わりの突きは、残心であり次の攻めへと渡っていくものである。』

剣道の技は、始めは竹刀を動かして使い方覚え、それができるようになったら手足を動かして体で覚え、最後は心で打てるようになるまで稽古を積むことだ。心で勝つて形で表す千変万化の技も心の突きから生まれるもの。心で突けるようになるまで修業すべし。

剣道を修業する上で最も大切なことは、決して無理な、無茶なやり方をしてはいけない。剣道は理詰めであって、正しい剣道を心掛けなければならない。人生もしくりで、剣道の修業が人生の道に通じるものでなければならない。「剣道即生活」の所以

である。』

と、何か分るような分らないような感じだが、このことから考えると「剣道とは心であり、理に合った正しい剣道でなければならぬ。」ということだと思ふ。

心で突いて中心を攻め相手の構えを崩す。小生にはとても難しいことであると思ふが、今回の六段合格を機に、この教えに少しでも近づけるよう、これからも稽古をつづけていきたいと思っている。

そして、微力ながらも、継続することの大切さを子ども達に教えていきたいと思っている。

## 京都審査当日

板野東支部 武 田 修 典

平成二十二年四月二十九日に於ける京都審査にて何とかまぐれ合格する事が出来ました。

振り返ってみますと平成十六年十一月の名古屋審査を皮切りに今年で五年の歳月が流れ受験回数は……☆忘れてしまいました

☆

過去の審査は、「名古屋は栄」「福岡は中洲」「京都は祇園」と前泊して夜の街を堪能して、当日には身体に影響している時が多々ありました。今年こそはと思い、前泊を止め、当日出発としました。バスの中で今までの不合格になった時の審査状況を思いうかべながら……!

これまで何故落ちていたのかは合格した後、歴然としてその違いが解った様に思います。蹲踞から立ち上がり初太刀までの過程が全く違ってきます。今までは全くの攻めも無く、ただ打ち間に入り相手を引き出

す事も無く、理合のない打突のみで、たまには決まる事も有りましたが、それでは駄目だと思い今回は理に通った立会をと心掛けてみました。具体的には、以下の様なことを行いました。

- ・面を付ける前と自分の立会前待機している時の呼吸法（鼻で吸って停止し口で吐く、この繰り返し）で逸る気持ちを抑える。

- ・立礼の時、相手と視線を外さない（今までは礼と同時に俯いていたのかも？）

- ・始めの合図で半歩若しくは一步必ず前に出る。

- ・声は相手に先に出させ終るか否やこちらからもう一つ大きな声を出す。（今回はこちらから先に出し相手が出した後再度上から乗せるつもりで発声しました。）

- ・触刃から剣先で表裏と中心を攻め（約二十秒）相手が出る気配が無いので右足から剣先と同時に攻め動いた瞬間を捉えた。

ただその面が決まったかどうかが記憶になく今でも思い出せないのですが！二本目は同じ様なやり方で小手を抑えに行き

ましたこれは決まった様です。（後から対戦相手と言葉を交わした時教えてくれました。）

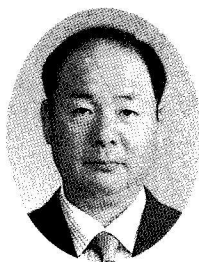
一人目二人目と同じパターンで打突し二人目も出小手が決まりました。打突本数は両者共一分間で三本です。（これだけは鮮明に記憶していました。）

今回、合格においては少年指導法講習の後、米倉先生に立会模擬審査をして頂き、その時の助言を有り難くお受けしました。又、久保先生には面を付ける前から立会の全てを事細かく指導頂き、その甲斐があって合格出来たとありがたく感謝でいっぱいです。

終りに、此処まで剣道が続けてこられたのも私の所属する板野東支部と北島少年剣道教室の諸先生方のお陰であり、一緒に切磋琢磨できた事を感謝し、合格の報告とお礼の言葉に変えさせて頂きます。

## 剣道六段に合格して

板野東支部 岩 本 一 彦



平成二十一年十一月十五日、名古屋審査会におきまして幸運にも六段に合格させていただきました

いただきました。これも一重にご指導くださいました板野東支部の先生方、並びに県剣道連盟の先生方のお陰と感謝し心から御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

私が剣道を始めたのは、美馬郡の半田中学校に入学をした昭和五十二年からで、そのきっかけは、当時中学校野球部の顧問をしておられた現剣道連盟阿波支部長の中尾誠先生が、入部希望者である私に「野球は、九名いればいいからお前は剣道部に行きなさい」と言われたからです。そのころの半田中学校は、全員クラブ活動をするようになっており、私同様にとの部に入るか決め

かねていた友人数名と共に剣道部へ入部することになったのです。野球部の顧問であった先生は放課後は生意気な野球部、早朝と休日はかわいい剣道部と、休む間もなく情熱を持って私達に御指導してくださいました。しかし、私はまさか朝夕、休日まで稽古があるとは思っておらず何というクラブに入ってしまったのかと後悔をしたものです。その時まさか将来自分が六段に昇段できるなどとは夢にも思っていませんでした。その後私は中尾先生の同級生で当時徳島農業高等学校の剣道部顧問をしておられた塩田善治先生にお世話になることになりました。塩田先生からは稽古の時、「お前は泣いてから稽古だと中尾から聞いている」ときっちりとし送りをしていただいていた、とてもやさしく御指導を賜りました。

そんな高校時代、私達部員にやさしく、物心両面で支えてくださったもう一人の恩師が、現在の私の所属する板野東支部の伊賀雅人先生です。今、私が剣道をさせていただけるのは、先生あってのことであります。あまり器用でない私は、仕事と剣道の両立は不可能だと考え、もう十五、六年剣道から離れておりました。私の子ども達が松茂町の剣道教室に入部してからも、自分は出来るだけ関わることがないよう妻に任せっきりにしておりました。

そのような私の態度にもかかわらず、伊賀先生は何度も私の職場においでくださり親切にお誘いいただいた事で、剣道を再開することが出来ました。さらに、今回の六段審査におきましても六段などめっそうもないと、とうに諦めていた私にずっと勧めていただき、最後は申し込み終了の前々日の夜に私の家にまで受審申し込み書とお土産のお菓子を持って来て「明日まで間に合うから持って来ました」と熱心に受審を勧めていただきました。泣き虫の私は、心が震え泣きそうなほどうれしかったのですが、学生の頃から今だに私の面倒を見ていただける先生に心の中では手を合わせ、妻には「こんなにきて来てくれたら、受けんわけにはいかんのう」と強がって見せていました。

その後の三カ月は、週三回の稽古と、稽

古が出来ない日には、素振とランニングを自分に課して審査に臨みました。

さて、審査当日会場では受審者の数の多さと、他の方の威風堂々とした風貌に圧倒され、自分は、なんと場違いな所に来てしまったのだろうと思いましたが、朝から私の事が心配で、一時間に一回位のペースで電話をしてくださる高校、大学を通しての先輩である高木壽史先生のお陰で何とか落ちついて審査に臨むことが出来ました。しかし、立ち合いが近付くにつれ、正にその通りの表現だと思いますが、喉から胃が飛び出しそうで、息をするのも苦しいほど緊張してしまいました。そこで、これではだめだと思い以前テレビでオリンピック選手が、「競技の前に恩師の名前と感謝の気持ちを復唱すると、思っていた以上の力を出すことが出来る」と言っていたのを思い出し、私ものっかってみました。

すると、まだ息苦しさは残っていました。が、だんだん気迫が身体中に漲り、立ち合いでは、それを竹刀の先から相手めがけて放つような感覚で立ち合いが出来たような

気がします。

今回の審査は、たまたま運良く合格することが出来ましたが、私にとりまして、出葉成一先生のお言葉通り、『よい師匠について、正しく良い教えを請い、それを素直な心で従う』ということを再認識することが出来た審査でした。

今後もご指導いただいた大勢の先生方への感謝の心を忘れず、益々稽古に精進していこうと思っています。



## 意識化と動作

海部支部 古 本 貢



平成二十一年十一月に名古屋での審査会において、六段に合格させて頂きました。日頃

ご指導いただいている先生方、剣道部の生徒たち、稽古仲間の皆様のお陰だと感謝しております。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

今回の六段審査にあたり、昨年十一月の審査会から一年間、基本稽古での面打ち、小手打ち、小手面打ちを生徒の手本となるように意識して稽古しました。さらに、出ばな面、出ばな小手の稽古では、生徒の動作よりも先に動くことを意識して稽古しました。日頃、中学校の部活動の指導以外で稽古をしていない私にとって、部員との稽古における「意識化」こそ、大切なことだったように思います。この動作の意識化を継

続することが、やがては動作の「意識下」につながり、試合や審査などの緊張した場面や、日頃の稽古における前意識での打突になるからです。

審査では、相手の意図の先を動くことに注意を向けました。相手が間合いを詰めようと意図するところの先に動作として間合いを詰めることを心がけました。結果的に先に動くという「動作」が攻めにつながったようです。一年前の審査会では、出ばな面を打ったつもりが、ただ合わせて面を打っただけになっていました。相手の意図を感じ取ることができなにかかわらず、動作として先に動けていなかったことが、攻めにならなかつたのです。この「相手の意図の先を動く」という動作は、日々の部活動での稽古の中で、生徒と共に汗を流し、生徒の意図を感じようと意識したからこそ、結果として現れたのだと感じております。剣道修養の仲間としての生徒に感謝いたします。

今回の審査では運良く「相手の意図の先を動く」ことが少しできたに過ぎません。

まだまだ前意識での打突には程遠いですが、今後も朝鍛夕練、日々精進する中で、「意識化した動作」を心がけ、生徒の手本となるように努めたいと思います。



## 六段に合格して

名西支部 泊 利 治



平成二十一年十一月十五日、名古屋で行われました六段審査に合格することが出来まし

た。これも一重にご指導下さった先生方のおかげと感謝しています。この場をおかりして厚くお礼申し上げます。

私と剣道の出会いは、重井好高先生、美馬政雄先生、阿部善二先生と知り合い剣道を始める事になりました。名西支部で毎週金曜日にお世話になっていました。数ヶ月たった頃二級の審査を受けるよう言われましたが、もっと実力をつけてから、とお断りし重井先生にお願いし徳島右武館に入門させていただき、名西支部、右武館で週四回稽古にはげみました。おかげで五段まで取得する事ができました。六段審査資格ができたので、受審するよう進められました

が、定年退職してから、ぼつぼつ、と落ちていました。

その後定年退職し、高齢剣友会にもお世話になり、遠藤会長はじめ、多くの先生方に稽古をつけていただきました。その後六段に何度か挑戦しましたが、六段のハードルは高く、見事にはじき飛ばされました。

重井先生が亡くなった後、端村武先生の紹介で、城ノ内剣友会で、高田豊先生、端村先生、臼木先生にお世話になる事になりました。稽古場で臼木先生が、ビデオ撮影をしてくれました。自分の姿を見て愕然としました。これでは審査に合格できるはずがないと分りました。気剣体の一致が出来ていないのです。それから、毎回ビデオを撮って、後で三人の先生方が悪いところを指摘し、直してくれています。

審査日が近づいたある日、笠井勝先生に、私は「慢性の腰痛」で、満足な蹲踞が出来ない事を話すと、私も今、蹲踞の練習をしていると言って、腰に負担のかからない要領を教えてください、どうにか出来るようになりしました。審査前日の稽古会で、笠井

先生との立ち合いで、三人の先生方に模擬審査をしていただきましたが、自分では、合格点はいただけなかったように思います。

高田先生からは、打とうとするな、打たれる覚悟で、打て身の心を忘れるな、端村先生からは、つま先立って、立ち姿をきれいに見せ、相手を見下ろす姿勢をとれ、臼木先生からは、剣先を振れ、一本取ったら守くせがある、守りに入らずあくまでも攻めの姿勢を忘れるな、とそれぞれアドバイスをいただき頑張ってこいと送り出してくれました。私は審査の二三分間、一生懸命頑張ってきましたと言って出てきました。

審査日、私は六二一組のAでした。最初はBの人の立ち合いです。まず蹲踞の姿勢、下腹に力を入れてくずれないように気をつけました。立ち姿、つま先立ち、姿勢を正し、ジリジリと攻め、出鼻の面を打ちました。良い面が入ったと思いましたが相手も小手に出て来ました。これはあぶないと思い作戦を切り替え、打たれる覚悟で攻めて出ると、相手は面を打って出たので出来るだけ辛抱して、すり上げ面を決めまし

た。相手は又面に出たので、返し胴を打ちました。二人目はDの人でした、蹲踞と姿勢に注意し攻め合いました。相手が出て来たので出鼻面に出ました。双方当たらず、二本目も相打ちで双方当たらず、「しまった不合格」だなどの思いが頭をよぎりました。この人は面しか打ってこないな、それなら打ってもらおうと攻めて行き、面に来たので出来るだけ辛抱してすり上げ面を決めました。その後も二本すり上げ面を決めました。

合格発表ですが、最初の出鼻面と小手、二人目の二本の相打ちの失敗それが不安でした。合格発表の結果私の番号がありました。間違いではないかと何度も番号を確認しました。まるで夢のようでした。この度の審査では先生方の教えを一つ一つ冷静に守れたからだと思います。私は六段の実力はまだまだだないと思っています。審査の二日間だけの六段と思っています。

これからは、本当の六段を目指し体力の続く限り頑張りますので今後とも、ご指導ご鞭撻いただけますようお願い致します。



## 教士称号をいただき

鳴門支部 竹内 佳代子



このたび、平成二十一年十一月七日、神戸で行われた「教士」称号審査を受審し、合格

をいただくことができました。受審、合格に際しましては、剣道連盟の諸先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

「教士」筆記試験の審査内容は、事前にも全剣連から出された項目に関する内容の文章が（ ）抜きで出題され、（ ）の中にあてはまる語句を選択肢の中から選びます。また、○×で内容が正しいかどうかを答えたり、記述で答える問題もありました。今回は、剣道用具の安全管理について記述するよう出題されました。また、小論文もあり、「剣道指導者としてのあり方」について、七百字程度でまとめました。

事前に試験内容がわかっているのに、勉強さえしていれば、当日の筆記試験はほとんど悩むことなく答えることができます。でも逆に、勉強をしていないと答えるのは難しいと思います。私の場合試験勉強は、一ヶ月前頃から始めました。大変なのは試験内容の資料を集めることだと思いますが、同じ時に教士を受審される大学時代の先輩から運良く資料をいただくことができ、とても助かりました。その資料を使って、毎日少しずつですが勉強はしました。普段の私は、仕事の忙しさを理由に、なかなか自分から剣道に関する本や資料・論文を読んだり、剣道修練の意義について深く考えたりする時間をつくっていませんでした。でも今回、称号審査を受審することで、勉強をする貴重な機会をいただきました。それにより、自分自身大変勉強になりました。たとえば部活動においても、生徒に話すことばがより具体的になったり、話す内容に重みができたように思います。（自画自賛ですが。）そして、何より私自身が、勉強する以前と比べて少しは成長できたと感じ

ることができました。また、小論文に関する内容について、大会などでお会いした先生方から、いろいろなご意見をお聞きし、参考にさせていただきました。先生方のお考えを学ぶことができ、それも大変勉強になりありがたかったです。どの先生も自身の剣道観をもち、剣道に精通されておられ、改めて自分自身の勉強不足を実感しました。

私自身、教士称号をいただいたこれからが大切だと思っています。「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道」、なかなか難しく、ゴールはほど遠いけれど、だからこそ日々修練を積む意味があると思うので、これからは剣道の実技面だけでなく、理念ももっともっと深く学んでいきたいと思えます。そのために、積極的に講習会に参加したり、読書をするなど自ら学ぶ機会をつくっていきたいと思いました。今後ともご指導よろしく願います。

平成二十一年度

称号・段位合格者一覽

— 剣道 —

【七段】

【教士】

五月六日

伊賀雅人

森 直行

十一月二十七日

竹内 佳代子

【錬士】

五月六日

岩原 靖人

佐々木 和人

松田 久司

四月二十九日

長崎 秀信

武田 修典

四月三十日

合田 秀實

五月十六日

一村 昌和

平間 幸信

八月二十二日

熊澤 信行

十一月十四日

本村 賢二

【六段】

五月二十四日

秋山 雄治

高橋 伊織

九月十三日

井川 理之

十一月二十二日

下藤 仁

平成二十二年

二月二十一日

篠田 勝志

加藤 貴子

【五段】

九月十三日

那佐 翔太

原田 一樹

西川 達哉

臼木 あゆみ

平成二十二年

二月二十一日

西本 浩章

伊勢 忠浩

久保 宏和

小松 裕樹

土手 涼輔

陶久 晴岳

呉羽 貴志

星野 知世

【四段】

五月二十四日

篠原 寛弥

木下 裕貴

立川 拓也

岡部 真二

沼田 昌哉

森崎 祐香

岩原 里紗

今川 知美

中川 知香

酒井 ちひろ

九月十三日

吉田 昂平

上田 義弘

安部 晃太郎

入江 健太

小濱 紘通

小栗 明彦

村島 智也

【三段】

田村 周平

白木 郁登

正木 義浩

横川 光

木村 奈々美

井上 彩

栗野 文那

藤井 瑛万

喜多 桃子

福井 美咲

十一月二十三日

福田 純大

青木 大将

田中 宏明

福井 壮太

松本 好史

岸野 賢太

桑原 大樹

大森 和夫

近藤 一志

別宮 憲治

樋口 すずか	片岡 奈穂	横道 妃斗美	大西 真衣	吉岡 真衣	坂東 沙樹	有川 翔	福本 竜也	清川 星治	酒卷 奈暉	小倉 歩	柴田 大輔	石井 稜祐	平成二十二年 二月二十一日	岡本 知子	酒井 奈々	石川 晴菜	井上 愛理	高橋 麻美	福崎 友菜	原 麻由香		
湯浅 鼓太郎	福崎 泰樹	佐々木 聡史	楠拓 馬	上藤 康祐	安部 晋太郎	山川 雄司	堀 椋一	新居 航平	石村 元義	濱田 巧	秋月 翔太	玉置 将也	西岡 昌哉	日岡 聖	京元 俊樹	大林 伸浩	岩佐 暁歩海	谷 創貴	岩木 佑都	五月二十四日	【二段】	
谷澤 慶彦	黒木 景太	中川 椋太	小川 瞬平	岩佐 航太	平野 智将	川尻 智樹	久保 公緒	久保 孝緒	小出 健太郎	志磨 直	岸田 義弘	土井 敦斗	竹内 直生	宇井 友隆	味間 修一	佐藤 浩作	近藤 誠也	木屋 野啓太	小川 翔	久保 達也	谷 健太郎	河野 誉良
八橋 明子	岡崎 美楓	迎 恭子	増田 恭子	川人 わか	佐藤 涼香	石井 まなみ	米本 朱里	美馬 史絵	森野 美穂	藤井 理央	東内 遥菜	田中 理称	久米 智昭	青木 一明	野上 祐作	伊保 木聡太	三馬 光揮	笠井 栄一	北岡 聡	森 智裕	小栗 雅彦	寺井 大地
西田 純也	結城 洋輝	藤田 裕太	山本 慎也	新矢 祐介	三木 奏人	大場 凌	湯浅 慶亮	上田 圭吾	土井 池優樹	住友 拓夢	阿部 有矢	石原 純	永浜 裕基	立川 晃司	福永 力也	呉羽 大地	和田 晃真	多田 拓矢	長谷 川雄一	九月十三日	穀内 雅子	
杉山 佳之	松原 弘明	斉藤 法信	喜多 耕平	宮城 良規	藤本 量太	濱田 洸太	十一月二十二日	大西 里奈	原郷 瑞希	東川 里穂子	片岡 茉莉	中川 由美子	中村 啓子	和田 勝彦	長井 昭人	米崎 信弥	岡田 恭平	高尾 柊	坂本 竜二	森口 賢一	山川 翔大	
澤田 くるみ	吉田 拓司	工藤 洋平	岡佳 聡	酒卷 史士	谷 史士	寺井 惇	平成二十二年 二月二十一日	湯浅 絵里加	山本 悠	住友 裕菜	谷 美聡	喜多 勝也	鷺池 明日希	坂東 秀樹	西沢 起生	菱本 聖也	小濱 訓大	蘆田 佳郁	清野 琢誠	藤田 稔貴		

【初段】

中村 亜梨沙

幸平 裕貴美

藤見 有里絵

今崎 彰子

真鍋 麻衣子

吉岡 夏美

四月二十九日

宮川 尚士

志賀 龍一

坂本 達郎

近藤 恭平

沖野 悠太

田中 邦明

平田 達也

荒瀬 拓也

竹内 優介

近藤 康平

遠藤 寛也

高木 勝己

西谷 拓人

松村 大

高野 俊一郎

山本 政志

武岡 正悟

坂野 晃太

大内 幸一

上野 元貴

西川 航平

明石 直也

井内 達也

田村 隆晟

住友 皓紀

小川 虎太郎

桑原 知弘

藤本 優

本田 将大

佐賀 誠典

西田 和弘

東條 克也

福田 篤己

山田 溪太

金川 京平

山本 大介

西田 凌介

橋本 隆宏

中崎 正章

米川 雄貴

杉本 純

安部 一也

岩原 将平

福田 傑

土手 聡

枝川 慎太郎

福居 周平

岩佐 信之介

高松 隼斗

上田 雅大

逢坂 恭輔

鈴木 琢磨

大塚 邦紘

田中 洋平

吉川 悠太

重井 孝仁

香西 裕司

朝田 典也

福家 直幸

美間 政昭

岩倉 正幸

柳澤 宏明

天羽 輝貴

橋本 千里

山本 響

吉田 歩生

永野 みきみ

張間 有希

鶴江 唯里

福井 ともこ

前川 真里奈

松田 歩美

甘利 あかね

松本 美紗樹

勝浦 さとみ

小蔭 有夏

大岩 千紘

河野 優季

玉田 理沙子

小林 里紗

藤本 結衣

栗野 安香音

川野 百佳

篠原 瑠莉

栗本 美樹

岡田 春希

藤田 彩実

宮本 由貴

増井 麻希

板垣 真衣

谷中 由賀里

郡 尚美

前田 由里子

長谷川 奈津美

六月二十一日

多田 晃弘

大西 修平

阿部 正典

曾我部 和章

長岡 薫

瀧浦 颯

白石 鎌丈

三谷 将希

竹原 慎弥

石田 充志

市川 耀

柿岡 理利

谷井 和馬

酒井 柊人

工藤 柊太

森岡 翔

市川 瑛士

尾上 紘司

松本 康宏

稲村 慶祐

笹山 真生

藤黒 颯希

古高 美波

森 結菜

廣野 友賀

後藤 碧衣

笠井 明日香

湯浅 光莉

大野 智子

八月三十日

大野 航

田村 幸太

島田 凜一郎

高原 優介

金平 豊

三好 湧也

坂東 岳人

松永 大佑

高 原 葵	三 島 花 織	下 込 衣 里	石 川 実 可 子	福 田 侑 加	美 馬 汐 里	佐 野 可 奈 子	壁 内 菜 那	松 浦 園	中 釜 志 保	島 田 都 希 子	高 田 悠 大	森 建 介	宇 山 洋 史	滝 口 辰 樹	貞 野 紘 希	山 岡 悠 己	丸 岡 雅 俊	木 内 富 士 郎	中 川 智 文	西 野 智 輝	上 畑 克 樹	谷 田 翔 吾	
堀 寬 奈	岡 崎 香 菜 絵	桑 田 祐 輔	山 内 基 成	細 川 直 晃	新 田 智 史	岩 原 祥 馬	笠 原 輝	笠 井 透	谷 崎 圭 祐	佐 藤 浩 太 郎	向 椋 太 朗	向 啓 太 朗	白 木 伸 幸	森 口 豪 允	中 村 亨	横 川 昂 宏	大 西 直 樹	梅 口 宗 一 郎	十月二十五日		古 高 真 純	阿 部 美 月	
																						秋 山 真 由 子	
																							春 木 生 美

―居合道―

【七段】

七月十日

福井 勝

【五段】

五月十六日

大村 猛夫

十一月十四日

西本 忠司

【三段】

五月十六日

川真田 誠

笠井 佑太郎

近藤 智公

久米 俊二

【二段】

五月十六日

三木 奏人

片岡 茉莉

【初段】

五月十六日

近藤 修生

外儀 千博

河野 千咲

笠井 桃子

十一月十四日

上田 圭吾

山田 師正

お詫び

「徳島の剣道 第二十五号」の合格者  
一覧の中で

剣道【五段】

平成二十年九月十四日

荒井 弥和

が抜けておりましたので、追加訂正  
します。

# がんばろう徳島

## 部活だより

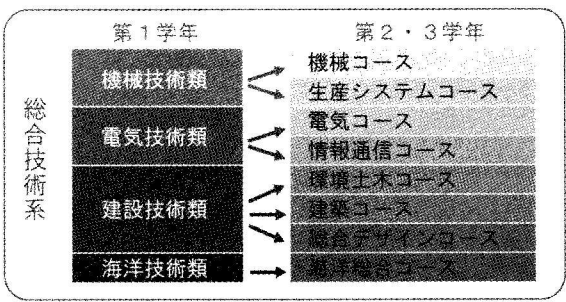
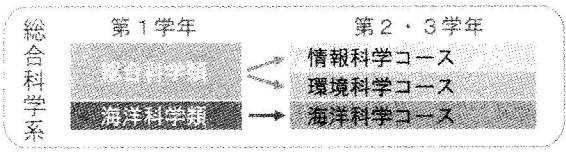
徳島科学技術高等学校は世界を目指す  
 技術者を育成し進学と就職の  
 希望者を支援するハイブリッド型  
 教育システムを展開する学校です

本校は平成二十一年四月に開校した学校  
 です。徳島工業高校と徳島東工業高校と水  
 産高校の伝統を踏まえ新しいコンセプトの  
 もと産声を上げました。

本校の特色としては  
 一、進学希望者と就職希  
 望者の両者を支援する  
 ハイブリッド型の教育  
 システムを構築し、生  
 徒の能力・適性・興味・  
 関心や進路希望等に  
 応じた柔軟な教育を展  
 開  
 します。



### ■ 設置学科（類・コース制） 全日制



一、本校全日制には、進学を目指すための  
 総合科学系と実践的な技術者を育成する  
 総合技術系の二つの系があります。  
 二、類・コース制を導入し、一年では各  
 基礎を、二年からは各コースに分かれ、  
 専門分野の知識や技術を学習します。  
 三、将来の進路選択につながる各種資格・  
 検定の取得を目指し、教科学習や部活動  
 などの教育活動を通じて、礼儀・責任・  
 勤労を重視した人物本位の教育を展開し、  
 自立できる人間を育成します。

特に部活動では、科技高運動部活動ナン  
 バーワン計画を作成し、五年後には運動部  
 で県下の学校になるようにがんばってい  
 ます。現在ソフトボール部が全国準優勝し  
 陸上部が5千メートル競歩で全国6位、駅  
 伝も四国準優勝し全国駅伝出場、ソフトテ

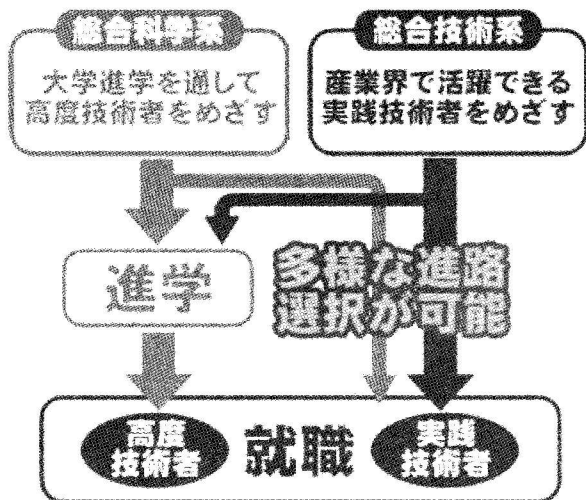


ニス部も四国準優勝し全国選抜大会に出場するなど、すでに四国・全国で活躍する部が出てきています。

剣道部は昨年度の新人大会でもベスト4をかけた惜しくも敗れましたが、四国大会を狙うもともと近い学校としてがんばっています。

富岡西・徳島市立で全国大会に十二回出場した経験を持つ本田先生と、阿南工業・徳島東工業を全国・四国大会に導いた曽根先生、水産高校時代に選手として県新人大会で優勝した経験を持つ松川先生、徳島東工業で指導した近藤先生と梶先生の五名の充実した指導体制が魅力です。

中学生の皆さんも剣道をしながら大学に行きたい人や魅力ある企業に就職したい人、資格を取って独立したい人、技術を習得して世界で活躍したい人は是非徳島科学技術高校に来て下さい。



# 鴨島第一中学校

## 剣道部の歩み

鴨島第一中学校剣道部

顧問 松 永 貴 史

本校は、吉野川中流の吉野川市（旧麻植郡）の東部、鴨島町にあり、夏は冷たく一〇度前後、冬は温かく二〇度以上という異常水温で知られる県天然記念物「江川」の南側に位置します。学校西側には吉野川遊園地があり、商業がたいへんさかな地域であります。

本校の武道館は、昭和五十五年に完成し、本校剣道部のほかに、鴨島少年剣道教室（三木毅道場長）、徹心道場（平尾勝美道場長）とともに使用しています。そして、鴨島少年剣道教室道場長ならびに徳島県剣道連盟理事長の三木毅先生も本校の卒業生であります。

私が本校に赴任し、剣道部顧問をさせていただくようになったのは、七年前です。当時は男子七名、女子十一名の計十八名が

在籍していました。学校全体の生徒数も減少し、現在は男子六名、女子五名で毎日活動しています。また、近年は中学校入学から剣道を始める生徒が多く、現在は半数以上を占めています。練習は、十六時十五分から十八時三十分まで実施しており、練習試合や県外遠征（年間四回）にも積極的に取り組み、毎週金曜日には、近隣の小学校の体育館をお借りして、「きんよう会」という卒業生を含んだ誰でも参加できる稽古会をしています。また、本校の卒業生たちは時々道場を訪ね、後輩たちに稽古をつけてくれます。昨年末には卒業生との稽古会を実施し、多くの卒業生が参加してくれました。

卒業生の中には、中学校卒業後も剣道を続けている者、卒業とともに剣道から離れている者、様々であります。しかし、同じ道場で同じ目標を持って汗を流してきたことを忘れず、今回の稽古会に、多くの卒業生が参加してくれたことはたいへんうれしく思っています。そして、中学校での剣道部の活動が心に残るものになっていること



を強く感じました。

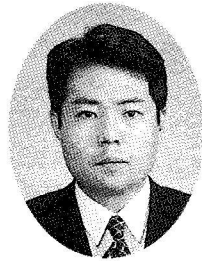
私が常に心を持って指導していることは、「人間形成」です。挨拶、返事、何事にも全力で取り組むことを指導しながら、私自身もともに学んでいます。また、基本に忠実な剣道を目指し、繰り返し基本練習を行っています。そして、日頃から感謝の気持ちを忘れず、思い切って剣道ができることをありがたいと思っています。この中学校三年間で培ってきたことが、社会に出たときに必ず生きてくると私は確信しています。

また、保護者会の活動もさかんであり、いつも暖かく見守っていただいております。保護者会の暖かいご協力とご支援には日頃より感謝している次第です。

## 実業団剣道部として

日亜化学工業剣道部

園 田 慎 吾



今回は、日亜化学剣道部の紹介を兼ね、活動報告をさせていただきます。

日亜化学剣道部は平成十三年に小川智滋氏・中尾幸雄先輩を中心に創部され、現在は部員十六名で活動をしています。剣道部としての稽古は週一回、阿南市の大瀧武道館で十九時からおこなっています。部員の多くはLED（発光ダイオード）関連事業

した稽古をおこなっています。

毎年九月に開催される全日本実業団剣道大会は、実業団剣道部として活動している者にとって最高の舞台であり、目標としている大会でもあります。実業団剣道大会の第一回大会は、昭和三十三年に七五チームの参加で始まり、平成十九年には創立五十年記念大会が開催されています。現在では全国各地から様々な業種の三〇〇チーム以上の参加があり、私たち日亜化学剣道部も毎年出場しております。平成十五年にベスト一六、平成十八年にベスト三二に入っていますが、目標はベスト八と設定し、目標達成のため部員一丸となり、日々の稽古に励んでおります。

の技術・製造、またはリチウムイオン電池の原料製造を主業務としているため、夜勤など三シフトに入っている部員も多く、毎回五名程度の参加となっているのが実情です。しかし、稽古会には遠藤一美先生、河

また、稽古会には地元中学生も数名参加しており、幅広い年齢層が大瀧武道館に集り剣を交え、汗を流しています。部目標にも掲げている「地域への貢献」という面で、微力なりにも実践できるよう心掛けております。

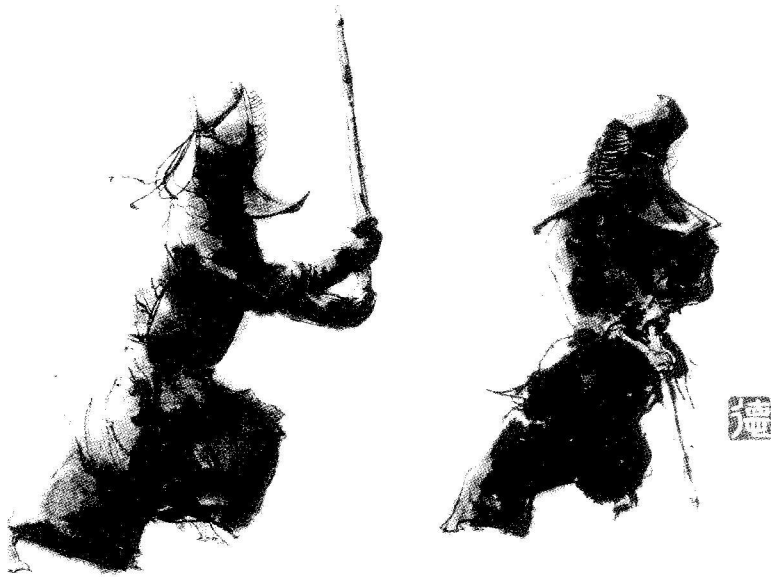
田清実先生をはじめ、阿南・小松島支部から多くの先生方に参加していただき、充実

創部十年近くになりますが、毎年数名の新入部員を迎えており、今年も高校・大学

時代に、剣道部に所属していたという方が入社予定と聞いておられますので、ぜひ入部してもらいたいと思っています。また将来、仕事をしながら実業団チームで剣道をしたという方が増えてくれれば、更に盛り上がってくると思います。

これまで、徳島県の実業団チームは日亜化学一チームでありましたが、最近では大塚製薬さんも社内でも部として承認が降りたと聞いております。これで徳島県からは二チームとなるため、お互い協力し合いながらも切磋琢磨して、各種大会（特に全日本実業団大会）で二チームが上位に進出できるように頑張っていきたいと思えます。

まだまだ、経験の少ない若手中心のチームではありますが、実業団剣道界で徳島県、また日亜化学という名を広げられるよう頑張ってください。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



## 道場・教室だより

## 「月一の集い」

## 鳴門工業高校OB稽古会

鳴門市立鳴門工業高等学校

剣道部顧問 山田浩史



私が鳴門工業高校に赴任して来たのは、今から三年前で、そのころの剣道部は、三年生が三名、一年生が六名の計九人の男子部員がいて、顧問は藤本雅史先生と谷喜史

先生と私の三名でした。毎日の稽古は、基本稽古の後三名の指導者が元立ち、九名の部員たちと三十分間、長い

ときには一時間ほど地稽古で汗を流しました。高校に入学して剣道を始めた一年生三名も必死でついてきました。剣道連盟の稽古会へ参加したり、県外の錬成会などにも少しずつ参加させてもらうようになりました。対外試合ではなかなか勝てませんでした。部員たちのやる気は日増しに膨らんでいったと思います。

また、三名の指導者同士の稽古も積極的に行っています。年代の違う者同士ですが、甘えのない厳しい稽古ができ、私にとっては毎日が勉強です。

そしてこの鳴門の地は、伝統ある剣道どころとして知られていますが、地域の方々とともに気軽に稽古を通じて交流が出来るまいだろうかと考えるようになりました。鳴門工業高校の武道館で稽古会ができないものかと、地元にお住まいの藤本雅史先生に相談をしました。鳴門工業高校剣道部のOB会「剣誠会」は、毎月の第一日曜日をOBの稽古日とし、鳴門工業高校の武道館で自主的に稽古が出来るようになっていました。しかし稽古日を設けてはいるのですが、O

Bもそれぞれ仕事を持ち、なかなか集まらないのが現状でした。そこで、この稽古日に現役部員やわれわれ指導者も合同で参加するようにしました。

一年目は、部員と私たち指導者以外の参加者は一人だけという口もありました。また、稽古会が高校の大会や行事と重なって日程を変更することもあり、定着しませんでした。

二年目になって、「剣誠会」の協力で、日程を岡田さんがOBや参加してくれている方々に連絡してくださるようになり、参加者は着実に増えていきました。そして地域の剣道愛好家や中学生、小学生なども参加してくれるようになり、多くの人達が自由に参加できるような稽古会に成長発展してきました。

現在では、多いときには三〇名を超えるような日もあります。十一メートル四方のコートが一面とれる広さですから、ほとんど芋を洗うような状態です。しかし、所狭しと稽古着の袖が触れあうような稽古は、逃げ場のない凝縮された空間を醸し出し、

おのずと集中力が高まり、熱気に満ち溢れています。

稽古は、午前十時から一時間程度行います。高校生以下は、九時からストレッチ体操、素振りと基本稽古を行い、先生方が来られるのを待ちます。先日は、教士八段の河田清実先生や、私の大学の先輩でもある香川県の教士八段の井上孝先生がおいで下さいました。また、鳴門教育大学の木原資裕先生や高段者の先生方も見えにられ、ご指導いただいております。

この稽古会は、剣道が好きで真面目に取り組まれている方ならどなたでも参加できます。本校部員の保護者も防具を着け、子ども達とともに汗を流しました。しばらく剣道を離れていて、久しぶりに剣道をしたというOBも、休憩を入れながら自分の体力にあわせて稽古しています。三年前に初心者で入部した生徒も初段を取得し、今年立派に卒業しました。卒業後でもこの稽古会に参加してくれています。

「この稽古は、打っても打たれても気持ちがいい。稽古するのが楽しい。鳴門工

業の剣道は真っ直ぐな面ですね。」と喜んでくださるOBがいました。私たちには、本当に嬉しい一言でした。

「剣誠会」には、その他の面でもいろいろとサポートしていただいております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

ところで、鳴門工業高校は、平成二十四年度からは新高校に再編統合され、五十年近い歴史に幕を閉じようとしています。学校名は変わってもこの稽古会が、新高校に向けての良き橋渡しとなることを願っております。

この鳴門工業高校に赴任した当時、ここで私にできることは何だろうと考えました。日々の稽古を大切にし、こつこつと地道に努力する生徒たちとの出会いは、私に「剣道の原点」に立ち返り、一からやってみることの大切さ」を教えてくださいました。



剣道を通して、多くの方々と出会い、つながりを持てる日々喜びを感じています。そして、「剣道の原点」を見つめながら剣知愛の精神で、これからもこの稽古会を続けていきたいと考えております。

# 長期育成強化錬成会

強化委員会 平野 誠 司

平成十九年から始まった育成強化事業は、今年で三年目となり、年二回の開催（初年度は一回）を重ねながら順調に充実を図っております。

この事業は、全剣連の行う「選抜特別訓練講習会（骨太剣士）」（世界選手権大会に向けた強化講習会に参加する一つ前の世代から有望な剣士を集めて強化育成していくというとする取り組み）をヒントに、徳島県でもこれに似た強化策はないだろうかという発想の元、この構想の模索が始まっていきましました。

以前から強化と言えば、高体育連は高体連、中体連は中体連そして少年は少年といった具合にそれぞれの枠の中で実施され、各大会で結果を得ることが大きな目的となっていると思われまます。当然にそういった強化も必要ですが、その個人個人の剣道に正面と向かい合って、「剣道の基本」を大切

に見直していこうとするとともに、将来を見据えた育成強化の神髄があります。

といっても、年二回の強化だけでは何ともならないのが本音であります。主にこの場は自らが今の自分と向かい合い、一つ上の剣道に触れ、そして不足に気付き、そして持ち帰ること。この気付きの実現がなければ、一年に二回の実施ではあまり効果も得られません。ここは指導者も訓練生も勉強の場として、気付きの空間にしていきたいと考えています。

現在、小学五年生から高校二年生まで一五二名が選考されています。学年で言えば男女十数名程度です。小学五年生から高校三年生までの約八年間を通じて、将来を夢見る剣士がお互いの勝負を方便としながらも、確実に自分の剣道を伸ばしていく。また、指導者も徳島の将来を託す剣士達をみんんで支えながら鍛えていく。

こうした三世代の老若男女が一堂に共導・共習の場を創り出すことが、まさに「生涯剣道」を支える構図であり、将来の徳島の剣道を支える原動力になるものと信じてい

ます。

最後に、この強化錬成会は強化委員会でお世話をしていますが、もっともっとたくさんの方々がこのすばらしい空間に足を運んでいただき、ご指導ご鞭撻を頂けますようにお願い申し上げます。ご報告といたします。

## 〈強化委員会〉

委員長 河田清実 副委員長 近藤 亘  
委員 (50音順) 生田浩章、臼木 崇、木原資裕、佐々木和人、  
白木洋一、平野誠司、福多雅英、前田秀一、松村和弘

回数	訓練日	主任指導者	指導者数	参加訓練生
第1回	08.02.10	河田清実 先生	20	116
第2回	08.08.24	近藤 亘 先生	25	123
第3回	09.02.14	河田清実 先生	20	110
第4回	09.08.16	西谷肇一 先生	25	128
第5回	10.02.07	河田清実 先生		

## 木刀による基本技稽古法

板野東支部 西 堀 和 文



私は、昨年（平成二十一年）の三月まで東京で約五年九ヶ月勤務しておりました。東京

稽古をしておりました。

「木刀による剣道基本技稽古法」に出会ったのは、平成十六年の全日本剣道大会の日本武道館会場での公開演武でした。小中学生が元立ち、掛り手となって場内放送で解説をしながらの演舞でしたが、始めて目にしたときは何をやっているのかよく理解できず、こんなものがあるんだな、という程度で見学していました。

木刀による剣道基本技稽古法の普及が始まり、当クラブの会長がこの稽古法の普及に務められていたことから、我々のクラブがいち早くこの稽古法を始めることになりました。子供に教えるためにはまず指導する大人がしっかりと覚えなくてはいけない、というご指導の元にこの基本技稽古法の稽古が始まりました。

その後、東京都剣道連盟主催で基本技稽古法の競技大会が行われるということで指導が始まったようですが、この時点では認知度は低く周辺の剣道クラブでは何をやってらよいか、手が付けられない様子でした。

競技大会のためにと稽古を始めると細部の解釈が微妙に異なり、例えば基本二の残心後に剣を合わせるのは何時か、基本三の払いと基本六のすり上げの違いは、とか基本九の打ち落とすときの振りかぶりはどこまでか、等々の質問が全剣連に多く寄せられたようであります。

有段者が実施するときは身体が自然に動き円滑な繰法となりますが、子供に教えるときにはまさに一挙手一投足が必要となります。東京都剣連ではこれらの意見を受け、指導される先生方の稽古会で標準化を図ったと伺っております。幸いなことに我々が指導された先生がこの稽古会に参加しておられたことから、標準化された稽古法をいち早く稽古することができました。

いよいよ子供たちの稽古を始めました。小学生に木刀による寸止めができるのか、怪我はしないか等心配はしましたが、いざやってみるとほとんど問題はありませんでした。生身の元立ちに向かって木刀を振り下ろすという操作は、小学低学年でも十分に理解できるものであったようです。素振

に行く前は板野郡松茂町でサッカーをやっていました。東京への赴任時に以前やっていた剣道を再開したいと思い、古い剣道具を持って行きました。住まいの近くの小学校で竹刀の音が聞こえ、早速その少年剣道クラブに入会させて頂き、それから約五年半、東京で稽古することができました。

この剣道クラブの会長（教士八段）は、木刀の形、木刀による素振りが大事であるということをおっしゃられ、特に子供たちを教える大人が木刀による形をしっかりと身につけることが必要である、ということから、子供の稽古とは別に週一回の大人の稽古の日をもうけ、木刀による素振り、剣道形の

りでは力一杯振り回す子も寸止めの稽古の最初は怖々、そーっと打ち下ろし子供によっては二〇センチメートルも離して止める子もいました。それが、稽古を続けていくうちにだんだんと様になり、立派にできるようになりました。約三年稽古を続けました。が幸い一度も事故はありませんでした。

定年となって徳島に帰り、現在松茂町、北島町と鳴門のソイジョイ武道館等で稽古をさせて頂いております。また、高齢者剣友会に入会させて頂き、多くの先生方のご指導を頂いております。

たまたま皆様より少し早く形を覚えた、ということから木原先生とご縁を頂き、拙いながら講習会でお手伝いをさせて頂きました。この稽古法は日本剣道形の移行を容易にするため、とありますように小学低学年の子供が主な対象になるかと思いますが、子供たちのために少しでもお役に立てればと思っております。子供たちへのご指導時に疑問等があればいつでもお問い合わせ下さい。また、どこへでも出かけられますので、お手伝いさせて頂きたいと思っ

ております。



子供たちの稽古風景

## ジュニア・リーダー スクールに参加して

徳島清風館道場 杉本 純

夏休のある日、道場の久保先生から「スポーツ少年団のリーダー研修に行ってみないか。」という連絡をいただきました。そこで、同じ道場の竹内君と一緒に行くことにしました。

僕が想像していたリーダー研修は「リーダーとはこうあるべき」ということを教えてもらう研修でした。でも、実際は想像していたこととは全く違っていました。

研修場所の淡路青少年の家に着いたときには、班が決められていました。班のメンバーの学年はバラバラでした。開講式の後、すぐに班の役割を決め班長となりました。

二日目の午前中に「スポーツ少年団とは」「活動にはバラエティーを」「のぞましいリーダー」の三つの講義を聞きました。それ以外の時間は、ディスクゴルフやレクリエーションなどの「遊び」がほとんどでした。

それらをしているうちに、ふとチームワークができていることに気がつきました。これに気づいたとき、レクリエーションが多い理由が分かったような気がしました。リーダーはメンバーそれぞれの意見をみんなが同じ目的に向かうようにまとめる事が役割だと思いました。

僕は今、加茂名中学校剣道部のキャプテンをしています。加茂名中学校にはまだまだチームワークが足りません。だから、僕がこの研修の経験を生かし、チームワークを高めていきたいと思っています。そうすれば今までより、もっと強いチームになると思っています。



# 素晴らしいリーダーに

## なるためには

国府中学校 竹内 優介

僕がこのジュニアリーダースクールに参加しようとした理由は二つあります。一つは、人と話すことがあまり得意ではないので、人と関わるためのコミュニケーション能力を身につけたかったことと、もう一つはリーダーとして部員の結束力を強めるまとめ方について学びたいと思ったからです。

このスクールでは自分の考えていた以上に多くのことを知ることができました。参加したての頃はとても緊張していましたが、同じ班で行動したり、ゲームを行うことにより緊張も解け楽しくなりました。一つのことをみんなですることによって知らなかった人たちとの間に絆ができ、励ましたり応援したりする大切さを感じました。毎日の挨拶で、人と関わる楽しさも改めて大事なことだと気づくことができました。

講義では、リーダーとして必要なことを教わることができました。キャプテンは、部員が間違いをしてしまったとしても、ただ怒るだけではなく、正しいことを伝え導き、そして相手の気持ちを考え、良いところを見つけてあげることのできる思いやりの心をもって接することが大切なことだとわかりました。キャプテンは技術だけが他の部員よりも優れているわけではなく、自分の意見をしっかりと持ち、ハキハキと発言ができる

判断力、決断力があることも大切です。しかし一番大切なのは、部員に対するキャプテンとしての責任感があることなのだと思います。

僕は今まで積極的に行

事に参加する方ではなかったけれど、今回の発表等で積極的に参加してとても面白かったです。これからは恥かしながら、学校の行事にも積極的に参加していきたいと思います。また、剣道部のキャプテンとしてもこれから部員全員をまとめ結束力を高め、誰にでも誇れるような剣道部になれたらいいなと思います。



## 剣友からの書籍の 寄贈について

剣道連盟理事長 三木 毅

この度、剣道連盟に対して、お二人から貴重な書籍などの寄贈がありましたのでご披露いたします。

贈呈されましたお二人に心から感謝を表し、今後剣友諸氏に生かされるものと確信いたします。

一、西野 信男 氏

平成二十一年三月十七日、故西野四郎先生のご子息西野信男さまが剣道連盟事務局に足を運ばれ次の書籍の贈呈がありました。

「刀と剣道」平成元年十一月発行 全十五卷

二、南 充実 先生

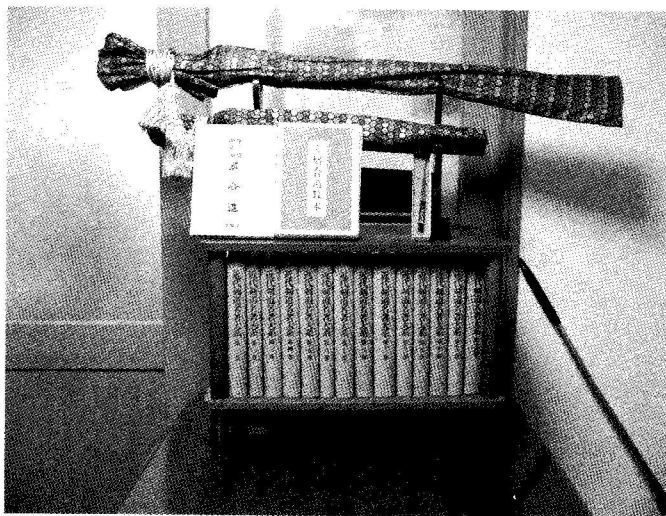
平成二十一年三月二十三日、南先生自ら剣道連盟事務局にお出でになり次の書籍などの贈呈がありました。

「居合道教本」檀崎友彰著

「居合道」 夢想神伝流 山嵎重吉著  
「近代剣道名著大系」全十五巻書棚付き  
「飾り刀 大刀小刀」飾り台  
「小柄 一振り」



故西野四郎先生のご遺族からの寄贈書籍



南充実先生からの寄贈書籍と飾り刀など



〈女子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	仁木	岩原	湯浅	近藤	湊	4	7	
	⊗ ⊗	⊗ ⊗		⊖一本勝	⊕ ⊗			
城北	迎	高橋	井上垂	石川	井上愛	1	1	
			一本勝 ⊗					

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	岡内	佐藤	井上	長谷川	原	5	6	
	⊖ 延長	⊖一本勝 ⊗	⊖ ⊗	⊖一本勝 ⊗	⊗一本勝			
川島	藤本	酒巻	兼中	村上	櫻木	0	0	

3 位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	迎	高橋	井上垂	石川	井上愛	2	3	
	延長	延長	⊖ ⊗	⊗一本勝	▲			
川島	藤本	大館	兼中	中西	櫻木	0	0	

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	仁木	岩原	湯浅	近藤	湊	3	5	
	延長	⊗一本勝	⊗ ⊗	⊗	⊗			
富岡西	岡内	佐藤	井上	長谷川	原	0	1	
					⊗			

〈男子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	松本	淀谷	青木	岡田	鈴木	4	4	
	⊖一本勝 延長	⊖ 延長	⊖ 延長	延長	⊗一本勝			
城北	岡田	元木	笠井	清水	河村	0	0	

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	小西	上田	安部	藤本	臼木	3	4	
	⊗ 延長	⊗一本勝	⊖一本勝	⊗	延長			
阿南工	小薮	住友	松本	土井	湯浅	1	2	
	⊗ ⊗							

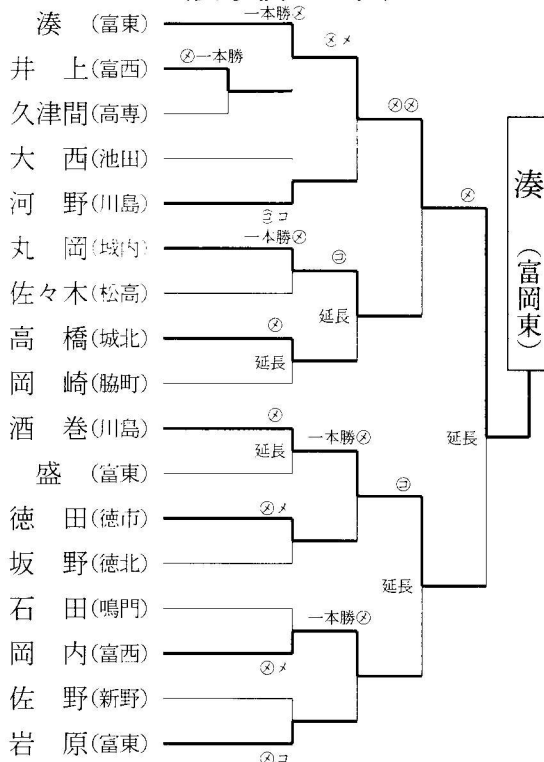
3 位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	岡田	元木	笠井	清水	河村	3	5	
	⊗ ⊗	⊖一本勝	⊖ ⊗					
阿南工	小薮	神元	松本	土井	湯浅	0	0	

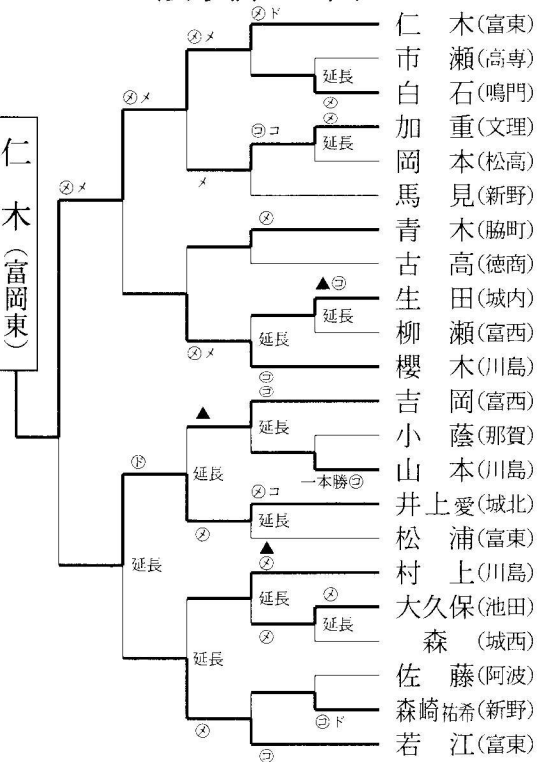
決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	松本	淀谷	青木	岡田	鈴木	2	2	
	▲ 延長	延長	⊖ 延長	延長	⊗ 延長			
富岡西	小西	上田	安部	藤本	臼木	0	0	

〈女子個人1組〉



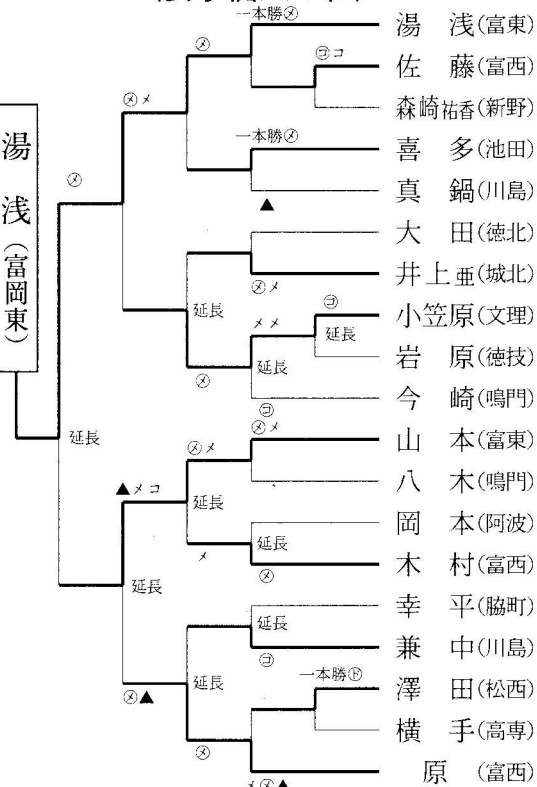
〈女子個人2組〉



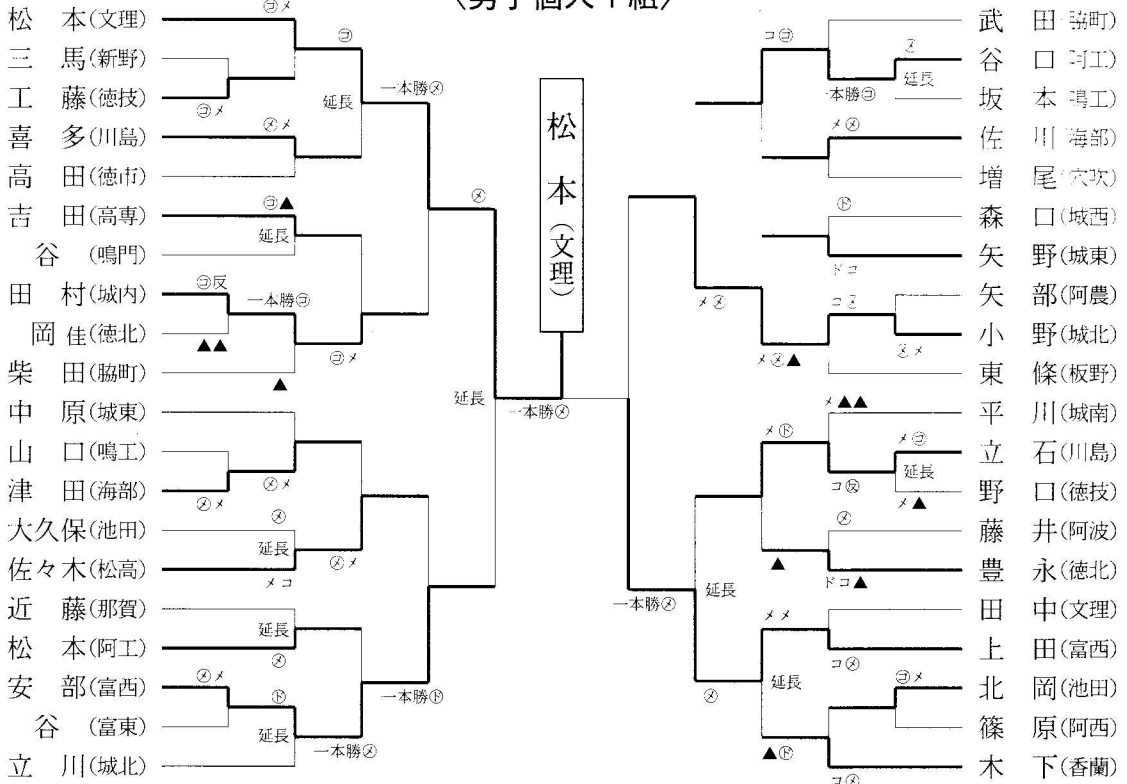
〈女子個人3組〉



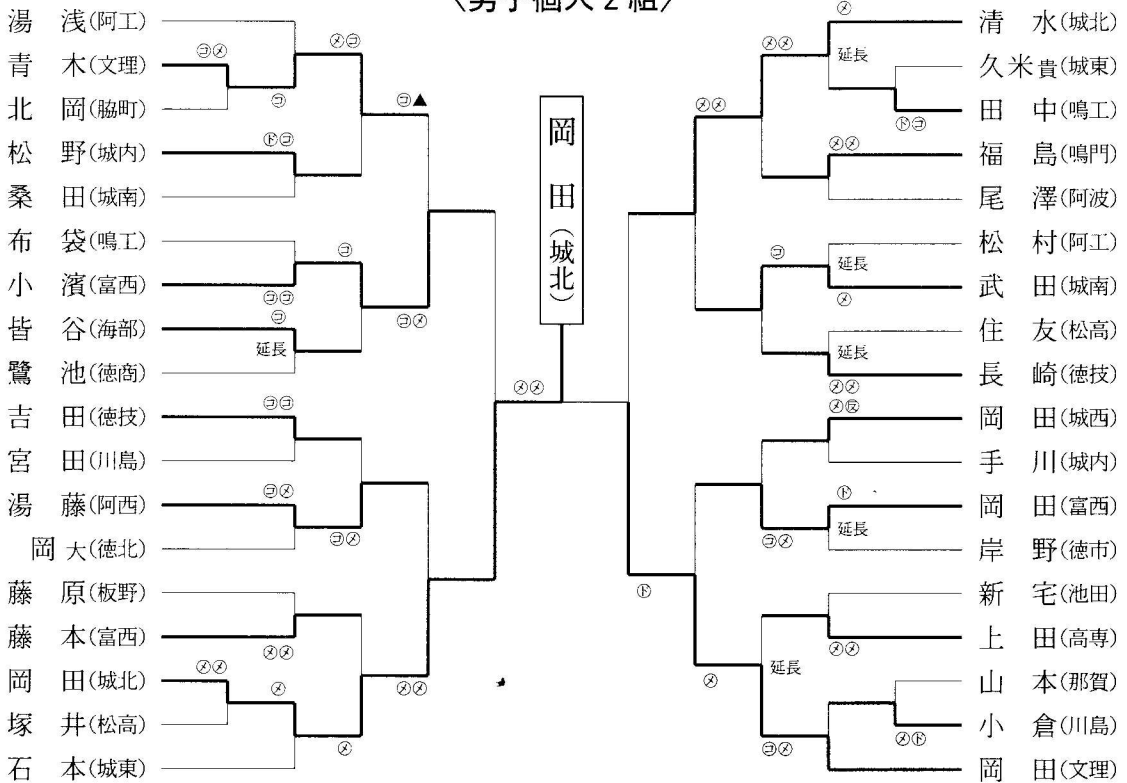
〈女子個人4組〉



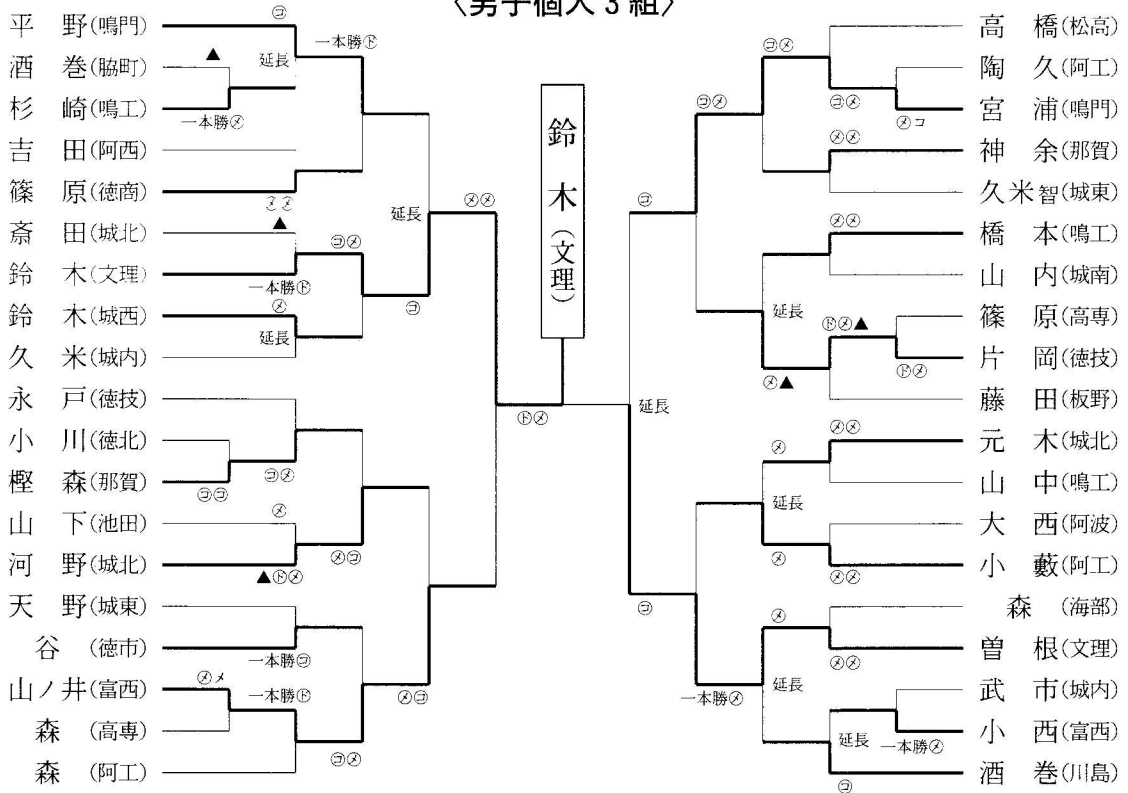
〈男子個人1組〉



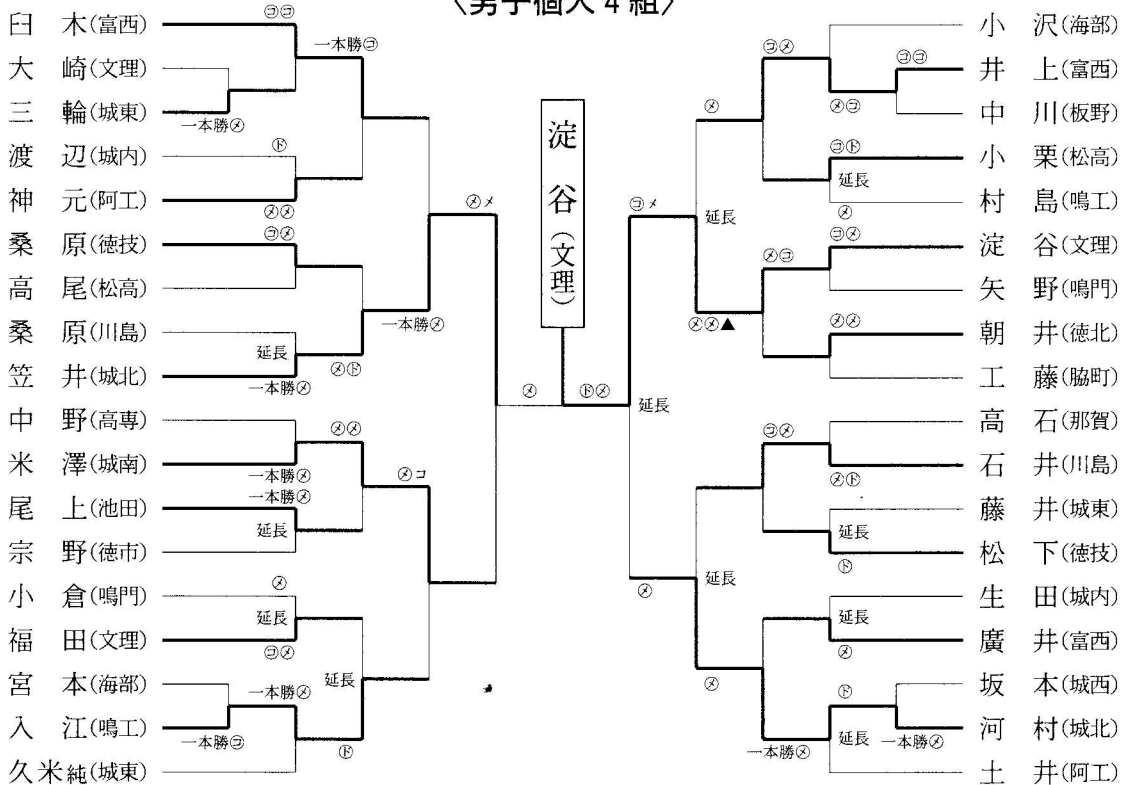
〈男子個人2組〉



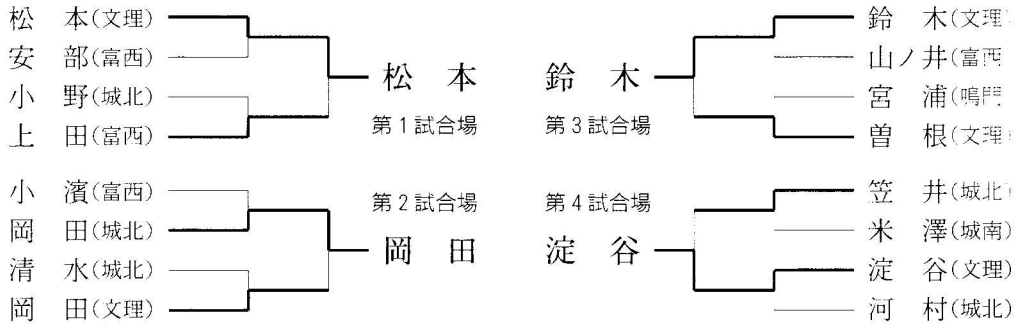
〈男子個人 3組〉



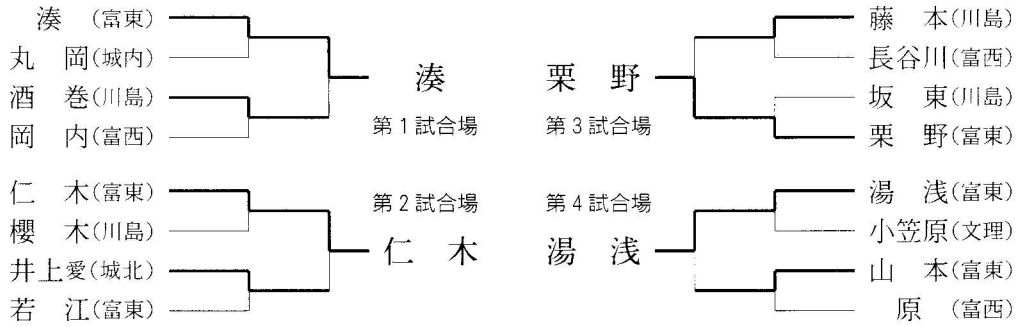
〈男子個人 4組〉



### 〈男子個人戦〉



### 〈女子個人戦〉



## 決勝リーグ

### 〈男子個人戦〉

	松本	岡田	鈴木	淀谷	勝数	勝本数	得失差	順位
松本		△延長	△延長	⊖▲延長	1	1	-1	4
岡田	⊗▲延長		⊗	△	2	2	0	2
鈴木	⊗延長	△		⊗コ	2	3	+2	1
淀谷	▲延長	⊗メ	△		1	2	-1	3

### 〈女子個人戦〉

	湊	仁木	栗野	湯浅	勝数	勝本数	得失差	順位
湊		⊗⊗	△延長	⊖▲延長	2	3	+2	1
仁木	△		⊗	△延長	1	1	-2	4
栗野	⊗延長	▲		△	1	1	-1	3
湯浅	△延長	⊗延長	⊖		2	2	+1	2

## 第61回 四国四県剣道大会

日 時 平成21年 5月24日(日) 午前 9時  
場 所 高松市総合体育館 第一競技場

県名	監督	区分	男子			20代		30代			40代			50代			60代	得点 (本数)
			順	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	
徳島県		氏名	吉岡	上久	平野	六條勝	六條	日和田	山名	山本	白木	平野	高木	久保	近藤	河田	出葉	6 (10本)
		得点	⊗ ⊕				⊗ ⊗		⊖		⊖				⊖ ⊗	⊗ ⊗		
		得点		×	×	×		一本勝 ⊗		⊖ ⊕		×	⊖ ⊕	一本勝 ⊖			一本勝 ⊗	
高知県		氏名	小谷	松田	公文	西山	尾崎	宇賀	井口	小笠原	中澤	藤野	中越	垣石	下坂	西村	渡邊	5 (7本)
		得点						一本勝 ⊗		⊖ ⊕			⊖ ⊕	一本勝 ⊖			一本勝 ⊗	
		得点																

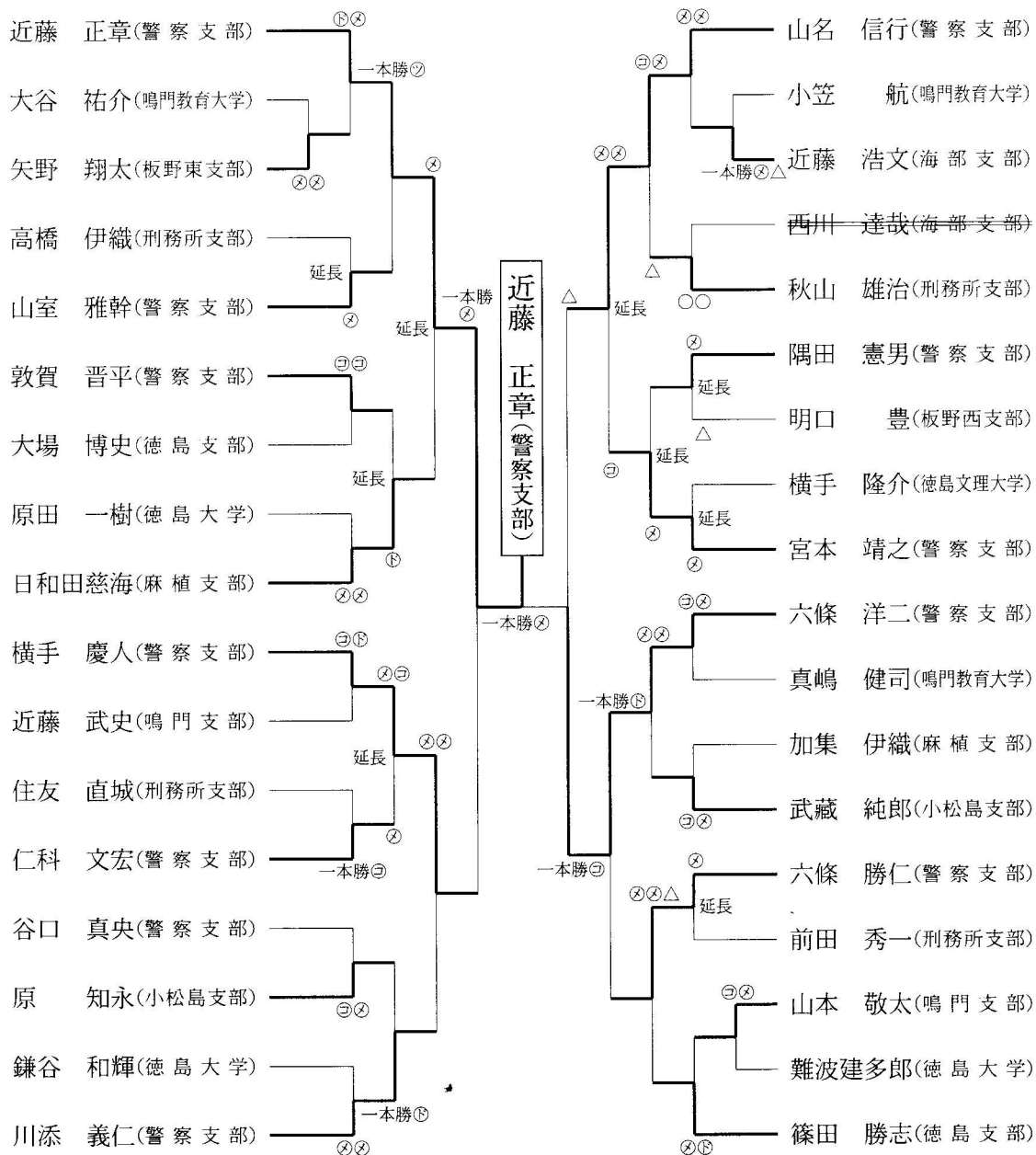
県名	監督	区分	男子			20代		30代			40代			50代			60代	得点 (本数)
			順	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	
香川県		氏名	河村	谷本	金丸	松本守	松本	木村	小川	藤本	宮本	村上	玉浦	氏家	大林	真鍋	北隅	2 (3本)
		得点		⊖								⊖		⊗				
		得点	×		一本勝 ×	×	×	×	×	×	×	×		一本勝 ⊖			一本勝 ×	
徳島県		氏名	吉岡	上久	平野	六條勝	六條	日和田	山名	山本	白木	平野	高木	久保	近藤	河田	出葉	4 (7本)
		得点												一本勝 ⊖	⊖ ⊖	⊗	一本勝 ⊗	
		得点																

県名	監督	区分	女子			20代		30代			40代			50代		60代	得点 (本数)	
			順	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将		副将
愛媛県		氏名	本	三	小	上	田	馬	近	高	山	新	濱	遠	渡	田	上	5
			田	木	笠原	甲	邊	越	藤	宮	崎	谷	田	藤	部	邊	垣	
徳島県		得点	ⓧ							☐	ツ		☒	☐			☒	3
				×	×			×	×		一本勝	×	×			一本勝	×	
徳島県		得点					一本勝								一本勝			3
						▲	☐	☒				☒				☒		
徳島県		氏名	吉	上	平	六	六	日	山	山	白	平	高	久	近	河	出	5
			岡	久	野	六條勝	六條	日和田	山名	山本	白木	平野	高木	久保	近藤	河田	出葉	

	愛媛	高知	徳島	香川	勝数	勝者数	勝本数	順位
愛媛		$\frac{13}{7}$	$\frac{9}{5}$	$\frac{7}{5}$	3	17	29	1
高知	$\frac{5}{2}$		$\frac{7}{5}$	$\frac{7}{2}$	0	9	19	4
徳島	$\frac{5}{3}$	$\frac{10}{6}$		$\frac{7}{4}$	2	13	22	2
香川	$\frac{4}{3}$	$\frac{15}{7}$	$\frac{3}{2}$		1	12	22	3

## 第21回 徳島県剣道選手権大会並びに 第57回 全日本剣道選手権大会県予選会

優勝 近藤 正章 (警察支部) 準優勝 六條 洋二 (警察支部) 第三位 横手 慶人 (警察支部) 第三位 山名 信行 (警察支部)	日時 平成21年7月12日(日) 午前9時30分 場所 鳴門ソイジョイ武道館
---	---





## 第63回 徳島県中学校夏季総合体育大会 剣道競技

日 時 平成21年7月18日(土) 午前8時40分  
場 所 鳴門ソイジョイ武道館

### [団体戦]

順位	男 子	女 子
優 勝	鳴 門 第 一 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
準 優 勝	徳 島 文 理 中 学 校	北 井 上 中 学 校
第 3 位	木 頭 中 学 校	徳 島 文 理 中 学 校
第 3 位	阿 南 第 一 中 学 校	加 茂 名 中 学 校

### [男子決勝リーグ]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	勝 敗
徳島文理	久保孝	谷本	高木	岸田	久保公		2
		延 <sup>⊗</sup>	延	延	⊗ <sup>⊖</sup>		
鳴門第一	⊖一本勝	長	長 <sup>⊗</sup>	長 <sup>⊗</sup>			3
	平野	岩木	竹内	宇井	黒木		

### [女子決勝リーグ]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	勝 敗
那賀川	山本悠	山本響	松本	中村	湯浅		3
			延 <sup>⊗</sup>	⊖ <sup>×</sup>	⊖一本勝		
北井上	⊗一本勝	⊗ <sup>×</sup>	長				2
	松浦	美馬	中村	下込	矢部		

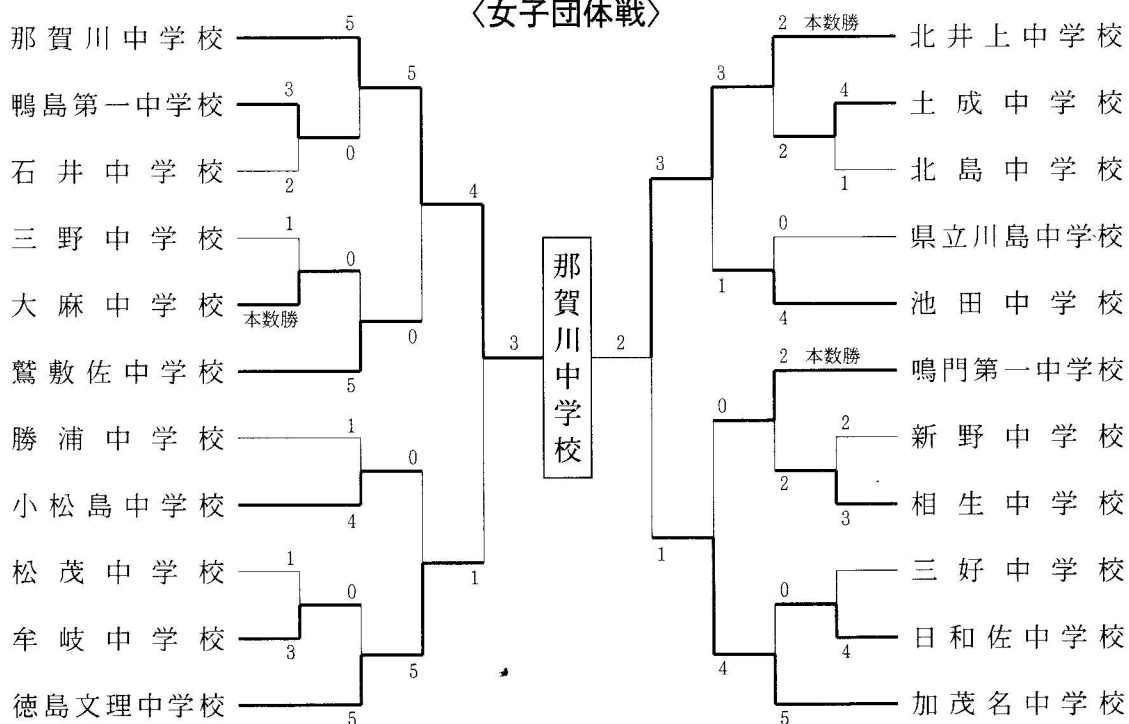
### [個人戦]

順位	男 子	学校名	順位	女 子	学校名
優 勝	久保公緒	徳島文理	優 勝	中村亜莉沙	那賀川
準優勝	蘆田佳郁	那賀川	準優勝	田中理弥	北 島
第3位	宇井友隆	鳴門第一	第3位	岡田春希	木 頭
第4位	土井敦斗	阿南第一	第4位	川原真実	徳島文理

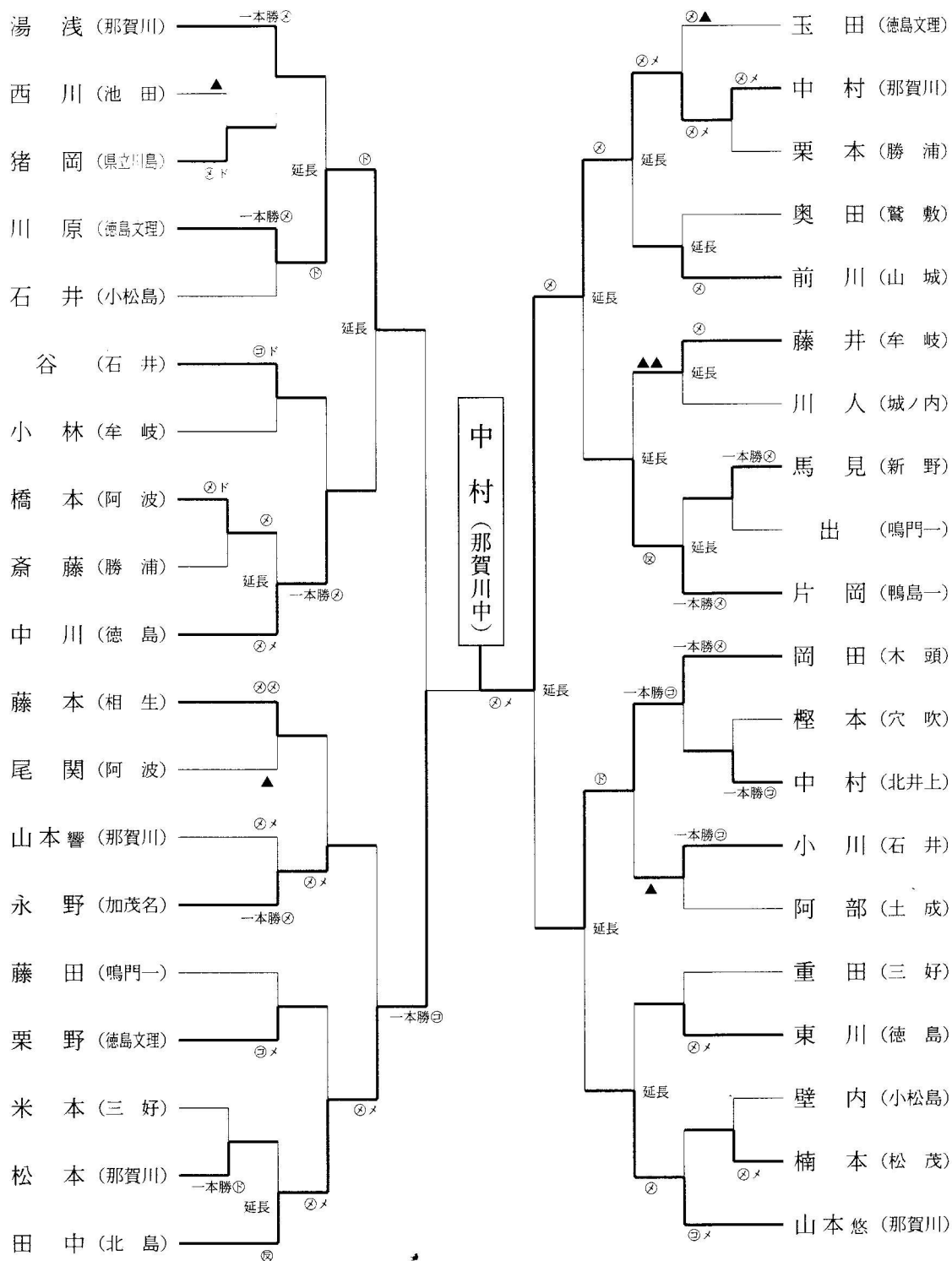
〈男子団体戦〉



〈女子団体戦〉



〈女子個人戦〉







# 第30回 国民体育大会四国ブロック大会

日 時 平成21年 7月20日(月) 午前 9 時  
場 所 那賀川スポーツセンター

## 〈少年女子〉

### 第1試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
高知	森岡	西村	寺峯	木村	清岡	4
	⊖		⊖ ▲一本勝	⊖	⊗	4
徳島	延長	一本勝 ⊗		延長	延長	1
	▲ 仁木	栗野	湯浅	近藤	湊	1

### 第2試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
香川	港	北谷	白井	福井	須田	0
						0
徳島	一本勝 ⊕	⊗	一本勝 ⊗	一本勝 ▲	⊗	5
	岩原	栗野	湯浅	近藤	湊	5

### 第3試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
愛媛	山本	岡田	河田	田中	菊池	4
	⊗ 一本勝	⊗	⊗ 一本勝	⊕		3
徳島		延長		延長	延長	3
	仁木	栗野	湯浅	近藤	湊	2

## 〈少年男子〉

### 第1試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
香川	木ノ内	矢野	米倉	下岡	黒川	4
	⊖		⊗	⊖ 一本勝	⊗ 一本勝	4
徳島	延長	延長	延長			1
	⊖ ▲	松本	湯浅	臼木	鈴木	1

### 第2試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
徳島	淀谷	松本	湯浅	臼木	鈴木	3
	▲	▲	⊗ ▲	⊕ 一本勝	⊗	2
愛媛	⊗	⊖	▲		⊗ ⊗	4
	白石	井関	門岡	前田	仁井	3

### 第3試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
徳島	土井	松本	湯浅	平野	鈴木	3
		⊗ ⊗			⊕	1
高知	⊗ ⊖	▲	一本勝 ⊗	延長 ⊕	延長 ⊗ ⊗	6
	篠籾	宮本浩	表原	宮本大	塩谷	4

〈少年男子〉

	香川	徳島	高知	愛媛	勝数	勝者数	勝本数	順位
香川	—	$\frac{4}{4}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$	1	5	6	3
徳島	$\frac{1}{1}$	—	$\frac{3}{1}$	$\frac{3}{2}$	0	4	7	4
高知	$\frac{5}{5}$	$\frac{6}{4}$	—	$\frac{3}{2}$	2	11	14	2
愛媛	$\frac{5}{4}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{4}{3}$	—	3	10	13	1

〈成年女子〉

第1試合

県名	先鋒	中堅	大将	得点
徳島	平野千	上久	平野悦	$\frac{2}{1}$
	⊗ ⊙	▲ 延長		
香川	⊗ 藤井	⊙ 谷本	一本勝 ⊙ 金丸	$\frac{3}{2}$

〈少年女子〉

	愛媛	香川	高知	徳島	勝数	勝者数	勝本数	順位
愛媛	—	$\frac{4}{4}$	$\frac{6}{5}$	$\frac{4}{3}$	3	12	14	1
香川	$\frac{1}{1}$	—	$\frac{5}{3}$	$\frac{0}{0}$	1	4	6	4
高知	$\frac{0}{0}$	$\frac{3}{2}$	—	$\frac{4}{4}$	1	6	7	3
徳島	$\frac{3}{2}$	$\frac{5}{5}$	$\frac{1}{1}$	—	1	8	9	2

第2試合

県名	先鋒	中堅	大将	得点
愛媛	本田	三木	小笠原	$\frac{0}{0}$
	延長	延長	延長	
徳島	⊙ 平野千	⊗ 上久	⊙ 平野悦	$\frac{3}{3}$

〈成年女子〉

	愛媛	高知	徳島	香川	勝数	勝者数	勝本数	順位
愛媛	—	$\frac{1}{1}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{4}{2}$	1	3	5	4
高知	$\frac{1}{2}$	—	$\frac{3}{2}$	$\frac{2}{1}$	2	5	7	2
徳島	$\frac{3}{3}$	$\frac{1}{1}$	—	$\frac{2}{1}$	1	5	6	3
香川	$\frac{4}{1}$	$\frac{3}{2}$	$\frac{3}{2}$	—	2	5	10	1

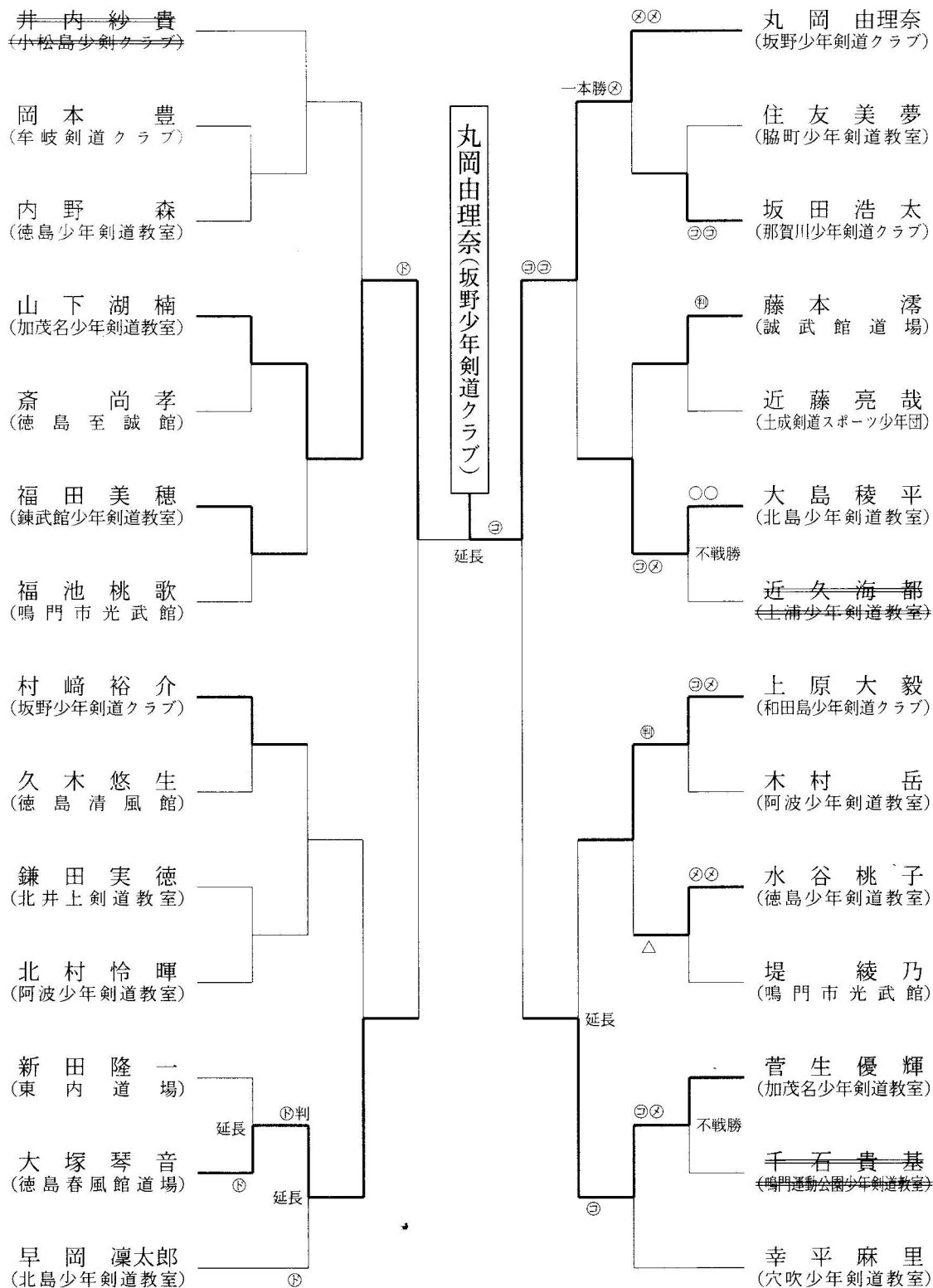
第3試合

県名	先鋒	中堅	大将	得点
高知	中嶋	大崎	恒石	$\frac{3}{2}$
		⊗ ⊗	⊗	
徳島	一本勝 ⊙ 平野千		延長 平野悦	$\frac{1}{1}$

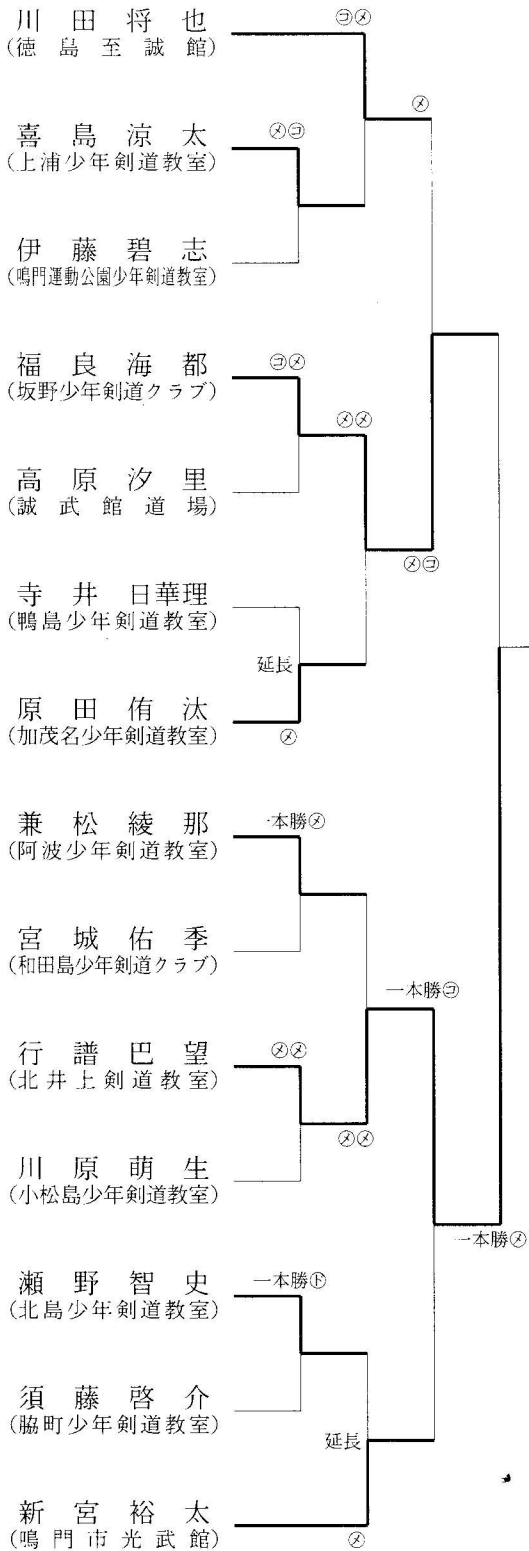


〈個人戦B組〉

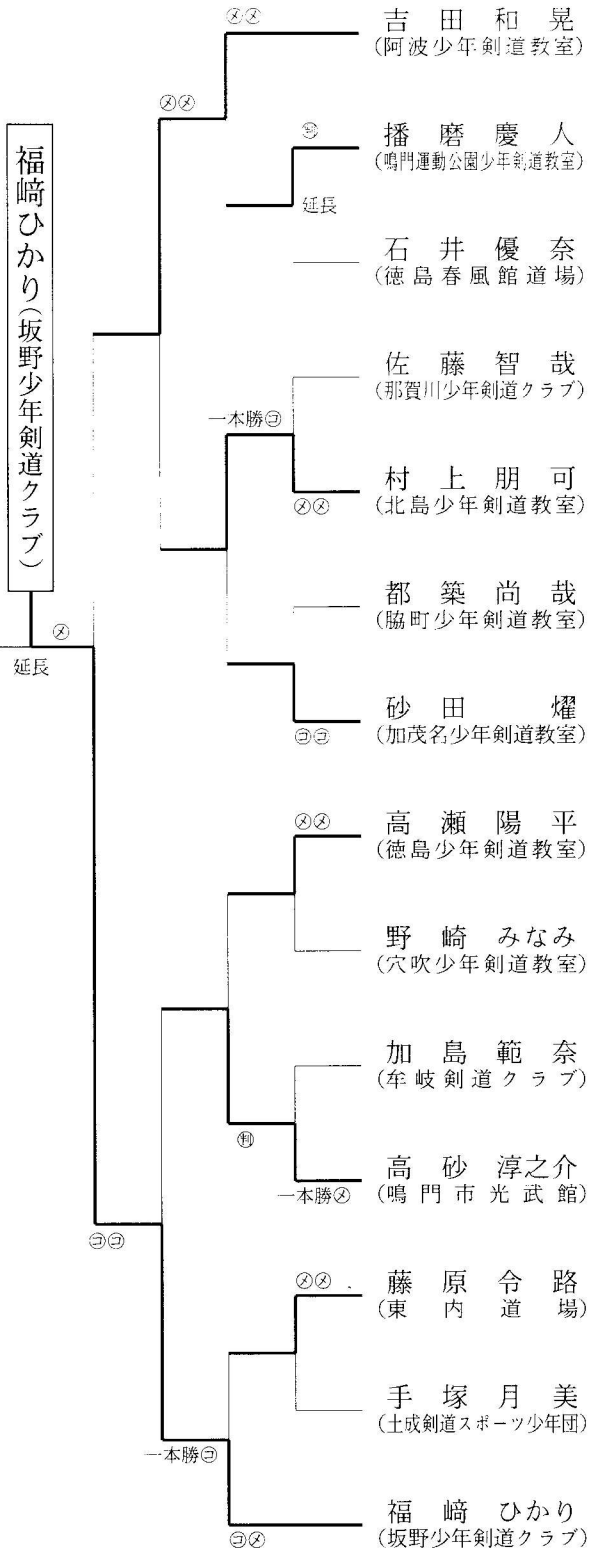
〈個人戦A組〉



〈個人戦D組〉



〈個人戦C組〉



福崎ひかり (坂野少年剣道クラブ)

### 準決勝戦 (団体戦)

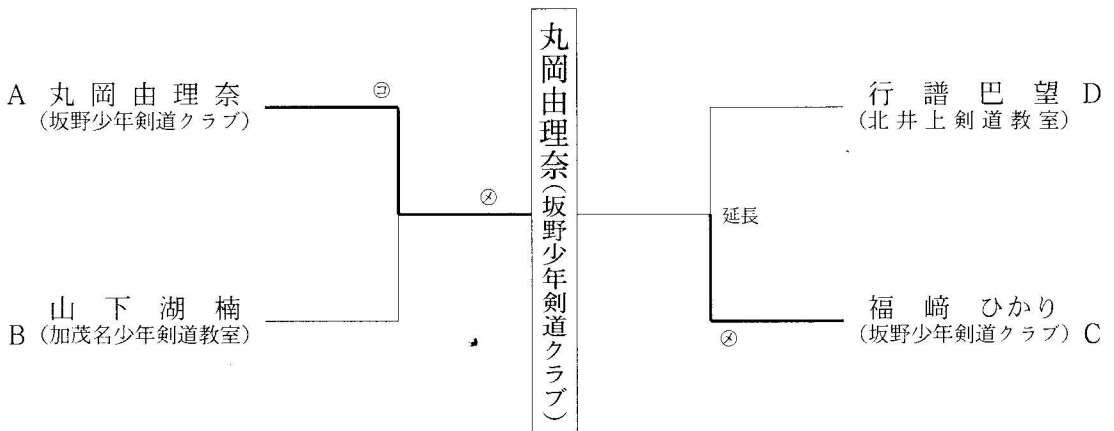
チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
徳島至誠館	住友	湯浅	玉田	福田	田中	3 1
	⊗	⊗ ⊖				
振武館	⊗					1 0
	津田	中野	三馬	河田	田村	

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
小松島少剣クラブ	松山	長谷川	檜田	鳴川	南谷	0 0
藍住剣道スポーツ少年団	一本勝					1 1
	⊗ 玉川	深見	森本	吉本	玉川	

### 決勝戦 (団体戦)

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	
徳島至誠館	住友	湯浅	玉田	福田	田中	5 4
	⊖ ⊖		⊗ 一本勝	⊗ 一本勝	⊖ 一本勝	
藍住剣道スポーツ少年団						0 0
	玉川	深見	森本	吉本	玉川	

### 決勝戦 (個人戦)



# 第30回 徳島県女子剣道大会

## 団体戦

日時 平成21年9月20日(日) 午前9時30分  
場所 中央武道館

優勝 教員剣美会  
準優勝 川島剣友会 A  
第3位 川島剣友会 B

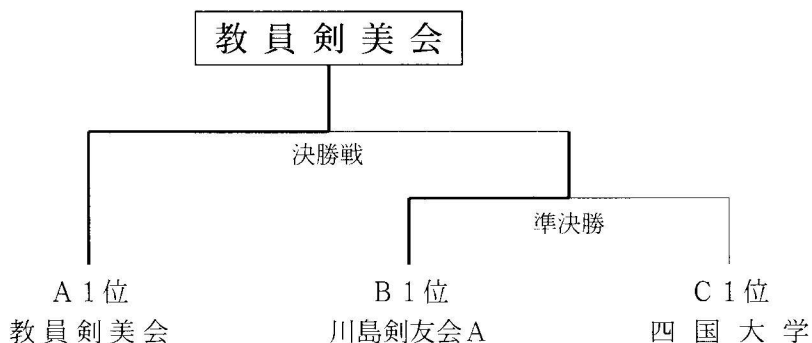
### 〈団体戦予選リーグ〉

A	教員剣美会	川島剣友会 B	鳴門教育学大	徳島文理大学 B	勝数	勝本数	得失差	順位
教員剣美会		$\triangle \frac{1}{1}$	$\circ \frac{5}{3}$	$\circ \frac{3}{2}$	2	9		1
川島剣友会 B	$\circ \frac{2}{1}$		$\circ \frac{4}{2}$	$\triangle \frac{0}{0}$	2	6		2
鳴門教育学大	$\triangle \frac{0}{0}$	$\triangle \frac{0}{0}$		$\triangle \frac{0}{0}$	0	0		4
徳島文理大学 B	$\triangle \frac{0}{0}$	$\circ \frac{1}{1}$	$\circ \frac{2}{1}$		2	3		3

B	徳蔵本 B	徳島文理大学 A	川島剣友会 A	勝数	勝本数	得失差	順位
徳蔵本 B		$\triangle \frac{0}{0}$	$\triangle \frac{0}{0}$	0	0		3
徳島文理大学 A	$\circ \frac{6}{3}$		$\triangle \frac{1}{0}$	1	7		2
川島剣友会 A	$\circ \frac{6}{3}$	$\circ \frac{3}{2}$		2	9		1

C	三支部連合チーム	四国大学	徳蔵本 A	勝数	勝本数	得失差	順位
三支部連合チーム		$\triangle \frac{2}{1}$	$\circ \frac{4}{2}$	1	6		2
四国大学	$\circ \frac{3}{2}$		$\circ \frac{5}{2}$	2	8		1
徳蔵本 A	$\triangle \frac{0}{0}$	$\triangle \frac{1}{0}$		0	1		3

# 決勝トーナメント



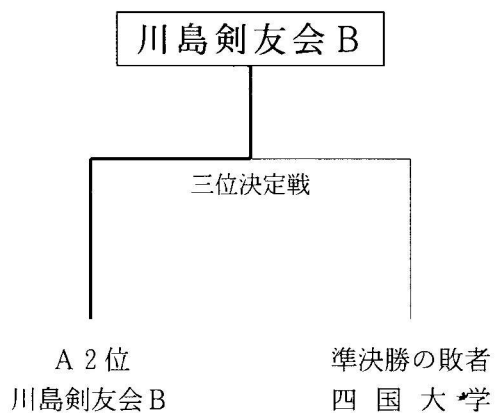
## 決 勝

	先鋒	中堅	大将	代表戦	勝本数 勝者数
教員剣美会	塚原	福田	竹内		3
	⊖	X	⊗ ⊗		1
川島剣友会 A	⊗ ⊖	X			2
	隅田	近藤	岩木		1

## 準 決 勝

	先鋒	中堅	大将	代表戦	勝本数 勝者数
川島剣友会 A	隅田	近藤	岩木	近藤	2
	X	⊗ ⊗		⊗	1
四国大学	X		⊖ ⊖		2
				黒川	1

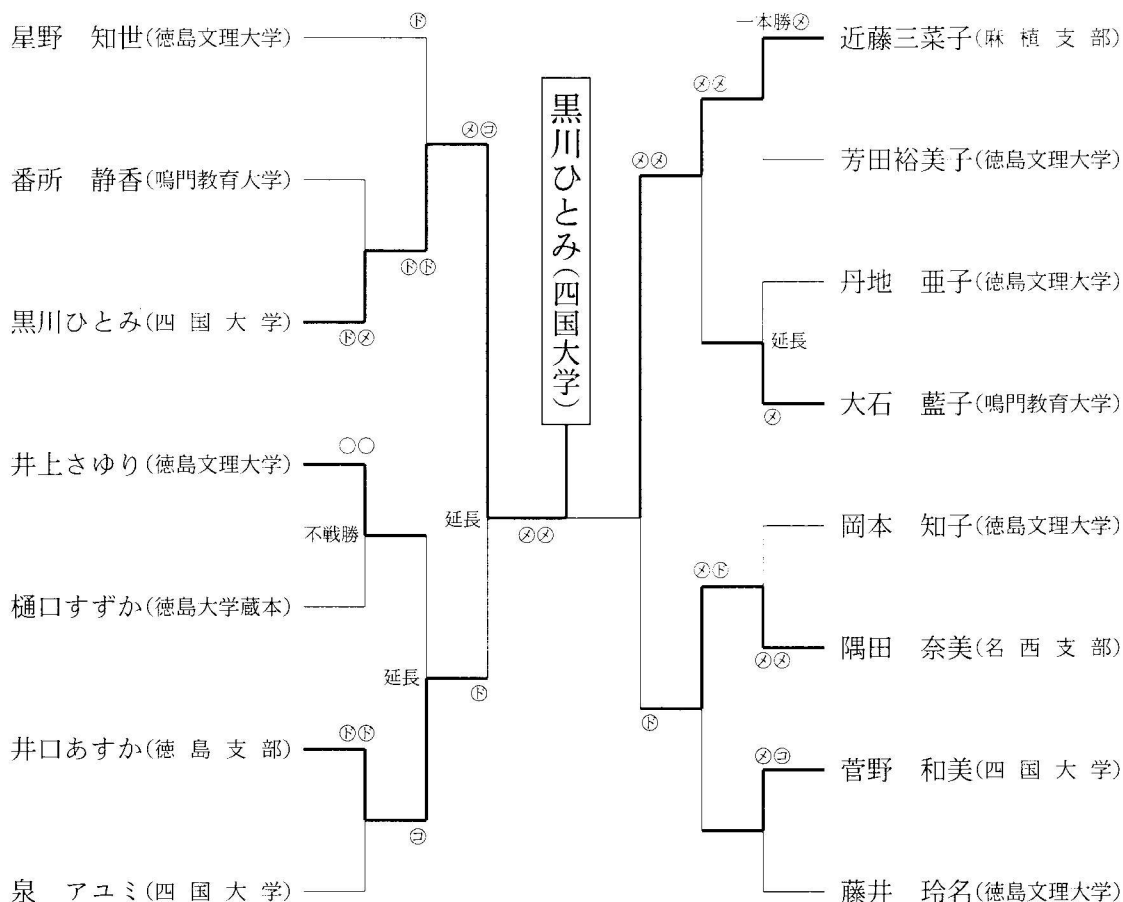
## 三位決定戦



	先鋒	中堅	大将	代表戦	勝本数 勝者数
川島剣友会 B	井口	前田	玉田		4
	⊖	⊗ ⊗	⊗		2
四国大学			⊖ ⊖		2
	管野	泉	黒川		1

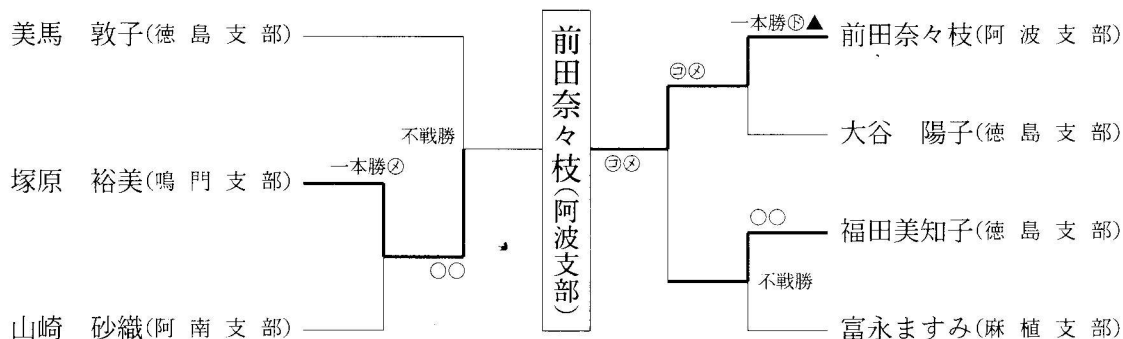
## 個人戦 <三段以下の部>

優勝 黒川ひとみ (四国大学)  
 準優勝 川藤ひとみ (麻植支部)  
 第三位 井口あすか (徳島支部)  
 第四位 隅田奈美 (名西支部)



## 個人戦 <四段以上の部>

優勝 前田奈々枝 (阿波支部)  
 準優勝 塚原裕美 (鳴門支部)  
 第三位 福田美知子 (徳島支部)



## 第38回 徳島県社会人剣道大会

### 予選リーグ

日 時 平成21年10月18日(日) 午前9時30分  
場 所 鳴門ソイジョイ武道館

A	振武館 A	蔵本剣道クラブ	美馬支部 C	勝数	勝者数	勝本数	順位
振武館 A		(4/2)	(9/5)	2	7	13	1
蔵本剣道クラブ	(2/1)		(9/5)	1	6	11	2
美馬支部 C	(0/0)	(2/0)		0	0	2	3

B	名西支部	三好支部(林)	板野西 A	勝数	勝者数	勝本数	順位
名西支部		(8/4)	(2/2)	2	6	10	1
三好支部(林)	(2/0)		(4/2)	0	2	6	3
板野西 A	(1/1)	(4/2)		0	3	5	2

C	小松島 B	阿波支部(竹)	麻植支部 A	勝数	勝者数	勝本数	順位
小松島 B		(2/1)	(3/2)	1	3	5	2
阿波支部(竹)	(1/0)		(1/1)	0	1	2	3
麻植支部 A	(4/3)	(3/2)		2	5	7	1

D	阿波支部(松)	板野東支部	讃志会	勝数	勝者数	勝本数	順位
阿波支部(松)		(6/4)	(1/0)	1	4	6	2
板野東支部	(2/1)		(1/0)	0	1	3	3
讃志会	(2/1)	(6/5)		2	6	8	1

E	阿南支部 A	月曜会	美馬支部 B	大和錬心館	勝数	勝者数	勝本数	順位
阿南支部 A		(2/1)	(4/2)		1	3	6	2
月曜会	(2/1)		(5/3)		1	4	7	1
美馬支部 B	(1/1)	(2/1)			0	2	3	3
大和錬心館								

F	大塚製菓	小松島 C	徳島県庁剣道部	勝数	勝者数	勝本数	順位
大塚製菓		(6/4)	(10/5)	2	9	16	1
小松島 C	(1/1)		(0/0)	0	1	1	2
徳島県庁剣道部	(1/0)	(0/0)		0	0	1	3

## 予選リーグ

G	徳島刑務所	上八万剣道倶楽部	鳴門支部	勝者数	勝者数	勝本数	順位
	徳島刑務所		$\frac{3}{2}$	$\frac{4}{2}$	2	4	7
上八万剣道倶楽部	$\frac{1}{1}$		$\frac{4}{2}$	0	3	5	3
鳴門支部	$\frac{2}{1}$	$\frac{7}{3}$		1	4	9	2

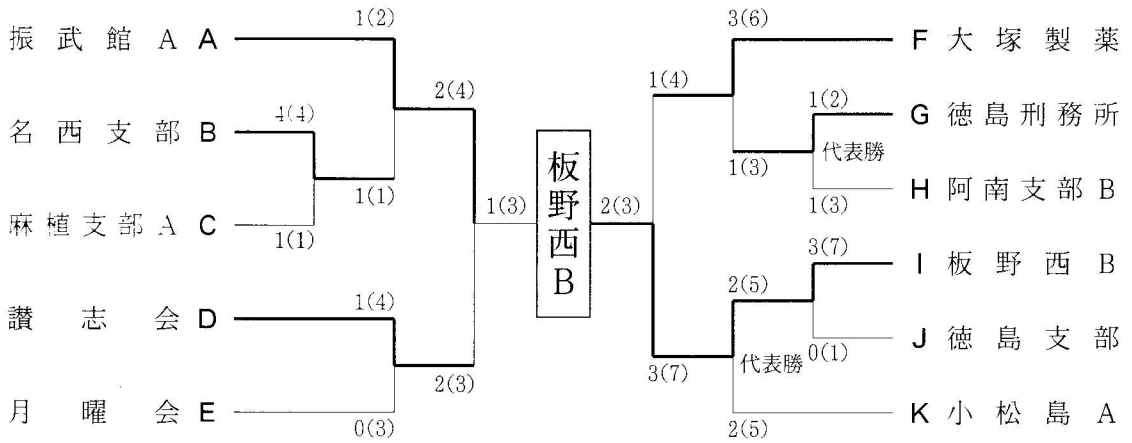
H	阿波支部(梅)	阿南支部B	徳島大学OB	勝者数	勝者数	勝本数	順位
	阿波支部(梅)		$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{1}$	1	2	3
阿南支部B	$\frac{4}{2}$		$\frac{6}{4}$	2	6	10	1
徳島大学OB	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{1}$		0	1	2	3

I	海部支部	美馬支部A	板野西B	勝者数	勝者数	勝本数	順位
	海部支部		$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{2}$	0	3	4
美馬支部A	$\frac{2}{2}$		$\frac{1}{1}$	1	3	3	2
板野西B	$\frac{4}{2}$	$\frac{6}{3}$		2	5	10	1

J	三好支部(風)	振武館B	徳島支部	勝者数	勝者数	勝本数	順位
	三好支部(風)		$\frac{3}{1}$	$\frac{4}{2}$	0	3	7
振武館B	$\frac{9}{4}$		$\frac{2}{1}$	1	5	11	2
徳島支部	$\frac{5}{2}$	$\frac{3}{1}$		2	3	8	1

K	小松島A	誠武館	麻植支部B	勝者数	勝者数	勝本数	順位
	小松島A		$\frac{8}{4}$	$\frac{8}{4}$	2	8	16
誠武館	$\frac{2}{0}$		$\frac{3}{1}$	0	1	5	2
麻植支部B	$\frac{0}{0}$	$\frac{3}{1}$		0	1	3	3

## 決勝トーナメント



## 準決勝戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
振武館 A	元木	松本	青木	上田	富田		4 2
	⊗ ⊗	⊕ 一本勝		⊕ ⊗			
讃志会	一本勝 ⊗		△	一本勝 ⊗	⊗		3 2
	福多	熊澤	梅口	本田	井村		

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
大塚製薬	西田	櫻木	奥田	櫻井	元木		4 1
	⊙ ⊗			⊕ ⊕	⊗		
板野西 B	⊕ ⊗	⊗ ⊗	⊗ ⊕		⊗ ⊗		7 3
	明口	長谷川	松本	月岡	藤本辰		

## 決勝戦

優勝 板野西 B  
 準優勝 振武館 A  
 第3位 讃志会  
 第3位 大塚製薬

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
振武館 A	元木	松本	青木	上田	富田		3 1
	⊗ ⊗			⊗ ⊗	△		
板野西 B		一本勝 ⊕		⊕ △	一本勝 ⊗		3 2
	明口	長谷川	松本	月岡	藤本辰		





### 川島少年団 団体戦制す

◆第34回県西部地区少年大会(2月11日・阿波西高体育館)

団体戦の小学生は川島剣道スポーツ少年団、中学生は男子が石井、女子は阿波・石井・山城・県立川島の連合チームがそれぞれ栄冠を手にした。

個人戦は中学男子2年の新居航平(石井)と同女子の田中理奈(北島)がいずれも連覇した。

【団体】小学生①川島スボ少(先鋒)②庄村莉緒、次鋒③松原由季、中堅④後藤田志帆、副将⑤後藤田廉、大将⑥前田真成、⑦養武館⑧鳴門市光武館⑨入田錬成会

▽中学生男子①石井(先鋒)②森智裕、次鋒③中村亨、中堅④小川翔、副将⑤河野賢良、大将⑥新居航平、⑦阿波⑧鴨島一▽同女子①阿波・石井



県西部地区少年剣道大会で団体戦小学生の部を制した川島剣道スポーツ少年団

・山城・県立川島(先鋒)③森本優希(吉野)③猪岡稔子、次鋒④山口玉川真文(藍住)▽6年潮音、中堅⑤橋本千里、副将⑥前川真里奈、大将⑦川谷美聡⑧鴨島一⑨土成

【個人】小学3年①宗野虎滋(養武館)②富田瑠利(光武館)③中山新(脇町)④上田瑛斗(鴨島)▽4年①猪野明日香(川島)②迎直樹(鴨島)③福池桃歌(光武館)④秦真生子(脇町)▽5年①上田真奈(鴨島)②志磨雄大(上浦)

▽中学1年男子①杉本純(清風館)②猪野翔太(市立川島)③坂東岳人(上八万倶楽部)④高松(同)

3月5日

準斗(入田)▽同女子①前川真里奈(山城)②橋本千里(阿波)③大岩千紘(池田一)④森結菜(土成)▽2年男子①新居航平(石井)②佐藤浩作(阿波)③小川翔(石井)④森智裕(同)▽同女子①田中理奈(北島)②片岡茉莉(鴨島一)③佐藤真央(土成)④猪岡稔子(県立川島)



### 高学年は佐古クラブ制す

◆第14回徳島市スポーツ少年団交流大会(2月15

日・市B&G海洋センター体育館)  
団体戦は小学校低学年が徳島少年剣道教室A、高学年は佐古剣道クラブが頂点に立った。

個人戦は小学1・2年の山室和土(徳島教室)、中学女子の水野みきみ(加茂名教室)が2連覇した。

【団体】小学校低学年①徳島教室A②北井上教室A③加茂名教室④徳島教室B

▽高学年①佐古②養武館③徳島教室④加茂名教室

【個人】小学1・2年①山室和土(徳島教室)②大西知哉(加茂名教室)③北條弘登(徳島教室)④北條智士(同)▽3年①宗野虎滋(養武館)②高橋周平(入田錬成会)③赤川笙(同)④岩部真幸(同)▽4年①西原豊(徳島教室)②秋田修平(同)③島田天空(養武館)④高橋優也(同)▽5・6年男子①谷本晃佑(佐古)②西條翔太(同)③山下湖楠(加茂名教室)④菅生優

輝(同)▽同女子①岩本里穂(徳島教室)②美馬あかり(北井上教室)③藤島侑香(蔵本少剣)④西原みのり(徳島教室)▽中学男子①岸田義弘(佐古)②若木佑都(徳島教室)③高松準斗(入田錬成会)④西谷拓人(加茂名教室)▽同女子①水野みきみ(加茂名教室)②河野優季(同)③吉田歩生(蔵本少剣)④篠原瑠莉(入田錬成会)

3月12日

# 新。黒船日記

ワタシ、トクシマ農民デス

◆ 14 ◆

マーク・フェネリーさん(41) イギリス出身、四国大学文学部講師



「木頭行くとては、三年、イギリスへいんどつたやろな。四国大学文学部講師のマーク・フェネリーさんが、英語指導助手として旧木頭村(現那賀町)に来たのは十八年前。村での暮らしはそれから十三年間にわたった。イギリスのビジネス都市ニューカッスル出身。大学時代、エジプトやアメリカでのボランティアを通じ、海外での英語教育に興味を持った。卒業後、JELFプログラム(語学指導等を行う外国青年助教事業)を利用して徳島へ。フェネリーさんの言う「三年」とは、派遣の際の任期のことだ。フェネリーさんは当初、

日本語を話しては辛くなかった。英語のできる村民もほかにいなかったが、それでも村民は積極的に、フェネリーさんにかかわろうとしてくれた。「一杯やろ」と「仕事が終わったら、近所の人か魚や酒を持ってきて、会話をぐいに連れない

徳島市大原町



言葉でなくても気持ちはず伝わる

木頭村で始めた剣道は2段の腕前。現在は剣道部の顧問として、学生とともに汗を流す＝四国大学

## 木頭に解け込む

私に「一杯やろ」と。習い始めた剣道の先生は、身ぶり手ぶりで「生懸命教えてくれた。木頭での暮らしで、言葉はコミュニケーションのすゝめではなく、伝えようという思いがあれば、気持ちは必ず伝わる」とが分かった。「外出するたびに「ワゴン」と指差されたのは一時期だけ。すぐに「マーク先生」と名前を呼んでもらえるようになった。地域や職場で、次々と役割を与えられるようになり、任期満了後は、村の熱心な勧めもあって教育委員会の職員として働くことだ。

「自分が『おきて』で度々の近所付き合いが物足りなく感じました。」「一員と思えることができた。大きな町やたら、単なる『ワゴン』で終わっちゃうんじゃないか。」「しっしょい」といって汗を流す。二段の腕前だ。また、三年前に学内に開設された「学生ボランティア活動支援室」のアドバイザーとして、ボランティアに興味を持つ学生の相談に乗っている。「私自身、大学時代のボランティアを通して課題と向き合う力を身に付けることができた。学生にも学外で豊かな経験をしてほしい」

ただ、若者と接する中で「やりたいことが見つからない」「何をしたいかわからない」と話す学生が多いことに衝撃を受けたという。「日本の子どもは、成人するまでに学校以外の世界を知らんから。勉強だけしとつたら文句を言われんからな」ときっぱり。「子どもたちには、もっと多様な年代や価値観に触れ、自分を成長させる機会が必要だと思う。そうすることで、課題と向き合った、進みたい方向が見えてきたりする。われわれ大人の仕事は、そんな環境づくりやと思ふ」。

3月10日

高校スポーツの全国選抜大会第8日は27日、各地で行われ、徳島県勢は剣道団体男子の富岡西、同女子の富岡東がともに予選リーグを突破し、16校による決勝トーナメントに

**全国高校選抜大会**

進んだ。バドミントン女子個人シングルスの水口愛梨(城東)は、4強入りはならなかった。本県出身の松友美佐紀(宮城・聖ウルスラ学院英智、徳島中出)が優勝した。

**男子 富岡西 女子 富岡東 決勝Tへ**

剣道

剣道

富岡西 2-1 甲府商  
富岡東 1-0 龍谷  
富岡西は決勝トーナメントへ。  
富岡東は決勝トーナメントへ。

3月28日

**富岡東2年ぶり8強女子**

剣道

高校スポーツの全国選抜大会第9日は28日、各地で行われ、徳島県勢の剣道女子の団体で富岡東が決勝トーナメント(16校)2回戦で敗れたものの2年ぶりにベスト8に入った。男子の富岡西は同1回戦で敗れた。

**全国高校選抜大会**

富岡西 2-1 徳島西  
富岡東 1-0 山形

徳島 1-1 山形  
近藤 志田  
湯浅 黒田  
湯浅 木宮  
湯浅 佐間

菅田 1-0 湊  
泊 近藤  
園山 湯浅



ちを切り替えられないまま鍛え抜く。(木村)



1から副将・近藤しながら副将、大将が逆転された。昨年のレギュラーが大半残り今大会の優勝を目指した富岡東。

集中切らさず代表戦を制す  
富岡東、決勝T1回戦富岡東が持ち前の勝負強さを見せ、2年ぶりの8強入りを果たした。優勝候補の左沢(山形)との決勝トーナメント1回戦。0-1に振り返った。しかし続く準々決勝。中堅まで2-1とリードしながら副将、大将が逆転された。昨年のレギュラーが大半残り今大会の優勝を目指した富岡東。

3月29日



いしひろし 石井博さん

身長一七五センチ、体重八〇キのがっしりとした体格。ピョンと伸ばした背筋。飾らない語り口に実直さが漂う。現職教員から徳島市の教育行政トップへの就任は、十八年ぶり二人目で「学校現場の生の声を聞くことが基本。現場で培った経験を最大限に生かして課題を克服したい」。

教員生活の振り出しは一九七五

年に着任した三好農林高。校内暴力が吹き荒れた時期で、授業を受けようとしないうツッパリたちに正面からぶつかった。飲酒や喫煙、いじめなど問題行動を起こす生徒の家に足しげく通った。

剣道部の顧問も務め、剣道を通して人生の夢を語り、自暴自棄の生徒にやる気を起こさせた。就任二年目、勝利から遠ざかっていた剣道部を真大会団体三位に押し上げた。

「ある時期から子どもたちの目

徳島市教育長に選ばれた

の色が変わるのを感じた。一人一人に目標を持たせることが教育の第一歩」。体当たりで取り組んだ同校での二年間が教員としての基礎になった。

「フットワークの軽さは県内教育界随一」が周囲の評。管理職になっても気になることがあれば、すぐに生徒や教諭の自宅に向いて話を聞く。「直接会って話し合えば解決につながる」。粘り強い指導と生徒の目標に立った対話を信条に、複雑化する教育問題の打開を目指す。

五十歳を迎え、体力の衰えを感じ始めた七年前に一念発起し、ホルルマラソンに出場。初めてのフルマラソンだったが五時間四十七分で完走した。「走り終えた達成感が何とも言えない」。以来、全国各地のマラソンに参加している。

剣道と囲碁がともに五段。徳島市八万町千鳥の自宅で母へひと妻（五毛）の三人暮らし。五十七歳。

中学男子

久保（徳島文理）

ベスト8

全国少年剣道交流大会

剣道の第31回全国スポート少年団交流大会は27日、岩手県宮城道館で45都道府県から336人が参加して開催。男子の中学個人戦に徳島県から出場した久保公緒（徳島文理中2年）が予選リーグを勝ち上がり、ベスト8の敢闘賞に輝いた。

女子の中学個人には田中理弥（北島中2年）が出場したが、予選リーグで敗退した。（小学生の部は後日、あわすポーツに掲載）

【男子】個人予選リーグ

久保 三浦

徳島 宮城

久保 太田

久保 三重

久保 近藤

久保 花道

久保 藤

久保 徳島

久保 徳島

久保 徳島

久保 徳島

久保 徳島

久保 徳島

久保 徳島

久保 徳島

久保 徳島

久保 徳島

久保 徳島

久保 徳島



# 川島3位

◆柳心館創立35周年記念大会(2月22日・兵庫県小野市総合体育館) 徳島県関係  
小学生の団体戦3部門(低学年、女子、一般)に114チーム450人が参加。53チームで争った小学生の一般団体の部で、徳島県の川島剣道スポーツ少年団が3位に入賞した。

【小学生団体】一般3回戦 川島(先鋒) 猪野明日香、次鋒 庄村莉田  
 緒、中堅 松原由季、副将 箭田真成、大将 後藤田廉(3-1吉川少年団(兵庫))  
 △準々決勝 川島4分け 猪野、低田、松原、山口  
 △準決勝 自由が丘教室(兵庫) 自由が丘教室、猪野、低田、松原、山口  
 △準決勝 自由が丘教室、猪野、低田、松原、山口



柳心館創立35周年記念剣道大会で3位入賞した川島剣道スポーツ少年団

4月3日

## 美馬と上田 個人戦連覇 団体戦で川島栄冠



藤花旗争奪少年剣道大会で団体優勝した川島剣道スポーツ少年団

◆第15回藤花旗争奪少年大会(3月1日・石井中屋内運動場)  
22チームが参加した団体戦の決勝で、川島剣道スポーツ少年団が2-0で鴨島少年剣道教室を退け、栄冠を手にした。個人戦は4年生の美馬州一(北井上教室)と5年生の上田真奈(鴨島教室)がいずれも連覇した。



【団体】①川島(先鋒) 庄村莉緒、次鋒 猪野明日香、中堅 箭田真成、副将 松原由季、大将 後藤田廉 ②鴨島教室 ③入田錬成会 ④土成宮辰徳(高浦少剣之) ⑤中井茉莉奈(同) ⑥西條琴音(同) ⑦3年 ⑧西條賢太(佐古ク) ⑨櫻川光(鴨島教室) ⑩岩部真幸(入田錬成会) ⑪行譜心那(北井上教室) ⑫4年 ⑬美馬州一(北井上教室) ⑭村上朋可(北島教室) ⑮谷本真宏(佐古ク) ⑯行譜巴望(北井上教室) ⑰5年 ⑱上田真奈(鴨島教室) ⑲櫻川裕(同) ⑳玉川博文(藍住スボ少) ㉑山下桐楠(加茂名教室) ㉒6年 ㉓庄村莉緒(川島) ㉔西條翔太(佐古ク) ㉕箭田真成(川島) ㉖大嶺茉莉子(佐古ク)





男子団体決勝・徳島文理対富岡西 大将戦の攻防を制した徳島文理の鈴木左一城西高体育館

5度、延長戦突入を告げるアラーム音が鳴った。男子決勝は紙一重の實力差を物語るように5試合すべて延長戦。決着をつけたのは徳島文理・鈴木の思い切りのいいメンだった。1-0で迎えた大将戦。その延長も時間が経過、文理は引き分けて勝てた。それでも鈴木は、富岡西の長身・臼木の面に向け竹刀を振りかぶった。相手は腰が深く、面まではやや距離がある。瞬時にかわされ、メン抜きコテでも打たれれば1本負け。「リスクは考えず、絶対いけると思った」

### 徳島 実力伯仲 延長で決着

と鈴木は振り返った。全国上位を目指すチームだが、1月の全国選抜大会県予選では準決勝で富岡西に敗れた。「剣道の神様は、味方してくれないのか」と思った。と中堅の青木は失意に暮れた当時を振り返る。練習を厳しくする半面、文武両道を掲げて練習後も夜遅くまで塾に通った選手たち。この日の決勝で剣道の神様は味方した。「苦しみから解放された気持ち」と青木。待ちに待った全国舞台にやっと手が届いた。(土井)



出た」。鋭い打突は出色だが、18連覇を支えたのは何よりの己に負けない精神力だった。

決める。とつぎに

## 剣道

【男子】団体決勝

▽理4-0城北 富西3-1阿工 文 理 2-0富 西 青木 1-0岡田 松本 1-0小西 岡田 1-0藤本

▽決勝

▽個人決勝リーグ①鈴木智也(富東)3-0富西 木(富東)1勝2敗1、2位は勝ち本数3、4位は得失差による。

▽個人決勝リーグ②藤友里(富東)2勝1敗0、近藤(富東)1勝2敗1、2位は勝ち本数3、4位は得失差による。

○：女子の富岡東は受け身にならない剣道で勝った。決勝の次ほう戦、岩原が相手の出方を持つのではなく常に積極的に仕掛け先勝、中堅の湯浅はじりり相手に迫ると竹刀を払ってメン、「思い切って飛び込んだ」副将戦は重苦しい展開となつて延長戦へ。その空気を振り払ったのは「始め」の合図直後に見せた近藤主将「写真」のメン。引き分けても次がある状況だったが、自分決める。とつぎに

# 徳島文理 男子制す 富岡東V18は

第49回徳島県高校総体体育大会(県教委、県高体連主催、徳島新聞社など後援)最終日は1日、各地で行われ、18競技で優勝校が決まった。バレーボール男子は阿南工が6年連続6度目、同女子は鳴門が41年ぶり7度目の優勝を果たした。サッカー男子は徳島商が2年ぶり26度目、同女子は徳島市立が初制覇。バスケットボール男子は城東、同女子は富岡東がそれぞれ3年連続16度目の栄冠



最終日

を手にした。ハンドボールは男子は徳島市立が2連覇、同女子は城北が4連覇。ラグビー男子は貞光工が3年連続14度目、弓道男子は阿波が3年ぶり、同女子は城南が21年ぶりに返り咲き。陸上は男女とも鳴門が優勝。剣道男子は徳島文理が2年ぶり3度目、同女子は富岡東が18連覇、登山は城ノ内がアベック優勝した。ライフル射撃女子は城西が7年ぶり4度目の頂点に立った。

6月2日

# 徳島文理 男子 2年ぶりV

## 女子是那賀川3連覇

剣道

剣道の第38回徳島県中学校選手権は6日、鳴門ソイジョイ武道館に男子52校、女子30校が参加して団体戦が行われた。男子は徳島文理が2年ぶり4度目、女子是那賀川が3年連続10度目の優勝を

県中学選手権

果たした。  
 【男子】1回戦 江原2(代表) 勝ち、2日和佐、阿南3、0板野、上那賀3、0国府、坂野2、1新野、加茂名4、0藍住、応輝1(本数勝ち)、1鳴島東、市立川島3、1城ノ内、阿波2(本数勝ち)、2真光、八万3、1三好、付島2(本数勝ち)、2上板、勝野4、0瀬戸、津田4、0藍住東、上八万4、1山城、北井上2、0市場、小松島5、0大原、入田3、1池田、阿南2、1藤敷、鳴島北島5、0由岐2回戦 徳島文理5、0江原、阿南3、1土成、上那賀2、1坂野、石井3、0加茂、那賀川3、2志神、阿波2、1市立川島、八万3、1勝浦、羽ノ浦4、0付島、阿南1、5、0脇野、津田(不戦勝)、城東、大万3、0北井上、木頭3、1小松島、徳島7、0入田、鳴島4、1、0阿南、相生3、1川内、鳴門1、4、0北島3回戦 徳島文理3、0阿南、石井2、1上那賀、那賀川2、0阿波、羽ノ浦4、1八万、阿南1、5、0津田、木頭5、1、0八万、徳島2、1鳴島、1、0上八万、徳島2、1鳴島、1、0鳴門、5、0相生、準々決勝 徳島文理2、0石井、羽ノ浦3、1那賀川、阿南1、1、0木頭、鳴門2、1、0徳島、準決勝 徳島文理2、0羽ノ浦、鳴門1(代表勝ち)、1、0阿南、1、1、0鳴門、1、0久保孝(本数勝ち)、平野

谷本 1 岩木  
 高木 1 竹内  
 岸田 1 黒木  
 久保公 メド 宇井  
 【女子】1回戦 石井4、1、8万、阿南3、1日和佐、藤敷3、1鳴門、加茂名5、0大原、城西1(代表勝ち)、1池田、牟岐3、0阿南、城ノ内5、0小松島、土成4、1山城、徳島2、0木頭、徳島文理3、0相生、北島4、0付島、鳴島4、0勝浦、阿波2、1松茂、新野3、1津田、2回戦 那賀川4、0石井、鳴島2、0阿南、加茂名5、0城西、城ノ内3、0牟岐、徳島3、1土成、徳島文理4、0北島、鳴島2、1阿波、北井上、1新野、準々決勝 那賀川4、0藤敷、城ノ内2(本数勝ち)、2加茂、名、徳島文理3、1徳島、北井上2、1鳴島、準決勝 那賀川5、0城ノ内、徳島文理4、0北井上

▽決勝  
 那賀川3、0 徳島文理  
 山本 川原  
 中村 佐々木  
 ○松本、ドレー、栗野  
 ○住友、メド、大嶺  
 ○湯浅、コ、玉田  
 先鋒として反省  
 ○3連覇の那賀川女子、3、0の勝利に喜びを隠さなかった山本主将だったが、写真1だが、先鋒としての役割に話が終わらなかつた。自分の剣道が口をついた。反省の言葉が口をついた。中堅以降3連覇。「対



男子決勝・徳島文理対鳴門1 先鋒戦でメンを本決め、優勝に貢献した徳島文理の久保孝(鳴門ソイジョイ武道館)

戦相手は小学時代に同じ道場に通った仲間。互いに手の内を知っていて、やりにくかつた」と大将の湯浅。県総体では2年ぶりの頂点を狙う。

6月7日

### 双子の兄弟けん引 徳島文理

徳島文理が接戦の末、1-1の本数勝ち(3-2)で栄冠を手に。勝利の立役者は3本すべてを奪った双子の久保公緒、孝緒兄弟だった。  
 「打たれるより先に打つ」。先鋒(せんぼ)の孝緒は流れを引き寄せようと、積極的に技を繰り出した本勝ち。「役割を果たせ」と孝緒。  
 その後、次鋒と副将が引き分け、中堅が負けて1-1で大将戦に。公緒主将は「みんなが力を尽くして優勝の行方を託してくれた」と集中した。  
 打つてくるころに生まれるすきを突くことを心掛け、得意のメンでまず1本。引き分けに持ち込まれたが、最後まで一步も譲らなかつた。優勝旗を手に、久保兄弟は共に戦った岸田、高木、谷本らと笑顔を見せた。(斎藤)

2009年(平成21年)6月9日 火曜日

# 県政だより アワーとくしま

## 6月号 No.300

発行：徳島県企画総務部秘書課 〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地 tel.088-621-2020 fax.088-621-2823



真剣に取組むことで楽しさや喜びが生まれます。

### 武道とダンスが 必修化

平成24年度から中学校  
1、2年生の保健体育の授



阿南第一中学校教諭 福多博史さん

## 武道の本質にふれながら 精神的にも成長してほしい。

業で「武道」と「ダンス」の必修化が決まりました。武道では、剣道、柔道、相撲などの中から一つを選択することになります。どれも一対一で行う対人制の競技ですから、試合での緊迫感や駆け引きなどを競い合う楽しさや喜びがあります。それだけに、まずは礼儀作法や相手を尊重する気持ちな

ど、精神的な部分を育てるための指導が大切になるでしょう。部活動と違い、授業ではまったくの初心者も多いはずですから、基本となる体力づくりや、ゲーム性を持たせるなどの工夫も必要になってくるでしょうね。

### 指導環境を 整えながら

集団でスポーツをしていく中では、リーダーを育てることも大切になります。たとえば、武道の経験のある生徒が、友達に教える立場としての自覚を持つことで、お互いに成長できるのではないのでしょうか。武道の必修化に当たって



礼儀作法を学び、日本ならではの伝統文化にふれる良い機会となることでしょう。

は、防具や施設の確保とともに、指導者を育てることも急がれます。県内でも、実技講習会の開催や、外部の指導者に声を掛けるなどして指導者数の確保を図っています。中学校を卒業しても、生徒たちが何らかの形で武道を続けたり、その経験を生かしていただけるように、一丸となって取り組んでいきます。

# 「人をつくる剣道」



故・山家雪蔵さん

那賀町の驚敷B&G海が、今も計らわ所の剣道場が町内にあり丹生谷地の中は殺伐としていた。原点は終戦直後にさかのぼる。防員を着けた子どもたちが視線を台わせ竹刀を打ち出すタイミングを探り合う。次の瞬間、気合のこもった声とともに激しくぶつかり合った。

## 原点は終戦直後

本年度の小学生は5人。館長で七段の吉田祖賀(みつき)さん(87)那賀町和喚、宮司は昔

は多いときで小学生が40人くらい練習に来よったんでよ。丹生谷といえは剣道だったけな。子どもたちの人数は減った

# 丹生谷に精神息づく

## 道場の出身者 県内外で活躍

がえるという。寄付を集め再建 山家さんの活動に共感した町内外の人たちの寄付で57年、驚敷に振武館は再建された。このころ那賀町各地に剣道場ができ、今も海川の竹友館、相生の龍虎館、木頭錬心館、北川少年剣道クラブ、振武館といった道場で有段者が子どもたちを教えている。剣道連盟丹生谷支部に

めに丹生谷地域を東奔西走しては。剣道がしたくて山家さんを訪ねた吉田さんは「腰が張つても正しいことをせんか」という山家さんと意気投合。まだ舗装道路はなく、自動車も普及していない当時、バスに乗って木頭や上那賀へ通い剣道指導に明け暮れた。

「ハスは一日に2便し」の記憶が今も鮮明にのみ

かなかったので、胴着や竹刀を持ってよく歩いて道場と吉田さん。当初は有段者は那賀町内に70人ほどと、所属する一般の道場がなく学校の講堂や教室を借りた。木頭には映画館があり、上映しない日に借り切つて練習したこともよくあった。木頭の大沢善二郎氏(故)が教えてきたのは人をつくる剣道だった。その精神は今も息づいている「練習を終えた子どもたち

ち。正座して一列に並び、道で心身を鍛えることも人にを思いやる気持ちを持つてもらいたい。地域や人のためになる人間に育つてくれれば。山家さんが大切にしてきた「人をつくる剣道」は、これからも受け継がれていく。(運動部・高杉繁樹)



真剣な表情で子どもたちに剣道を指導する振武館の吉田館長(左)那賀町の驚敷B&G海洋センター

# 那賀郡

6月17日

# 観覧席

2012年度から中学校で武道が必修になる。「伝統文化に触れる」ことなどが狙い。

柔道、剣道、相撲などから選択する。スムーズな導入のためにも指導者の研修・育成が求められる。

徳島県内では柔道、剣道の有望選手が多く育っている。幼いころから地域の道場などで基礎を学び、中学校に入り、部活動で継続して鍛えられた成果といえよう。

## 中学での武道必修

快挙を達成した。県柔道連盟の機関誌によると、08年度の競者登録数は高校生以下で759人。内訳は少年少女330人、中学生以下は1370人。進学する

につれ競技から離れていく傾向にあることが分かる。少子化の影響もあるが、全体では約45%の減少だ。選手数の減少は競技レベルの低下につながる可能性を秘めている。有望な選手を中学、高校へつなげるためにも、優秀な指導者の確保は不可欠。中学校での武道必修化をその契機にしてみたい。

(滝川)

6月28日

## 県勢6種目制す 水泳

### 四国インカレ

第60回四国地区大学総合体育大会(四国インカレ)

は27日、蔵本プールなどで水泳、蔵本プールなどにて水泳、バスケットボールの3競技が行われた。水泳は男子8種目、女子7種目があり、徳島県内の大学勢は男子4種目(大会新3)、女子2種目を制した。剣道は男子の徳島大と女子の徳島文理大が決勝トーナメントに進んだが、ともに準決勝で敗退。バスケ

ットボールは男女各1、2回戦9試合があった。◇1位と徳島県内の大学 ◆水泳 (蔵本プール) 【男子】50m自由形①齋藤健司(鳴教大) 24秒7②菅野(徳島大) 25秒69③200m自由形①竹林駿(松山) 2分3秒53②800m自由形①藤原健真(鳴教大) 8分58秒6②大会新③小山(徳島大) 9分51秒1④200m背泳ぎ①齋藤健司(鳴教大) 2分10秒4②大会新③200m平泳ぎ①西岡伸朗(高知大) 2分28秒1②大会新③200mバタフライ①山下茜央(香川大) 2分33秒3③魚谷

(徳島大) 2分37秒3④400m個人メドレー①大西卓哉(松山大) 4分57秒6②400mリレー①鳴教大(金澤53秒7②大会新) 藤本、丸山、藤原) 3分48秒27 【女子】50m自由形①細谷沙梨(徳島文理大) 29秒57②阿部(徳島大) 29秒79③200m自由形①曾我部志帆(愛媛大) 2分20秒27②堀田(徳島大) 2分35秒58③100m背泳ぎ①大西悠(松山大) 1分11秒2②正木(四国大) 1分13秒19③中村(徳島大) 1分13秒62④100m平泳ぎ①萩原隆世(高知大) 1分24秒8③萩原(鳴教大) 1分27秒18④100mバタフライ①佐野あき美(高知大) 1分14秒14②荻井(鳴教大) 1分34秒07③200m個人メドレー①石川真菜(香川大) 2分37秒

94②福良(鳴教大) 2分44秒32③200mリレー①徳島大(阿部、中村、堀田、板倉) 2分2秒13③鳴教大 2分23秒87 ◆剣道(鳴門ソイジヨイ武道館) 【男子】団体予選リーグA組②徳島文理大1勝1敗③鳴教大2敗④組①徳島大2勝1分け④西国大3敗①徳島大が決勝トーナメント進出。▽決勝トーナメント準決勝 香川大4-1②徳島大▽決勝 香川大4-1①松山大 【女子】団体予選リーグD組③四国大2敗④E組③鳴教大2敗④F組⑤徳島大2敗⑥G組①徳島文理大2勝②徳島文理大が決勝トーナメント進出。▽決勝トーナメント準決勝 聖



剣道男子準決勝・徳島大対香川大 2本勝ちした徳島大の市瀬(右)＝鳴門ソイジヨイ武道館



# 原小学・大西中学に栄冠



◆阿波警察署管内第22回



阿波署管内防犯少年剣道錬成会で熱戦を繰り広げる選手。阿波市の林小体育館

防犯少年錬成会(12日・林小体育館)32人が参加。小学生はリーグ戦のあと決勝トーナメント、中学生はトーナメント方式で戦い、小学生は原源太(土成小)、

中学生は大西修平(土成中)が優勝した。小学生の上位4人と中学生上位3人が、県防犯少年柔道大会(8月8日、鳴門ソレイヨイ武道館)に出場する。

【小学生の部】①原源太(土成小)②島村裕人(市場小)③橋本理奈(市場小)④湯佐翔馬(土成小)

【中学生の部】①大西修平(土成中)②尾関友衣(阿波中)③橋本千里(阿波中)

## 徳島至誠館V

◆第9回堀金旗争奪少年大会(5月24日・小松島市立体育館)

団体戦は25チームが参加。予選リーグの各組首位が決勝トーナメントに進み、徳島至誠館が頂点に立った。創立35周年の小松島少剣クラブは準優勝した。

【団体】決勝トーナメント準決勝 小松島少剣ク2-O振武館、徳島至誠館3-O阿南教室▽決勝 徳島至誠館3-1小

## 松島少剣ク

【個人】1・2年①榎田胡桃(小松島)②後藤高志(至誠館)③松山知樹(小松島)④朝田萌香(至誠館)▽3年①山室和士(徳島)②小川勘太(木頭)③松葉ぞら(至誠館)④矢野郁(光武館)▽4年①朝田智輝(至誠館)②坪井香歩(那賀川B&Gわかあ)③西岡彩芽(阿南)④喜多佑輔(小松島)▽

5年①丸岡由理奈(坂鎌田樹季(北井上)藤島汐里(蔵本)赤松藍(清東)▽4年 志賀翔馬、服部比留留(以上阿南)西名晴輝(至誠館)浅野直樹(鴨島)▽5年 木下知世(東みよし)淳志(館)出奈々美(光武館)行譜巴望(北井上)高瀬陽平(徳島)▽6年 鈴江葉月(鈴江勇汰(以上芝田直心館)坪井貴裕(那賀川B&Gわかあ)村崎裕介(坂野)

## 田村が3位 中学2年の部



倉敷市剣道錬成大会で中学2年の部3位入賞の田村

◆第42回倉敷市錬成大会(倉敷市水島緑地福田体育館)II徳島県関係 団体戦は67チーム、個人戦には450人の中学生が参加。徳島県は個人戦の中学2年の部で田村隆晟(羽ノ浦中)が3位に入賞した。

【男子個人戦】中学2年の部2回戦 田村(羽ノ浦中)メー 小野(岡山

・玉島北中)▽3回戦 田コゴ 秋岡(岡山・菅村)メー 白神(岡山・生)▽準決勝 重本(岡山玉島)▽準々決勝 田村・昇龍館(福)コゴ 田村

7月2日

7月5日

# 小学団体 藍住に栄冠



◆第19回北島ライオンズクラブ少年大会(5月24日・サンフワードーム



北島ライオンズクラブ少年剣道大会の団体戦で優勝し、表彰される小学生・藍住⑤、中学男子・北島A⑥、同女子・土成



北島) 団体戦の小学生は藍住、中学生は男子が北島A、女子は土成が制した。  
【団体】小学生①藍住②北島教室  
▽中学男子①北島A②土成▽同女子①土成②北島A

【個人】小学3年以下 村昂大(誠武館)③瀬野①森本直希(藍住)②吉本風丸(同)③河野充(土成)③飯島慶(藍住)▽4年①坂野弘気(北島)②若本大平(同)③矢部利緒子(土成)③小谷裕史(誠武館)▽5年①平井稜一(誠武館)②村上朋可(北島)③本

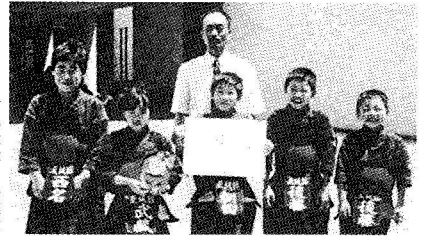
▽中学男子①阿部有矢(北島)②坂野晃太郎(同)③杉山佳之(同)③吉岡賢志(川内)▽同女子①田中理称(北島)②阿部文香(土成)③矢三奈々絵(応神)③笠井明日香(土成)

7月8日

# 徳島至誠館8強



◆第41回植田平太郎範士杯争奪少年大会(5月31日・高松市総合体育館) 徳島県関係の上位中四国と近畿の小中学生が団体戦を行い、78チームで争われた小学校低学年の部で徳島至誠館がベスト8に入った。  
【小学校低学年】4回戦 徳島至誠館2-1亀阜(香川)▽準々決勝 砂山少年剣友会(和歌山)5-0徳島至誠館  
▽敢闘賞 徳島至誠館



植田平太郎範士杯争奪少年剣道大会の小学校低学年の部で8強入りした徳島至誠館

(先鋒)後藤高志、次鋒 後藤雄喜、中堅 西名晴輝、副将 武蔵晴香、大将 朝田智輝  
◆第16回板野防犯少年大会(6月7日・板野町体育センター)  
板野署管内の剣道教室などに所属する小学5年から中学2年までの24人が参加。小学生上位4人と中学生上位3人が県防犯少年大会(8月8日・鳴門ソイジヨイ武道館)出場を決めた。県大会に臨む上位選手の成績は以下の通り。

▽小学校①玉川博文(藍住、藍住東小6)②玉川真文(同)③志磨雄大(上板教室、神宅小6)、敢闘賞 土手篤(同)  
▽中学①上野元貴(上板)②土手聡(同)③多田晃弘(板野)



小中学生7人  
地区代表に

◆2009年度川崎少年大会(6月14日・川崎小体育館)  
小学生は5・6年、中学生は1・2年男女の上位入賞者がそれぞれ決定戦を行い、小学生4人、中学生3人が県防犯少年大会(8月8日・鳴門ソイシヨイ武道館)の地区代表に選ばれた。  
【小学校】個人戦2年①山下真輝(佐馬地)②向井将太(同)③森美伎(同)▽3年①大岩央和



鳴門市戦没者追悼少年剣道大会で入賞した剣士

◆第37回鳴門市戦没者追悼少年大会(6月7日・市剣道場)  
【小学校】低学年①富田瑠利②富田孔明③和田津皓也(運動公園)③木村泰晟▽高学年①中瀬知里奈③中井優里花▽所属はすべて鳴門一。  
【中学校】男子①竹内直生②宇井友隆③岩木佑都③黒木景太▽女子①藤田彩実②藤田侑加③出優

(川崎)②川人加奈(井川)③大久保有純(佐馬地)▽4年①住友駿介(淳志館)②近藤堪太(山城)③近藤吹雪(淳志館)▽5年①木下知世(淳志館)②米本将也(同)③山下英寿(佐馬地)▽6年①住友陽南(淳志館)②福光志郎(淳志館)③瀧浦颯  
【中学】男子団体戦①三好A②三好B▽同女子①池田A②池田B▽個人戦男子1・2年①住友皓紀(三好)②西川航平(池田)③瀧浦颯  
(同)③大西若菜(同)▽防犯大会代表①大西若菜②福光志郎③住友陽南③木下知世  
【男子】①堀棕一(三好)②井添竜志(同)③岡佑馬(池田)▽同女子①米本朱里(三好)②西川知見(池田)▽防犯大会代表①大岩千紘②西川航平③住友皓紀

7月11日

男子近藤 V  
女子平野

全日本剣道県予選 剣道の全日本選手権徳島県予選を兼ねた2009年度県選手権は12日、鳴門ソイシヨイ武道館に男子34人、女子19人が参加して行われ、男子は近藤正章(警察支部)が2年連続3度目の優勝を果たし、女子は平野千尋(鳴門支部)が初の頂点に立った。近藤正は全日本選手権(11月3日・日本武道館)、平野は全日本女子選手権(9月27日・静岡県武道館)に出場する。  
【男子】準々決勝 近藤正(警察支部)メー 日和田(麻植支部)、横手(警察支部)メー 川添(警察支部)、六條洋(警察支部)ドー 六條勝(警察支部)、山名(警察支部)メーユ宮本(警察支部)▽準決勝 近藤正メー 横手、六條洋 コー

7月13日

山名  
▽決勝  
近藤正メー 六條洋  
【女子】準々決勝 高岡(鳴門支部)メー 藤井(徳島文理大)、前田(阿波支部)メー 片岡(四国大)、曇野(徳島文理大)ト反↑上友(美馬支部)、平野(鳴門支部)メー 井上(徳島文理大)▽準決勝 前田 コー 吉田、平野 メー 反曇野  
▽決勝  
平野 コー 前田

7月26日



◆防犯少年大会(6月20日)  
 ◇徳島西警察(曙道場)  
 【小学生】①山下南稀(加茂名)  
 ②美威(井上教室)  
 ③海老和(入田錬成)



防犯少年大会で熱戦を繰り広げる選手=徳島西署道場

中学生位4人と小学生上位3人が県防犯少年大会(8月8日・鳴門イシヨイ武道館)に出場。

【中学生】下木野みき(加茂名) ②兵内達(城ノ内) ③西谷拓(加茂名)  
 ◇吉野川市(山川中武道館)  
 【小学生】①迎直樹(鴨島教室) ②上田真奈(同) ③櫻川裕(同)

【中学生】①後藤田麻(市立川島) ②庄村莉緒(同) ③新層栞(鴨島)  
 西大会とも、小学生位4人と中学生上位3



【上】防犯少年大会で熱戦を繰り広げる選手=鳴門市光武館  
 【下】阿南警察管内大会剣道の部で中学生代表に選ばれた選手



◆防犯少年大会  
 ◇阿南警察管内大会(6月27日)  
 【阿南武道館】  
 【柔道】小学生①井上真太(阿南警察) ②末田淳(同) ③延口

美咲(同) ③山快(同)▽中学生(光武館) ②本田洋輔(運動公園) ③大付知寛(光武館) ④中瀬知勇(同)  
 【剣道】小学生(甲)①徳島至誠館(福田輝斗(同) ③松本高史(練武館教室) ④清水真優(阿南警察)▽中学生(甲)①上(羽ノ浦) ②福田篤己(同) ③上田雅大(同)  
 ◇阿南警察管内大会(7月4日) ④鳴門警察管内大会(8月1日) ⑤鳴門イシヨイ武道館)に出場。

・鳴門光武館  
 【剣道】小学生①田あかり(光武館) ②本田洋輔(運動公園) ③大付知寛(光武館) ④中瀬知勇(同)  
 ▽中学生①山夫介(福居周平) ②西藤大(井原II所屬はいずれも鳴門)  
 各管内、各競技の上位者が県防犯少年大会(8月8日・鳴門イシヨイ武道館)に出場。

8月2日

鳴門一中学男子制す



相生市少年親善剣道大会で頂点に立った鳴門一中

白虎旗争奪錬成大会を兼ねた相生市少年親善大会(6月21日・兵庫県相生市民体育館)に小・中学生113チームが参加。引き分けなし、時間制限なしの1本勝負を行った中学生男子決勝は徳島県勢同士が争い、鳴門一が3-2で徳島文理を下して優勝した。鳴門一は「礼」ののち行った行動が評価され、1チームのみを与えられる最優秀賞を受賞した。  
 ◇徳島関係の上位  
 【中学生】決勝 鳴門一③(平野) ②久保、岩木、谷菜、内、メー、高木、黒木、下、岸田、宇井、メー、久保) ②徳島文理

# 那賀川女子11度目栄冠

## 男子鳴門一 31年ぶり

### 剣道

【男子】団体1回戦 板野3-0勝浦、那賀川3-1貞光、土成、日和佐3-2江原、坂野3-0城東、阿南3-0鷲敷、入田4-0由岐、阿宮1-池田、木頭3-0北島、小松島4-0脇町、石井1(代表勝ち)1-市立川島、徳島門一3-2徳島文理

【女子】団体1回戦 徳島文理5-0板野、那賀川4-1土成、鳴門5-0日和佐、阿南3-2坂野、羽浦4-0入田、木頭3-1阿波、石井2-1小松島、鳴門2(代表勝ち)2徳島準々決勝 徳島文理2-1那賀川、阿南5-0鳴門、木頭2-1羽浦、鳴門5-0石井準決勝 徳島文理2-0阿南、鳴門1-41木頭

▽決勝  
久保孝 1-0 平野  
○谷本 メー 岩木 久保公下  
高木 1-0 竹内  
岸田 1-0 宇井  
○久保メー 黒木  
▽個人準々決勝 久保公 徳島文理メー 谷澤(木頭) 土井(阿南)メー 田村(羽浦) 阿波(那賀川) 志磨(徳島文理) 宇井(鳴門)メー 久保孝(徳島文理) 準決勝 久保メー 宇井 阿波メー 1-0日和佐準々決勝 那賀川5



女子決勝・那賀川対北井上 大将戦で那賀川の湯浅君が一本勝ちして優勝を決める＝鳴門ソイジョイ武道館

○鷲敷、徳島文理5-0小松、湯浅 7-1 矢部  
北井上1-池田、加茂名4-0鳴門▽準決勝 那賀川4-1徳島文理、北井上1-加茂名  
▽決勝  
那賀川3-2北井上  
山本悠 1-0 松浦  
山本響 1-0 美馬  
○松本 メー 中村  
○中村ドメー 下込  
中 村メー 田 中



県選手権の雪辱  
○31年ぶりの優勝を果たした鳴門一男子。決勝は6月の選手権大会決勝で本数負けした徳島文が相手だった。今回、は相手の堅守を崩し自勝ちのべー、全中への切符をつかんだ。

## 全中への思い結実 那賀川女子

四国総体3連覇中の那賀川女子にとって、県総体のタイトルはどうしても獲得しなければならなかった。「県総体で勝たなければ全中に出られない」。2年前の全中を制覇した先輩に追いつきたい一心で山本悠主将らは一丸となった。その強い思いは優勝後、抱き合っ流した大粒の涙が物語っていた。

斎監督が家庭の事情で県総体の1週間前から練習に顔を出すことができなかった。全中優勝メンバーの若原や栗野らが母校で後輩を指導。チームメイトはOGとの交流で、自分たちも全中で戦いたい思いを強くした。

決勝の北井上戦。0-1で後がなくなり中堅の2年生の松本が奮起した。延長でメンを決め一本勝ちで嫌な雰囲気吹き飛ばし、副将中村と大

将湯浅の3年生2人が統制して勝てた。中村は「大将につなげたかった。ゴテを奪い優勝を決めた湯浅は、相手の動きを冷静に判断できた」。次は3年生の山本響は「打ち抜かず負けた。優勝は先輩たちのおかげと反省した。四国総体を4連覇して全中へ弾みをつける」。山本悠は宣言した。

(斎藤)

7月19日



# 徳島文理 16強入り 男子

## 剣道

【男子】団体予選リーグのシロ

(大阪市舞洲アリーナ)

徳島文理 3-2 龍谷富山  
徳島 3-2 富山

〇淀谷③×梅 青山④  
〇青木②×梅 村上④  
〇松本②×コ 横江④  
岡田④ 下上川④  
鈴木④ × 橋谷④

徳島文理 引き分け 松山  
2-2 瑞玉

淀谷③ 下上川④  
青木② 安藤④  
松本② 下高藤④  
〇岡田④×梅 台④  
〇鈴木④×下 金子④

△〇ロック順位(1位は決勝トナメント)①徳島文理1勝1分

【女子】個人対戦

徳島文理 大田実音  
須藤学

〇湯浅萌③  
徳島  
〇高岡東

### 集中力高め力出し切る



男子団体予選リーグ・徳島文理対松山 延長戦で1本勝ちし、決勝トーナメント進出に貢献した徳島文理の鈴木—大阪市舞洲アリーナ

3度目の出場で初の決勝トナメント進出を決めた徳島文理男子。3チームによる予選を1勝1分1分けで終え、他チームの結果待ちに、選手たちは緊張の面持ちで見守っていた。徳島文理は、決勝トーナメントに進出を決めた。選手たちは、優勝を目指して奮闘した。徳島文理は、決勝トーナメントに進出を決めた。選手たちは、優勝を目指して奮闘した。

3度目の出場で初の決勝トナメント進出を決めた徳島文理男子。3チームによる予選を1勝1分1分けで終え、他チームの結果待ちに、選手たちは緊張の面持ちで見守っていた。徳島文理は、決勝トーナメントに進出を決めた。選手たちは、優勝を目指して奮闘した。

徳島文理 大田実音  
須藤学

〇湯浅萌③  
徳島  
〇高岡東

〇湯浅萌③  
徳島  
〇高岡東

8月5日

## 全国高校総体 近畿まほろば

第8日

### 富岡東決勝1進めず

#### 剣道

【男子】団体予選リーグのシロ

(大阪市舞洲アリーナ)

富岡東 3-1 瑞玉  
仁本④ 飛田④  
岩原④×コ 保坂④  
湯浅④ × 磯山④  
〇近藤④×コ 下上川④  
〇湯④×梅 那須④

△団体勝トナメント進出

富岡東 引き分け 久御山  
1-1 京都府  
徳島 引き分け 京都府

仁本④ 下野④  
岩原④ 福田④  
湯浅④ 村野④  
近藤④ 岡田④  
湯④ 藤本④

△女子団体予選リーグのシロ

〇湯浅萌③ 1位は決勝トナメント

〇高岡東 1勝1分

【男子】個人対戦

鈴木智也④  
徳島文理  
大田実音④  
湯浅萌③  
高岡東

山形④ コー  
山形④ コー  
山形④ コー

8月6日

# 全国高校総体

## 近畿まほろば

第9日

### 徳島文理 8強逃す男子



男子決勝トーナメント1回戦・徳島文理対西大寺 懸命に戦う徳島文理の中堅・松本(右)＝大阪市舞洲アリーナ

剣道

1回戦  
【男子】団体決勝トーナメント  
(大阪市舞洲アリーナ)

西大寺	10	徳島文理
岡山	10	徳島文理
宮本	1	淀谷
川井	1	青木
中本	1	松本
梅田	1	岡田

日下 1 鈴木  
▽団体決勝  
水戸黄陵 2-1 桐蔭学園  
茨城 2-1 神奈川  
水戸黄陵は年ぶりの度目の優勝

▽個人決勝  
堀倉 2-0 徳島文理  
高知 2-0 徳島文理  
明徳 2-0 徳島文理  
徳島文理 2-0 徳島文理  
徳島文理 2-0 徳島文理  
徳島文理 2-0 徳島文理

#### 粘りの戦い 一歩及ばず

決勝トーナメント1回戦に挑んだ男子の徳島文理。勝てばベスト8だったが、反則で奪われたポイントが最後まで響き0-1で敗退した。伝統校相手に出場した5人全員が延長までもつれ込む粘りの戦いを展開し4人が引き分け。最後まで力を尽くした。

「全国の舞台となると判定が厳しい」。次鋒

(じほう)で出場し、つばせり合い時などに反則を取られてポイントを失った2年生の青木は肩を落とした。

0-1からの盛り返しを狙った中堅の松本は幸先よくメンを奪取。しかし本勝ちは狙おうとした直後、逆にメンを取られ引き分けた。「引きメンを合わせてくる相手だったのに、あそこ一本という思いで強引に引き技を打ってしまい相手に合わされた」と松本。

負ければ試合終了だった副将の岡田は、集中しすぎをつくらず引き分けて大将の鈴木へ。序盤から積極的に攻めた鈴木は「延長まで持っていけば何とかなと思った。激しいつばせり合いで勝機を見い出そうとしたが、相手の堅守に阻まれ引き分け。8強入りは果たせなかった。

「もう一度剣の道を磨き、再び決勝トーナメントの舞台で戦いたい」と青木。先輩たちに言葉を誓った。(斎藤)

8月22日

# 全国中学校 体育大会

第5日

## 剣道女子 那賀川16強

【男子】子選リーグ組 鳴門 20 榎手 米 徳島 20 榎手 米	湯浅 1 大田 草 那賀川 40 若草 草
平野 1 小笠原 米 岩木 1 坂本将 米 竹内 1 世古 米	○山本悠 下 小角 角 ○中村 下 増田 田 ○松本 下 寺園の 園
○宇井 1 長内 内 ○黒木 下 坂本隆 隆	○湯浅 下 寺園の 園 那賀川は選リーグで決勝トナメント進出。
東 21 鳴門 1 南波 下 平野 1 ○佐野 コメ 岩木 1	▽決勝トナメント1回戦 山形 40 那賀川 川 山形 40 那賀川 川
三谷 1 竹内 内 佐々木 1 宇井 井 村上 1 黒木 木	○大塚 下 中村 村 ○水澤 コメ 松本 本 ○鹿野 下 湯浅 浅
徳島 11 鴻 南 那賀川 11 鴻 南 那賀川 11 鴻 南	大塚 下 湯浅 浅
【女子】子選リーグA組 山本悠 メコ 多々良 良 中村 井上 上	優勝候補相手 持てる力発揮
松本 森崎 崎 山本 前田 田	2年ぶりに出場した那賀川は予選リーグを2戦

全勝で突破し16強入りし、決勝トナメントに進出した。1回戦の相手は優勝候補の山形四。那賀川は持てる力を発揮したが0-4で敗退した。山本悠主将は先鋒(せんほう)として、まず自分が勝って流れを引き寄せようとした。得意のコテで幸先良く1本。しかし1本取り返され延長戦に。一進一退の攻防が続いたが、一瞬のすきを突かれメンを取られた。

「勝ちたかった」と振り返る山本悠主将。次鋒の中村、中堅の松本、副将の山本響はそれぞれ得意技を繰り出したが、決めることができなかった。「相手が技も動きも上だった」と中村。0-4で迎えた大将戦。「敗退は決まったが、大将として自分の剣道をする」。湯浅は積極的に前に出て引き分けに持ち込み、最後に意地を見せた。2年生の松本と

山本響は「もう一度全中に出て先輩の分まで勝ち進みたい」と再起を誓った。(斎藤)

### 剣道

【男子】団体決勝 高森 2-1 西和 熊本 2-1 西和	久御山 1-1 千葉国際 京都 代裏勝 千葉 葉
高森は5年ぶり3度目の優勝。	久御山は初優勝。
▽個人決勝 平井 加納 和歌山 西和	▽個人決勝 後藤 千葉 郷 葉本
川 熊本 南 西合志	

### 剣道

【男子】個人1回戦 前村 久保 石田 コー	久保 村上 徳島 千葉 理島 葉上
【女子】個人1回戦 北野 出 北野 和歌山 中 西和	中 那賀川 那賀川 村
勝部 中 高根 那賀川 平田 那賀川 河原 那賀川 北野 中	

8月31日

# 日本男子団体王座奪回

## 剣道 世界選手権

### 日本女子が団体3連覇

#### 剣道世界選手権

### 男子個人 寺本初V

#### 剣道世界選手権

【サンパウロ共同】3年に1度開催される剣道の世界選手権は28日、ブラジル・サンパウロ郊外のサンベルナルドドカンポで開幕し、男子個人決勝は寺本将司（大阪府警）が延長戦で1本勝ちし、初優勝を挙げた。同種目での日本選手の優勝は第1回大会から14大会連続となった。

若星大輔（北海道警）、吉沢庸臣（熊本県警）はともに準々決勝で敗れ、中野貴裕（京都府警）は予選落ちした。第2日の29日は女子の個人戦と団体戦を実施する。

### 日本女子が団体3連覇

#### 団体3連覇

#### 剣道世界選手権

【サンパウロ共同】剣道の世界選手権最終日は29日、ブラジルのサンパウロ郊外のサンベルナルドドカンポで女子が行われ、団体の決勝で日本が韓国を4-1で破り、団体戦が始まった第12回以来の3連覇を果たした。個人ではベスト4のうち3人を日本が占め、初出場対戦となった決勝は鷹見由紀子（君津学園）が庄島幸恵（警視庁）に勝った。日本勢は個人戦で負けなしの4大会連続優勝となった。準決勝で敗れた新里知佳野（新潟県体協）が3位だった。

# 重圧の中雪辱果たす

し、決勝は前回の準決勝で黒星を喫した米国に快勝した。

次回は3年後の12年にイタリヤで行われる。

選手全員 MVP

加藤浩一・男子監督の

## 重圧の中雪辱果たす

【サンパウロ共同】剣道の世界選手権最終日は30日、ブラジルのサンパウロ郊外のサンベルナルドドカンポで男子団体を行い、日本は決勝で米国を4-0で破り、2大会ぶり13度目の優勝を果たした。日本は男子個人、女子の団体、個人と合わせ、今大会の全種目を制した。

前回2006年大会で第1回大会から続いていた男子団体の連覇が途切れた日本は、準決勝で強敵の韓国を2-1で下

前回大会の男子団体で13連覇を阻まれた日本が雪辱を果たした。「3年間は、この日のために歯を食いしばってきた。辛かった。」。当時のメンバーで、今度も団体戦に臨んだ寺本将司（大阪府）は「日本の剣道史上、歴



男子団体決勝 米国選手をの攻めをかかわし、打ち込む寺本=サンパウロ（共同）

団体で初優勝した韓国は実力を著した伸びは、各国に指導者を派遣、防具の独自基準を打ち立てるなど存在感を押し上げた。それだけに、今回負けたら日本の剣道は終わる（加藤監督）という異様なプレッシャーの中で大会を迎えた。

「隠し球」は左上の構えから前に打ち込む正代賢司（神奈川県警）だった。当初は控えに回ったが、準決勝から先鋒（せんぽ）に。後ろに頼もしい先輩方が控えているので思い切った。決勝ではまず先取の自軍で試合の流れを決定付けた。

「大会中の3日間には疲れもあったが集中できた。最高です」。個人優勝も手にした寺本が笑顔を見せた。

（サンパウロ共同）

各国レベル向上  
武安繁光・国際剣道連盟会長の話 年々参加国が増え、各国のレベルも上がっており、日本選手にも励みになる。前回大会で日本男子団体は不覚を取ってしまったが、今回は安心して見られたい。最多競技人口を擁する日本は面目を保つとこ

9月30日

# 阿南高専が準優勝 連続2年



## 剣道

第8回全国高専女子大会(8月22日・北九州市若松体育館)に全国各地から16校が参加。徳島県の阿南高専は決勝で鈴鹿高専(東海北陸)に惜敗したが、昨年に続き準優勝する活躍をみせた。

◇徳島県勢

- ▽1回戦 阿南(四国)3-0 小山(関東信越)▽準々決勝 阿南1-0 奥(中国)▽準決勝 阿南2-1 市瀬 1-1 追本、船越

メコ1 坂井、村田 1-0 長 ◆第37回阿南少年剣道大会(8月28日・木更体育館)

優勝(東海北陸)2(甲)メコ 1 市瀬、船越

【中学校個人戦2年】川野晋 佳(相) ②福田篤己(羽)浦松岡 1-0 村田 1 阿南(村) ③田達也(阿南) ④近藤康平 田(船越)市瀬(横手)久津間(加茂谷)

**平野(大)は 3回戦敗退**

全日本女子剣道 剣道の第48回全日本女子選手権は27日、静岡県武道館で64選手が参加して行われ、決勝で村山千夏6段(埼玉県警)が、世界選手権(フランス)が、個人2位の庄島幸恵6段(舊視庁)から面を2本奪い、35歳で2年ぶり4度目の優勝を果たした。徳島県代表の平野千尋3段(大徳大)は3回戦で惜しくも敗れた。前年覇者の坪田祐佳5段(岡山県警)と新里知佳野5段(新潟県体協)が3位となった。世界選手権個人優勝の鷹見由紀子4段(清和大学)は準々決勝で坪田に敗れた。

9月28日

# 錬武館 小学校団体制す



## 体育祭

◆2009年阿南市

- ◇剣道(8月30日・羽ノ浦総合国民体育館)
- 【団体】小学校①錬武館教室の那賀川少剣②阿南教室
- ▽中学校男子①羽ノ浦②阿南③阿南④女子①那賀川②新野③阿南
- 【個人】小学校①川田将世(徳島県剣道の若林伸哉(大野小)②山崎舞(阿南教室)
- ▽中学校男子①上田雅大(羽ノ浦)②田村廣成(同)③清原平(同)④女子①松本美紗樹(那賀川)②甘利あかね(同)③山本香(同)
- ◇ソフトボール(9月6、13日・那賀川河川敷グラウンド)
- 【一般男子】準々決勝 高岡体協ハ1ハ12 8 福井、見能林 体協A6 5 ハンバレット、シシタス11 3 津、加茂谷体協



阿南市体育祭剣道大会で小学校団体制した錬武館

6 5 日重京D▽準決勝 見能林体協A7 6 高岡体協ハ1ハ1 加茂谷体協10 0 シシタス▽決勝 見能林体協A6 1 5 加茂谷体協

【一般女子】リーグ戦 高岡体協エリー①橋体協女子 阿南体協エリー①松島マ、島マ(無効試合)橋体協女子▽順位①高岡体協エリー②勝

10月7日

# 徳島至誠館頂点に 高学年



ムが参加。徳島至誠館は小学校高学年の部を制し、低学年の部でも準優勝する活躍をみせた。

△徳島県の上位  
 【低学年】決勝リーグ第1戦  
 徳島至誠館1(後藤高、メー池下、後藤雄)朝江昌(西名)佐藤(武蔵)朝江智(朝田)吉(朝田智輝)2勝1敗

【高学年】決勝リーグ第1戦  
 徳島至誠館3(住友、コ一、藤澤、湯浅)立井(三、吉、メー)町川、福田(メー)谷本、甲申(西本)○宮○第2戦、徳島至誠館2(住友、田井東、湯浅、メー)岡田、玉田(メー)梶、福田(阿部、甲)メー(栗山)1印南

▽順位(徳島至誠館(先鋒)住友海斗、次鋒)湯浅颯平、中堅)玉田真子、副将)福田颯斗、大将)田中皓)2勝



第28回少年錬成普通寺大会(8月30日・普通寺市民体育館)に中四国、近畿などから102チームが参加。徳島至誠館は小学校高学年の部を制し、低学年の部でも準優勝する活躍をみせた。

少年剣道錬成普通寺大会で優勝した徳島至誠館高学年チーム(前列)と準優勝した低学年チーム(前列)

## 徳島文理 準V 男子・鳴門一門 8強



小豆島土庄町杯西日本中学生選抜剣道大会で男子準優勝の徳島文理

第18回小豆島土庄町杯西日本中学生選抜大会(8月29日・フレトピアホール)に西日本各地から41校約400人の中学生剣士が参加し、団体戦を繰り広げた。徳島県は徳島文理が男子で準優勝に輝いたほか、男子の鳴門一と女子の那賀川がいずれもベスト8入りした。

10月7日

# '09 新潟国体

【成年男子】1回戦  
 新潟 4-1 徳島

【成年男子】決勝  
 新潟 4-1 京都

【成年女子】決勝  
 東京 2-1 新潟

静岡 4-1 徳島  
 河合 4-1 山本  
 高坂 4-1 山名  
 吉留 4-1 山本  
 小山 4-1 福多  
 安永 4-1 西谷

【少年男子】決勝  
 新潟 4-0 熊本

【少年女子】決勝  
 新潟 3-2 長崎

新潟は初優勝。

新潟は初優勝。

9月27日

# 羽ノ浦中が団体戦V2



剣道

◆第37回同少年剣道大会(8月17日・木頭体育館)  
 【小学校】団体戦①高知空誠館 ②徳島空誠館③相龍虎館④野市少剣(高知)  
 ▼個人戦1・2年①朝田明香(徳島空誠館)②石川将伍(同)③柿本章汰(高知)④井口美琴(同)⑤3・4年①朝田智輝(徳島空誠館)②中澤知大(高知)③中村隼人・木頭錬心館④田上雄大(練武館)⑤5・6年①中澤秀一(高知)②田崎敬裕(同)③島崎唯衣(同)④福良海都(坂野少剣)  
 【中学校】団体戦1羽ノ浦(先



阿土少年剣道錬成大会で中学校団体戦2連覇の羽ノ浦

鋒①田村隆義・中堅①上田雅夫・大将①岩原将平)②木頭③那賀川④野市(高知)  
 ▼個人戦1年①朝田大樹(羽ノ浦)②丸岡勇斗(坂野)③田上修平(阿南)④郷生誠(阿南)⑤2年①川野巨佳(相生)②福原己(羽ノ浦)③平田達也(阿南)④好道康平(加茂谷)⑤団体戦の羽ノ浦は2連覇。

## 剣道

# 板野西B 初の頂点



大将戦で板野西Bの藤本⑥が一本勝ちし初優勝に貢献—鳴門ソイジヨイ武道館

興社会人大会  
 剣道の第38回徳島県社会人大会は18日、鳴門ソ

イジヨイ武道館で34チームが参加して行われた。決勝は大將戦までもつれ込む接戦となり、板野西Bが2-1で振武館Aを

下し初の頂点に立った。▽決勝トナメント向戦名  
 西支部4—麻植支部A・徳島刑務所1(代表勝ち)1阿南支部B、板野西B—O徳島支部準勝利」

板野西B・藤本主将「ぎりぎりの戦いだった。早く一本を取りたい気持ちがあり、途中で焦りが出た。チーム丸の勝利」

々決勝 振武館A1(本勝ち) 1名西支部、讃志会1—O月曜会・大家製薬3—徳島刑務所、板野西B2(代表勝ち)2小島△準決勝 振武館A2(本勝ち)2讃志会、板野西B3—大家製薬  
 ▼決勝  
 板野西B 2-1 振武館A  
 明口 1-X 元木  
 長谷川 ドー 松本  
 松本 ー 青木  
 月岡 コメ 上田  
 藤本 メ、 喜田

10月19日



寺西杯近県選抜少年剣道大会で1位に輝いた徳島至誠館（前列）と鳴門一中B（後列）

## 王者に鳴門一B 中学

小学高学年は徳島至誠館



### 剣道

年の部で徳島至誠館、中学校男子の部で鳴門一中Bがそれぞれ王者になった。

【小学校低学年】①荒瀬館（香川）の砂山剣友会（和歌山）②徳島至誠館（徳島）

第12回寺西杯近県選抜少年大会（10月12日・鳴門アミノパリエーホール）は、13府県から小学生70チーム1104人が参加して団体戦を行った。

徳島県勢は小学校高学年

11月8日

## 富岡西勢が頂点 男子・井上幹

男子・井上幹  
女子は岡内

### 剣道

県高校選手権

剣道の第43回徳島県高校選手権は15日、鳴門ソイジョイ武道館で個人戦を行い、116人が出場した男子は井上幹大（富岡西1年）が優勝、女子は岡内拓未（富岡西1年）が参加51人の頂点に立った。2人は全日本都道府県対抗優勝大会（男子は2010年4月・大阪府、女子は同年7月・東京都）に先づ（高校）生として出場する。



男子決勝 富岡西の井上幹が勝負を決めるメンを放つ＝鳴門ソイジョイ武道館

方に付けた。女子優勝の岡内とは小中高と同じ仲間。アベック優勝も達成し、表情も自然とほころんだ。

富岡東の牙城崩す

○富岡東勢が1992年以降、17年にわたり独占してきた女子個人頂点の座に富岡西の岡内写真Ⅱが立った。「高校に入ってから初めての個人優勝でもあるので、うれしきは2倍」と笑顔を見せた。

「落ちていて剣道をやることを心がけた」との言葉通り、11月1日に追いつかれた3回戦では延長戦で冷静なメンを放ち勝利。準決、決勝では那賀川中時代、ともに全中で団体優勝を経験した先輩の栗野や岩原を破った。

来夏に富岡東が現在18連覇中の県総体女子団体での勝利を目指す。「先輩たちの胸を借りつつも自分で思いきっていく」と謙虚に語った。

【男子準々決勝】井上幹大（富岡西）vs 谷（徳島科）vs 坂北（メー）上田（富岡西）、木本（富岡）vs 小野（城北）、青木（徳島文理）vs 松村（岡南工）vs 準決勝 井上幹大 vs 箕井、木下、メー vs 青木 vs 位定戦 箕井 vs 本 戦勝青木

【男子準々決勝】井上幹大（富岡西）vs 谷（徳島科）vs 坂北（メー）上田（富岡西）、木本（富岡）vs 小野（城北）、青木（徳島文理）vs 松村（岡南工）vs 準決勝 井上幹大 vs 箕井、木下、メー vs 青木 vs 位定戦 箕井 vs 本 戦勝青木

【男子準々決勝】井上幹大（富岡西）vs 谷（徳島科）vs 坂北（メー）上田（富岡西）、木本（富岡）vs 小野（城北）、青木（徳島文理）vs 松村（岡南工）vs 準決勝 井上幹大 vs 箕井、木下、メー vs 青木 vs 位定戦 箕井 vs 本 戦勝青木

【男子準々決勝】井上幹大（富岡西）vs 谷（徳島科）vs 坂北（メー）上田（富岡西）、木本（富岡）vs 小野（城北）、青木（徳島文理）vs 松村（岡南工）vs 準決勝 井上幹大 vs 箕井、木下、メー vs 青木 vs 位定戦 箕井 vs 本 戦勝青木

11月16日

3年ぶりに剣道日本一となった

内村 良一さん



11月4日



決勝の重圧から解き放たれ、汗を吸った防具を外すと、実厚そうな顔に充実感がにじんだ。3年ぶり、2度目の剣道日本一。昨年は不振に陥り、予選敗退の苦汁も味わった。逆境を乗り越え、再びスポットライトを浴びた29歳は「攻めの気持ちをお忘れず、戦った。勝つために悩んだ時期もあったが、指導に当たった皆さんのおかげです」と感謝の言葉を並べた。

剣道が盛んな熊本県出身。小学2年で、本格的に竹刀を握った。熊本・九州学院高。明大を経て警視庁入り。身長170センチと小柄な上「器用な方じゃないし、センスもない」と自分を評す男は努力一本で階段が上がってきた。明大の恩師森島健男師範に授けられた言葉が「誰にでもできることを、誰にもできないくらいやれ」。豊富な練習で培った体力と技の切れが

果敢に攻め続けるスタイルの土台を築き上げた。警視庁の浜崎満師範は「けいこの虫だよ。まじめだし、何も言うことはない」。剣道本来の礼節をしっかりと心得て、ひたむきにけいこを積み重ね、世界選手権（ブラジル）男子個人覇者の寺本将司6段（大阪府警）も「彼の剣道に取り組む姿勢を目の当たりにして尊敬できると思った」とうなった。

表彰式後、子どもたちが色紙片手に押し寄せると、その一枚一枚に丹念にサインし「一生懸命」と書き添えた。5段ながら「僕はまだまだ未熟なんです。剣道は自分を高めてくれるもの。もう一度初心に戻り、経験を積みみたい」。しん

の強さを感じさせる声で言った。

内村3年ぶりV

全日本剣道選手権

剣道の第57回全日本選手権は3日、東京・日本武道館で64人によるトーナメント戦を行い、8月の世界選手権（ブラジル）代表で29歳の内村良一5段が、同じ警視庁の高橋秀人5段との決勝で延長戦の末に面を奪い、3年ぶり2度目の優勝を果たした。

内村は準決勝では世界選手権男子個人を制した寺本将司6段（大阪府警）との激戦を制した。

徳島県代表の近藤正章5段（県警）は初戦で秋田県代表を相手に、延長戦で面を決められ惜敗。史上2人目の2連覇を狙った正代賢司5段（神奈川県警）も1回戦で姿を消した。

- ▽準々決勝
  - 寺本 6段 木下 5段
  - 大塚 7段 菅原 6段
  - 内村 5段 米屋 6段
  - 高橋 6段 大石 4段
  - 高橋 6段 大塚 7段
  - 高橋 6段 菅原 6段
  - 内村 5段 菅原 6段
- ▽準決勝
  - 内村 5段 寺本 6段
  - 高橋 6段 高橋 6段
- ▽決勝
  - 内村 5段 高橋 6段

11月28日

- ◆剣道 第28回徳島県全空選手権
  - 【29日・徳島県立体育館】
  - 【男子】準決勝 藤本（徳島文理大）×大西（四国大）、古市（徳島大常三島）×岸野（徳島大常三島）
  - ▽決勝
    - 古市 藤本
    - 市 藤本
  - 【女子】準決勝 黒川（四国大）×片岡（四国大）、藤井（徳島文理大）×メー 秀田（徳島文理大）
  - ▽決勝
    - 藤井 黒川

# 徳島剣友会が3位 3人制 100歳以下



剣道

県勢初の団体戦上位入賞となった。個人戦でも40歳代の部で竹内佳代子（鳴門一中教）が3位入賞を果たした。

＜徳島関係上位＞  
 【団体】3人制 100歳以下の部々決勝 徳島剣友会1代優勝（1ハンニック大徳）  
 準決勝 乙女会 茨城210  
 徳島剣友会（佐藤川吉商種 鳴門中教、大野中 塚原裕美・板野中）  
 【個人】40歳の部々決勝 竹内佳子（鳴門一中教）1位  
 飯田（資） 準決勝 世吉（島）

聖翠苑 竹内 中学女子の部 徳島文理初V 徳島誠館は小学生之位

第2回文理杯大会（10月25日・文理中高体育館）は徳島県内外から小中学生73校が参加して熱戦を展開。中学生女子



宮本武蔵頭彰女子剣道大会で3位入賞するなど活躍した県勢

の部は徳島文理が初優勝した。同男子の部は徳島文徳聖誠館Aが準優勝し、那賀川が3位に入賞。小学生は



【小学生】①大阪（大阪）徳島誠館A 徳島成武館②新居浜会（愛媛）  
 【中学生】男子①西和（和歌山）②宮（大阪）徳島文理③香芝（奈良）  
 ④徳島聖徳⑤徳山（京都）那賀川⑥佳吉（大阪）  
 文理杯剣道大会で上中学生女子の部初優勝の徳島文理「下」小学校の部で準優勝した徳島聖誠館A

12月5日

# 徳島少年剣道教室V



第16回徳島市少年錬成大会(11月1日・市B&G海洋センター体育館)があり、団体戦は徳島少年剣道教室が制した。

【団体】①徳島教室(先鋒Ⅱ山室正士、次鋒Ⅱ熊橋俊司、中堅Ⅱ塚田幸吉、副将Ⅱ橋和真、大将Ⅱ秋田修平)②北井教室③入田錬成会蔵本少剣少

【個人】1・2年①東内元気(東内道場)②熊橋知晃(徳島教室)③北條智士(同)④小園栄木(備前教室)⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿



徳島市少年剣道錬成大会で頂点に立った徳島少年剣道教室

秀(佐古)▽5・6年①大桃 鎌田英徳 北井上教彦 ④行譜子(徳島教室)②内野森(同)③望(同)



◆清原杯第54回大会(11月3日・阿南工高体育館)  
【小学校】(徳島至誠館(先鋒Ⅱ住友海斗、次鋒Ⅱ湯浅海平、中堅Ⅱ玉田真子、副将Ⅱ福田峻斗、大将Ⅱ田中皓))②那賀川B&G

わかあゆ会③小松島少剣少④那賀川少剣少  
【中学校】男子①徳島(先鋒Ⅱ佐賀誠典、次鋒Ⅱ飯田時生、中堅Ⅱ山中光悦、副将Ⅱ山田深汰、大将Ⅱ西田凌介)②徳島文理③鳴門



清原杯剣道大会を制した【上】徳島文理中女子と同高校男子【下】富岡東高女子

③羽浦▽女子①徳島文理(先鋒Ⅱ川原真実、次鋒Ⅱ大畑茉莉子、中堅Ⅱ佐々木南波、副将Ⅱ栗野安香、大将Ⅱ玉田理沙子)②那賀川③北井上④阿波

【高校】男子①徳島文理(先鋒Ⅱ福田純大、次鋒Ⅱ大崎雄貴、中堅Ⅱ青木大将、副将Ⅱ田中宏明、大将Ⅱ松本好史)②城北③阿南工大④富岡西▽女子①富岡東(先鋒Ⅱ山本千尋、次鋒Ⅱ工藤麻美、中堅Ⅱ栗野文那、副将Ⅱ松浦名楓、大将Ⅱ岩原紗也加)②富岡西A③富岡西B  
【一般】男子①阿南支部B(先鋒Ⅱ大前智仁、次鋒Ⅱ前川剛士、中堅Ⅱ横手裕、副将Ⅱ谷嘉史、大将Ⅱ白木孝)②学生剣友会A③小松島支部④学生剣友会B▽女子①川高剣友会(先鋒Ⅱ井口あすか、中堅Ⅱ近藤三葉子、大将Ⅱ前田奈々枝)②阿南優美③教員剣友会

12月6日

12月17日

### 日和佐中に 豪の留学生

2人 来月まで滞在

美波町の日和佐中学校に16日、同町の姉妹都市のオーストラリア・ケアンズ市から留学生2人が訪れた。

2人は、同市内の学校に通うハナ・ホルムズさん(17)とレベッカ・コクソンさん(16)。ホルムズさんは来年1月5日、コクソンさんは同14日まで

竹刀の握り方を教わるホルムズさん左、コクソンさん。美波町の日和佐中学校



町内に滞在し、同校などで地元の子ともたちと交流する。

この日は同校で対面式があり、全校生を代表して2年生の西前知保さん(14)が英語で「来てくれるのを楽しみにしていました」と歓迎。剣道部の話した。



### 鴨島教室 準優勝

鴨門市光武館3位  
第29回川之江少年剣道大会(11月29日・愛媛県川之江体育館)は四国4県から小中学生99チームが出場。徳島県は小学校



川之江少年剣道大会の小学校低学年クラスで準優勝の鴨島少年剣道教室(前列)と3位・鴨門市光武館(中列)

低学年の部(4年生以下)で鴨島少年剣道教室が準優勝。鴨門市光武館が3位に入った。

【小学校低学年準優勝】鴨門市光武館(先鋒)野都 次鋒 川友隆、中堅 富田 弘明、副将 木村 泰成、大将 田中 龍也、3位 土佐 尚平(高知)、鴨島教室(先鋒)海野 真、次鋒 和真、中堅 白木 利幸、副将 川光、大将 上田 瑛斗、4位 右峯 隆(愛媛)2位 鴨門市光武館、鴨島教室5位 岡城 寛(愛媛)▽決勝 周布会 勝 周布会 10 鴨島教室

岡澤太郎)の誠武館)松茂教室(琴)の小谷信史(誠武館)③若本大平(北島教室)④大島史也(同)▽5年(村)明司(北島教室)②白石鎌丈(北島D)③北島A④北島C▽女子(北島A)先鋒 川実可子、中堅 吉田 明日香、大将 阿部 美月、②松茂 A 北島B

【個人】小学5年(早)岡澤太郎(北島教室)②若本和佳奈(同)③佐竹 涉(同)▽3年(坂)修造(北島教室)②山口 なつき(同)③吉田 圭祐(同)④正木 史(誠武館)▽4年(坂)野弘 氣(北島教室)▽中学男子(坂)野 晃太(北島)②竹川 尚土(同)③水濱 大智(誠武館)④白石 鎌丈(北島)▽女子(同)野 真(北島)②秦 千夏(松茂)③上田 明 香(同)④山内 悠(同)

12月27日

◆第36回県連盟坂野東支部錬成大会(11月29日・北島北小体育館)北島教室B③北島教室E▽高学年①北島教室(先鋒)坂野 弘 氣、次鋒 潮野 智史、中堅 村上 肇 A(先鋒)大島 史也、中堅 井 明司、副将 大島 肇、大将 卓

12月27日

# 閉館する徳島市立高武道館

# 最後のけいこ会

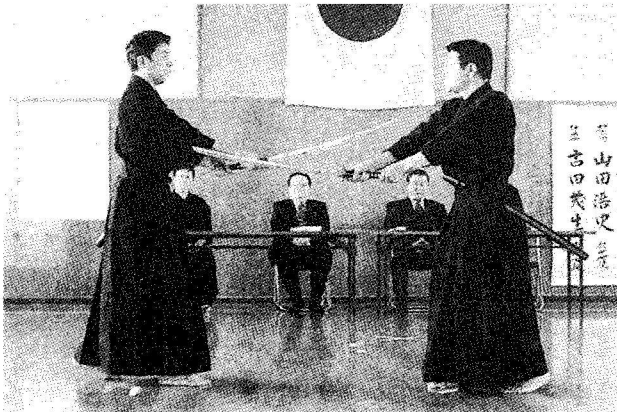
来年1月、新校舎建設に伴い取り壊される徳島市立高の武道館でこのほど、剣道部OBや現役部員ら約50人が集まり、最後のけいこ会を開いた。同高剣道部を30年間指導した徳島錬心館の大澤孝彰館長(79)をはじめ、手塚十三子7段(54)本田敦彦7段(49)ら歴代指導者も顔をそろえ、閉館に感慨深そうだった。

大澤館長が1967年3月の武道館落成式の写真を見せて思い出を話したのに続き、当時と同様に日本剣道形が披露された。落成式で演武を担当した大澤館長が見守る中、刃引きを使いOBの山田浩史(48)が打太刀、吉田茂夫(42)が仕太刀による演武を披露した。

## OBら50人 演武や対抗戦に沸く



【上】けいこ会に県内外から集まった剣道部OBら徳島市立高武道館  
【下】日本剣道形を披露する山田浩史(48)と吉田茂夫(42)段



AとDの世代別4チームに分かれて対抗戦。現役時代を思い出しながら竹刀を振り抜き、白熱した戦いを繰り広げた。この結果、全国高校総体

出場経験のあるBチームが優勝した。

同高剣道部は66年に創部。かつて全国高校総体や国体選抜が誕生するなど、有力選手を送り出した。全国総体へは団体の男子が85年、女子が72年に出場。OBやOGには高段位を持つ人も多い。

今回のけいこ会を企画した89年卒の中尾幸雄さん(39)は「思った以上に盛況だった。」

△決勝 Bチーム3(美馬、メイツ、小懸、伊川、一ノ瀬、中尾)  
△1回戦 Cチーム2(本数勝) 2Aチーム、Bチーム1、ODチーム  
△2回戦 Bチーム3(美馬、メイツ、小懸、伊川、一ノ瀬、中尾)  
△3回戦 Cチーム2(本数勝) 2Aチーム、Bチーム1、ODチーム

△代表戦 山田浩史(48) 吉田茂夫(42)



## 編集後記

ここ数年の編集後記を見返してみると、私自身の身の回りの整理整頓ができていないことを嘆きつつ、編集作業の効率を上げるためにも何とかしたい打開したい旨の決意を記している。しかし、現実には、年度末から年度初めにわたる編集作業が本業の業務多忙時期と重複するため、どうしても、その決意が実践できていない状況である。

私よりも多忙でありながら、実にいい仕事をしている同僚の机周りを見てみるときれいに整理整頓ができており、不要なものを的確に処分している。この差は何か。おそらく、決意の深さであろう。本気になってその課題をやり遂げようとする気持ちの持続の問題である。このことは、自分の剣道も同様である。先輩や先生方から、自分の稽古の改善すべき点を指摘されたことを意識はするものの、そのことが次回の稽古においても改善されないままになっている。一事が万事である。

編集効率を上げる整理整頓は必ずやり遂げたい。私の剣道に通じる課題でもあり、深い決意を持って望みたい。

## 『徳島の剣道』第二十六号

### 編集委員会

木原資裕	三木毅	藤本雅史	手塚十三子	中村稔裕	美馬和義	出葉成一	影山美雄	伊賀雅人	柴田宗忠	近藤敏晴	松永貴史	佐々木和人
------	-----	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------

## 『徳島の剣道』第26号

平成22年5月28日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 遠藤一美

☎770-0861 徳島市住吉三丁目9-6

栗本マンション106号室

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360

表紙

題字 堀江幸夫  
さし絵 村嶋恒徳